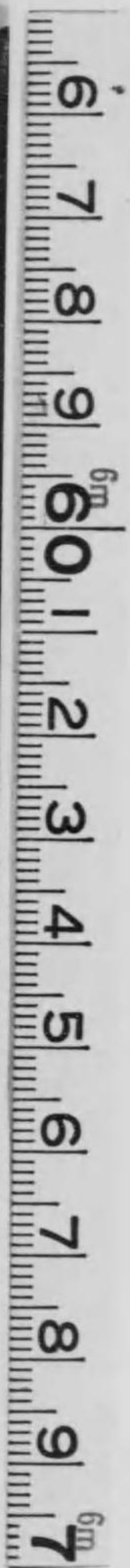


2633

154



始



斗 5F 37

263-154



手工教授研究會編

手工教授資料集成

東京

隆文館藏版

大正
8. 8. 29
内交

序文

空前の大戦亂も獨塊の屈伏によつて平和條約の調印を見、世は再び平和の戰爭に入りました。前後五ケ年に亘る大戦役によつて受けた各國の教訓は非常に多大であると思はれますが、特に我が國が此の戦役に參加して國民の自覺を促したものは國民創造力の缺乏と工藝發達の微々たる點であります。そこで戦後の我が國民教育上改善を要する事項は勿論多々あるであります。然し就中化學工藝の奨励と創造力の養成とは最も注意する問題であらうと思ひます。即ち理科、手工、圖畫の如き教科の教授に一大改善を加へて是等の缺陷を補ふやうに努むることが目下の急務であります。殊に我が國の手工教授の如きは實施以來日猶淺く、未だ其の成績の見るべきものなく、之を歐米諸國の現況に比較する時は實に雲泥の差も啻ならざる程で

序
二
あります。本會はこゝに鑑むる所があり、我が國從來の手工教材に加ふるに更に最近歐米諸國の新傾向を參酌し、多數の手工教材を選択し、且つ之に一々詳細なる解説を施して手工教授者の教材研究の好同伴たらしめようと思ひ、こゝに本書を編纂するに至つたのであります。素より僅々數百頁の小冊子杜撰粗漏のものたることは本會の私に恥づる所でありますが、聊かなりとも教育實際家の參考となり、以て我が現下の手工教育を改善振興するの一助となるに至つたならば、是れ實に望外の幸とする所であります。讀者之を諒せられよ。

大正八年六月下旬

手工教授研究會識

例言

- 一、本書は専ら小學校に於ける手工教授者の參考に供せんがために編纂したものであります。
- 二、本書は上述の目的に副はんがために最も初歩の色板並べ豆細工等から木工、金工等に至るまで手工教材の全部について我が國從來の教材と最近歐米諸國に行はれる教材とを選択して之を細工の種類に分けまして解説しました。
- 三、女子の爲には特に手藝方面の刺繡、細工物、造花等について苟も小學校に於て授け得らるゝと思ふ教材は洩れなく集めてあります。
- 四、粘土細工、手藝の外はすべて製作品或は材料の寸法を示して、直ちに取つてもつて教授に用ひらるるやうにしました。
- 五、教授者は模作のみを以て満足するやうなことなく、本書の教材を參考として創作的に寫生的に自由に工夫製作せしめられ、本書以上に嶄新なる工作が出来るやうに利用せられんことを望みます。

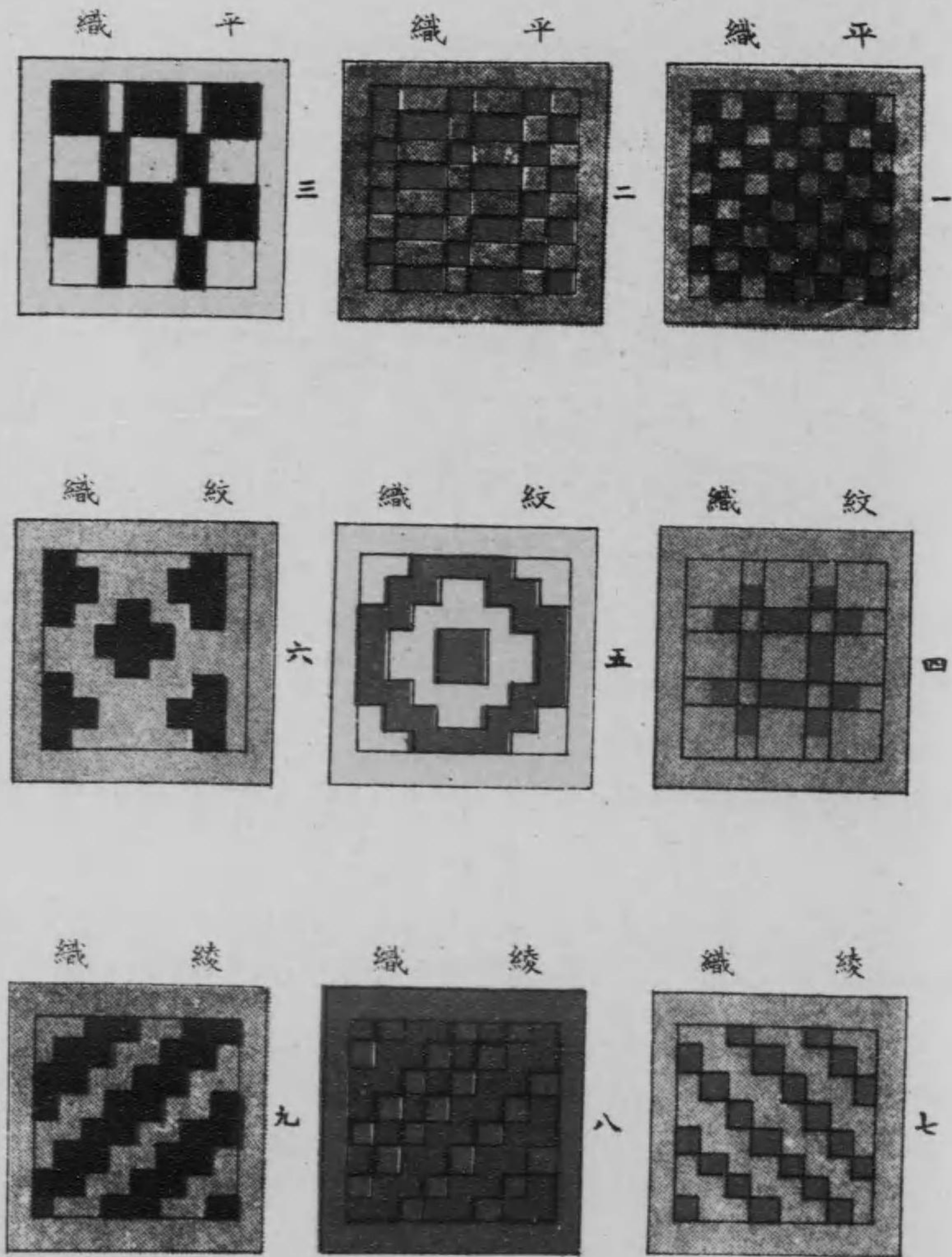
六。製作の簡單なるものは圖解のみに止めまして、説明を略しましたから説明なき教材は圖解を熟覽するやうに望みます。

七。目次は繁を避けて各章の頁數のみを示しておきましたから、各章について番號によつて所要の教材を探すやうにせられんことを望みます。

目次

- 第一章 豆細工に関する資料……………一
- 第二章 紙細工に関する資料……………一七
- 第三章 粘土細工に関する資料……………二二一
- 第四章 竹細工に関する資料……………二四七
- 第五章 木工に関する資料……………二七四
- 第六章 金工に関する資料……………二九八
- 第七章 紐結に関する資料……………三〇八
- 第八章 編物に関する資料……………三二六
- 第九章 縫取に関する資料……………三四〇

口繪第一圖



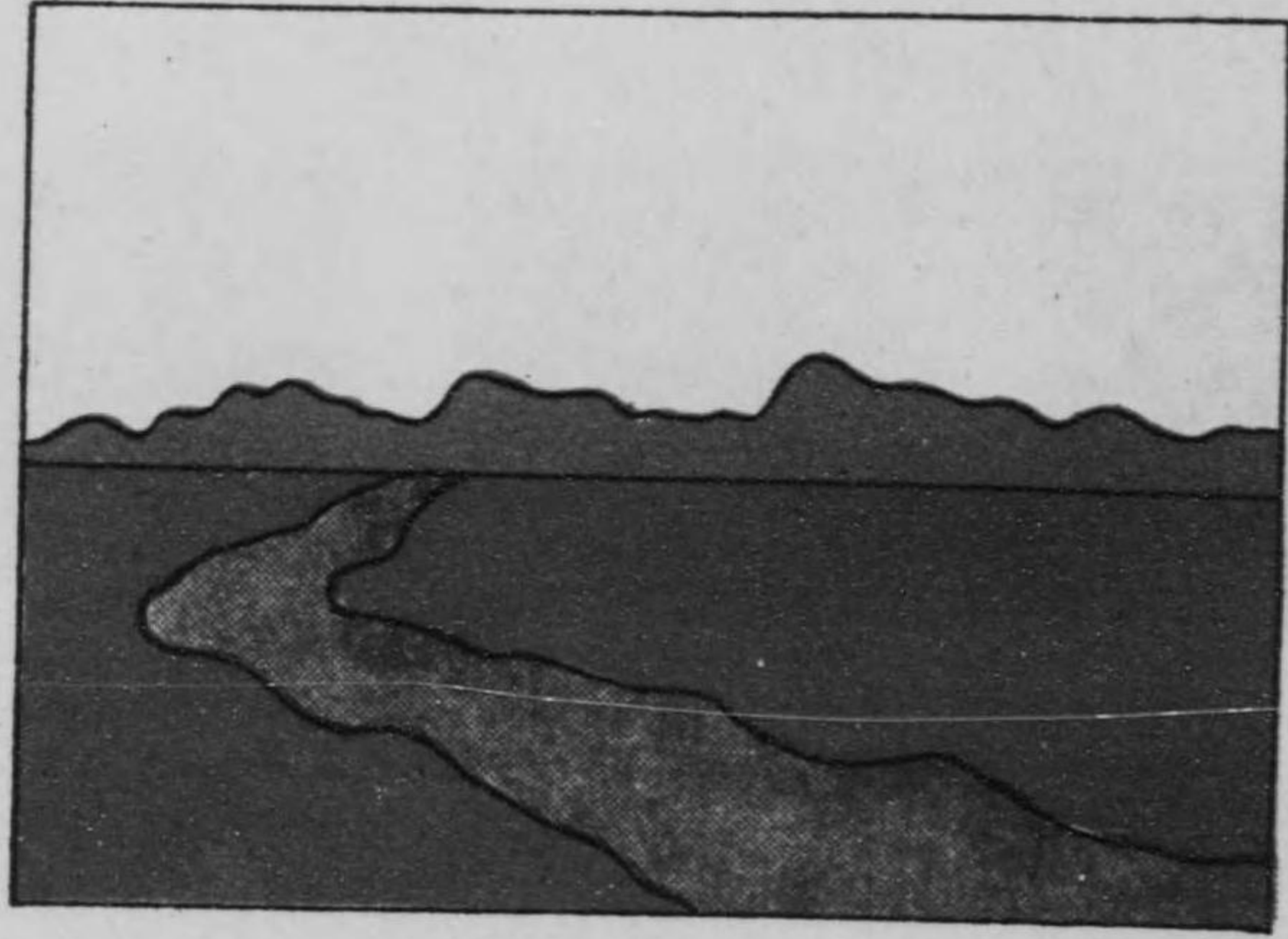
目次終

目次

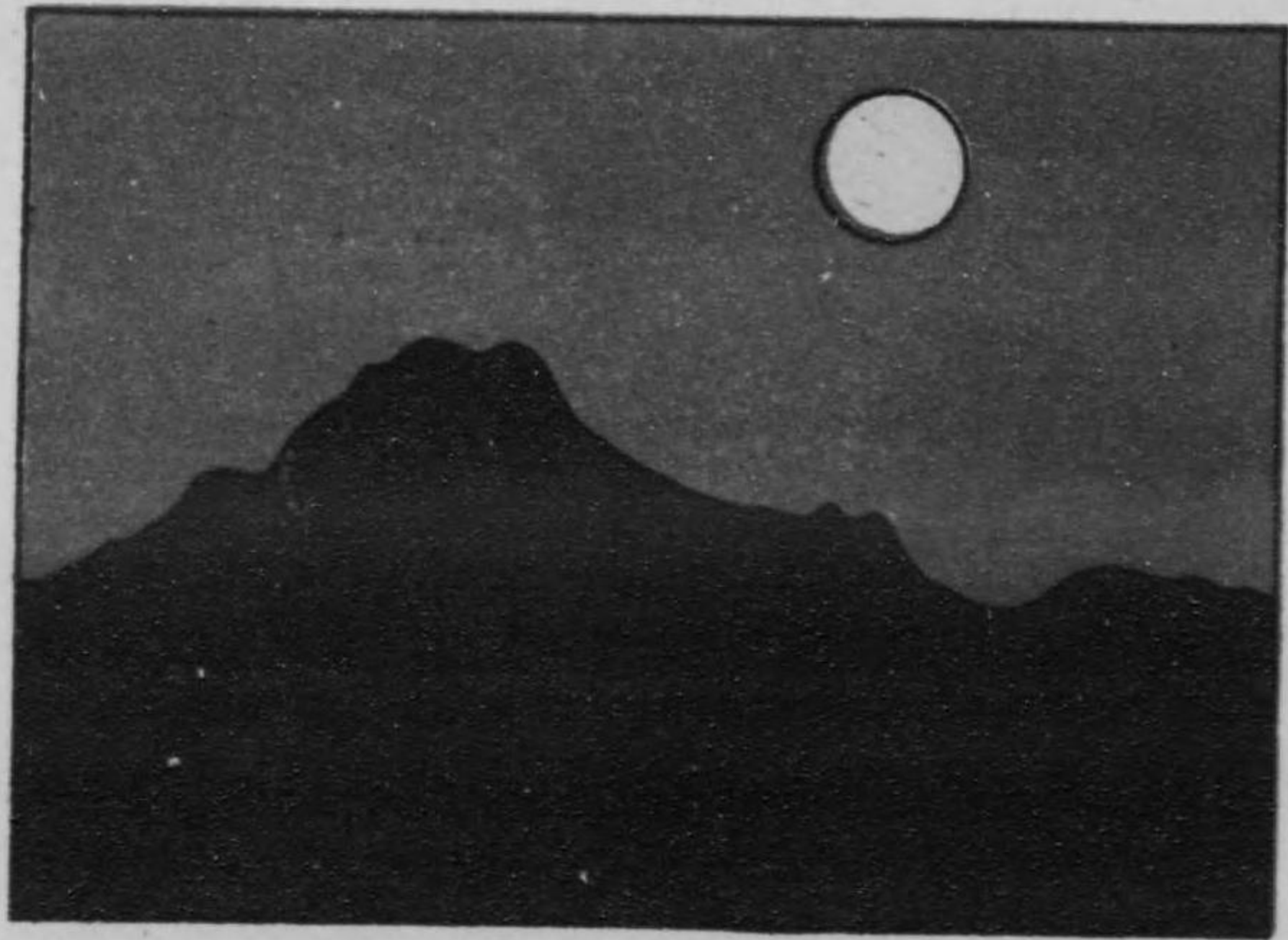
第十章 おさいくものに関する資料 四〇一

第十一章 造花に関する資料 四四七

圖二第繪口

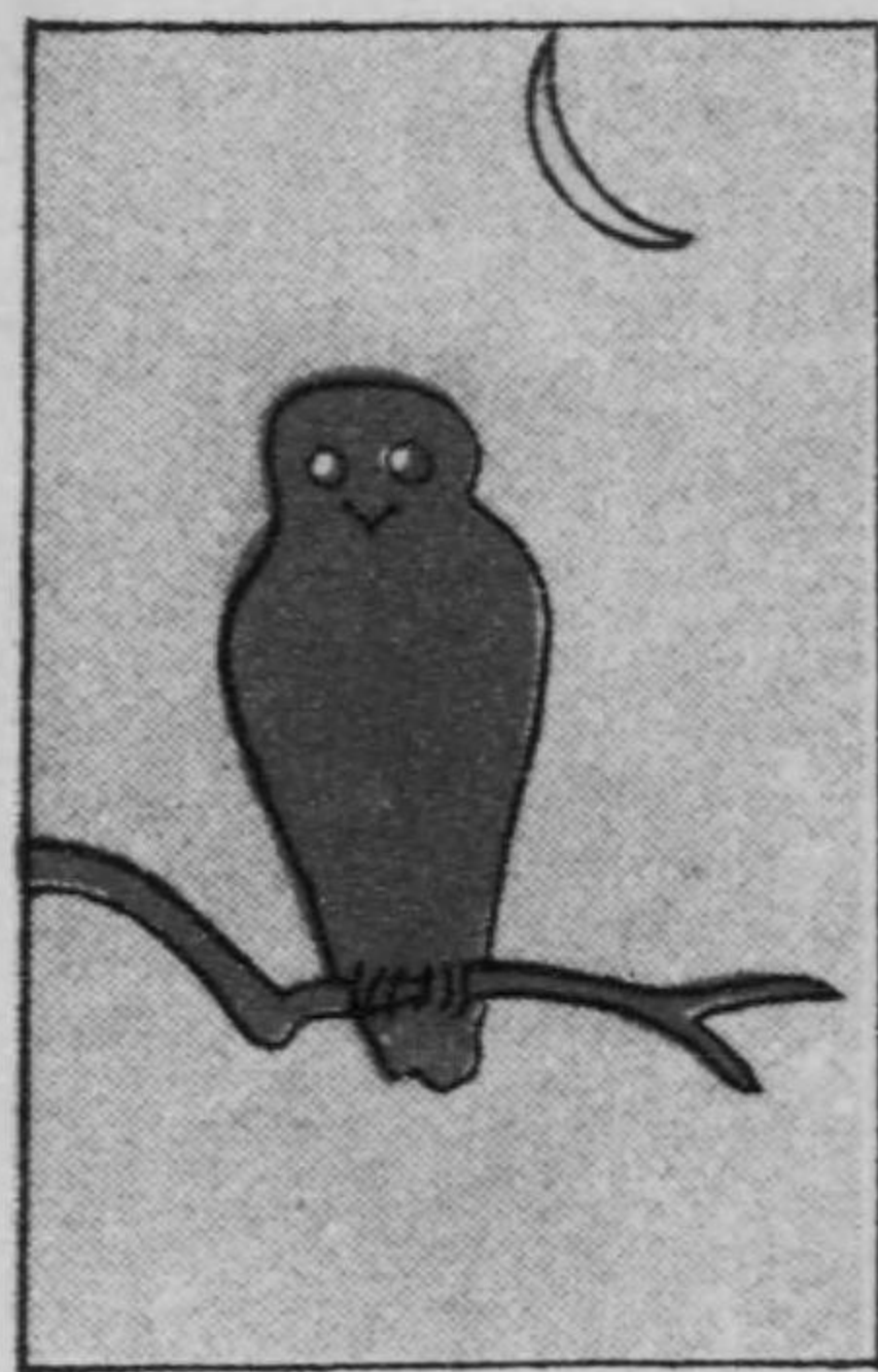


一〇八、森と道

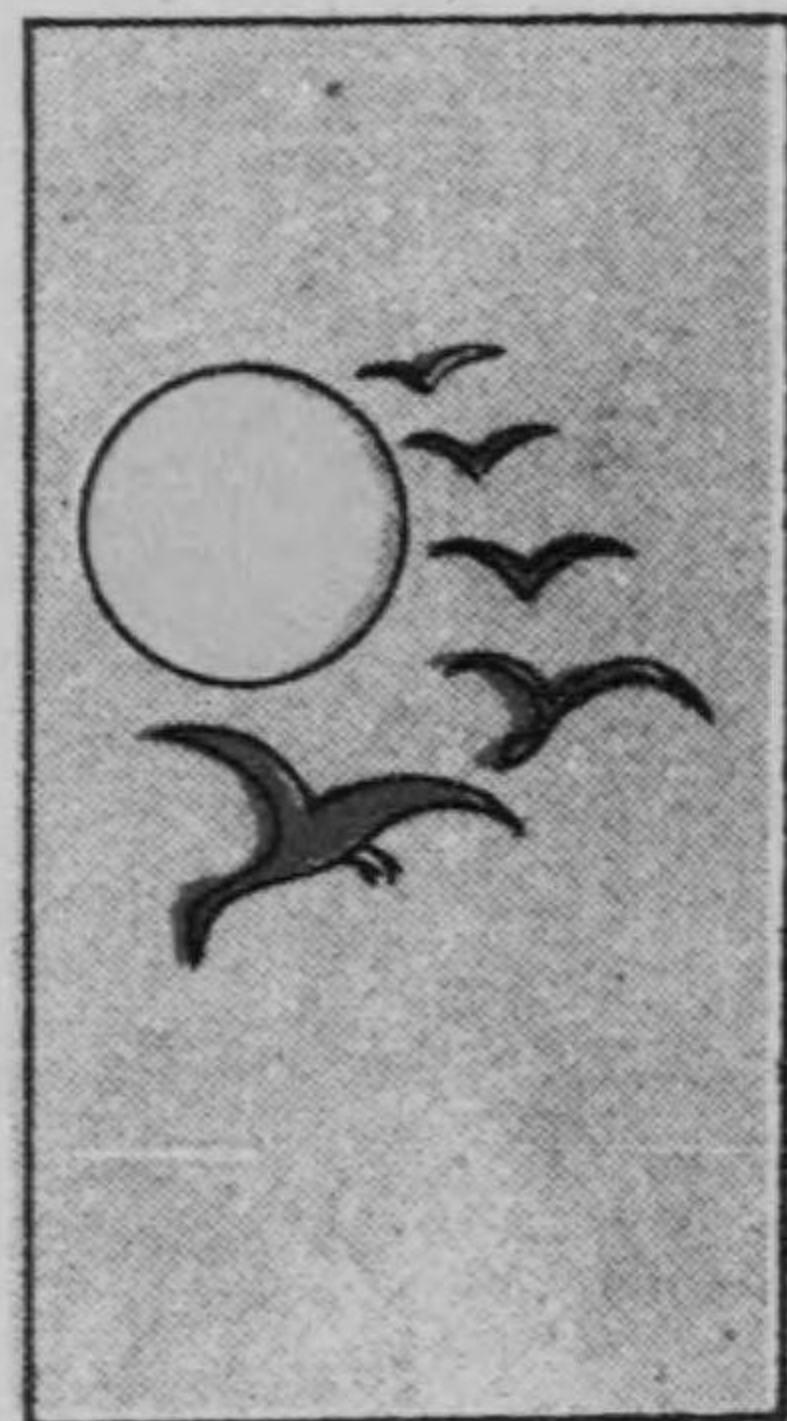


一〇九、月夜

圖三第繪口



三、月と木兎

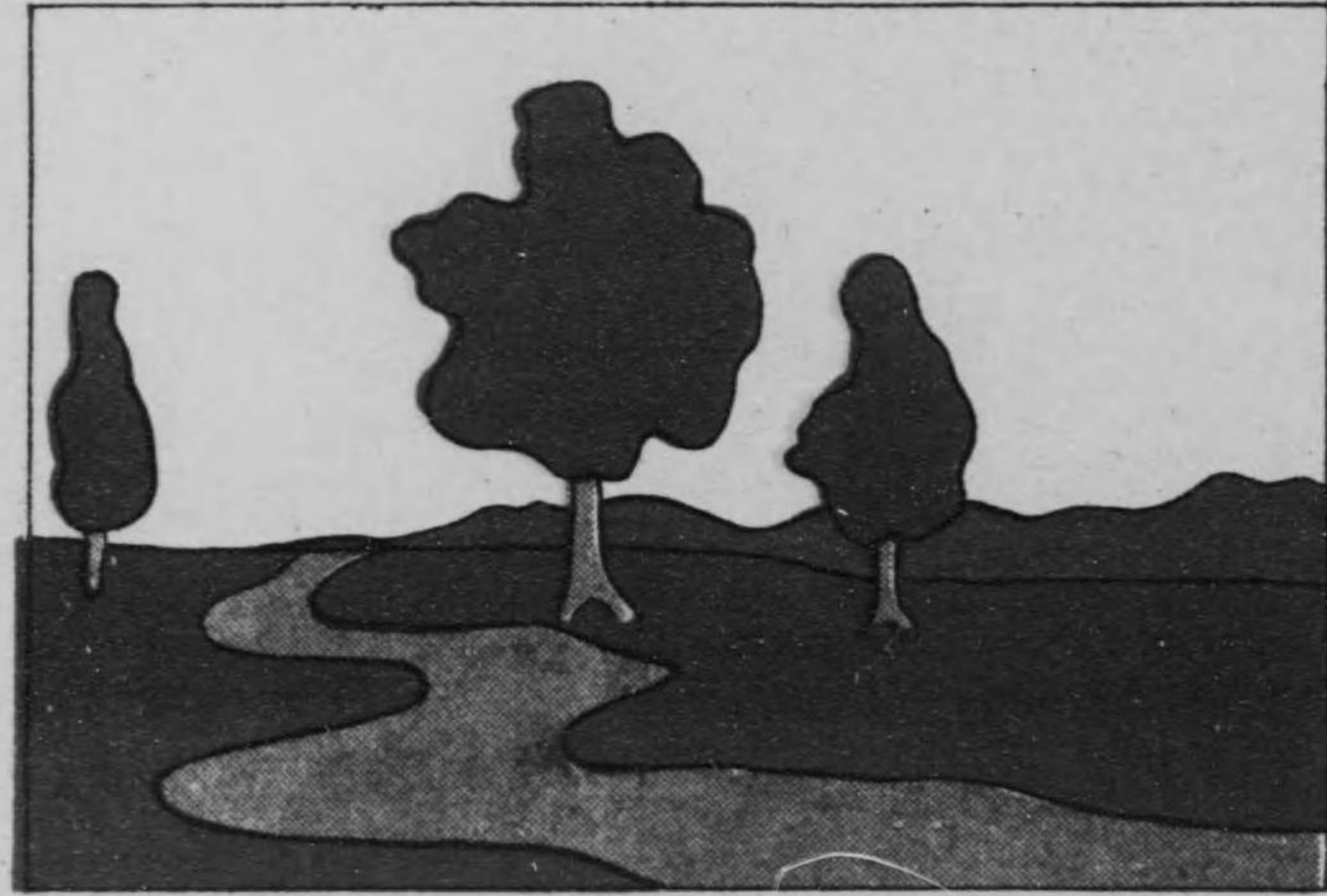


二〇、月に雁

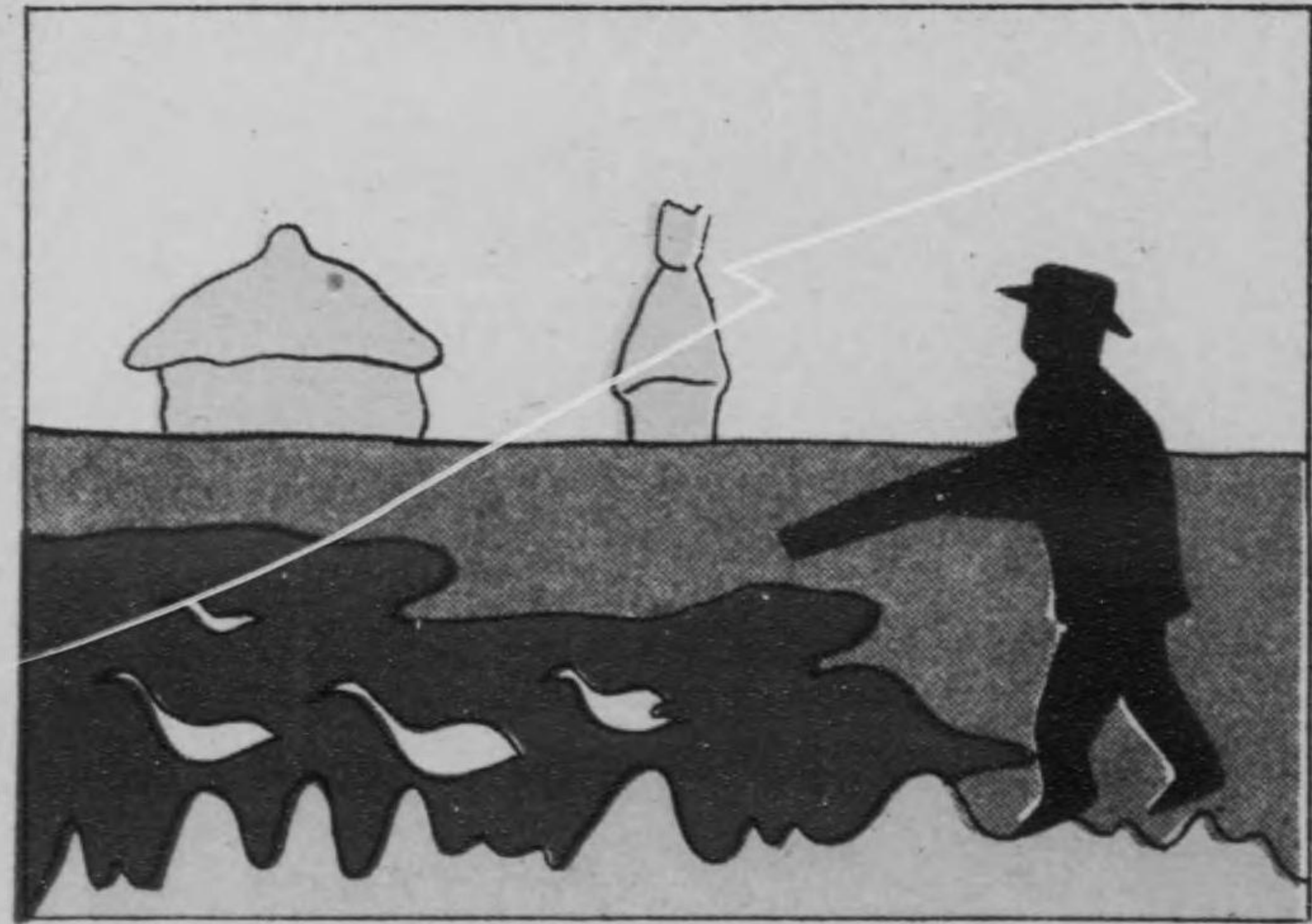


二二、波に千鳥

圖四第繪口

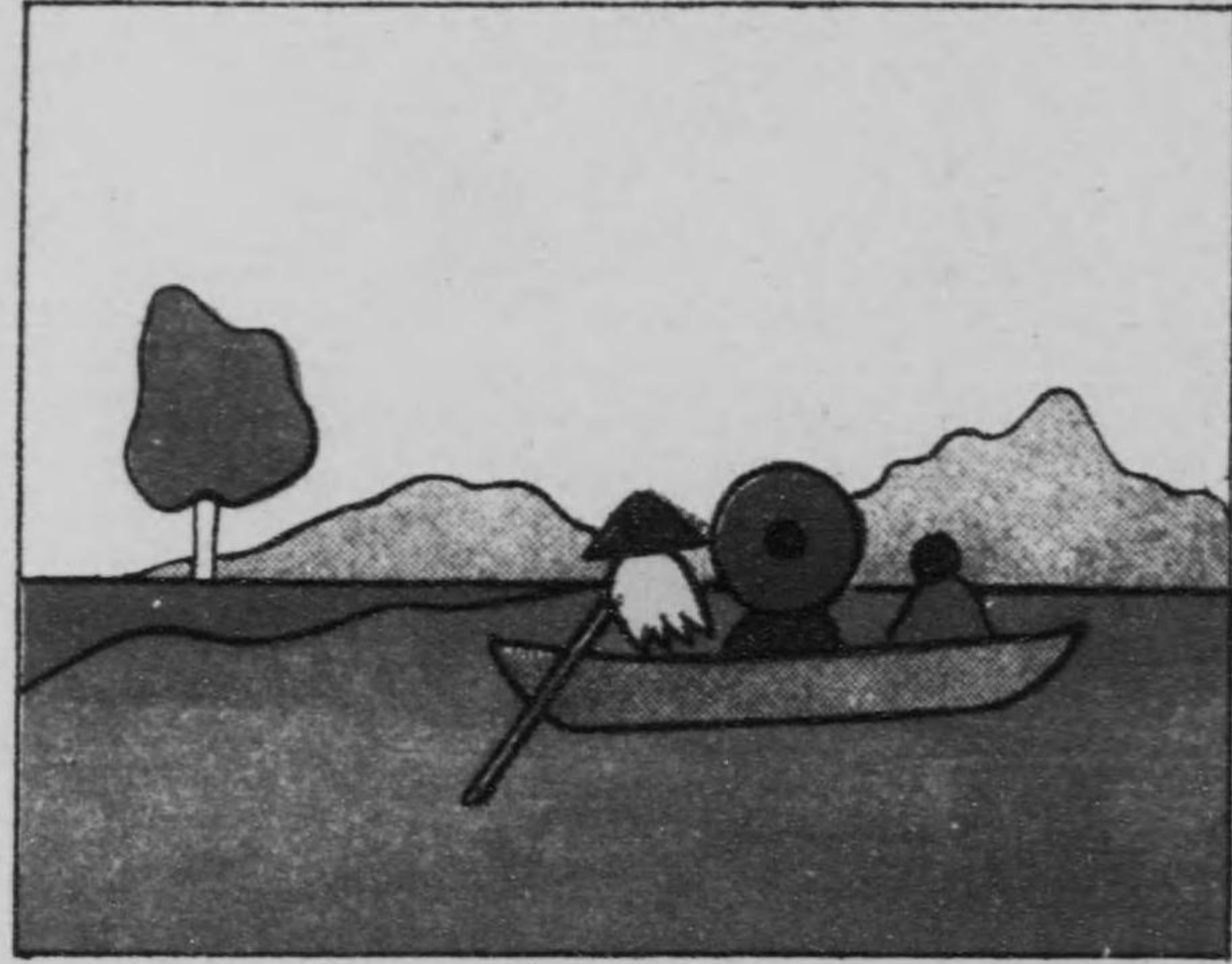


二三、野原



二四、狩獵

圖五第繪口



二五
渡船



二六
登山

教材 手工教授資料集成

手工教授研究會編

第一章 豆細工に関する資料

豆細工は軟い豆を以て鋸を接ぎ合せ簡單なる文字、幾何形體、器具、建築物等を模型的に製作せしむるのであります。其特色とするところは、製作の最簡便であつて、諸種の器具、建築等の構造を理解せしめ、且つ之を應用して工夫製作をなさしむるに最も便利な點にあります。

従來豆細工と言へば、比較的小形のもののみを作らせて居た様であります。斯くては製作困難でありまして、且つ不正確となり易い傾があるやうであります。それで稍々大形にして少くとも四五寸立方以上のものとして取扱ふことが宜しいかと思ひます。形の大小は經費に關係して來るのでありますから、其ために若し出來ない時には主要教材だけでも

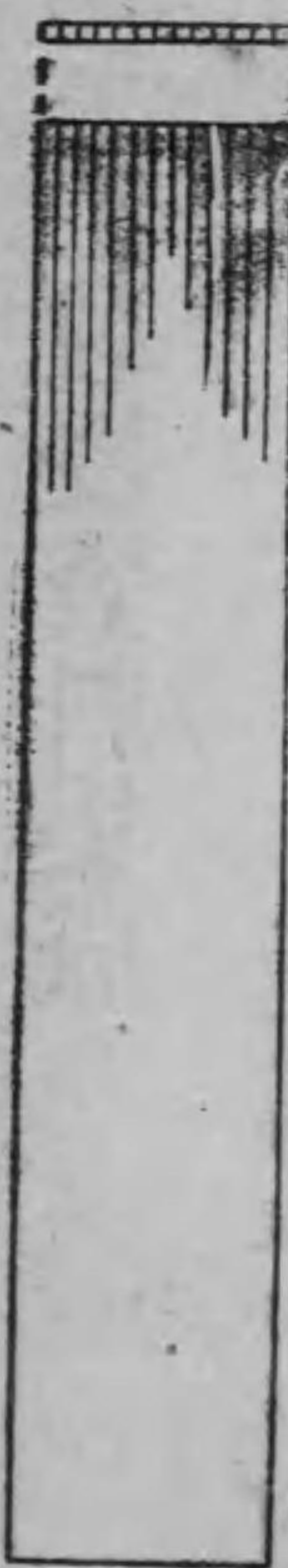


是非大形に作らせたかと思ひます。茲に掲げました教材は全部大形に作らせる考で又實際兒童に作らせて効果を收めつゝあるものであります。

原料に就いて一言しておきたいと思ひますのは籾のことでありますが、若し籾拔で仕上げたものが手に入らぬ時には、上級生徒の竹細工に作らせたものを用ふるも差支ありません。籾竹を切るのには喰切を用ふるが最も便利であります。若し用ひないときには第二圖参照の必要があります。

豌豆は理想を言へば使用前五六時間水に浸して置いて、使用する一時間位前に水を去り箆の様なものに移しておけば使用に便利であります。併し時によつて準備を忘れて其朝而かも二三時間前になつてから突然思ひ出すことがあります。そんなときには手を入れるのに熱い位の湯に豌豆を入れ二三回取り替ふれば間に合ひます。

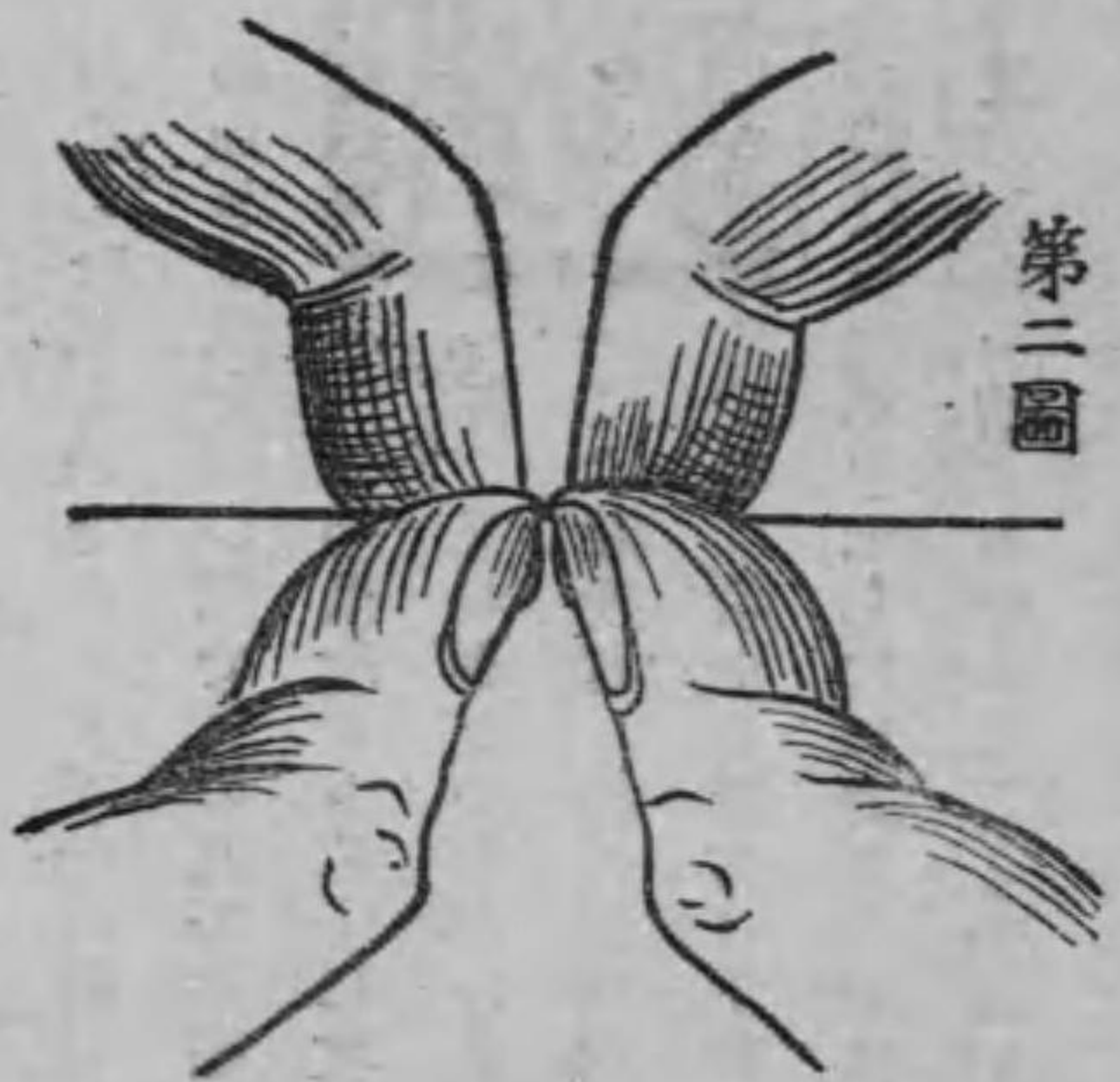
第一圖



第一圖は兒童に作らしむる時の刀を入れたるのみの圖であります。これを両手にて左右に屈折せしむれば少しもゆがまないうで奇麗に出来まます。

籾竹を折る時の要領

第二圖



先づ籾竹の皮部を外方へ向け急に一折りして、後竹を反對に皮部を内方に向け尙ほ一回急折するときは折口さばけずして奇麗に折り取ることが出来ます。

注意。前述の如く大形に作らしむるは兒童の製作を容易ならしむると共に考案創作をなす上に餘程大切なことでありますから、圖の内に大體の寸法を記入しておきました。併しこれはほんの標準を示したに過ぎませんから教授者に於て適宜記入の寸法を參酌して製作せら

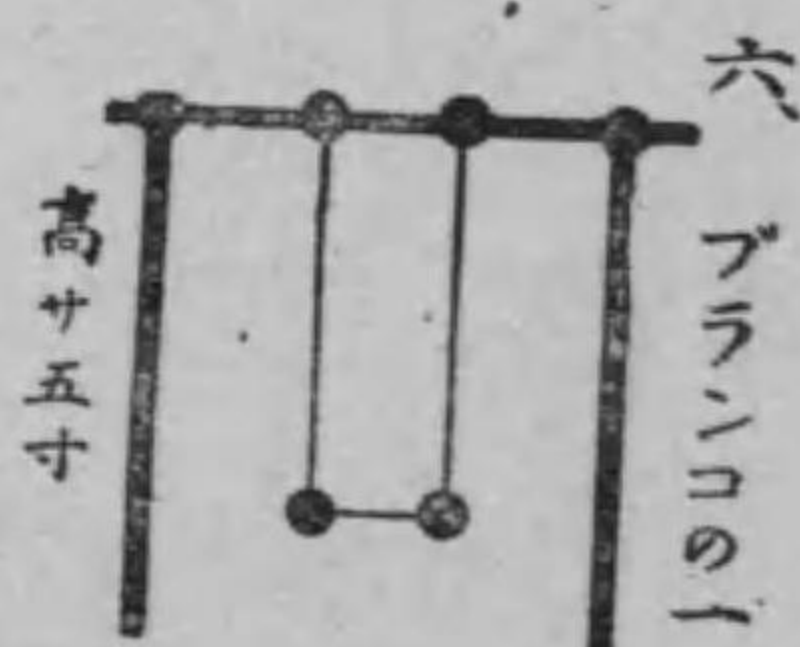
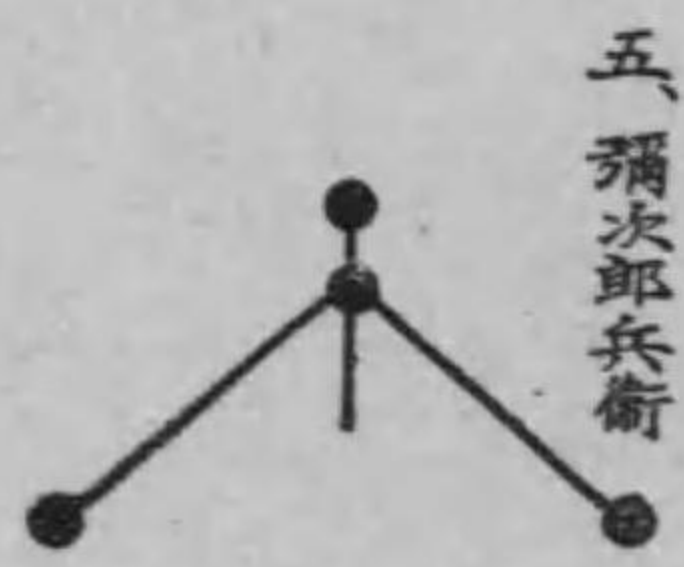
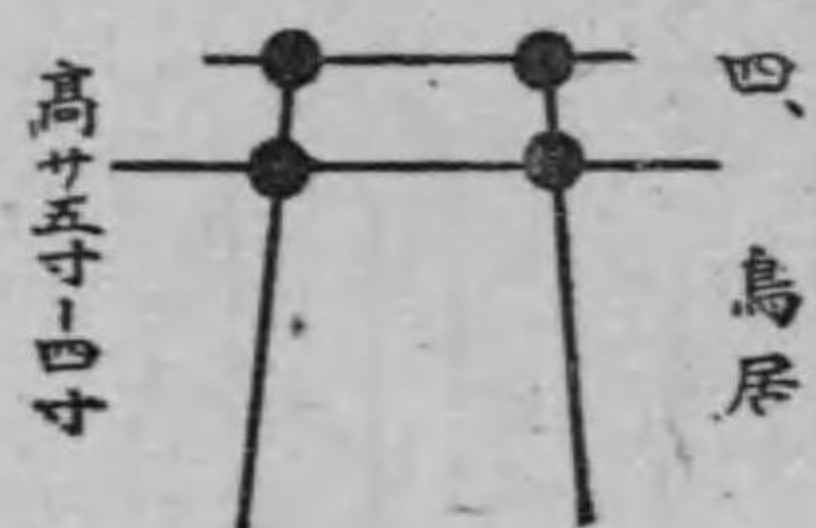
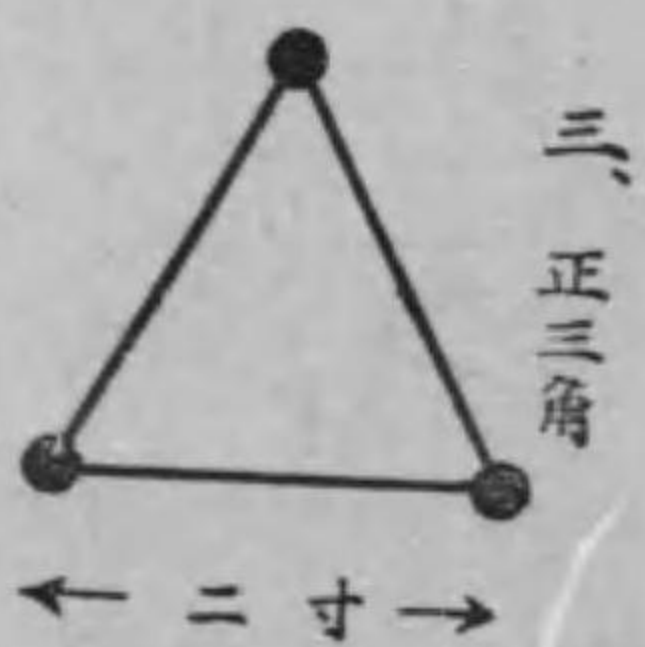
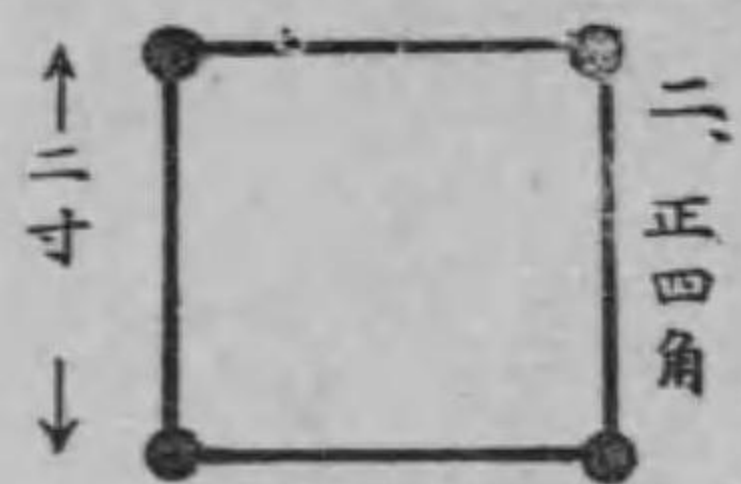
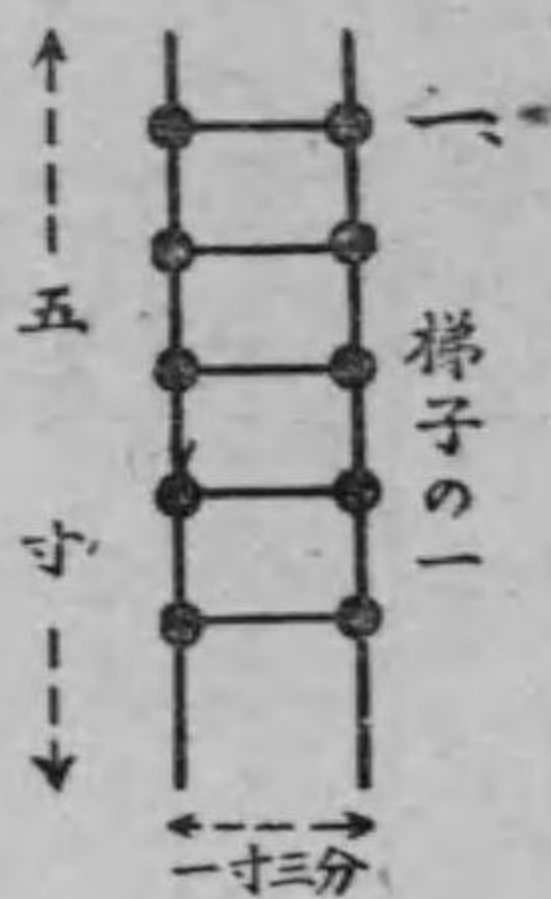
れんことを希望いたします。

豆細工といふ意味をあまり窮屈に解釋せずして、豆細工の内にも紙を用ふることも亦糸等を用ふることも決して差支ありません。否用ひた方が細工を自由ならしめ且つ興味あらしむるものでありますから駄辯に過ぎませんが一言添へておきます。例へば圖中旗の如きは紙を用ひ色で日の丸等を畫かしむるときは作品の體裁をよくするのみならず兒童の興味を増し効果をより以上に收め得るものであります。

終りに一言しておきたいと思ひますのは何の細工に係らずかく多くの圖を掲げますとやゝもすれば、教授者に於て只模倣的に作らしむる様になり易いことでもあります。賢明なる諸君に於ては斯かる拙劣なる御取扱は決してないこととは信じてゐますが掲げてある圖は只標準を示したに過ぎませんからあのために兒童の考案を束縛したり又は自由思想の發表を妨ぐるやうなことの無いやうに切望いたします。

教材

教材



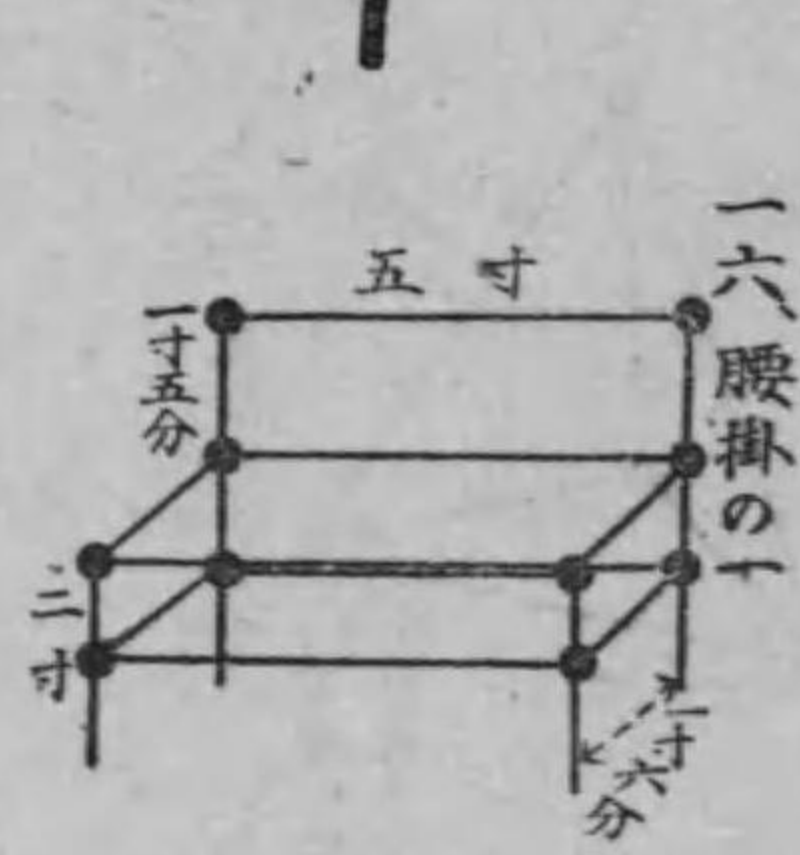


一五、椅子の二



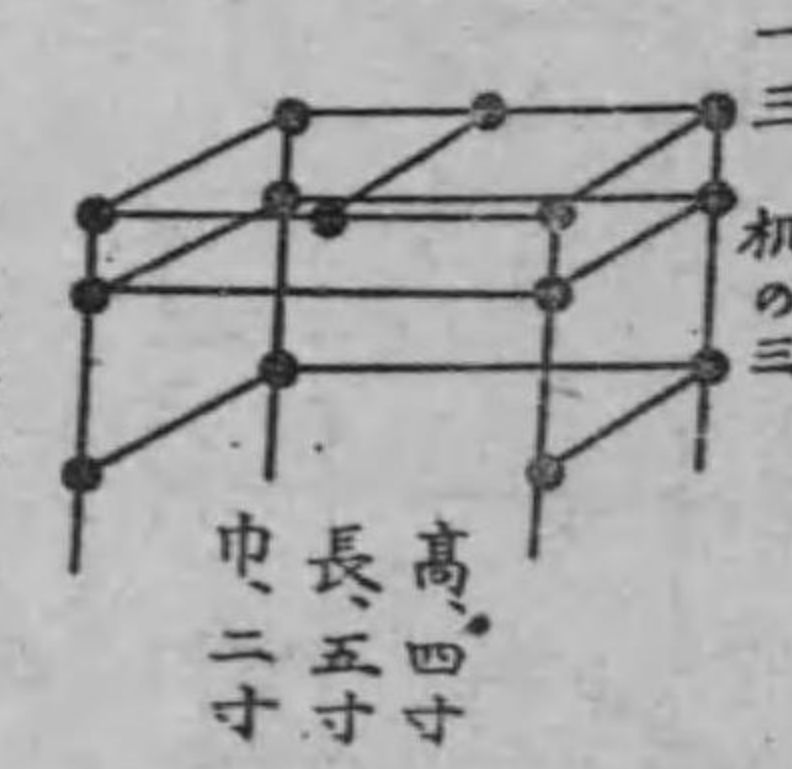
一三、机の二

高二寸
長、五寸
巾、二寸



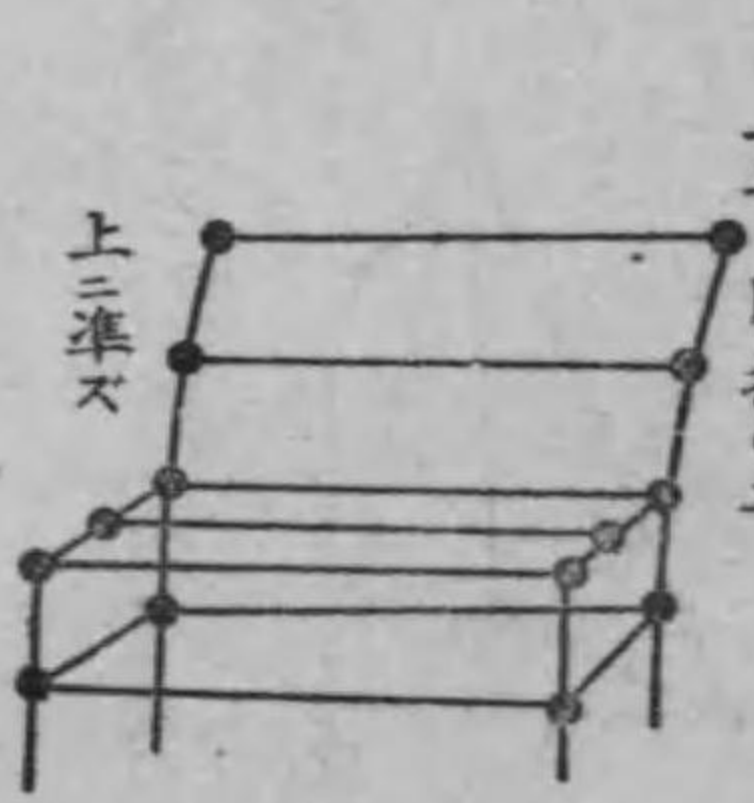
一六、腰掛の二

五寸
一寸五分
二寸



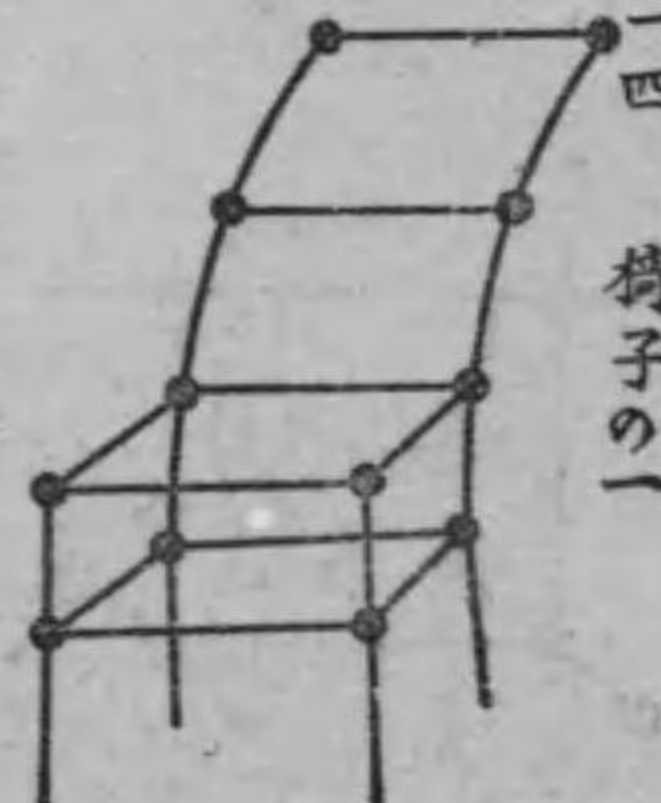
一三、机の三

高、四寸
長、五寸
巾、二寸

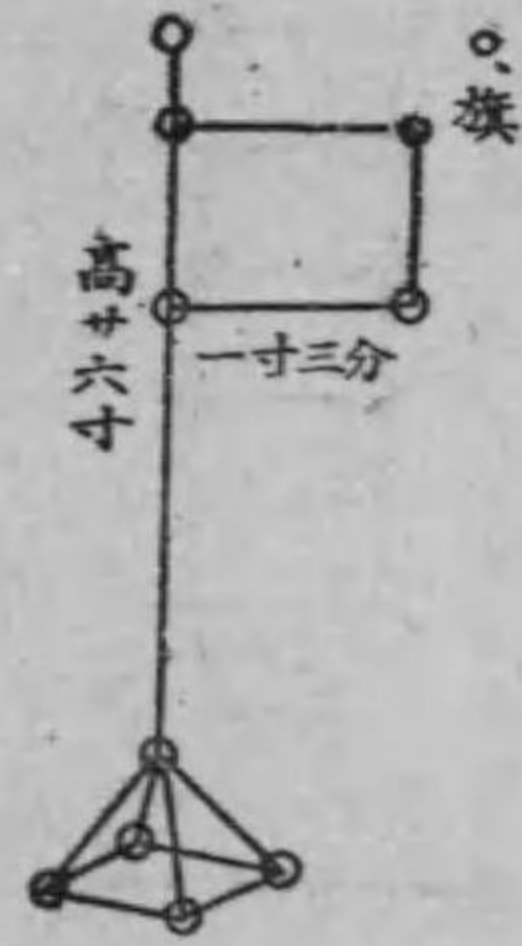


一七、腰掛の二

上、三寸五分



一四、椅子の一



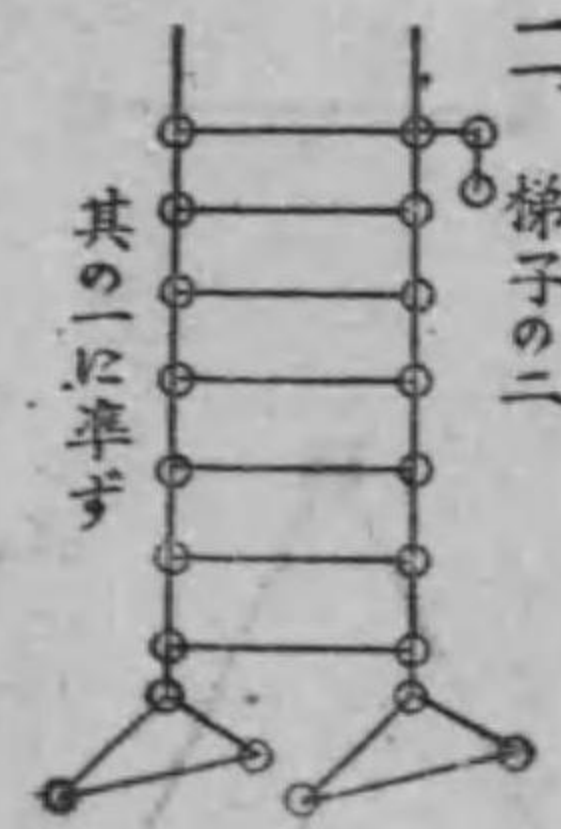
九、旗

高、六寸
一寸三分



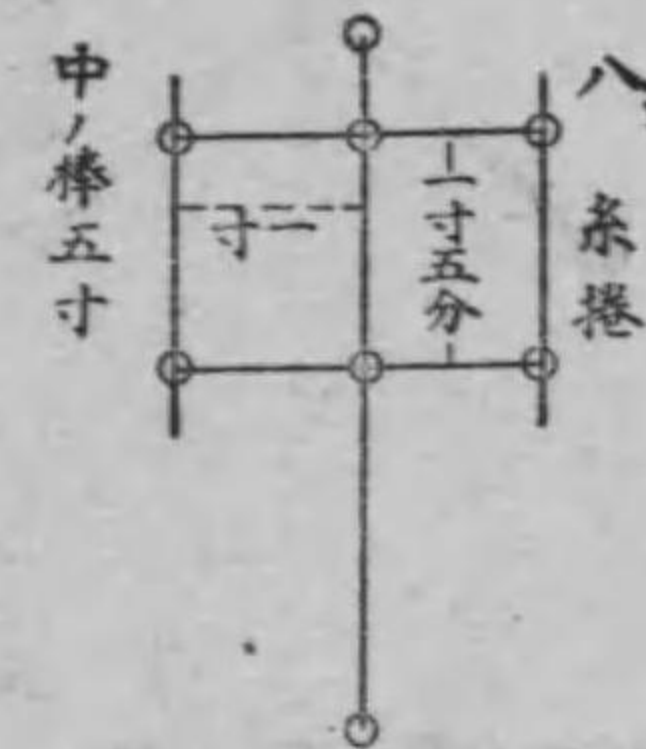
七、フタの二

五寸



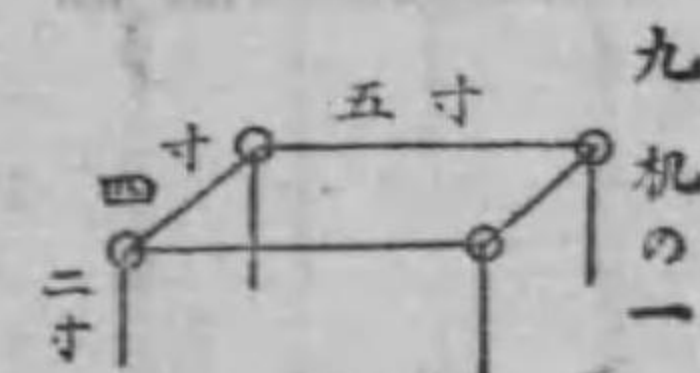
一一、梯子の二

其の一に準ず



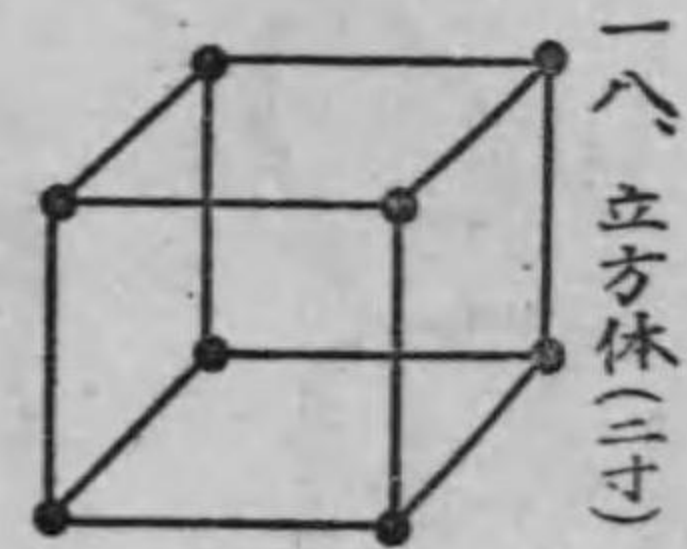
八、糸捲

中、棒五寸
一寸五分

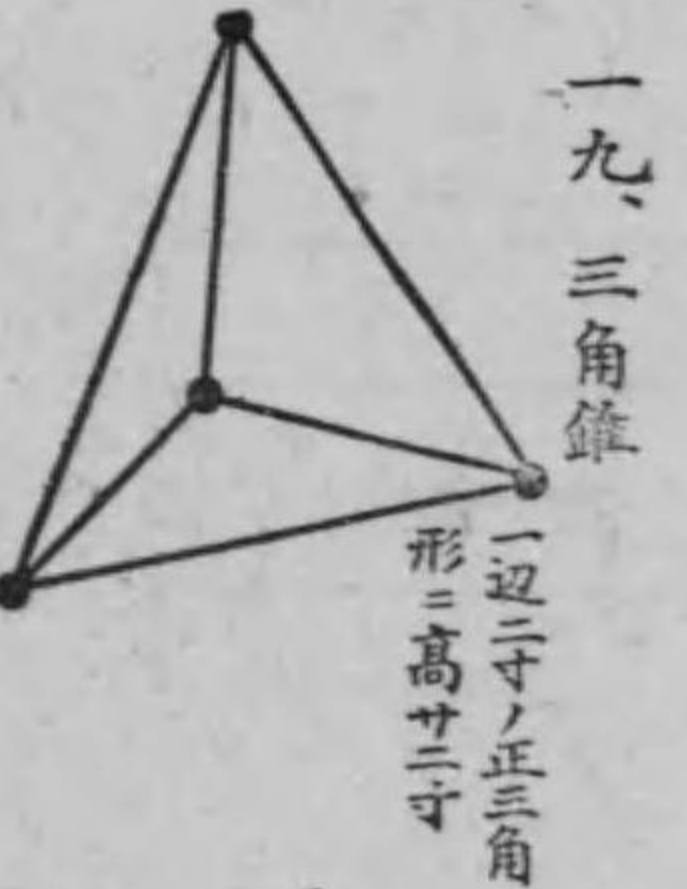


九、机の一

五寸
四寸
二寸

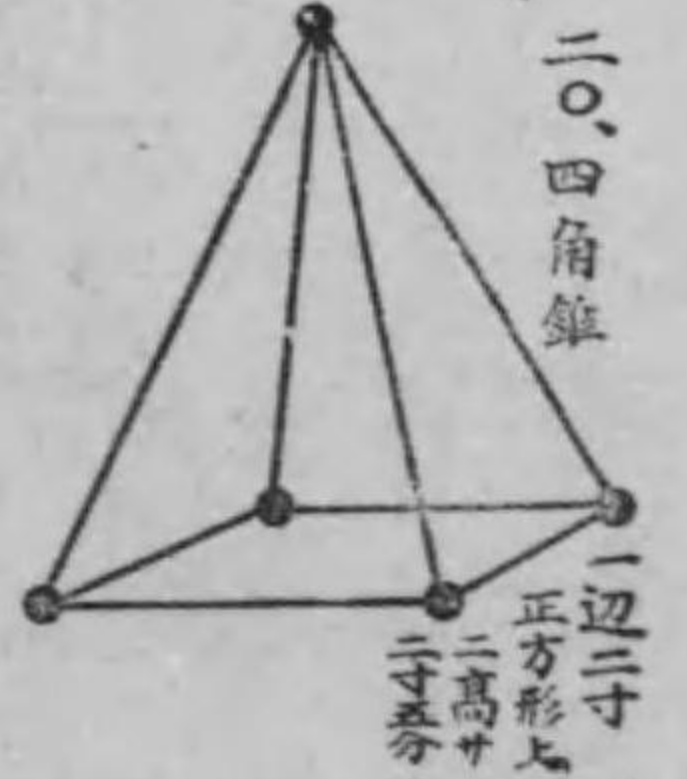


一八、立方体(二寸)



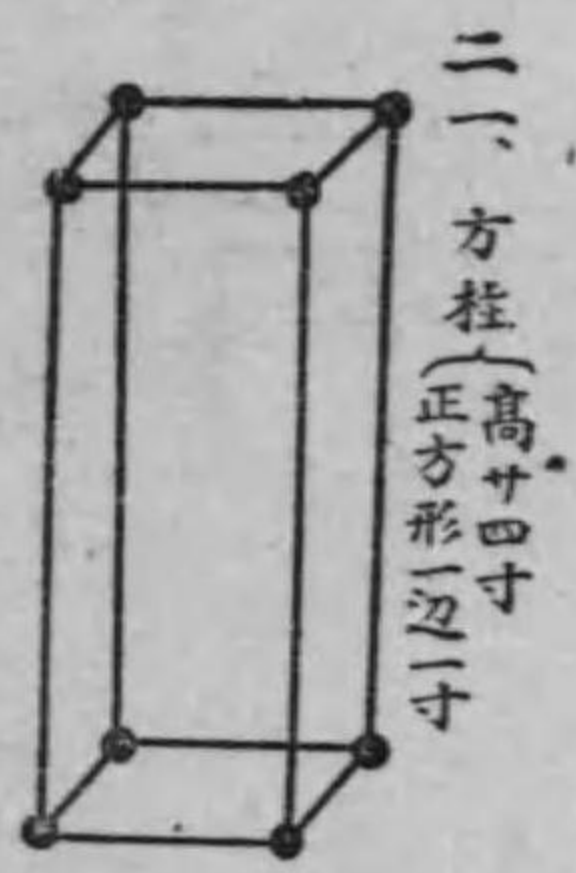
一九、三角錐

(一辺二寸、正三角
形、高二寸)

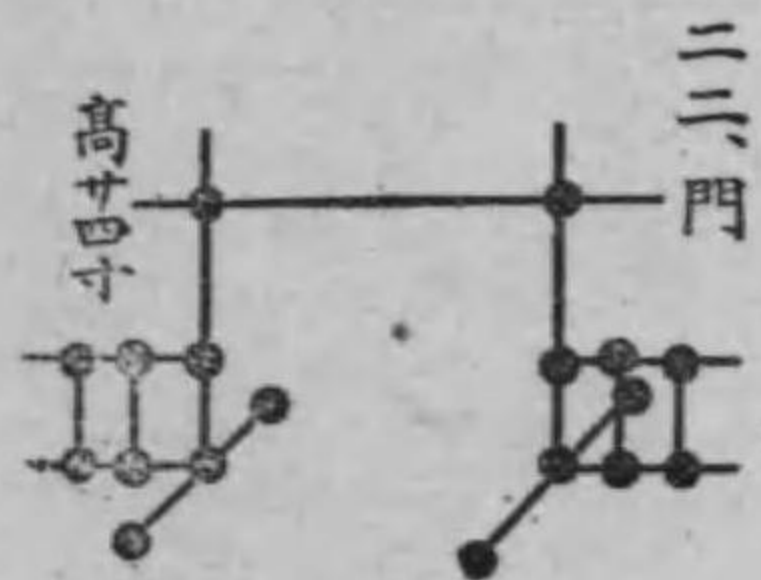


二〇、四角錐

(一辺二寸
正方形上、
二高寸、
二寸分)

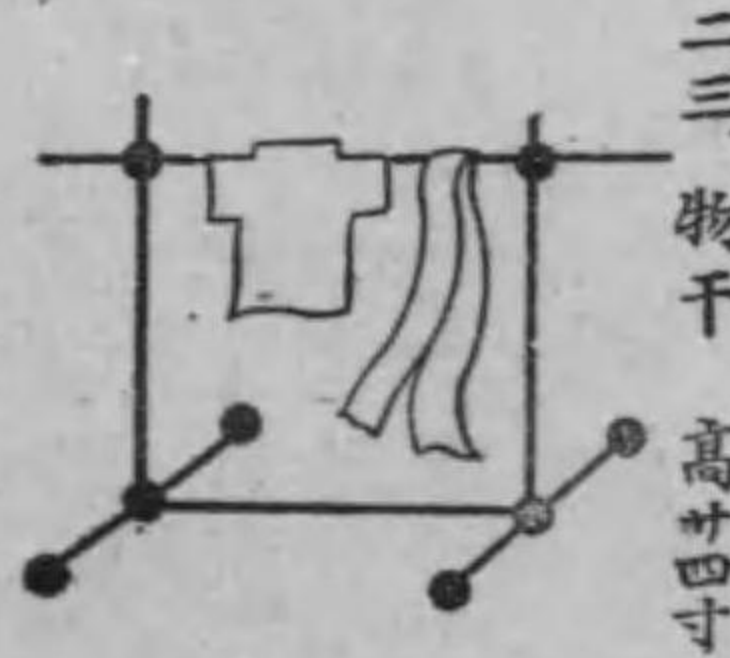


二一、方柱(高四寸
正方形一辺一寸)

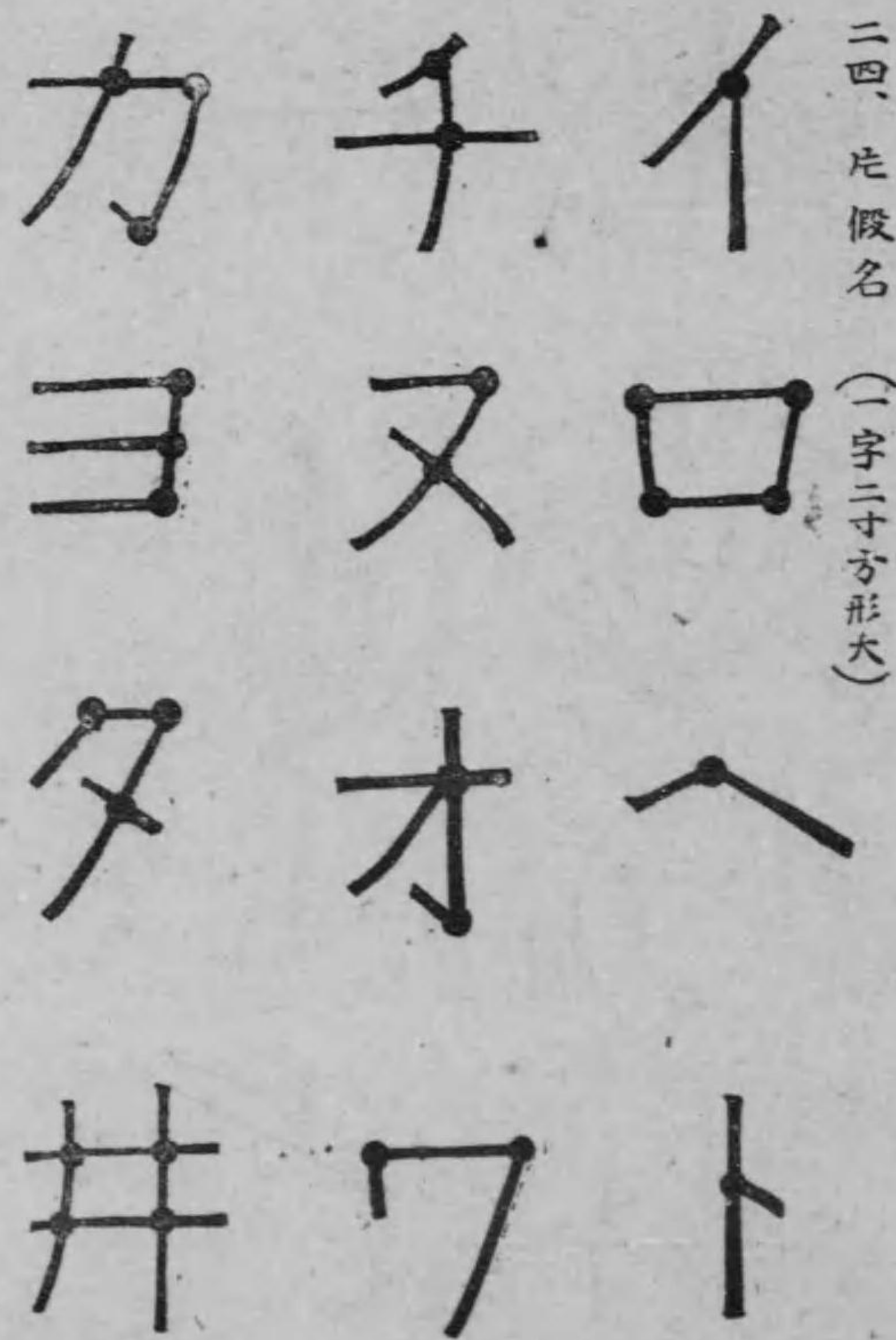


二二、門

高四寸

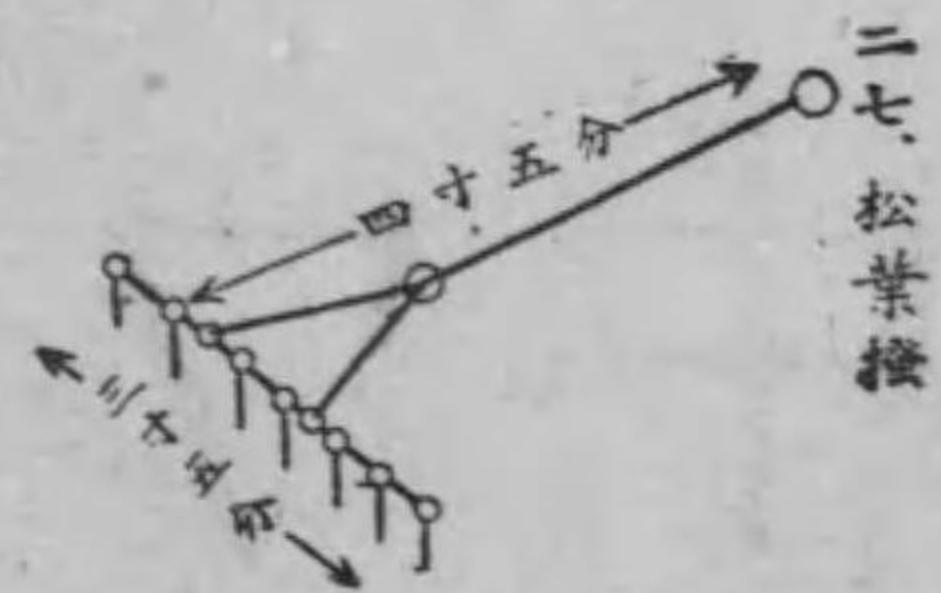
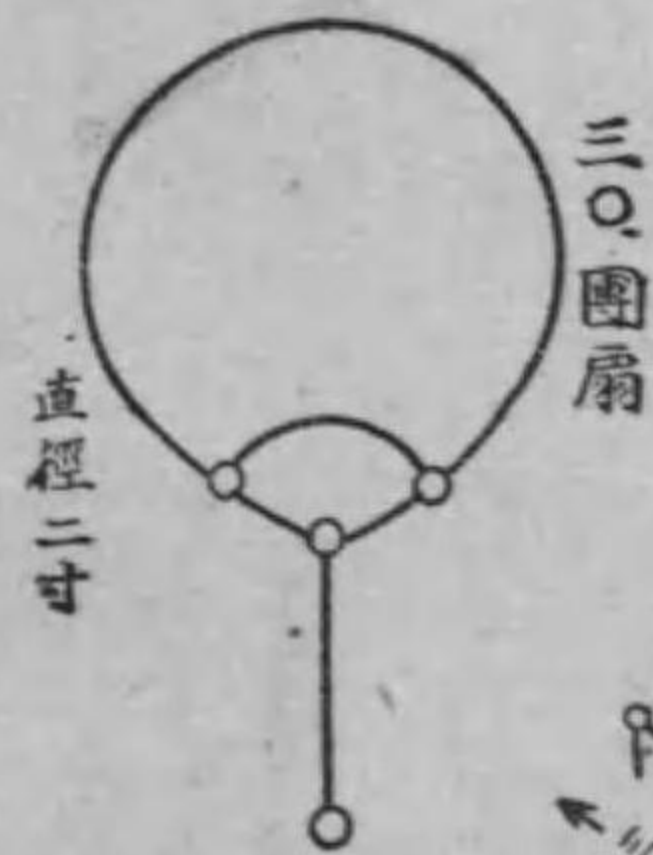
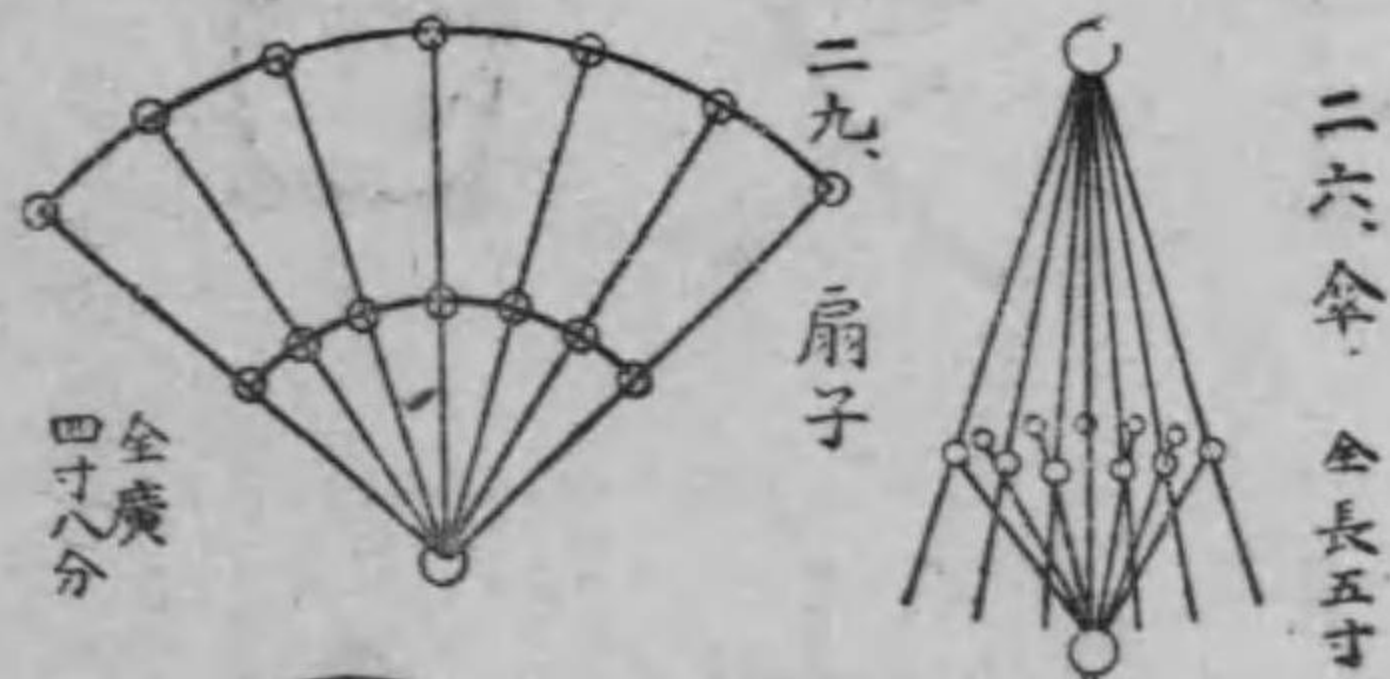
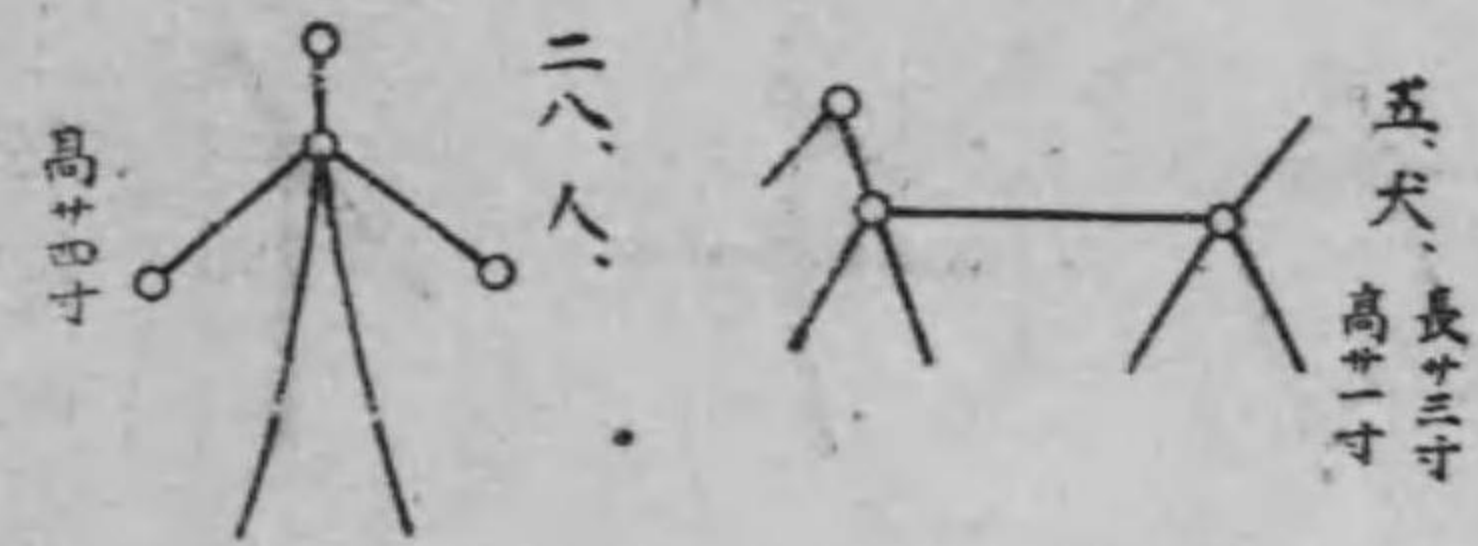
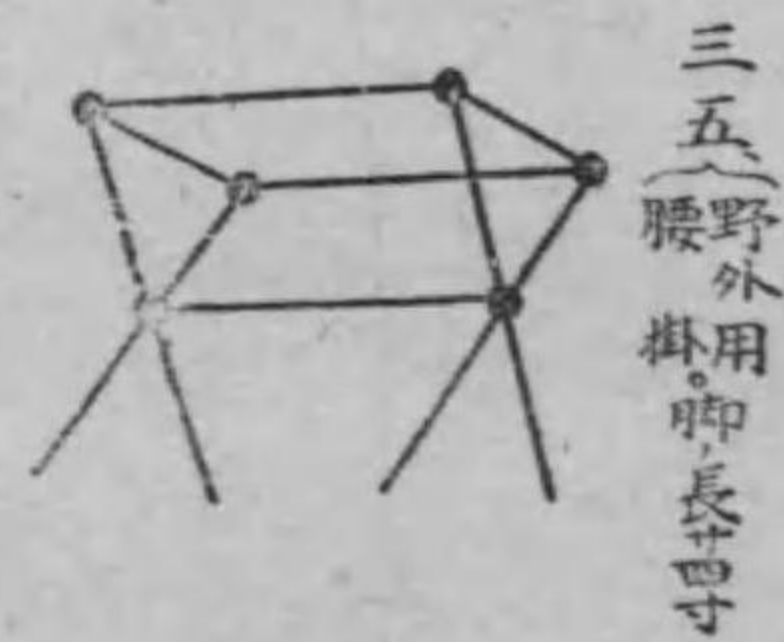
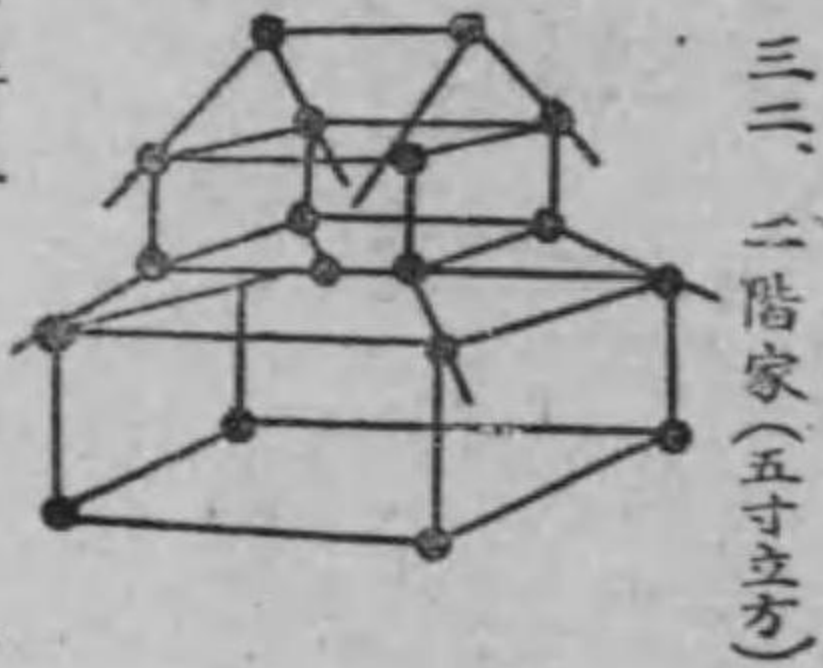
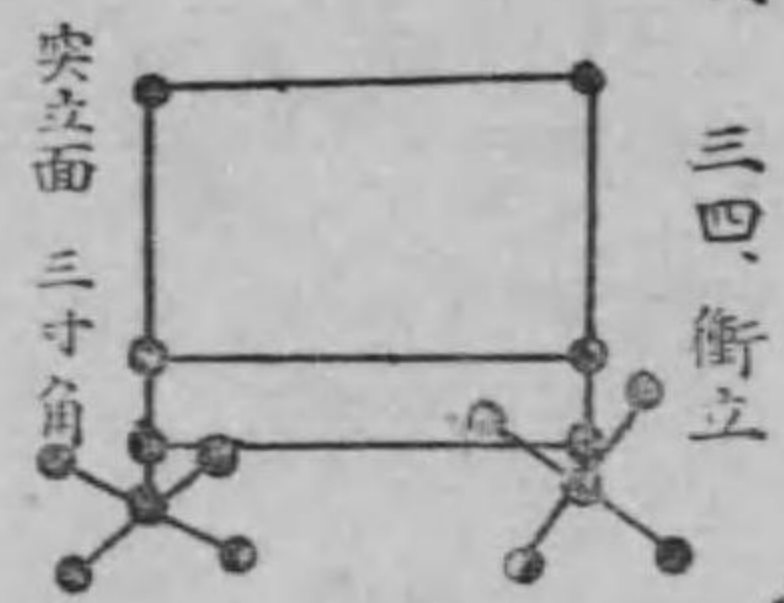
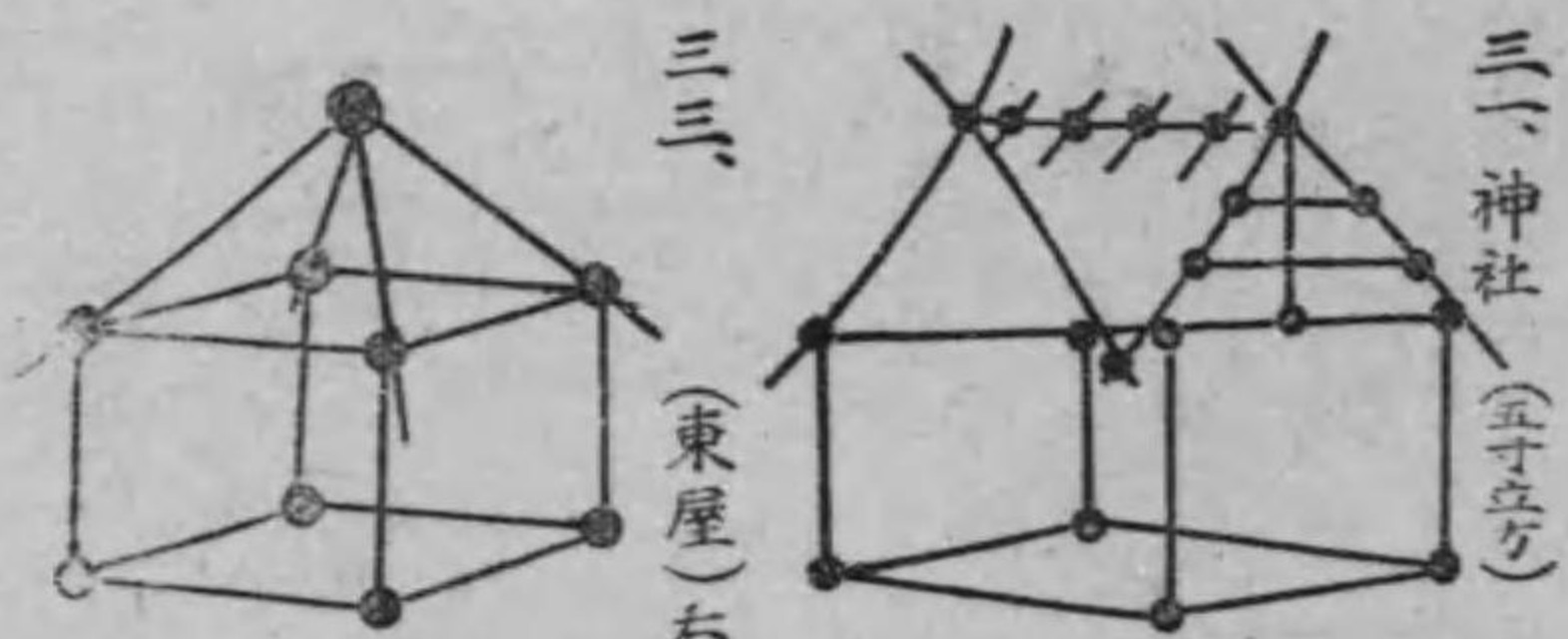


二三、物干 高四寸

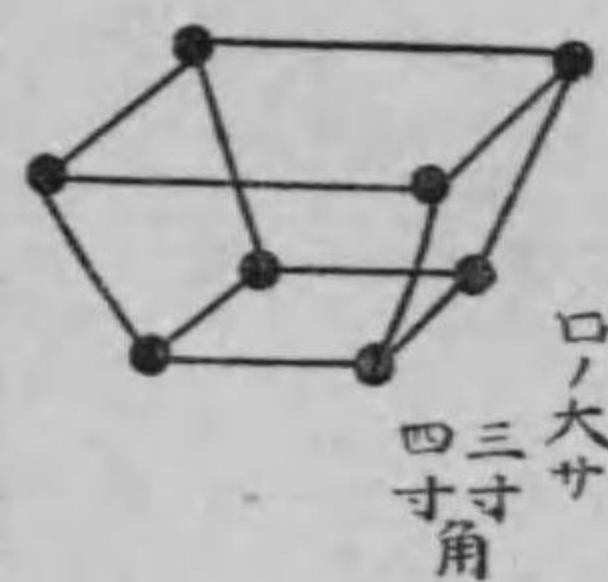


二四、仮名

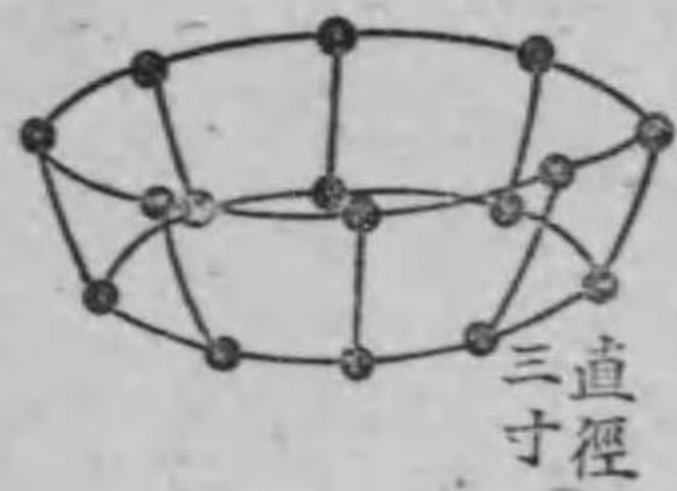
(一字二寸方形大)



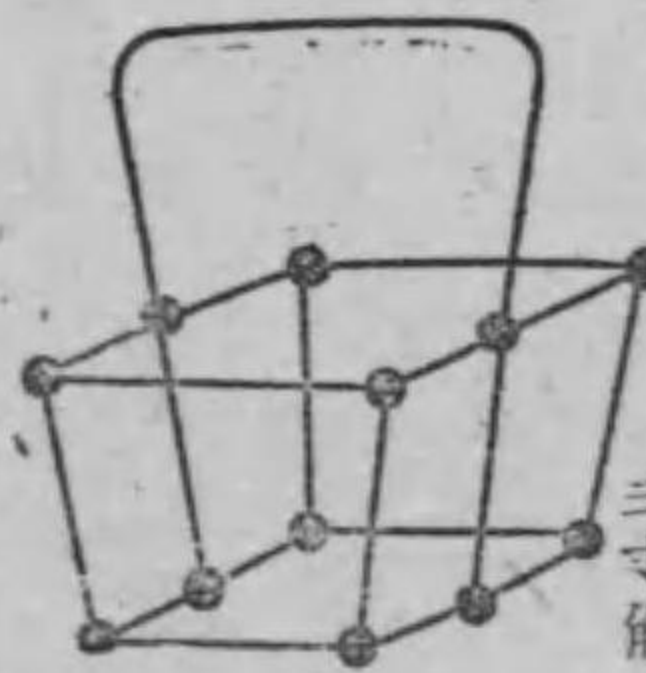
三七、植木鉢の一



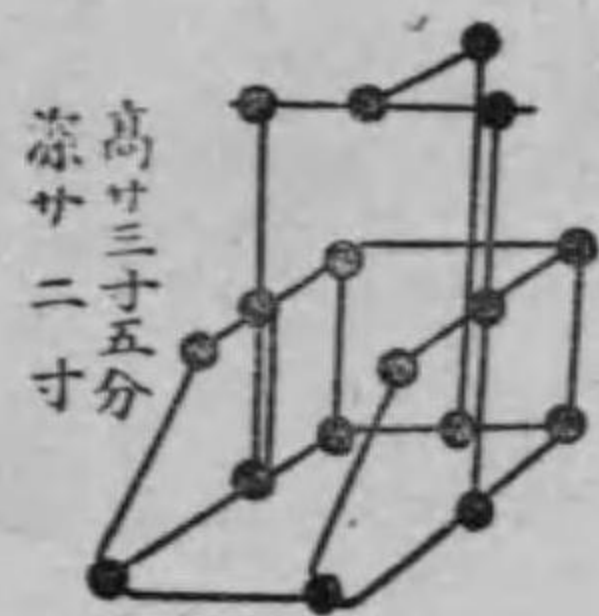
三八、植木鉢の二



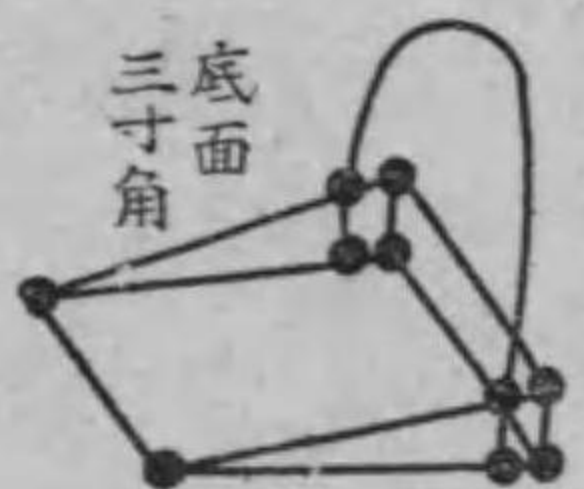
三九、炭取、口ノ大サ



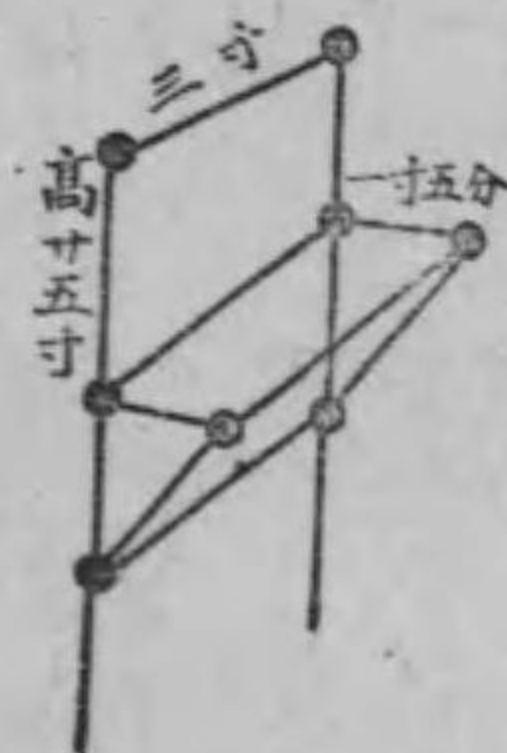
四〇、塵取の一



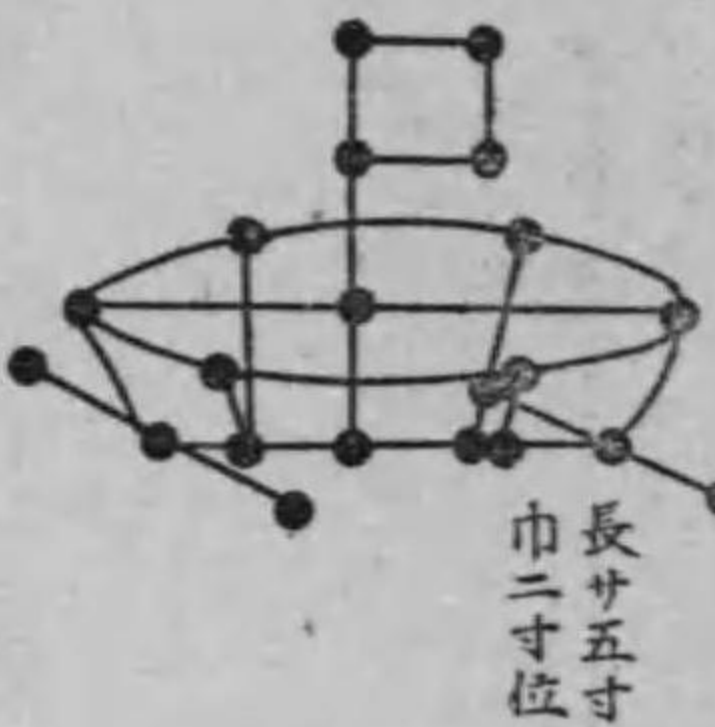
四一、塵取の二



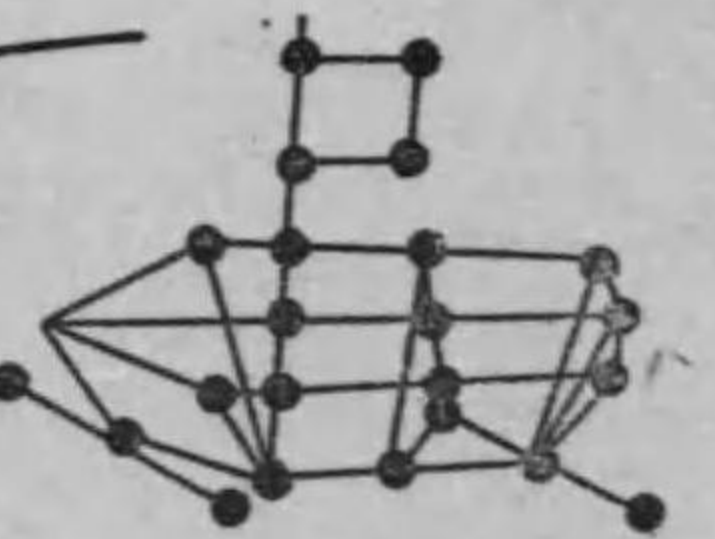
四二、棚



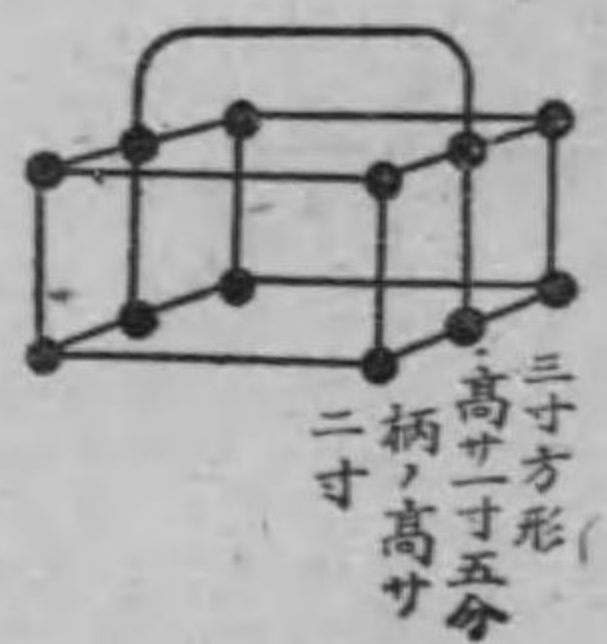
四三、舟の一



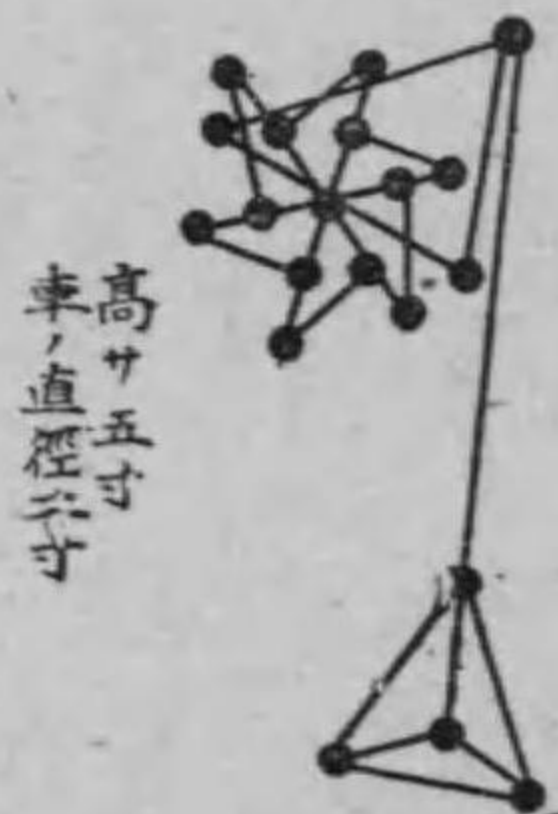
四四、舟の二



四五、煙草



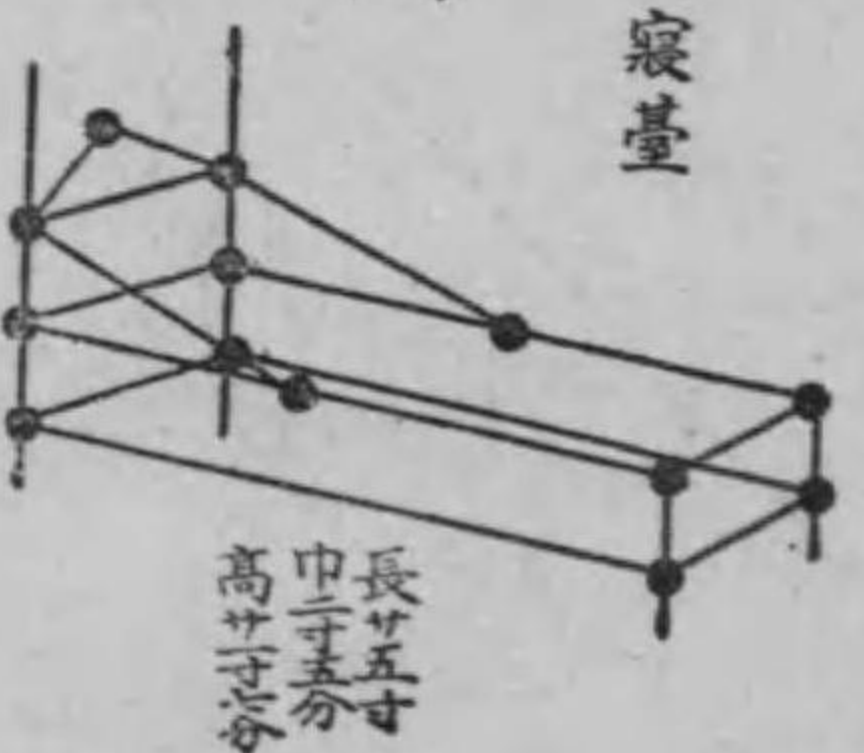
四六、風車

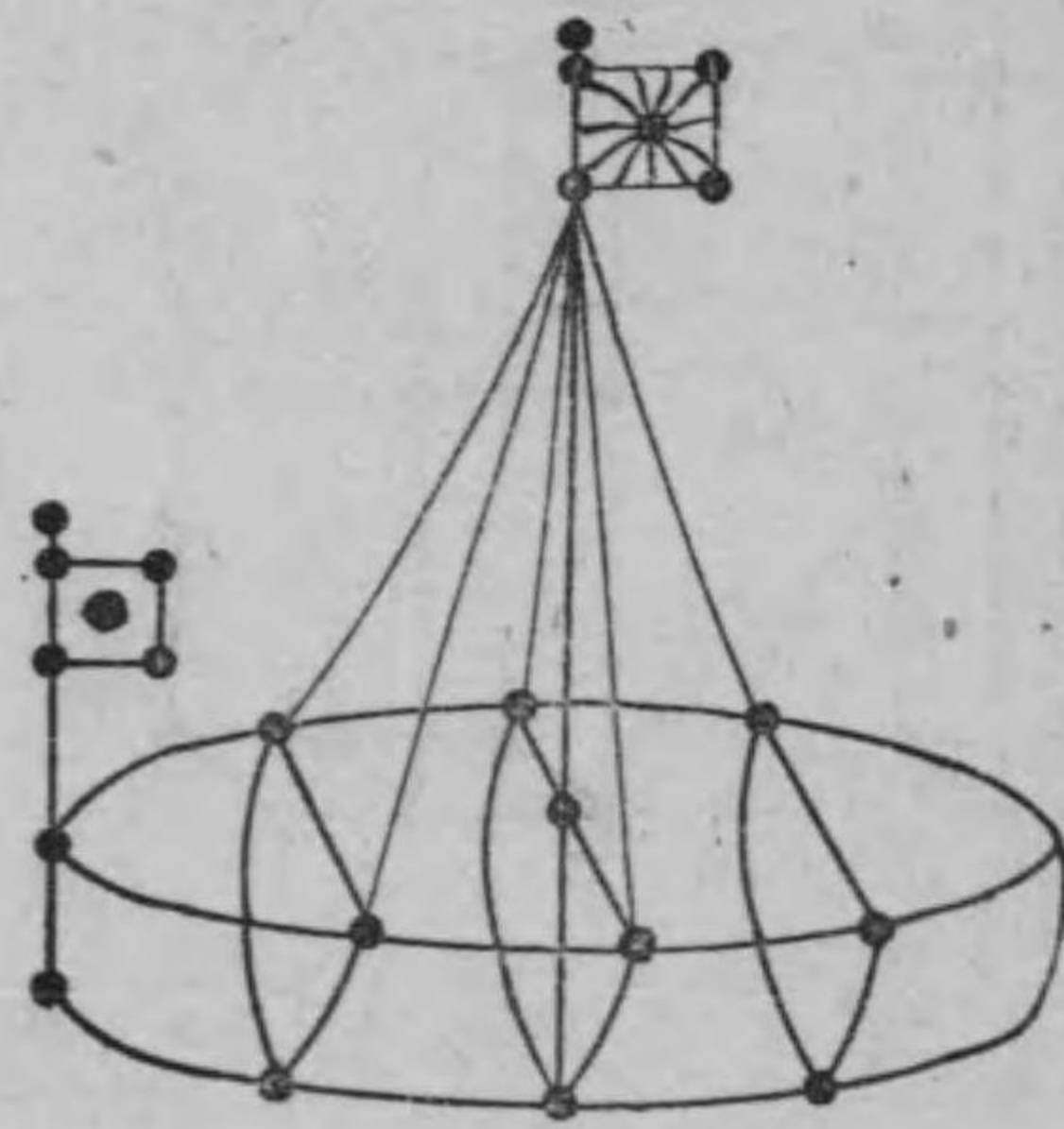
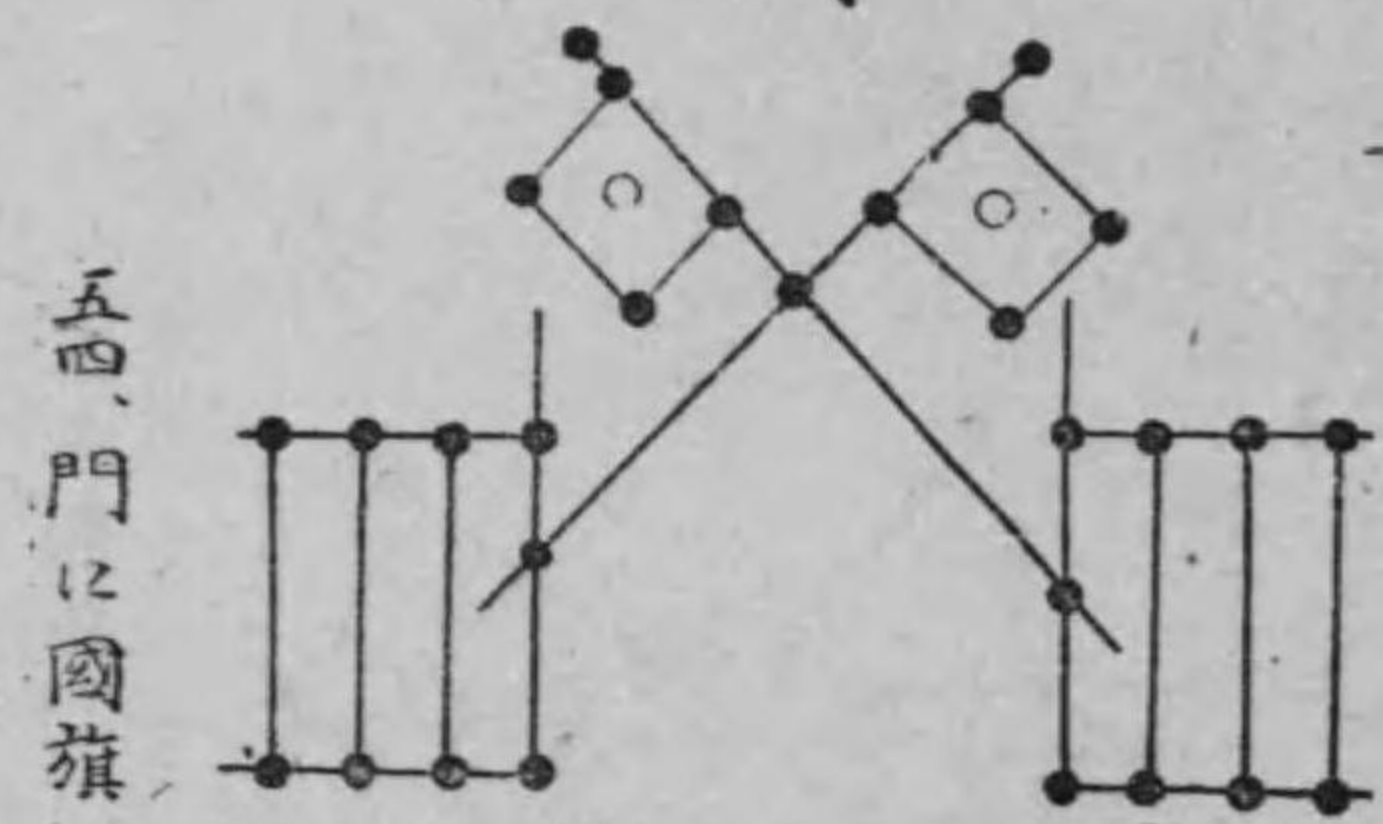


四七、四ツ手網

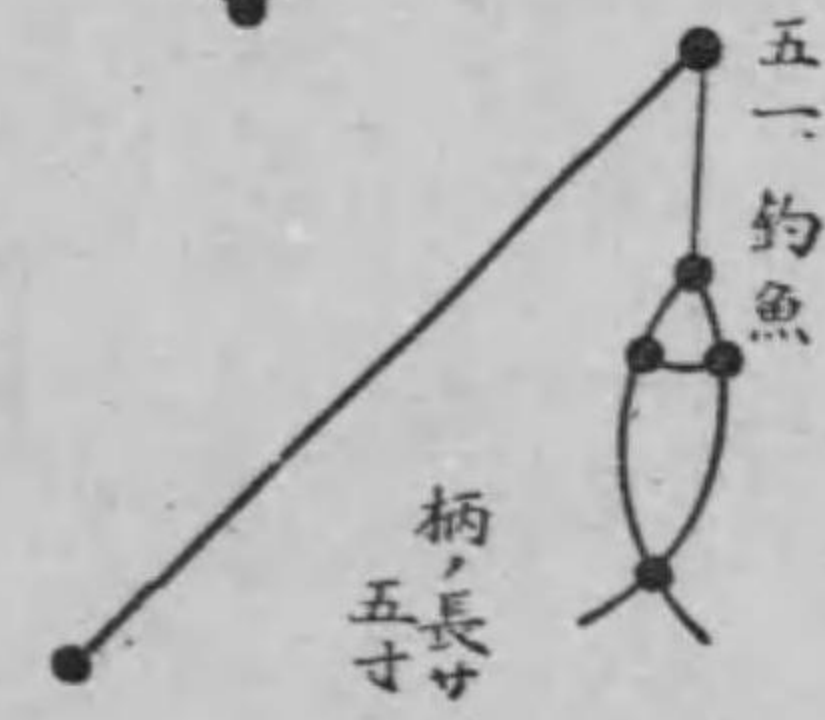
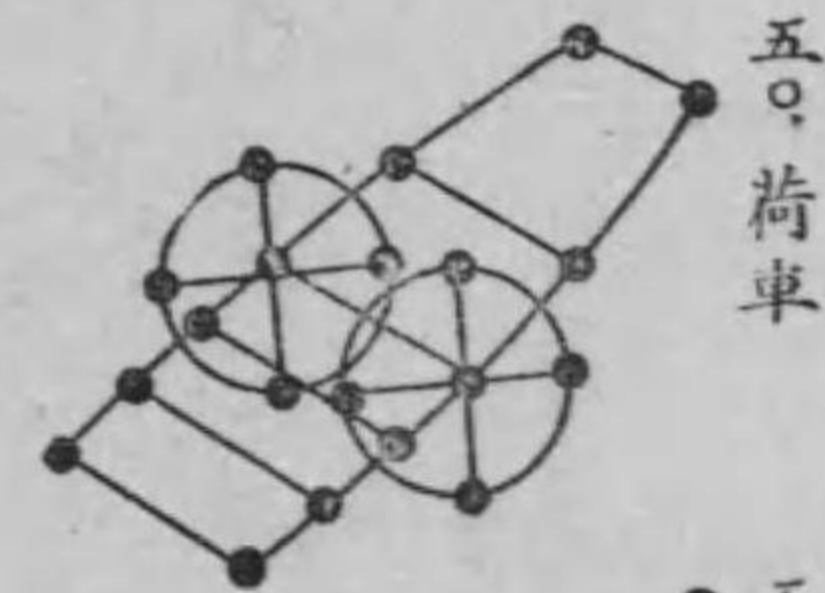
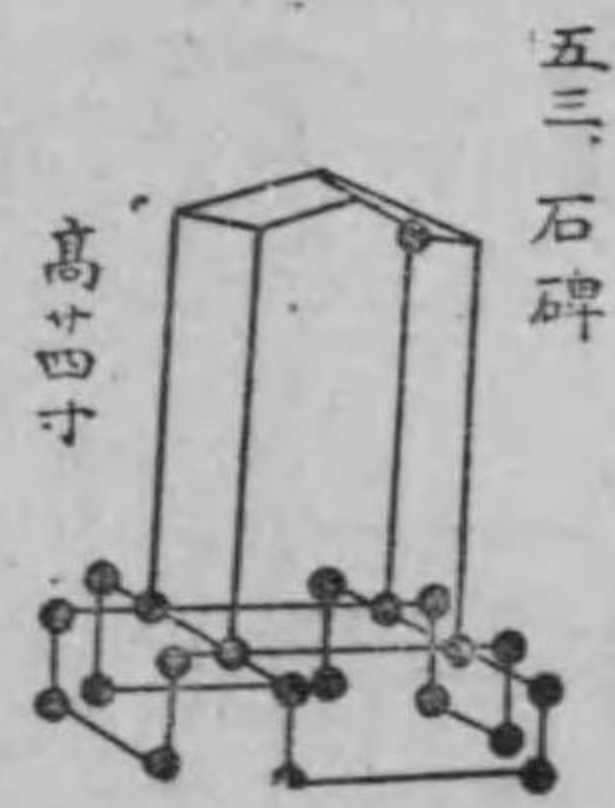
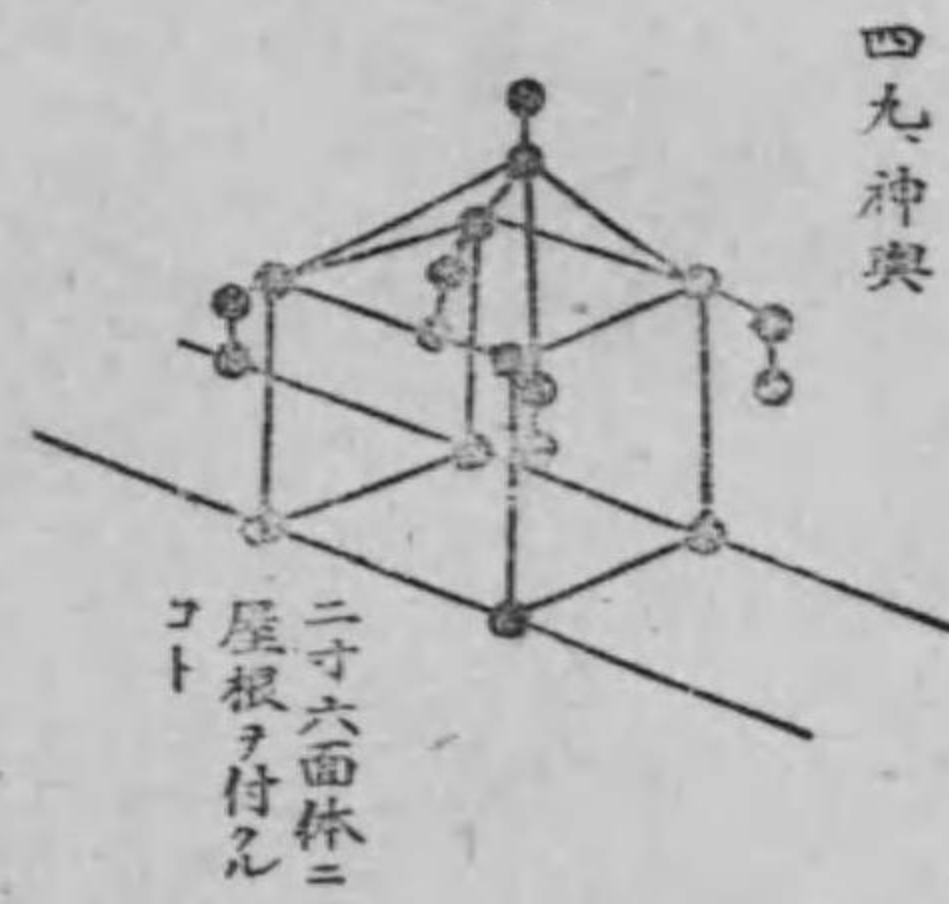


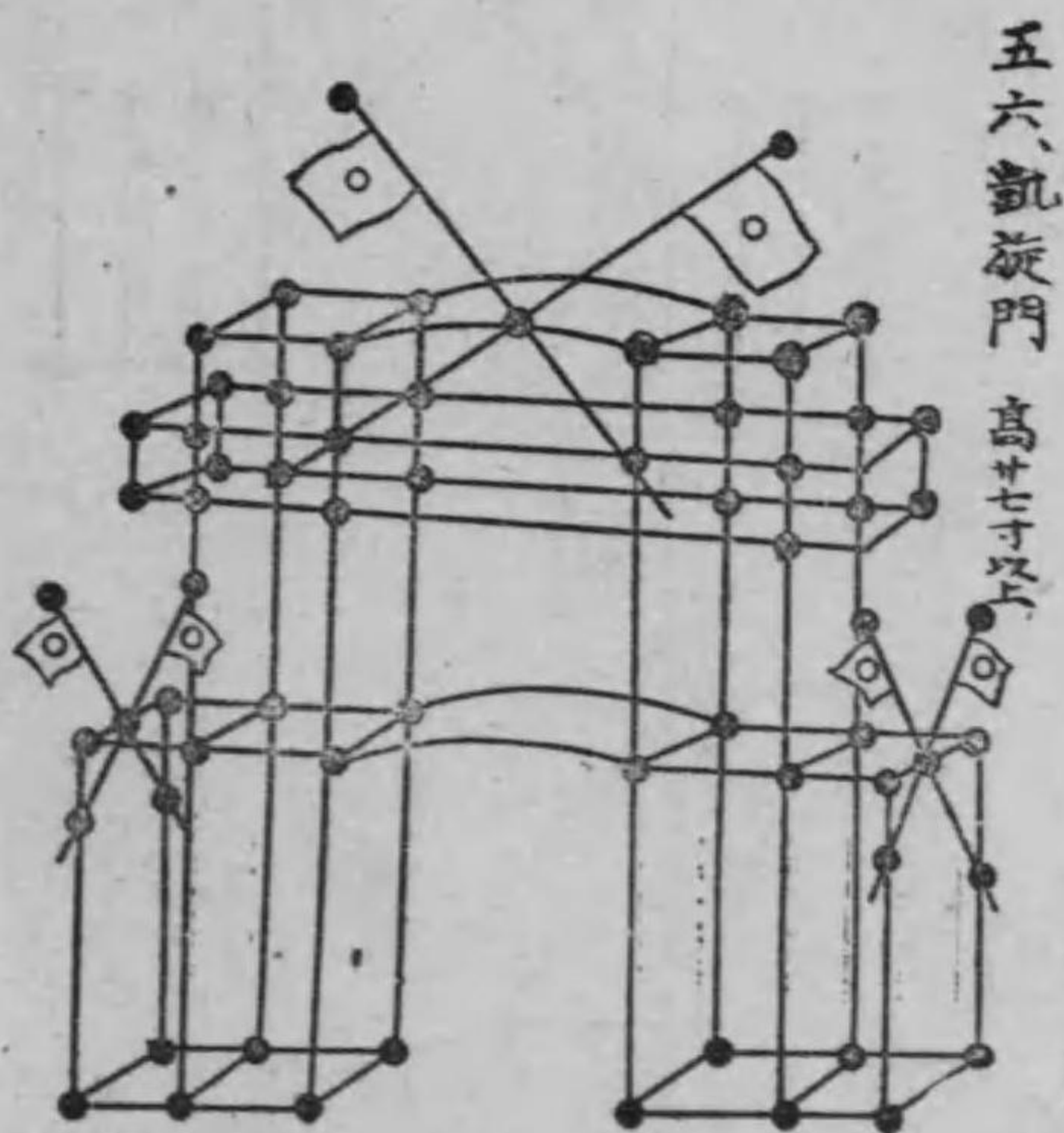
四八、寢臺





五五汽船(四三三四の舟より小さく
十センチからず)





第二章 紙細工に関する資料

紙細工は我が邦のみならず歐洲諸國の手工科教材としても廣く採用してゐるやうであります。その範圍が頗る廣くて人に依つて分類も違つてゐるやうであります。本書に於ては左の五種に分けて説明いたしたいと思います。

- 1、色板排べ
- 2、折紙
- 3、組紙
- 4、切抜
- 5、厚紙

岡山先生も嘗て歐洲手工教育の状況を視察して御歸國の際この紙細工について我が國のものと比較して大に論せられたことがありましたが、其内に我が國の紙細工は或點に於て發達せるところはあるけれども教育的手工としての研究未だ十分でなくて、模倣的の折方や機械的な所謂紋切形に屬することが甚だ多くて、創意的建設的のことが頗る少いと言つ

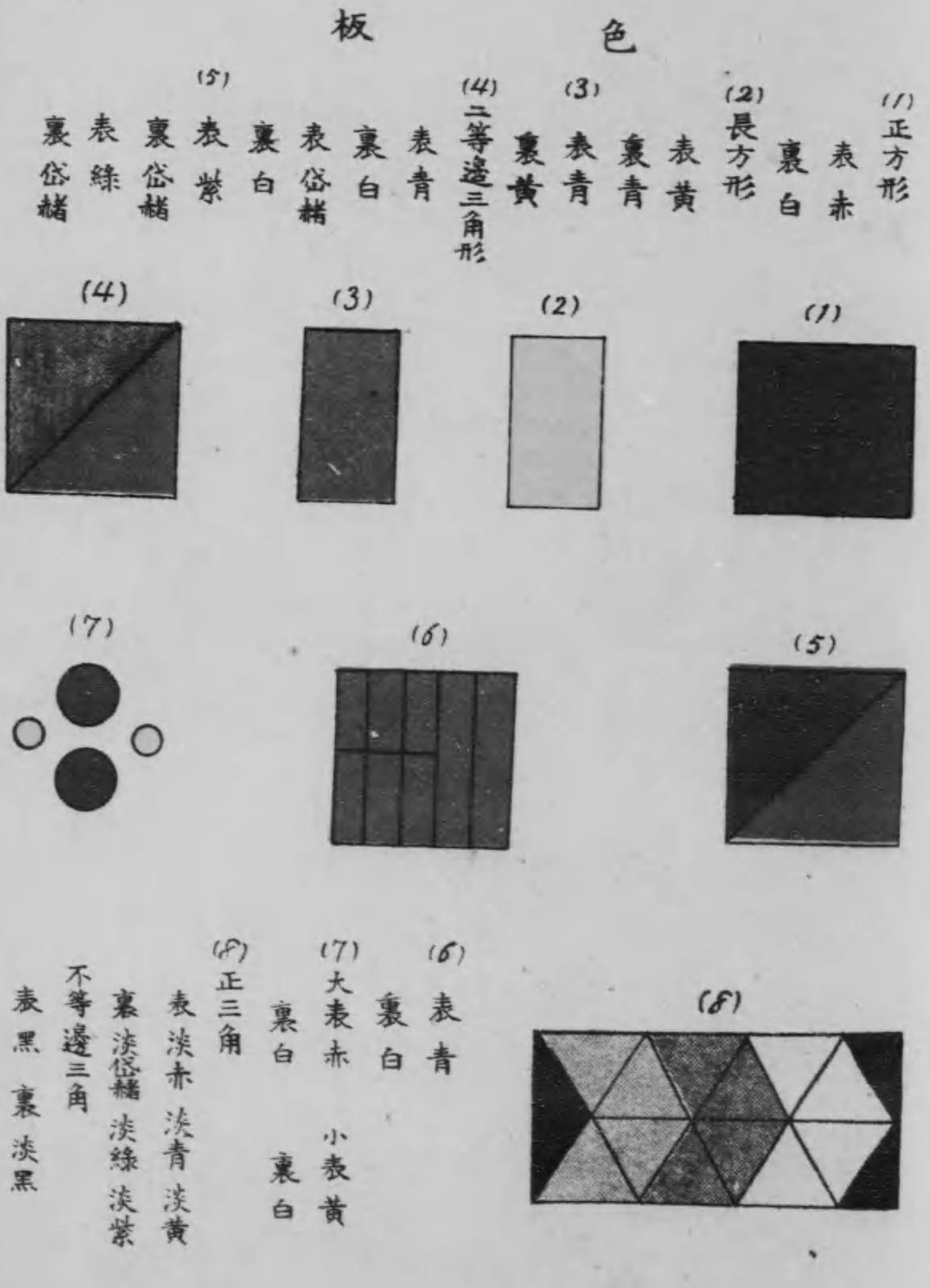
色板排べについて

てをられます。是れ一には教授者の取扱に依るものとは言へ其教材宜しきを得ませんと教授上少からざる困難を感じて而かも其効果は豫想以上に少いものでありますからこの點に留意して右の順序に従ひ最も平易に圖を以て示した次第であります。

1、色板排べについて 色板排べは厚紙製の色板を平面上に排列して簡單なる物の形象又は幾何形等を構成せしむるもので其目的とするところは普通の標準色の名稱及び簡易なる形體に關する觀念を與へ同時に眼及び手を修練するのでありますから、此の頃教授事項多くなつて來た爲この色板排べは他の手工又は圖畫に於て十分補ふことを得るばかりでなく色板排べ以上に効果あるものがありますから、一般に細目中より省かれて來た様でありまが未だ全く廢せられたのでもなく又實際小學校幼年教授の極初歩としては適切なる教材と考へられた點もありましたから參考のため掲げておくことにしました。

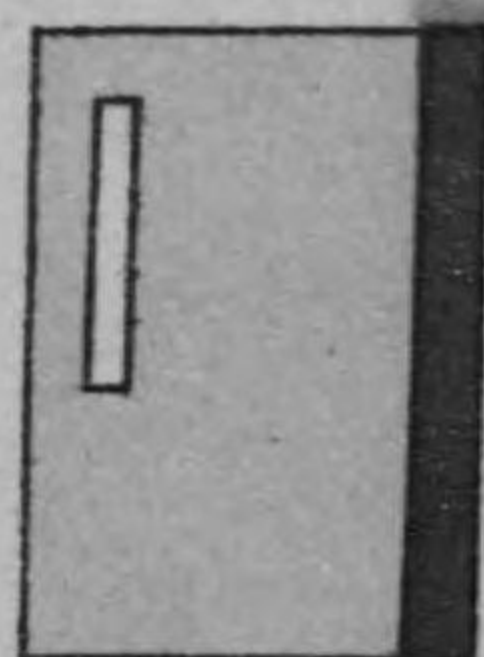
色板の組立

色板の組立、この色板は教授者の工夫次第で如何様にでも作る事が出来ます。其要はなるべく數を少くして而かも種々の形狀を有し且つ普通の色を漏れなく教授するのに便利なことでありませう。岡山先生の手工教材及び教授法に示してあります色板は私も多年使つて見ましたが右に述べました意味の色板排べの取扱からしますと今少し大きくして欲しい

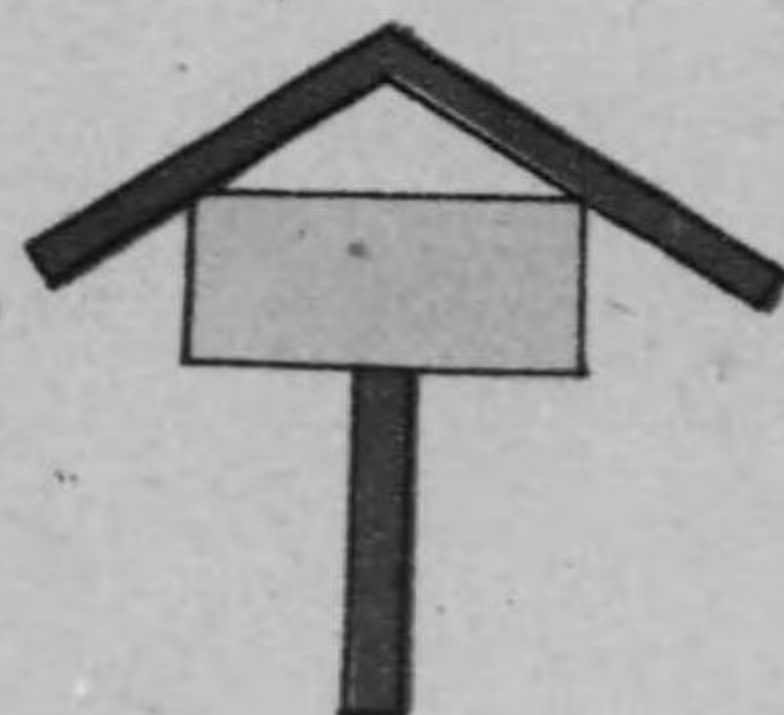




四火鉢



一本



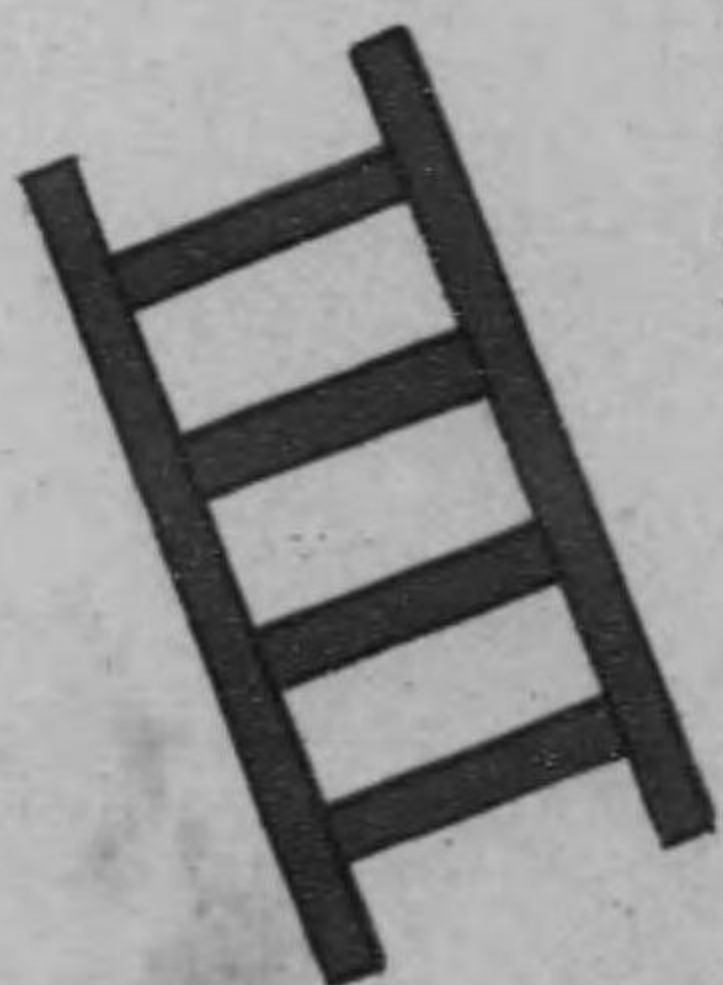
五立札



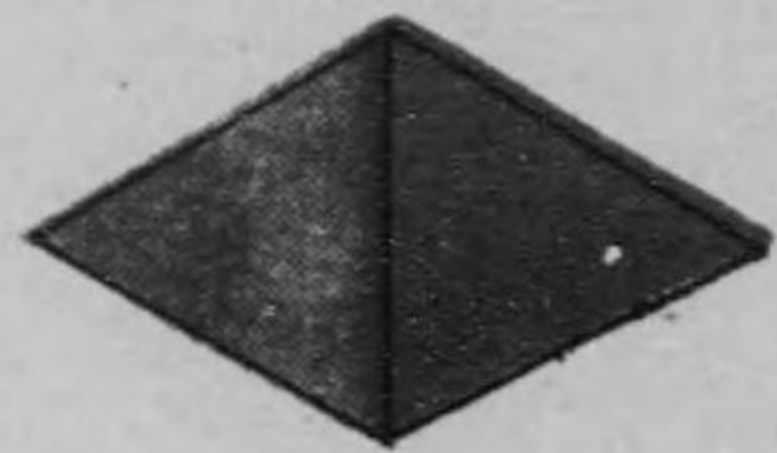
二旗



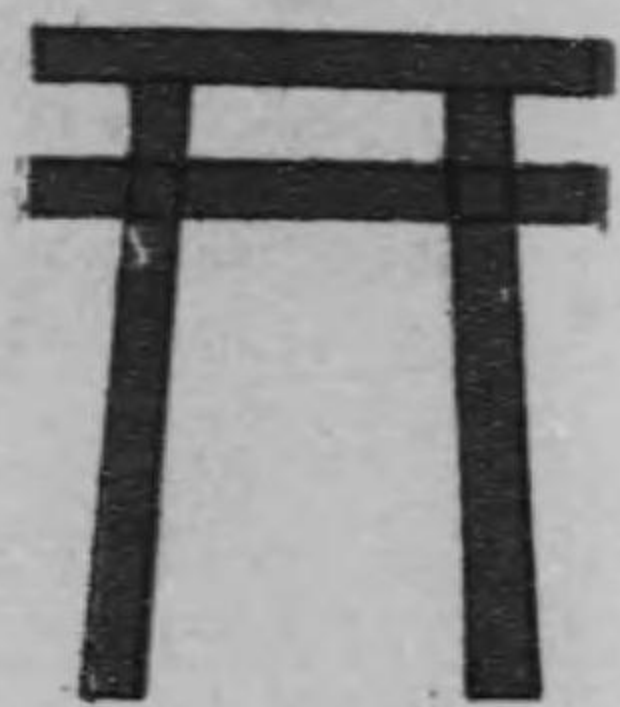
六門



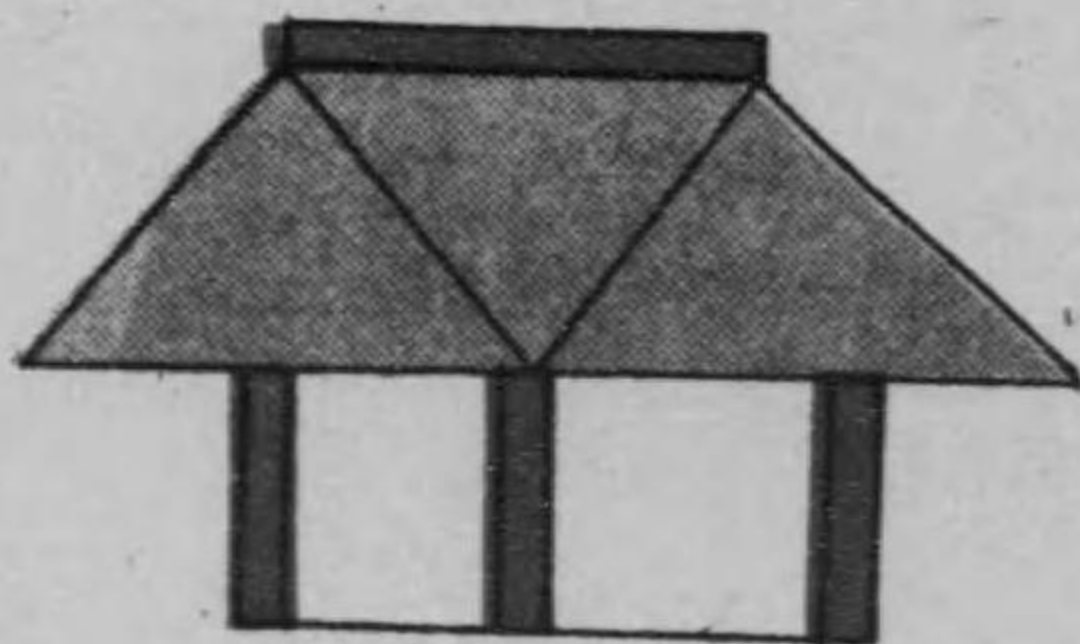
三梯子



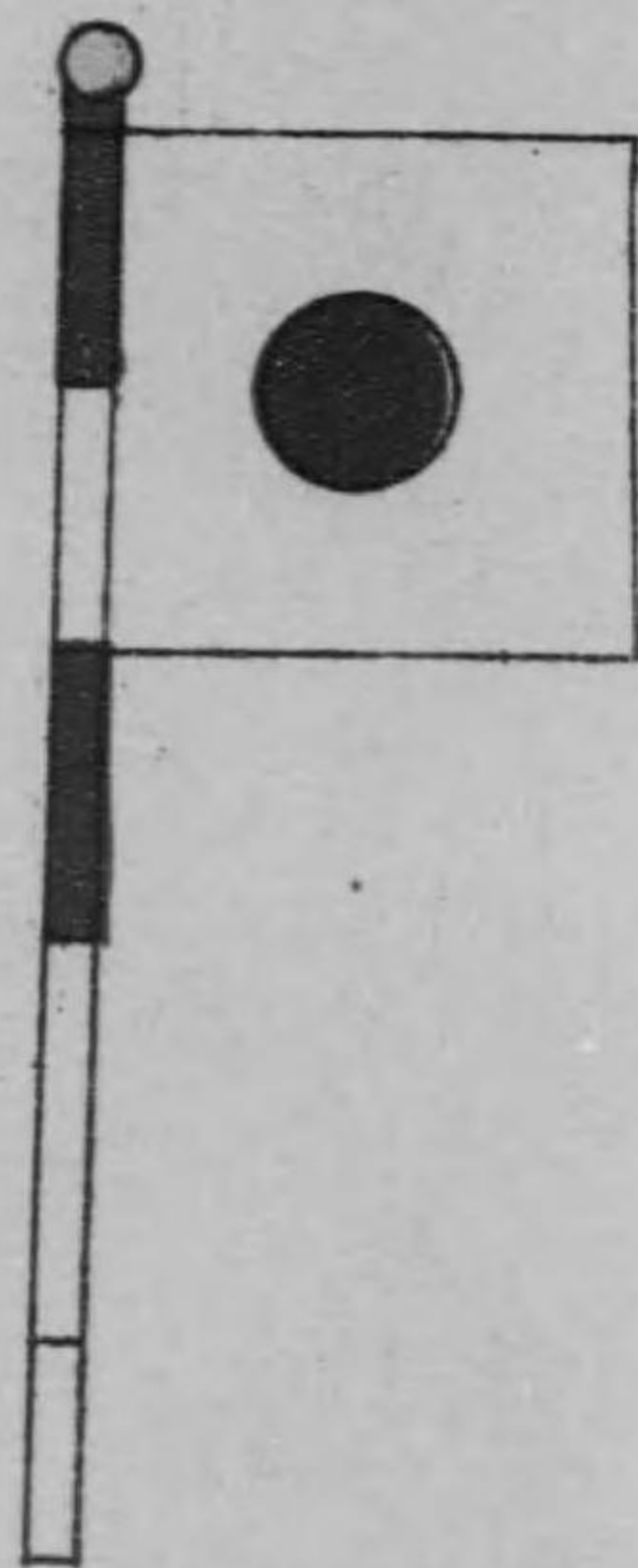
一〇、菱形



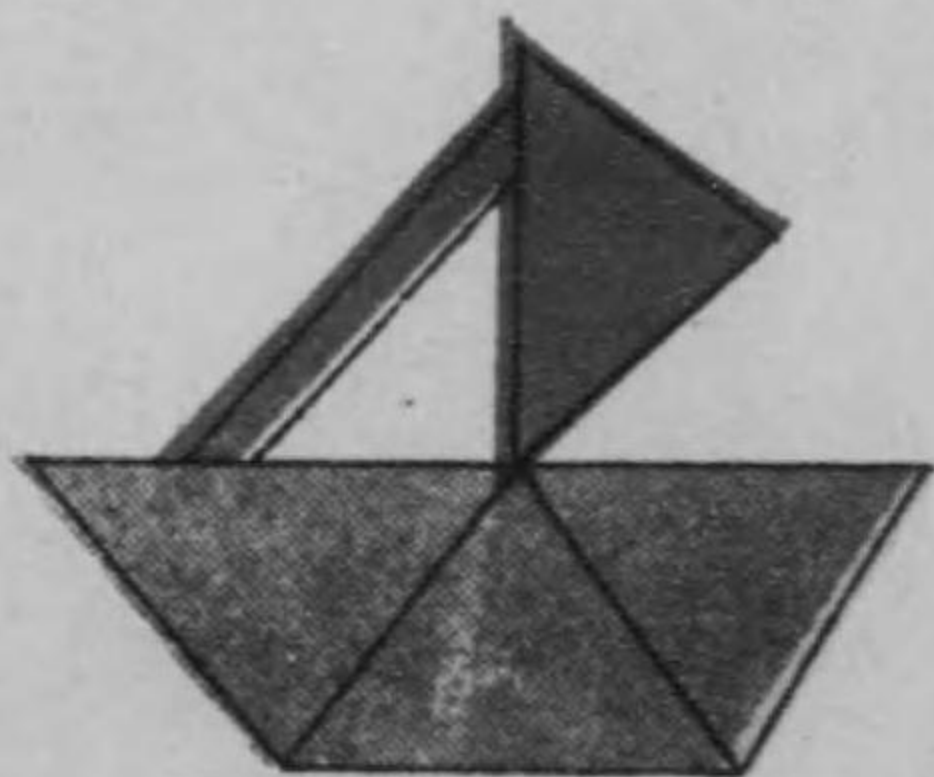
七、鳥居



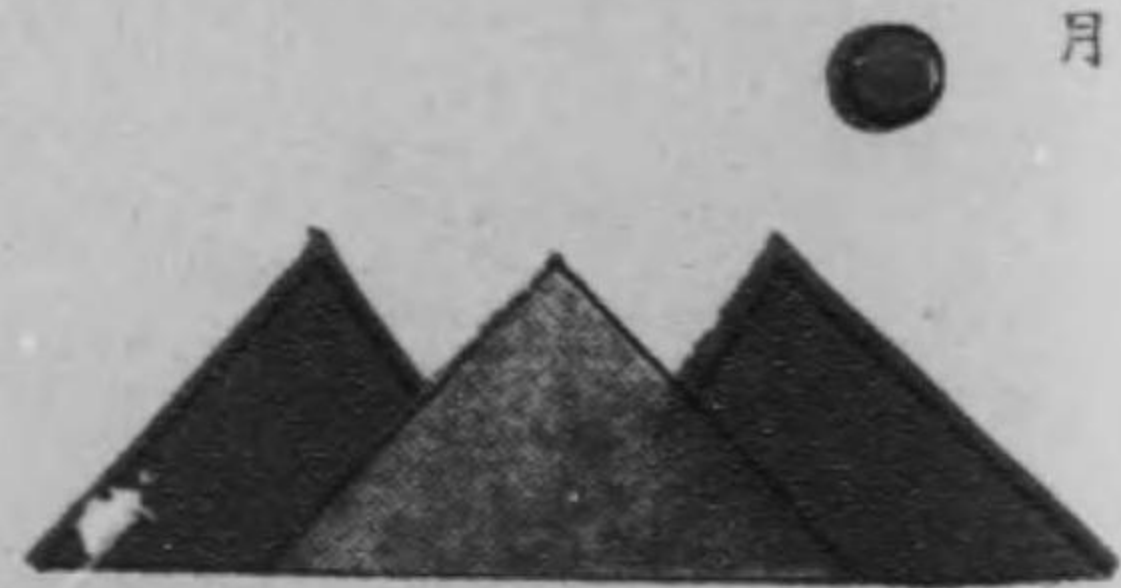
一一、家



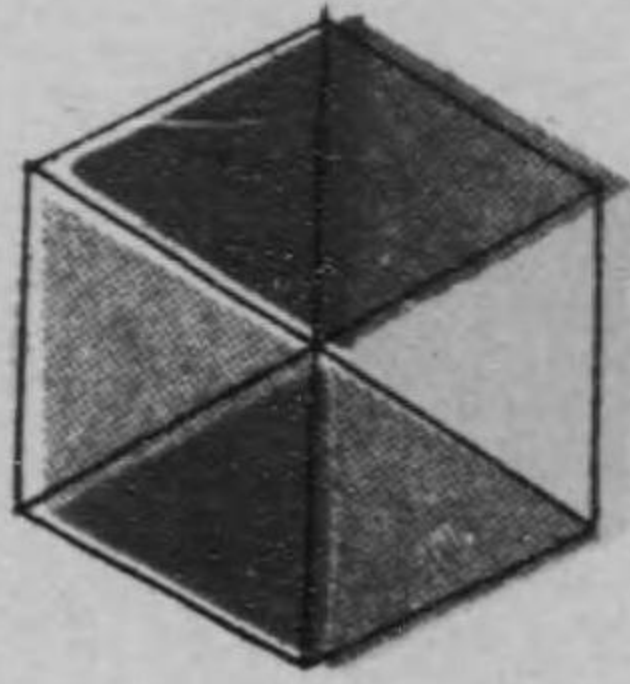
八、國旗



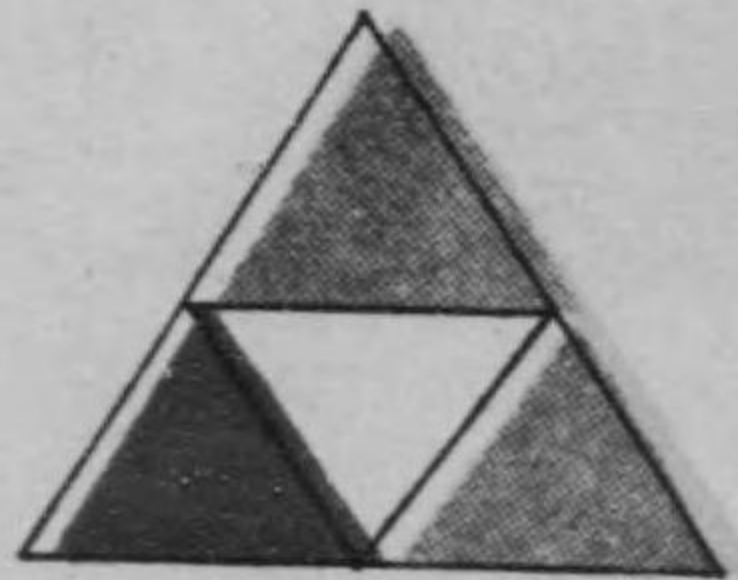
一二、帆船



九、山に月



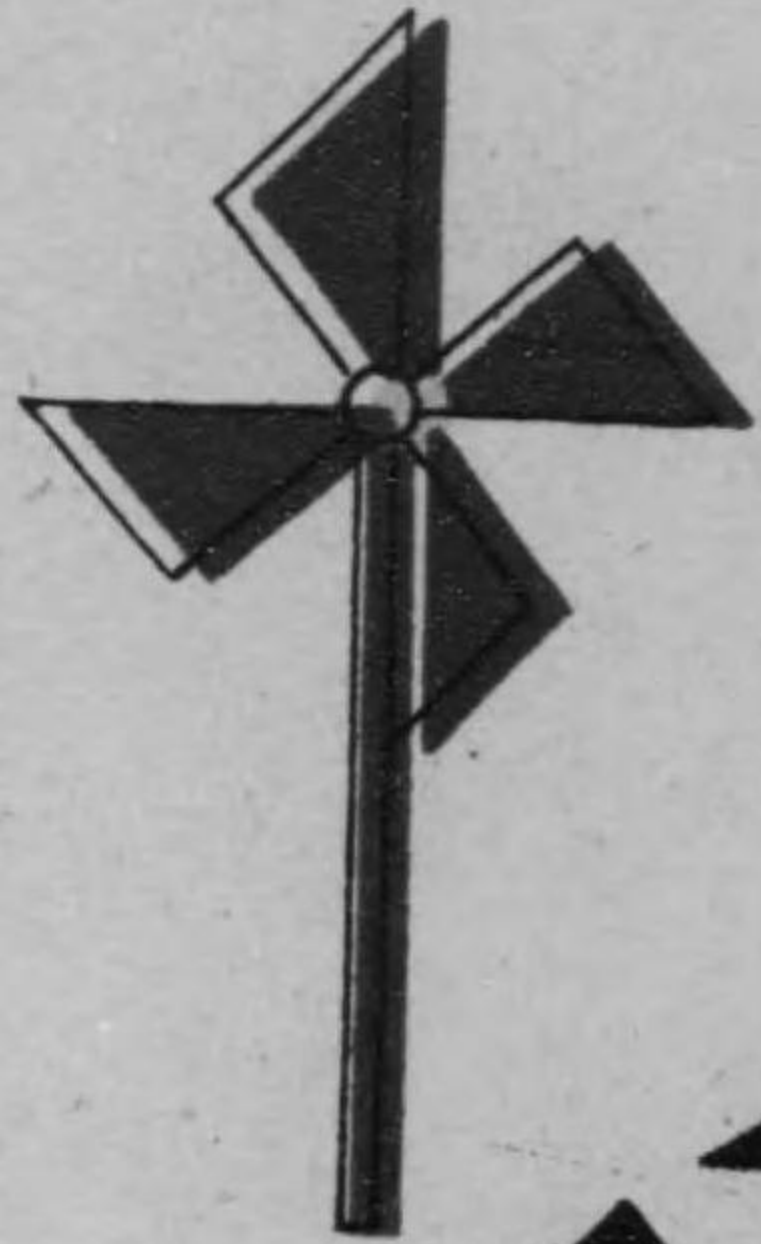
一六、六角形



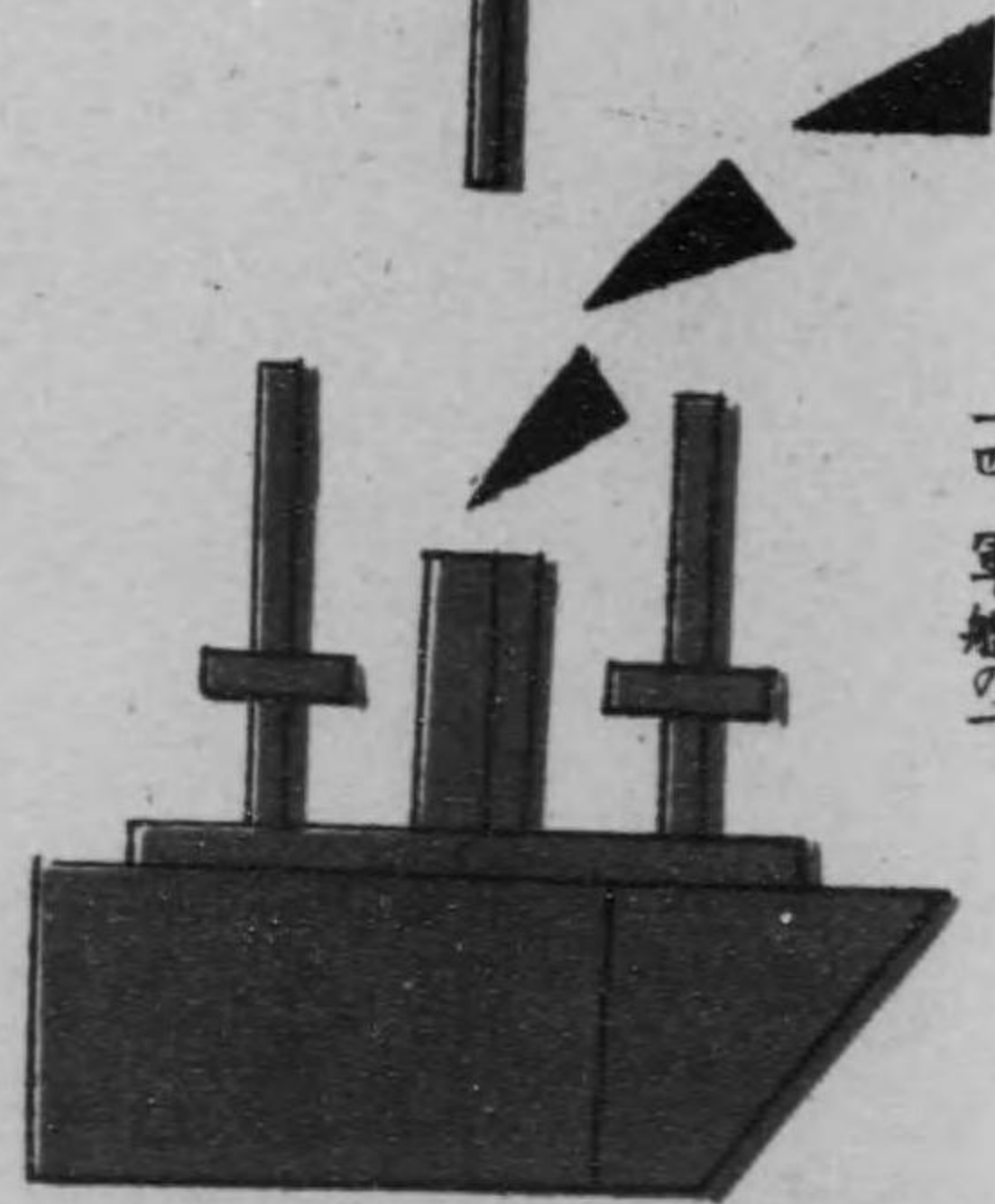
一七、三角



一八、トンボ



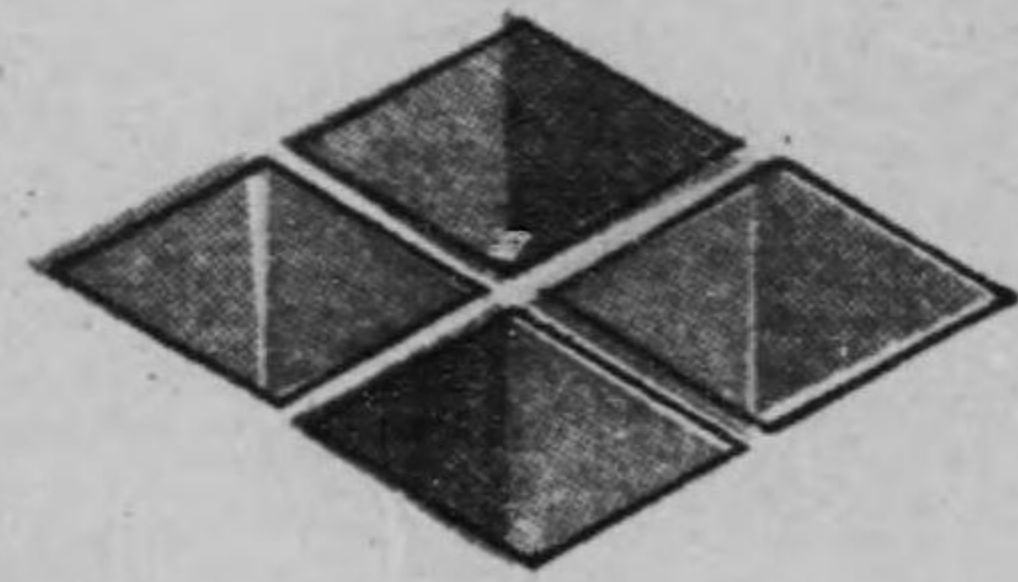
一九、風車の



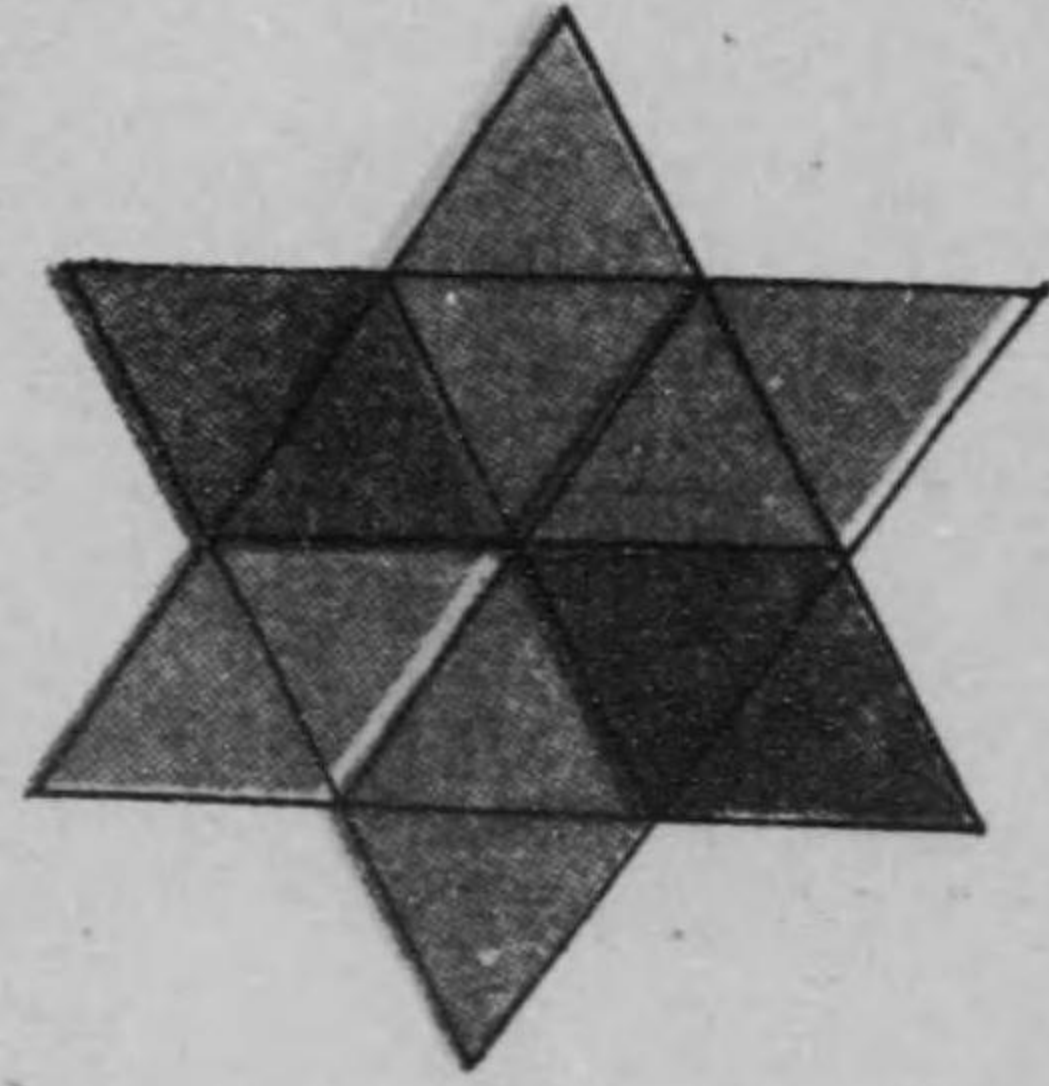
二〇、軍艦の



二一、勲章の



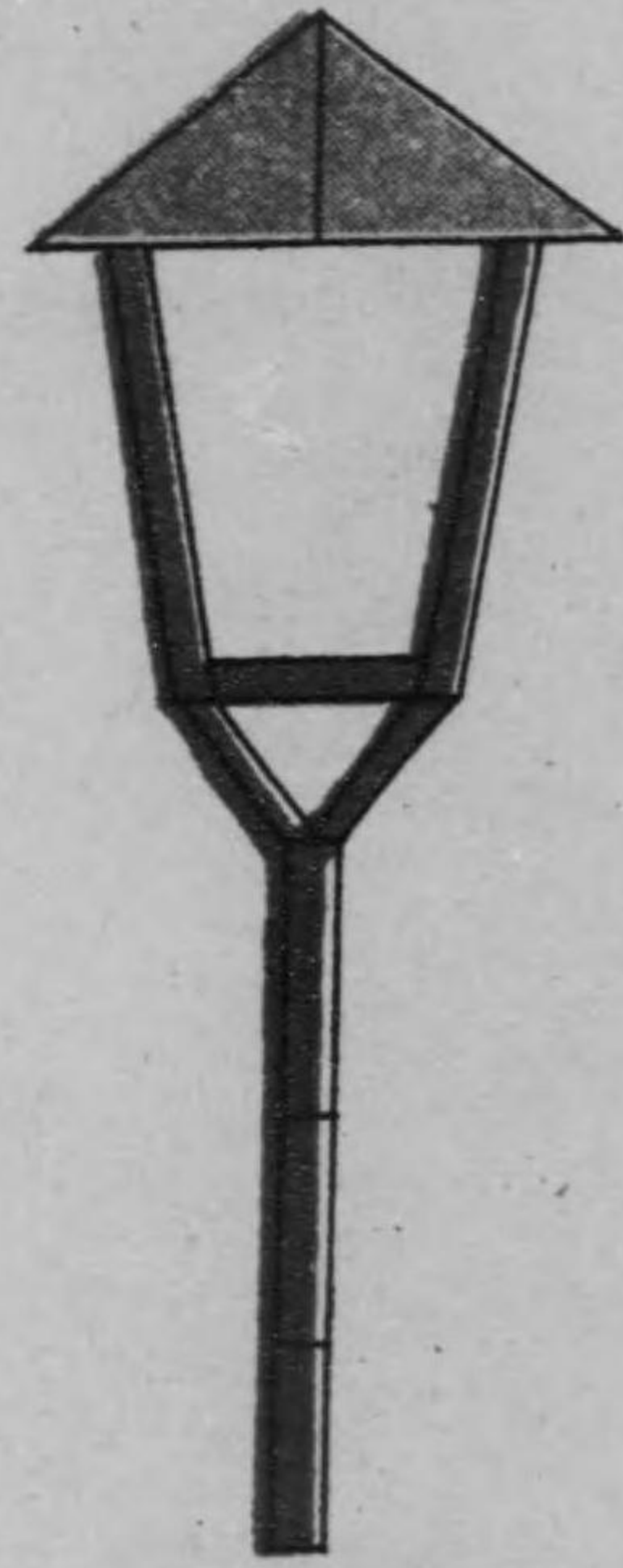
二、武田菱



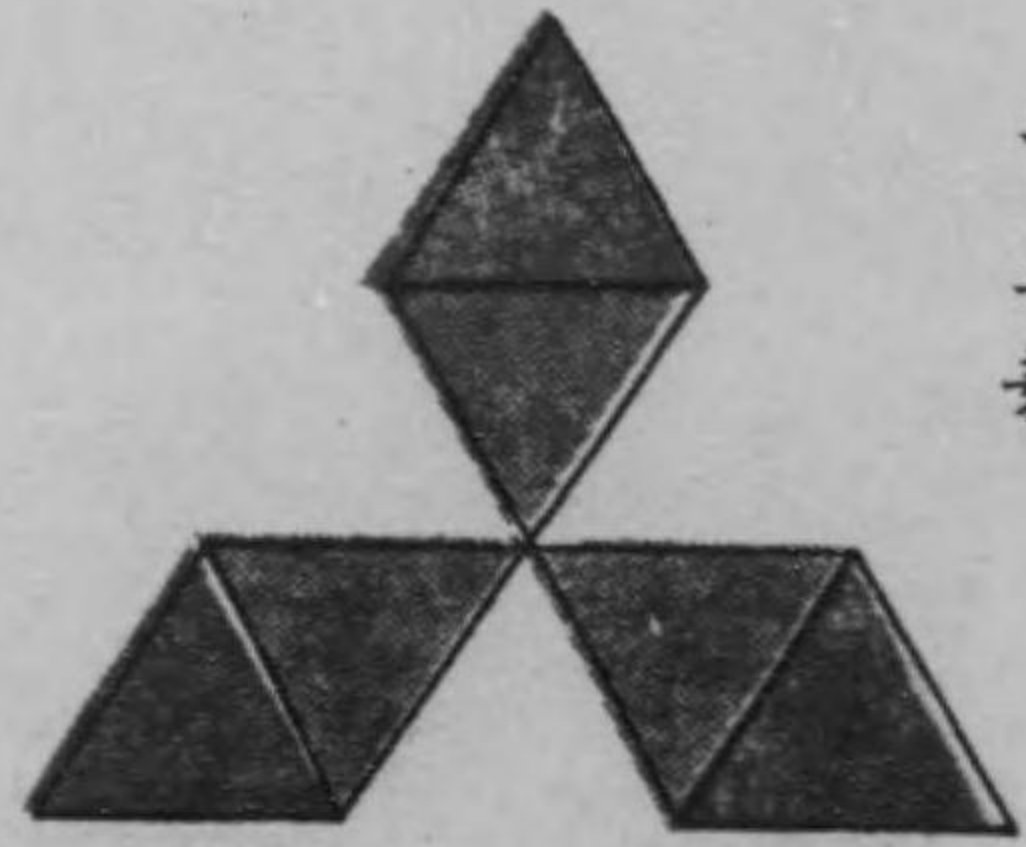
二二、花菱



二三、箸



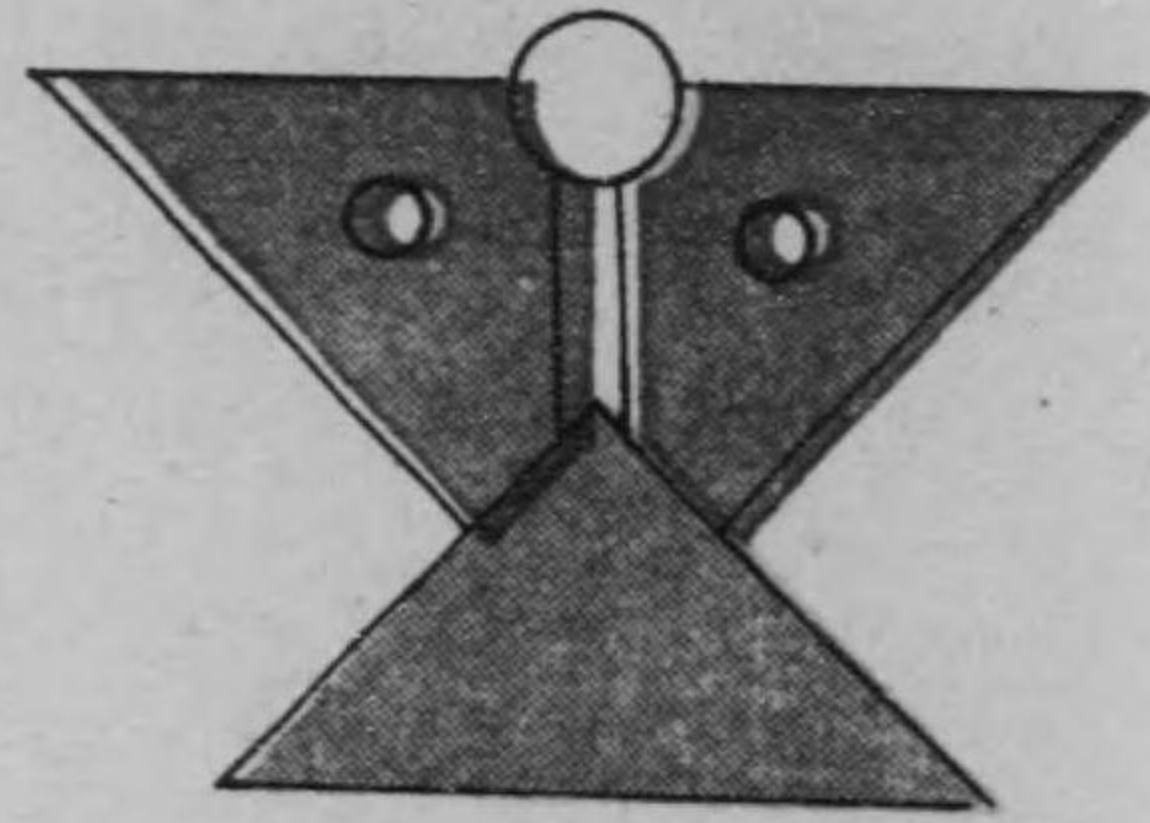
一九、街燈



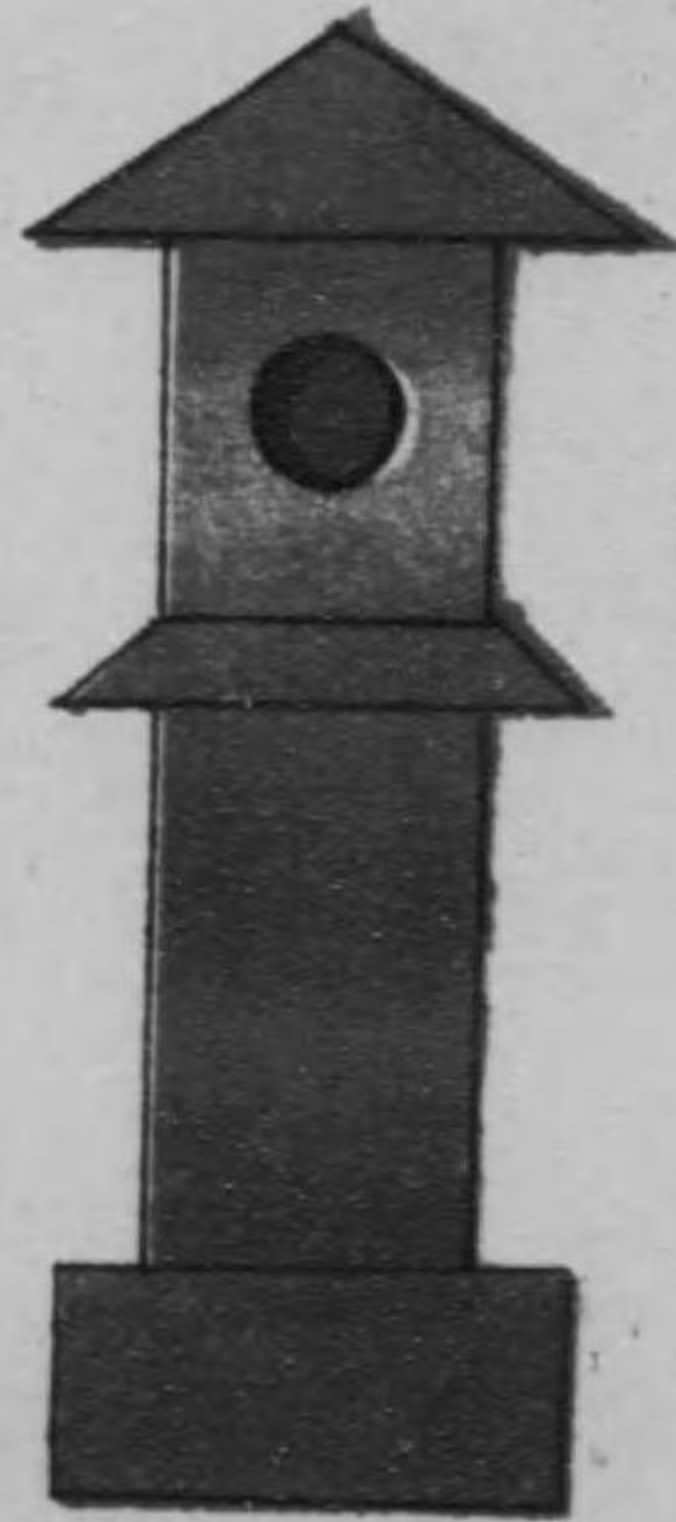
二〇、三ツ菱



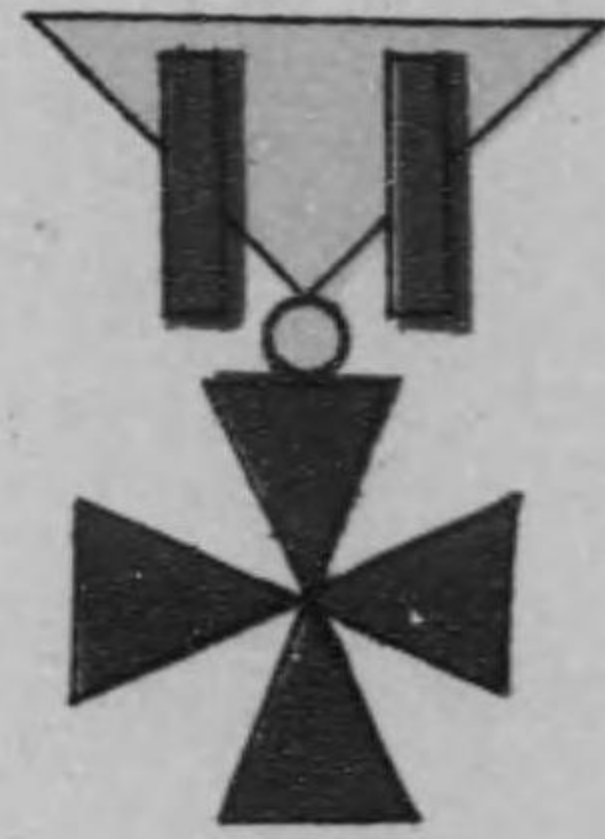
二七、手水鉢



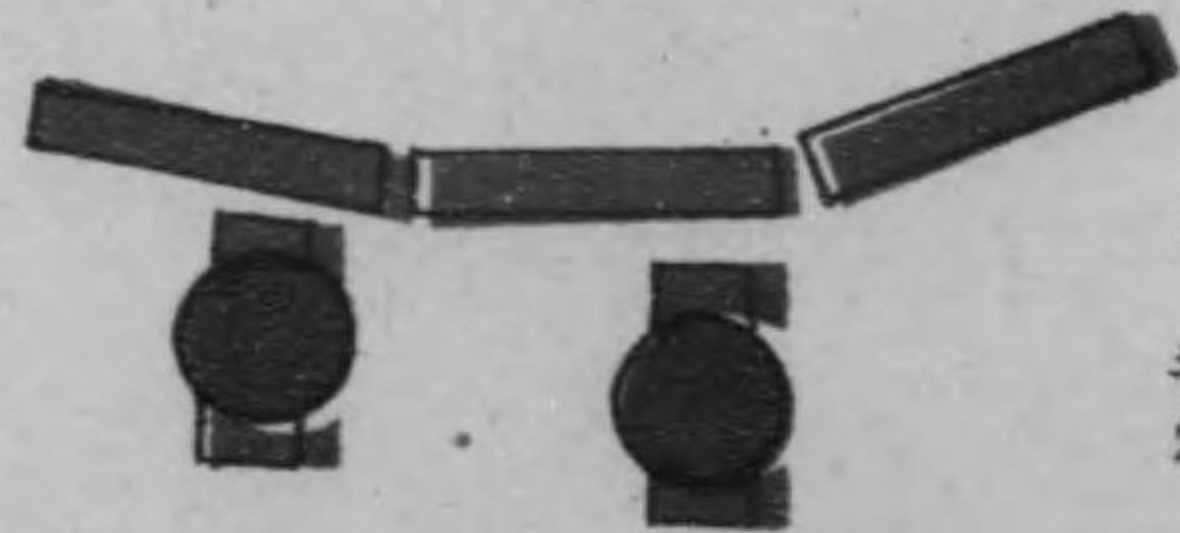
二四、福助



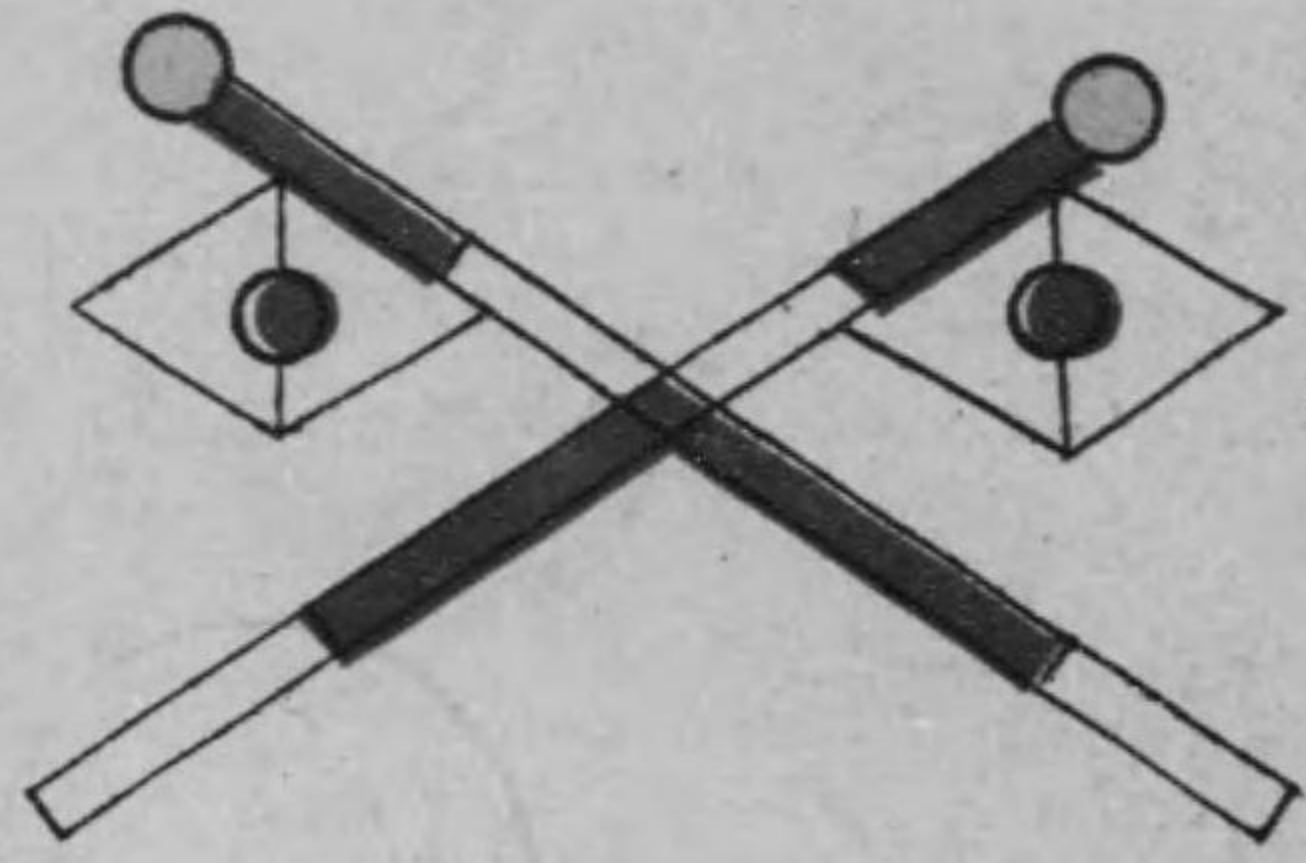
二八、石燈籠



二五、勲章の二



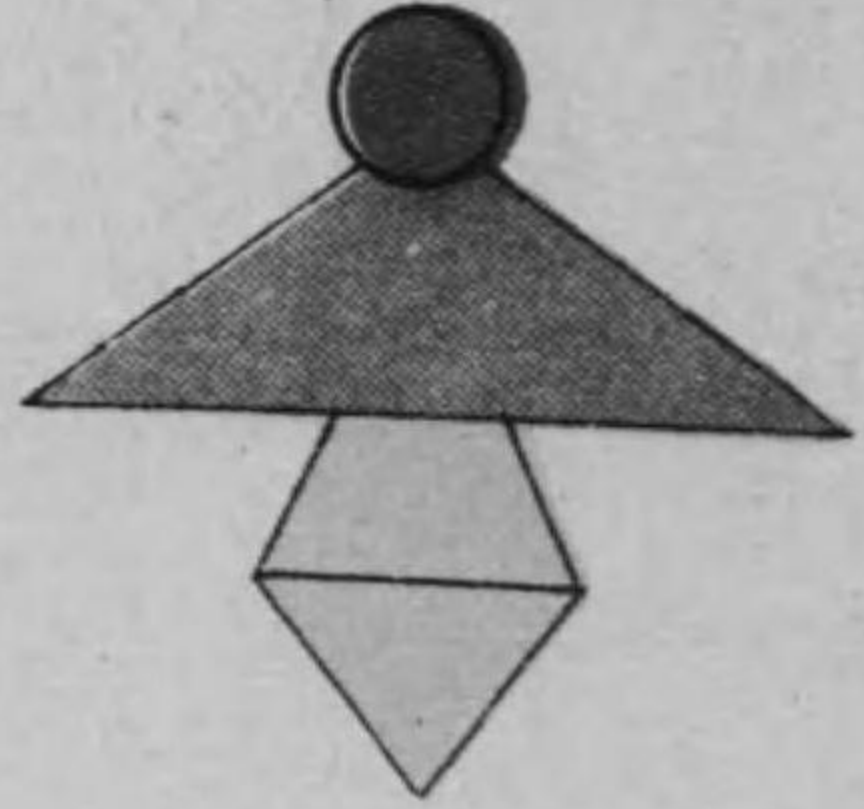
二六、球燈



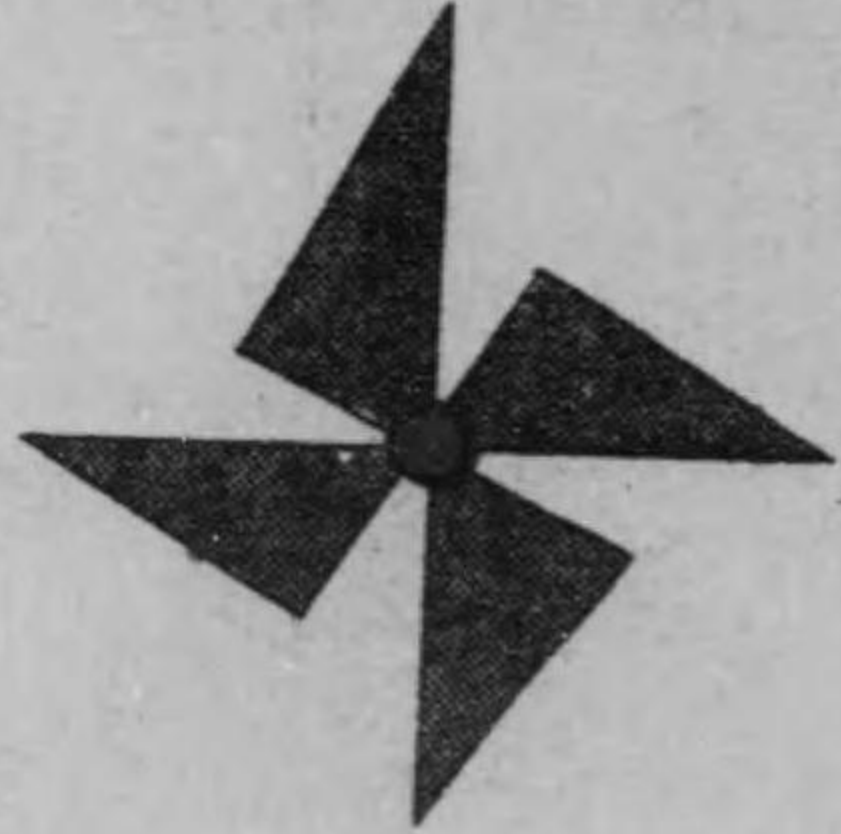
三二、交叉せる
旗



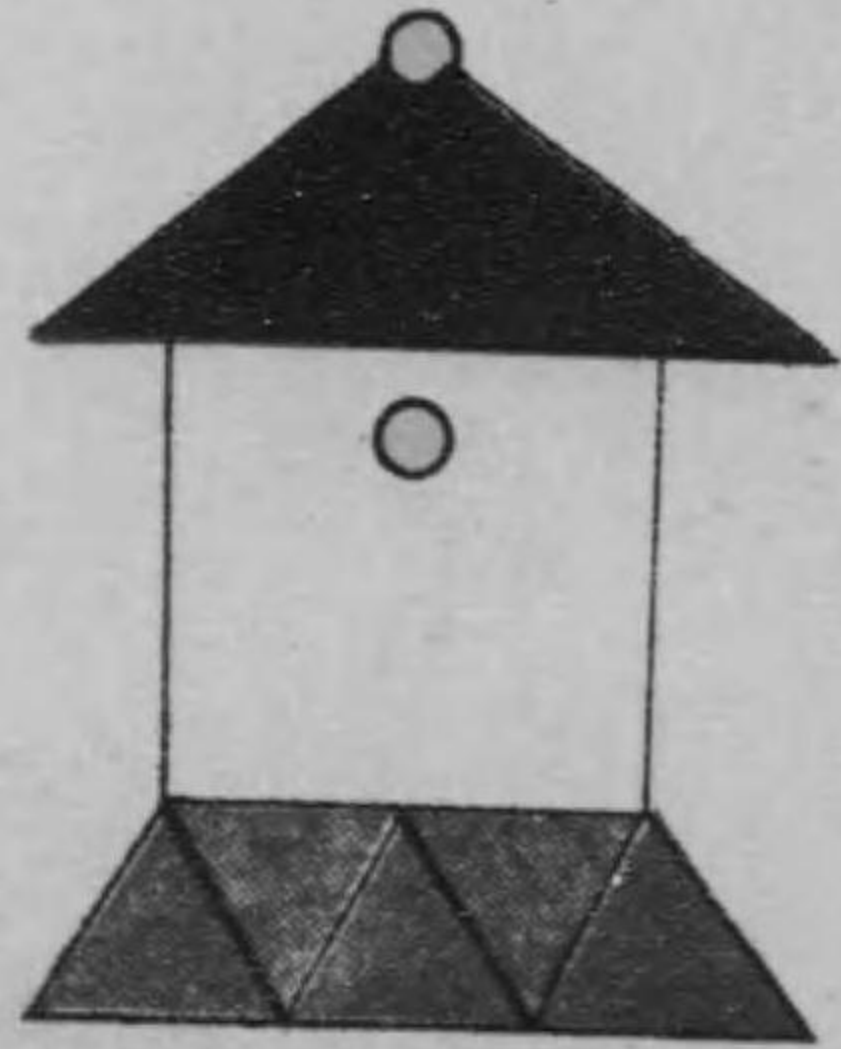
二九、風車の二



三三、電燈



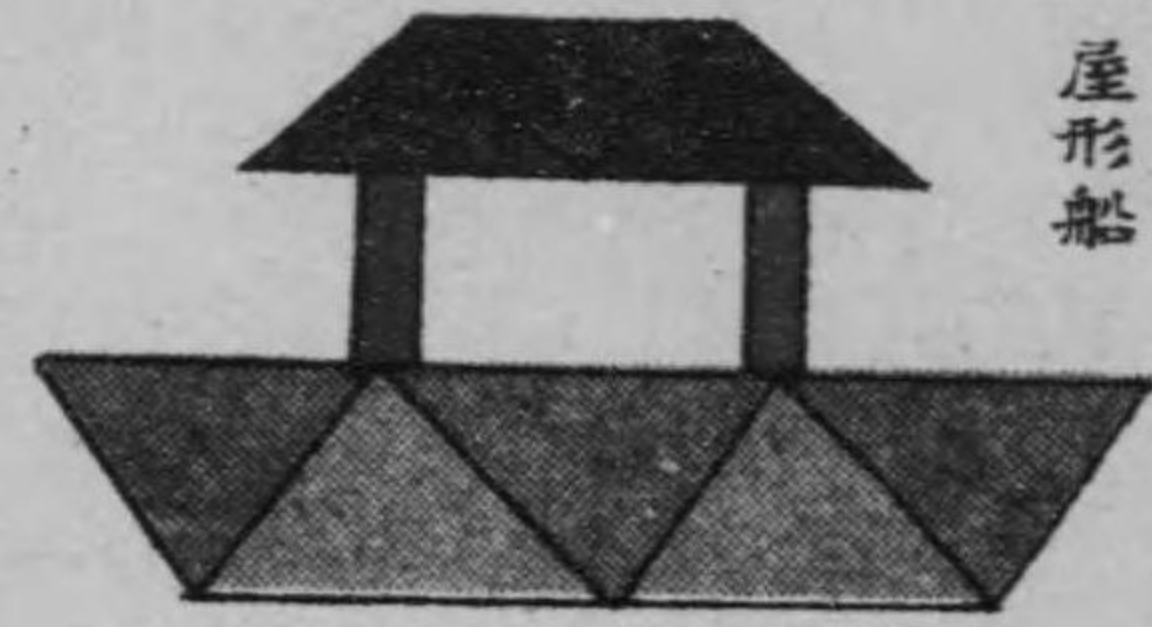
三〇、風車の三



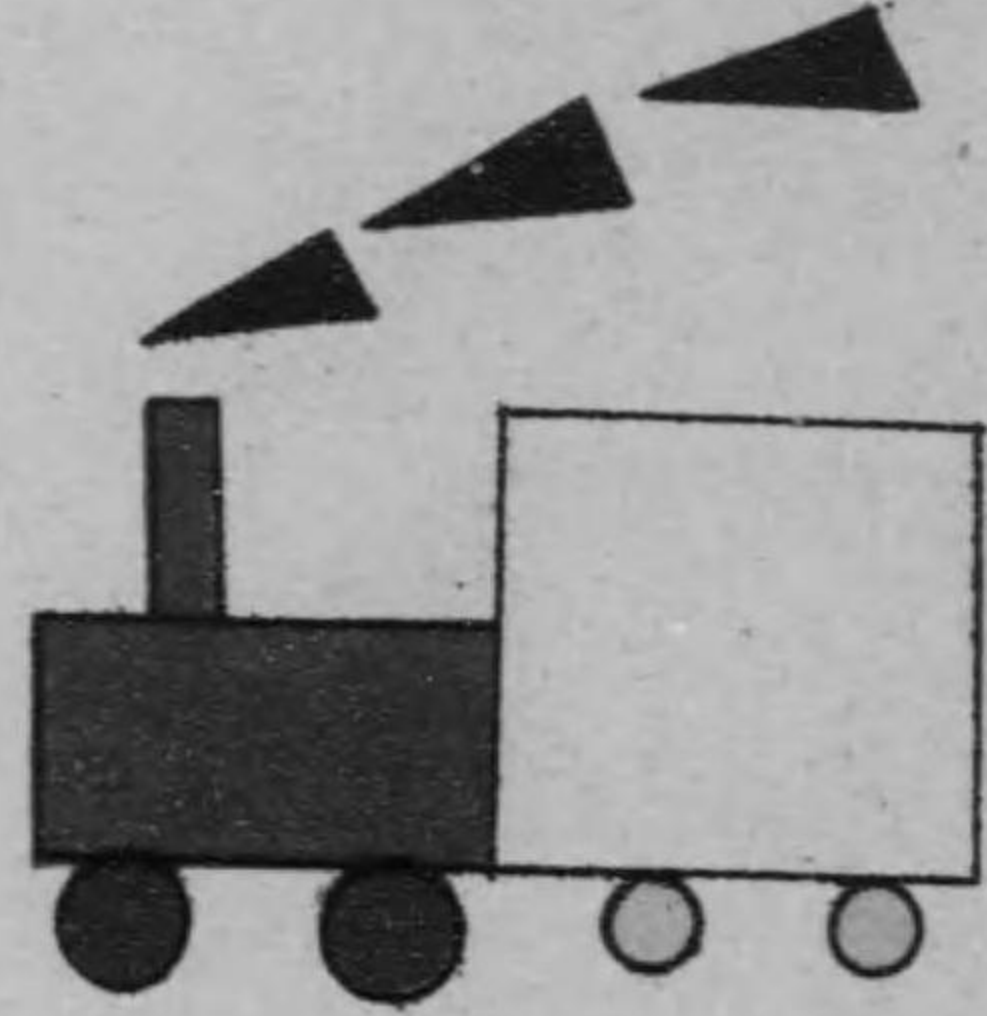
三四、倉庫



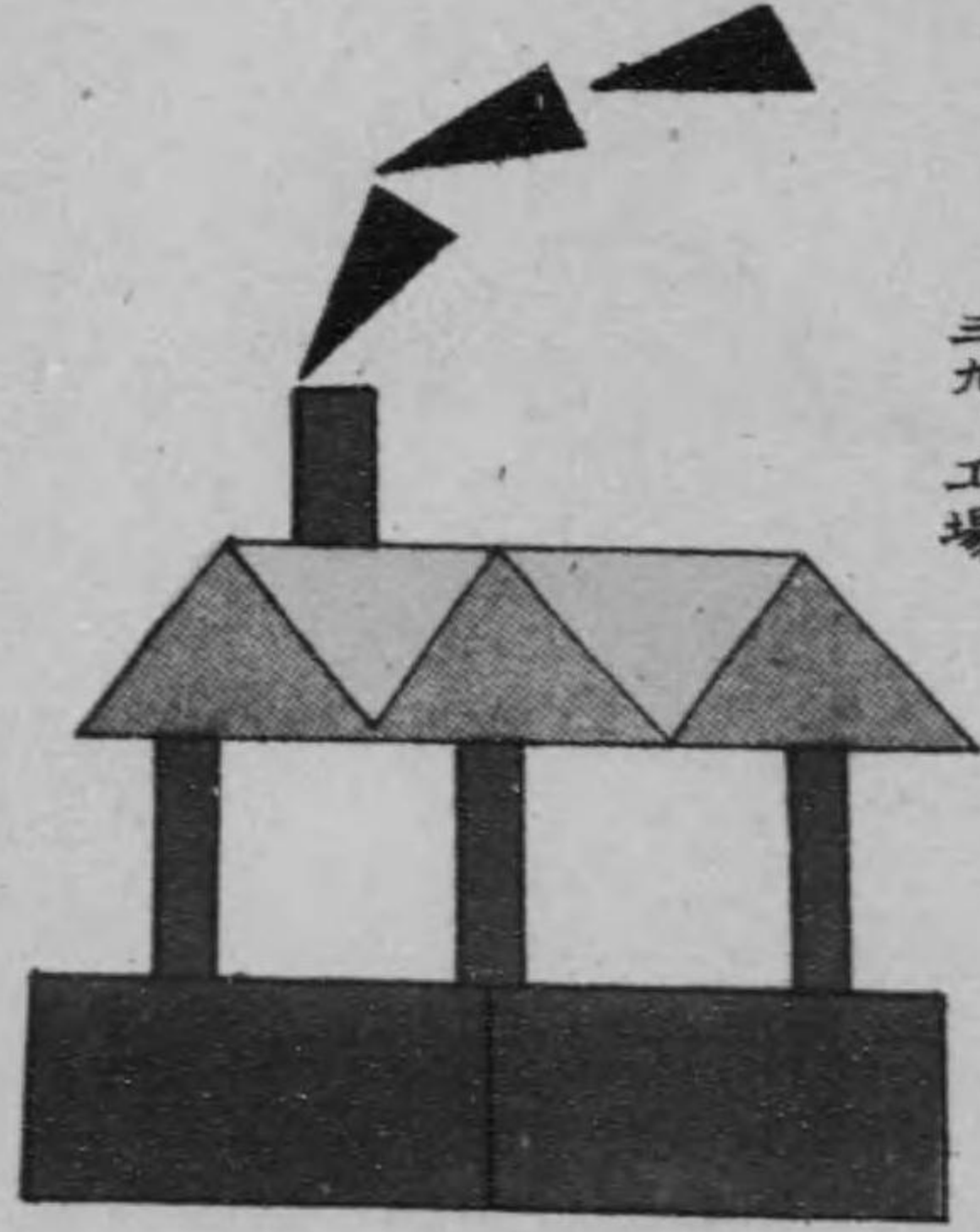
三一、風車の四



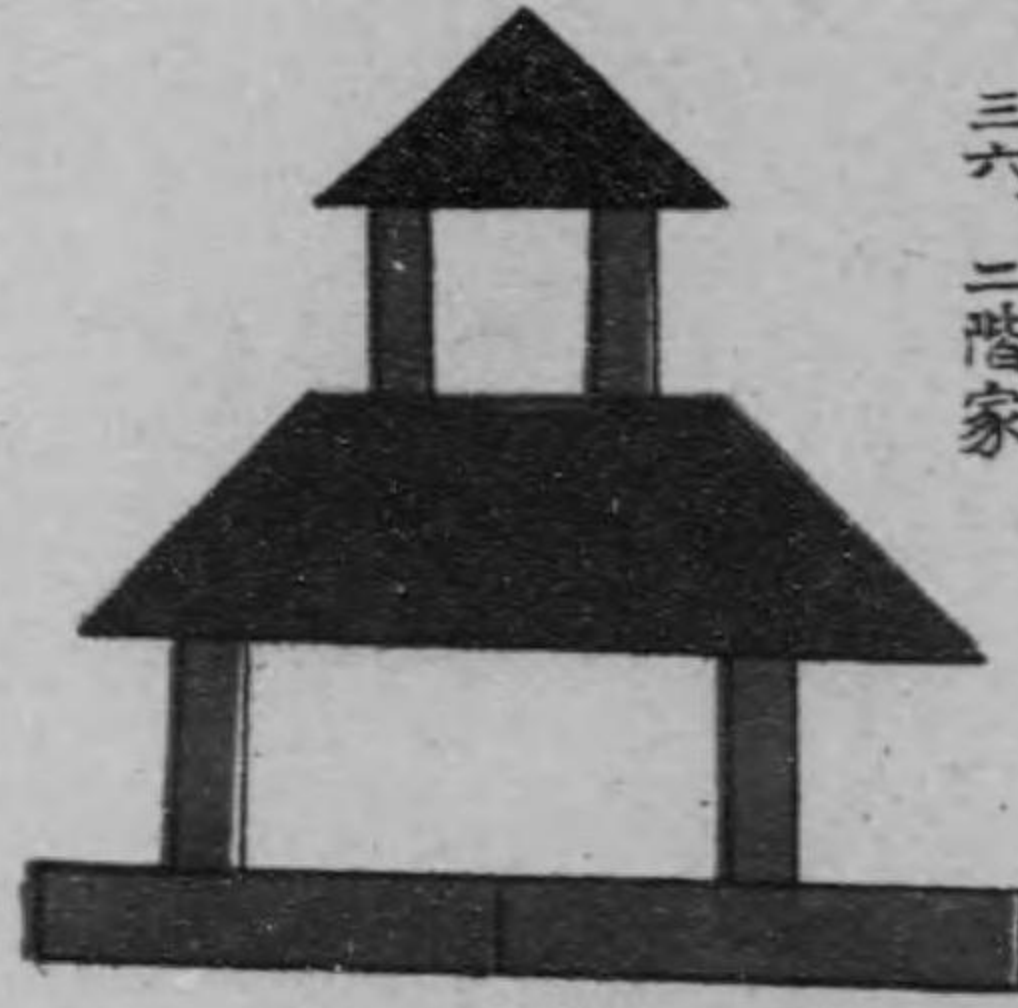
三六、屋形船



三五、汽車



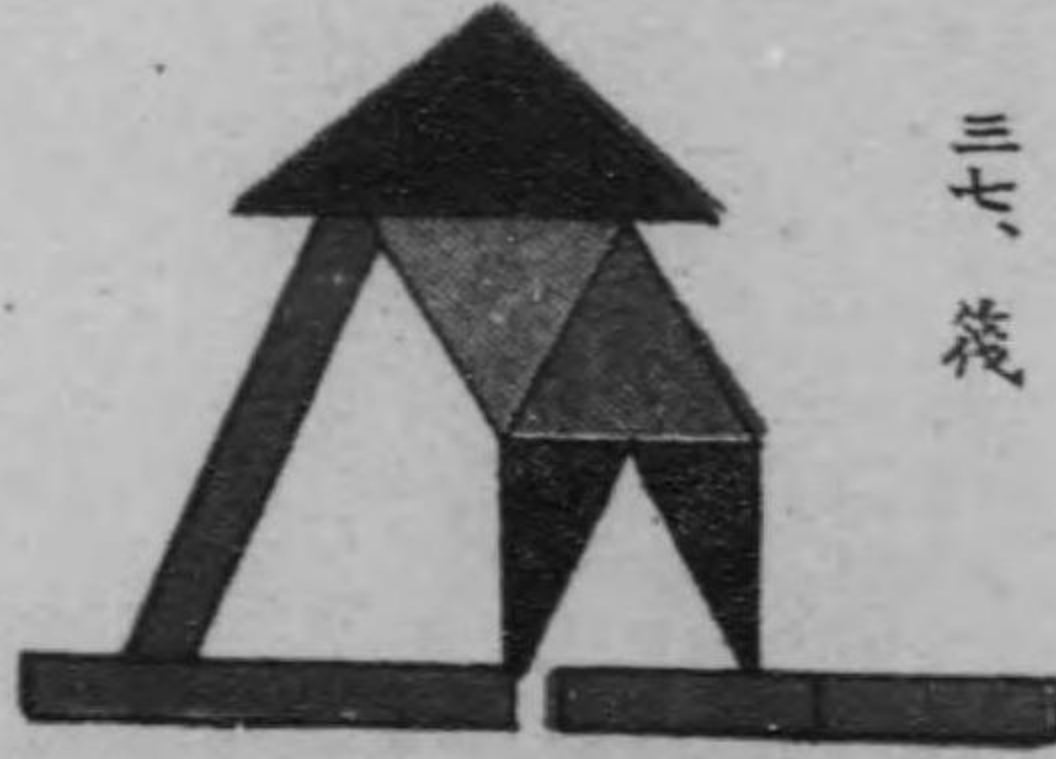
三九、工場



三六、二階家

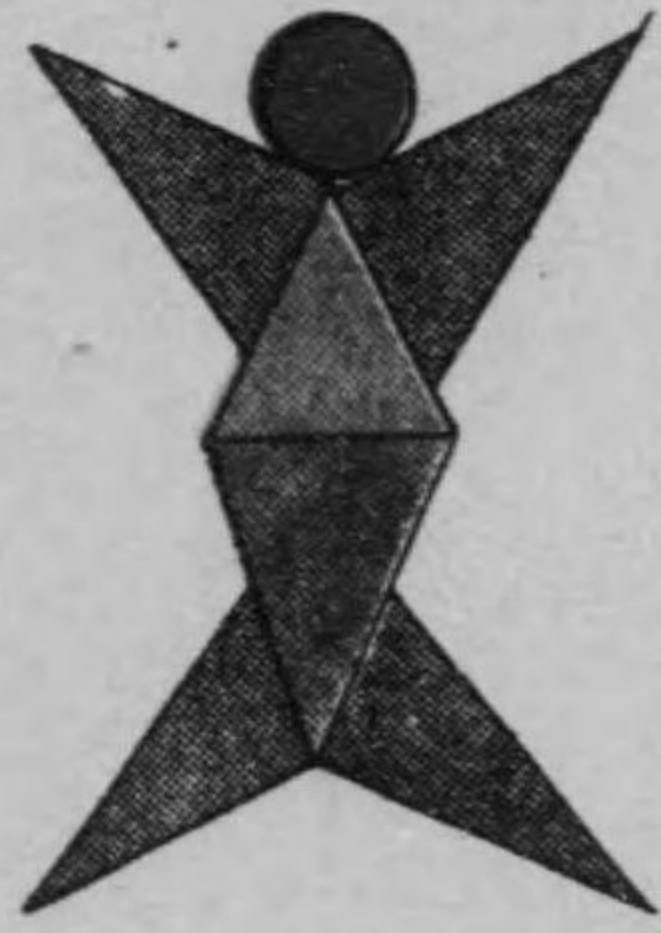


四〇、人形の一

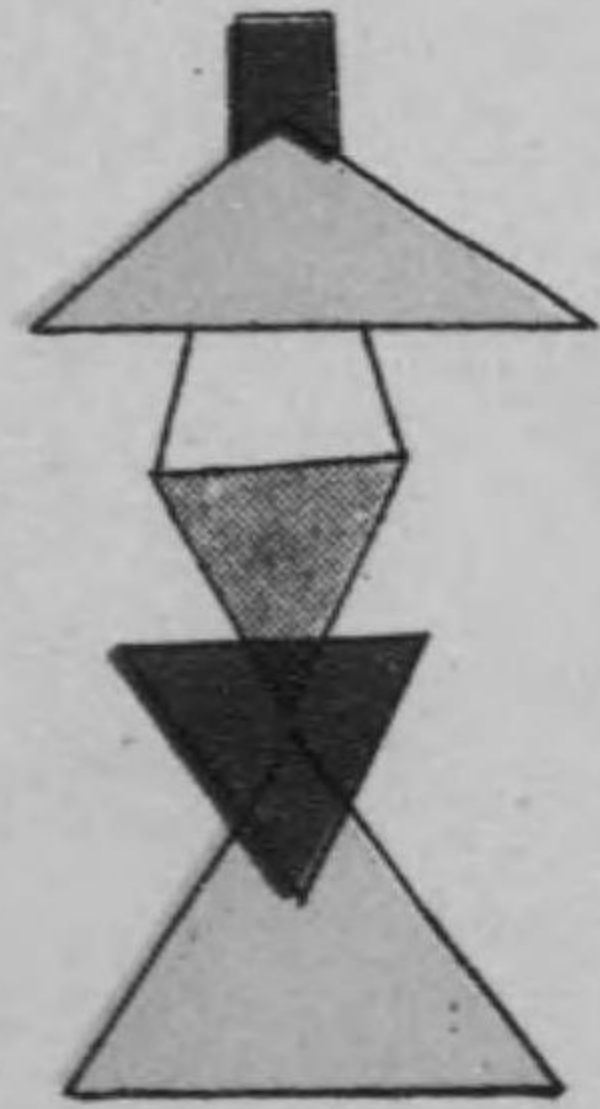


三七、葎

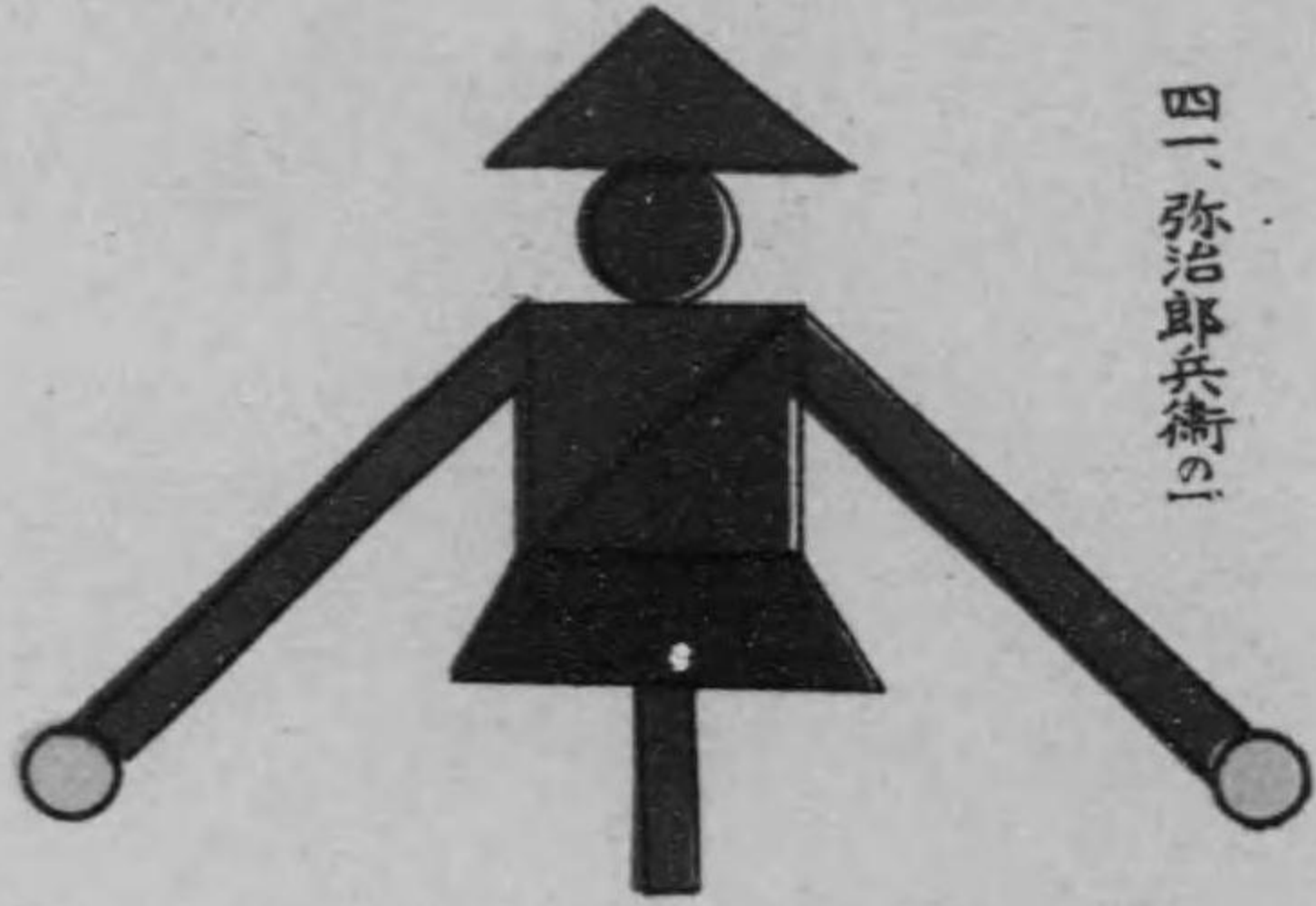
四四、人形の二



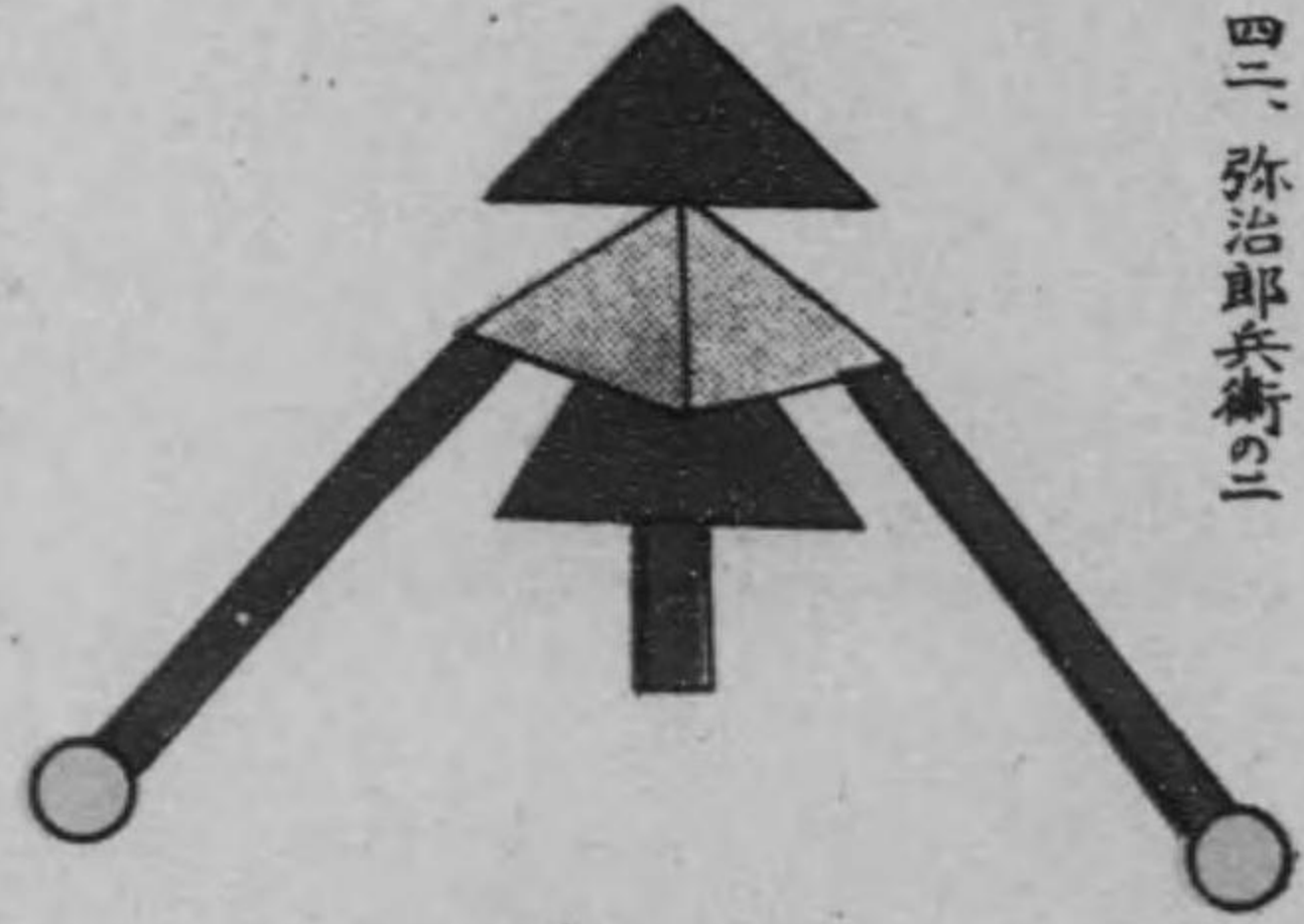
四五、ランプ



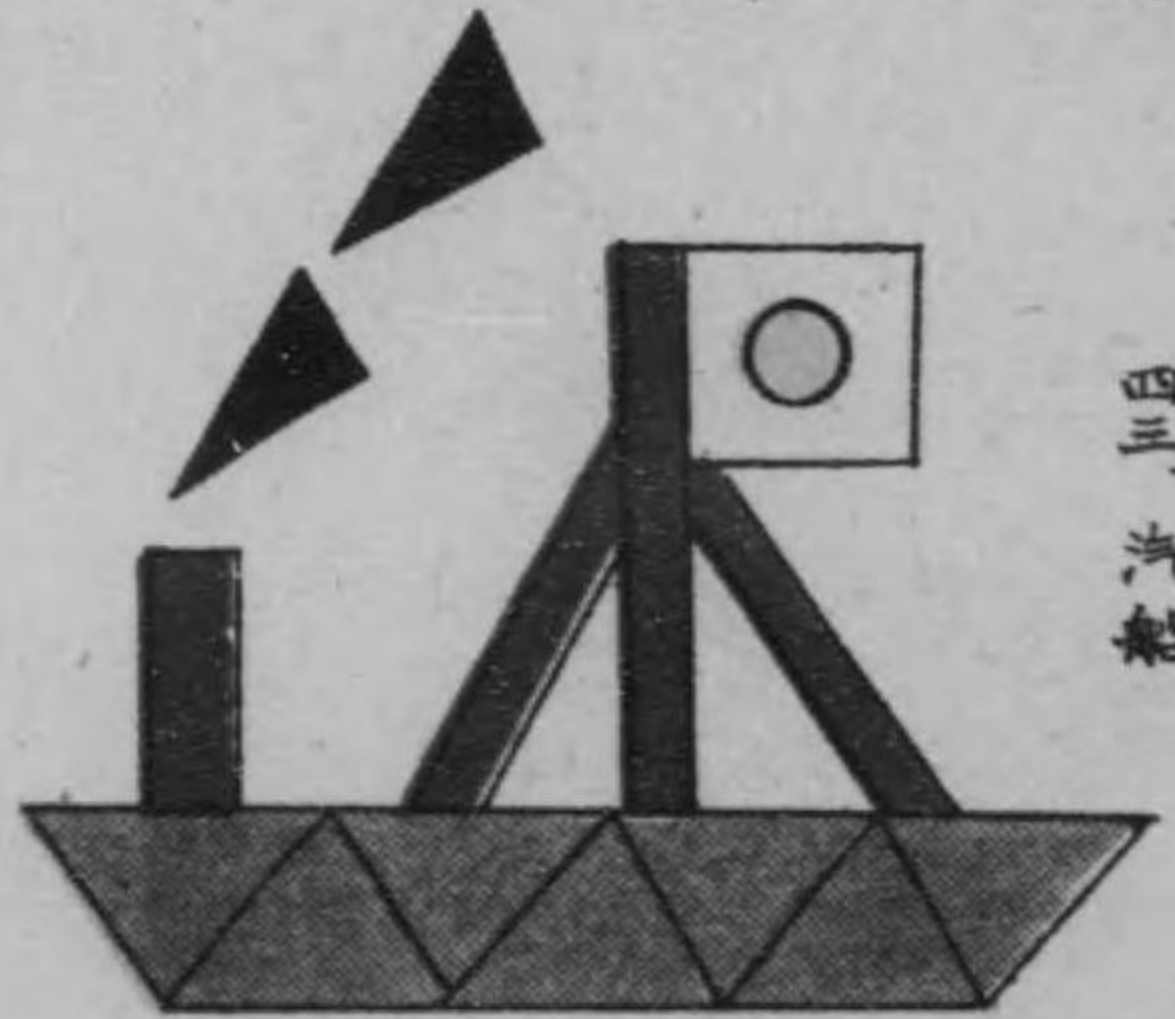
四一、弥治郎兵衛の二

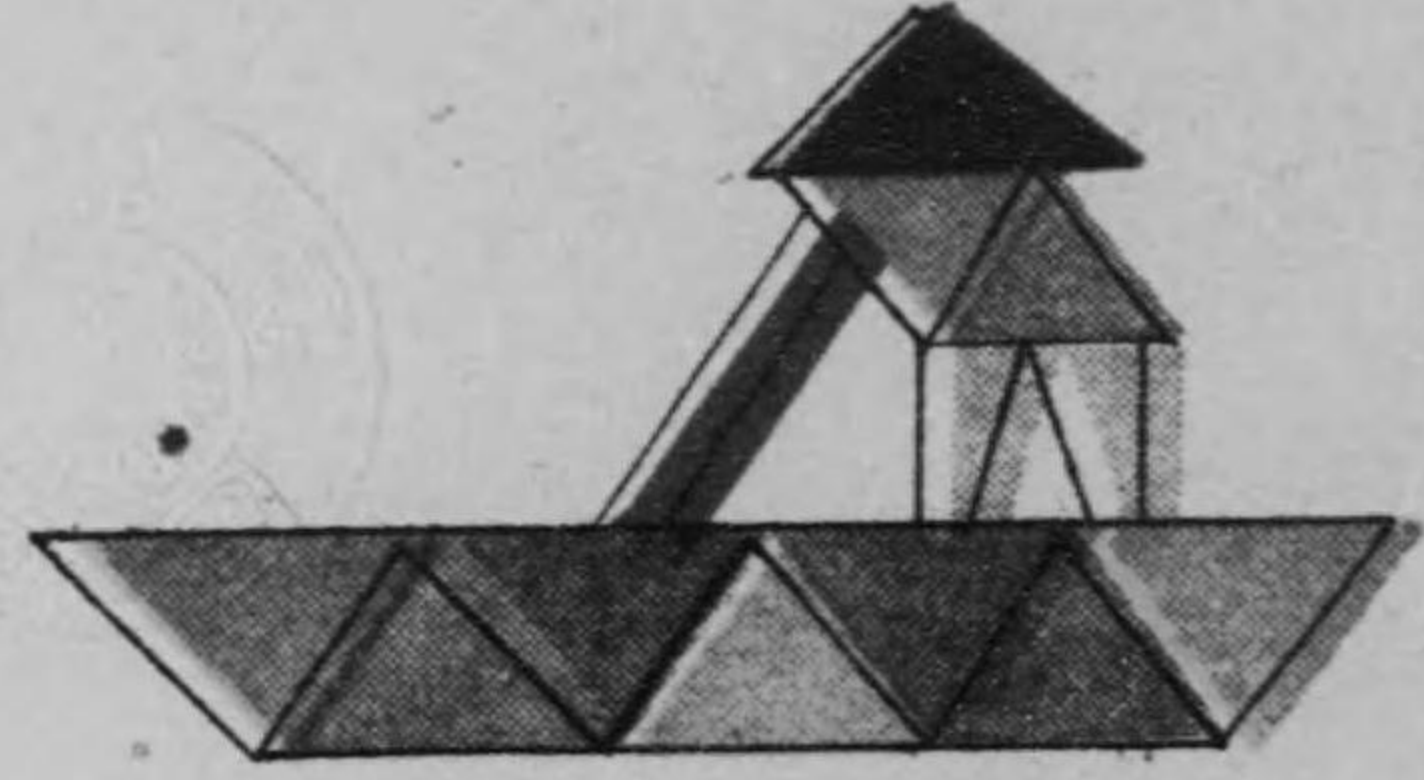


四二、弥治郎兵衛の二

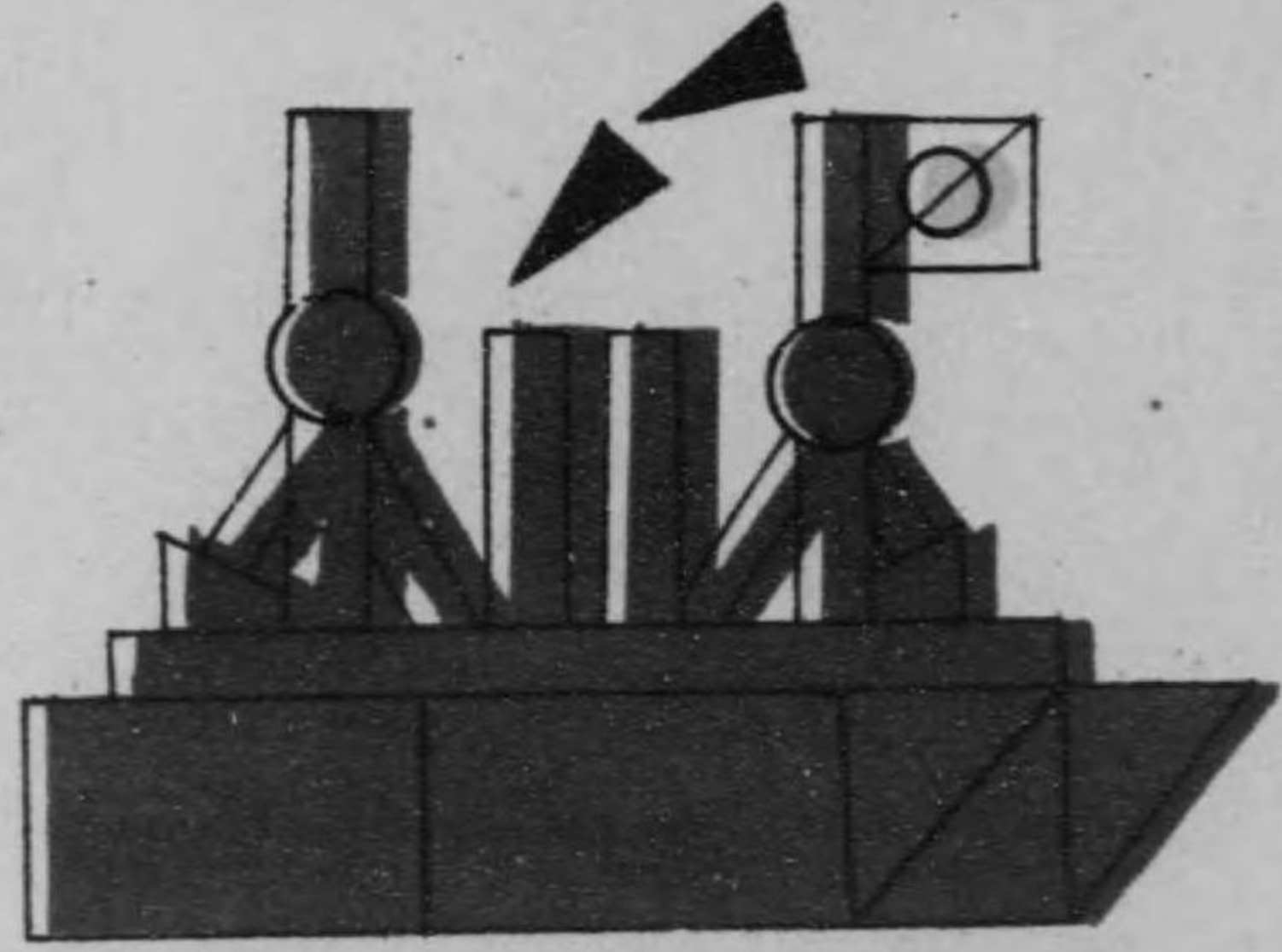


四三、汽船

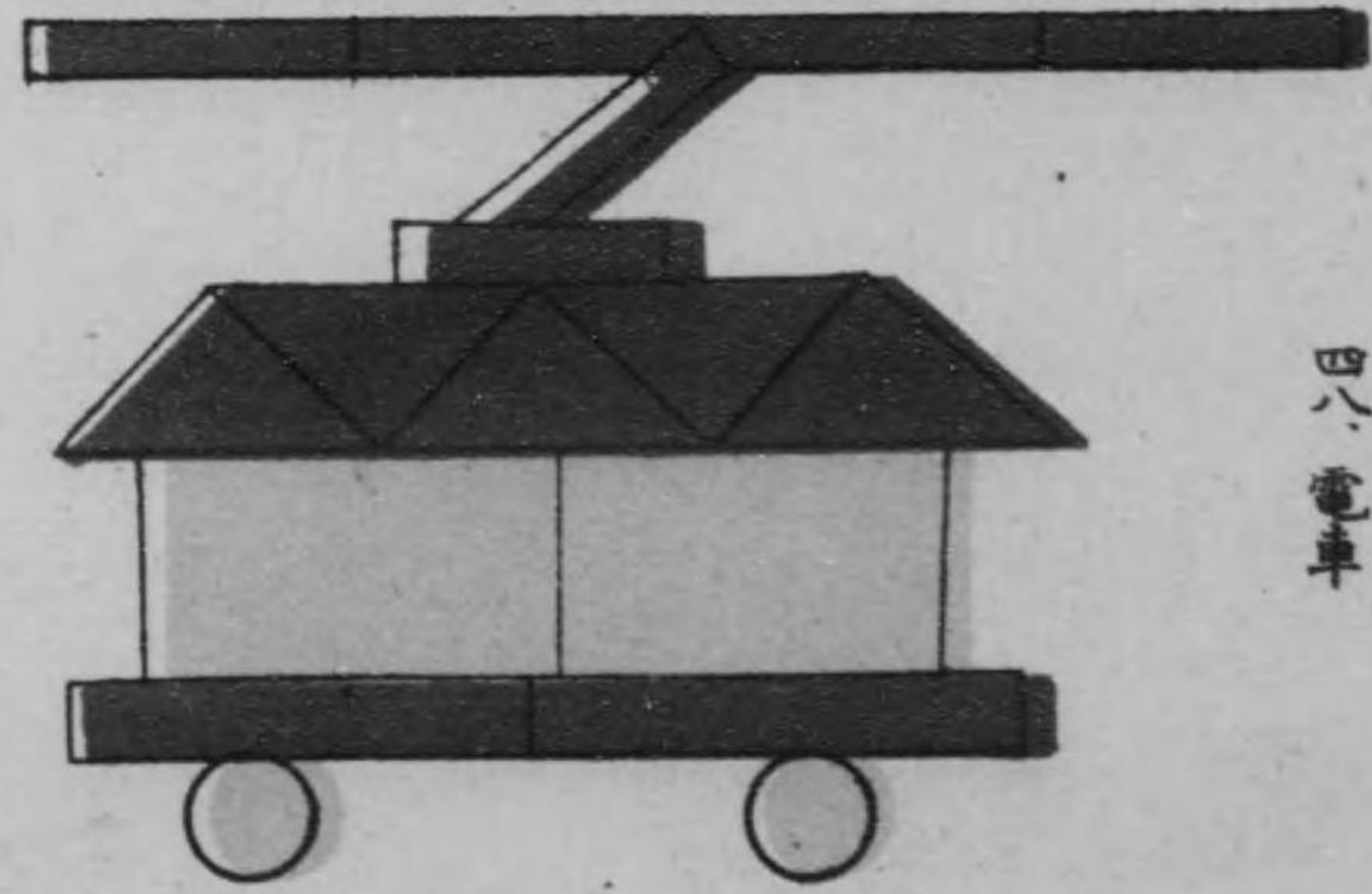




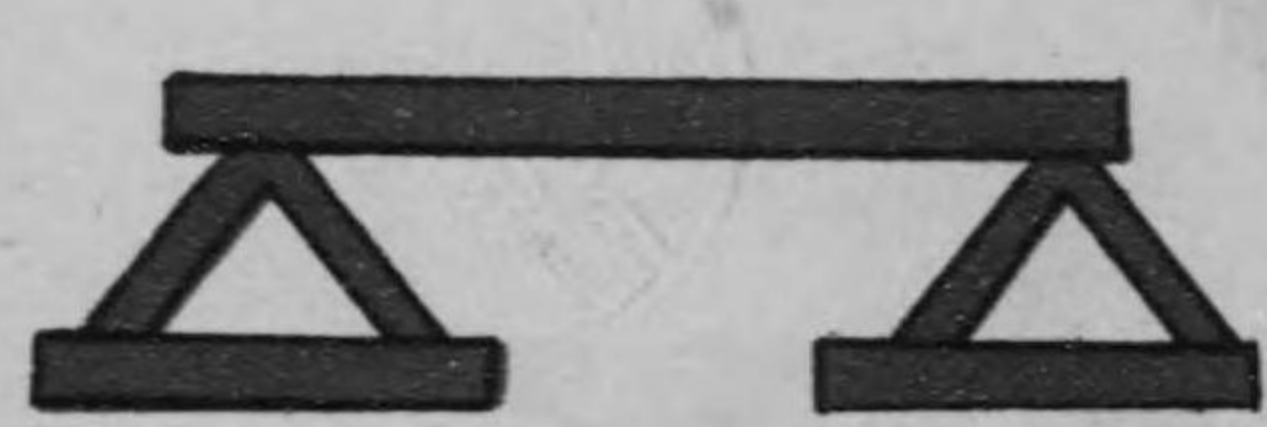
四六、船に船頭



四七、軍艦の二



四八、電車

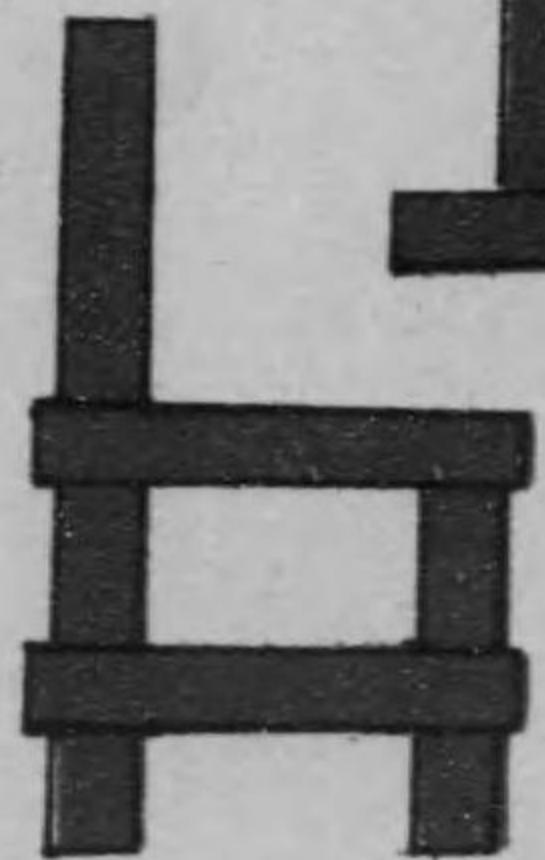
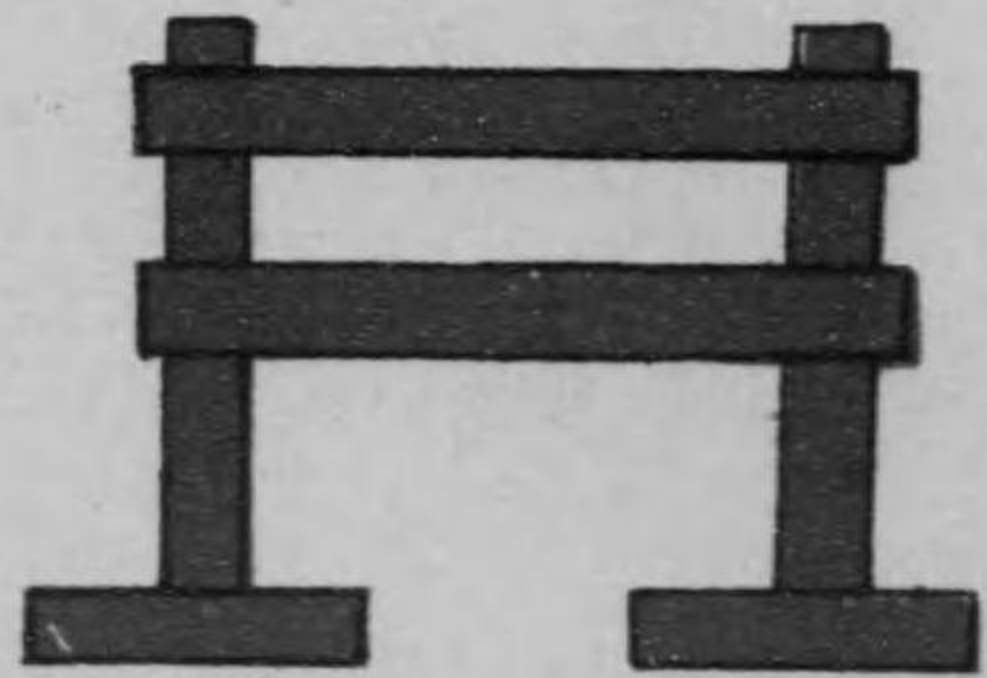


平均台



燭臺

机



生徒用椅子



机に椅子



傘棚

と思ひます。形や色等に於ては別に大した違はありません。

原料、賣品にもなつてゐるから買つて用ひるならば別に申すこともありませんが出来るものなら教師手づから作つたものを兒童に與へる様にしたいと思ひます。色のなるたけ褪せないものであつて標準色とするに足るやうな色紙を選んで表に水分の付かないやうにしてボールに貼れば宜しいのであります。其ボールは白のと褐色のとありますが褐色の質の堅いのがあつたら夫れに優るものはありませんが白ボールでも用に堪えない様なことはありません。

用具、他の紙細工をやるにも是非なくてはならないものですからボール切丈は必ず一個備へておく必要があります。大きいのが便利なやうで何處でも大きいのを好んで買ふ様ですが決してそんな必要はありません。又渡が一尺餘りあれば澤山であります。

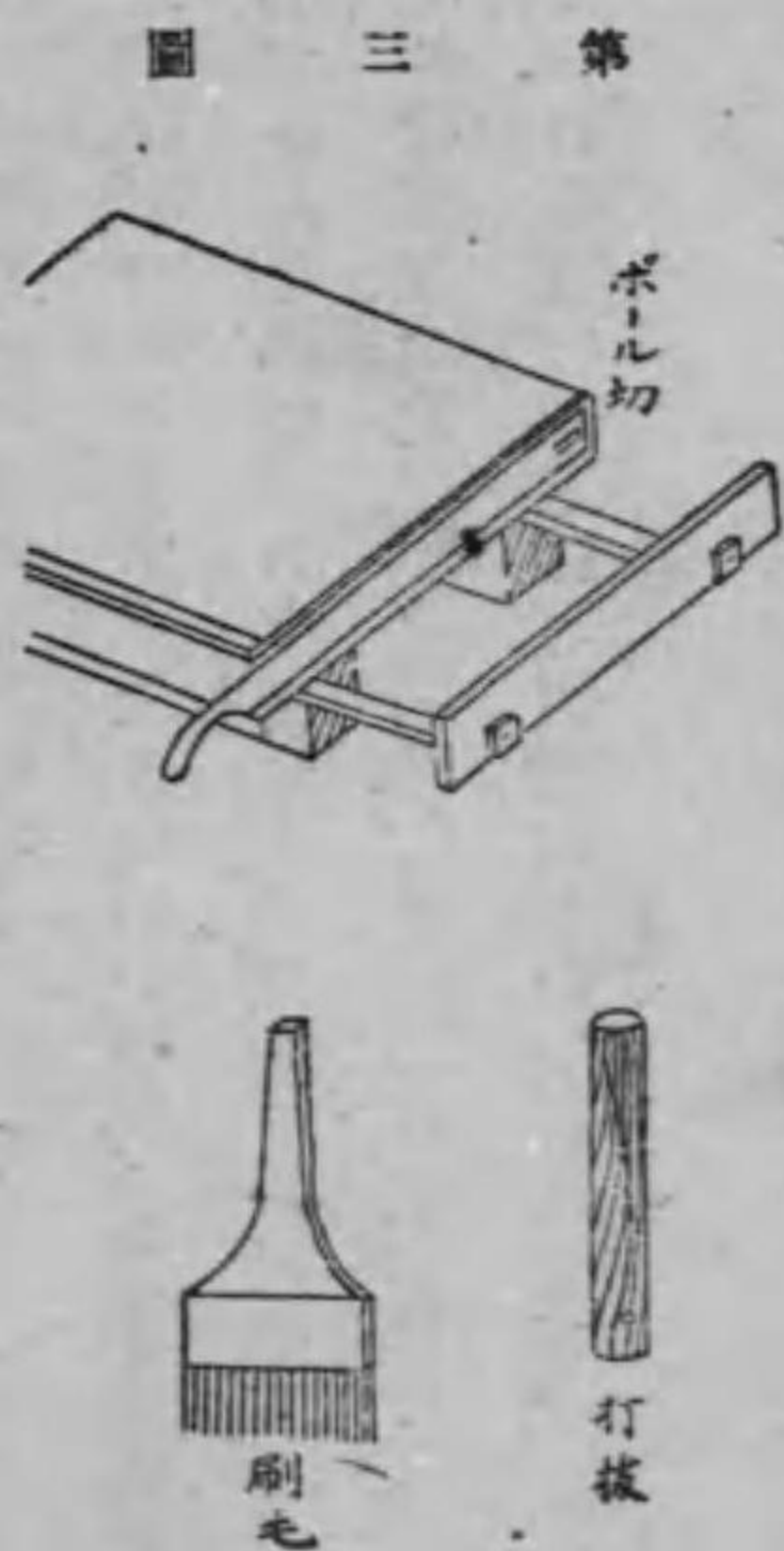
尚ほ此の外截庖丁、截定規、刷毛(二三種)打抜(直径一寸、八分、五六分位の三種)等は備へつけておけば他の細工にも便利なものであります。

教材

教材

2、折紙について 折紙は白紙或は色紙を折つて簡單なる庶物の形體を模造せしむるものでありまして、其目的とするところは折方の順序整正なること、形状の端正なること等に依つて正確、精密、清潔等の習慣を養ひかねて視覚觸覺を練磨して手先を器用ならしむる點にあります。

原料、理想を言へば紙の質がよくて肉は薄く色を以て染めたものが一番宜しい、そこで生涯の半紙、美濃紙等の染紙が適當してゐます。若し費用のかゝるのを厭ふ場合には日本

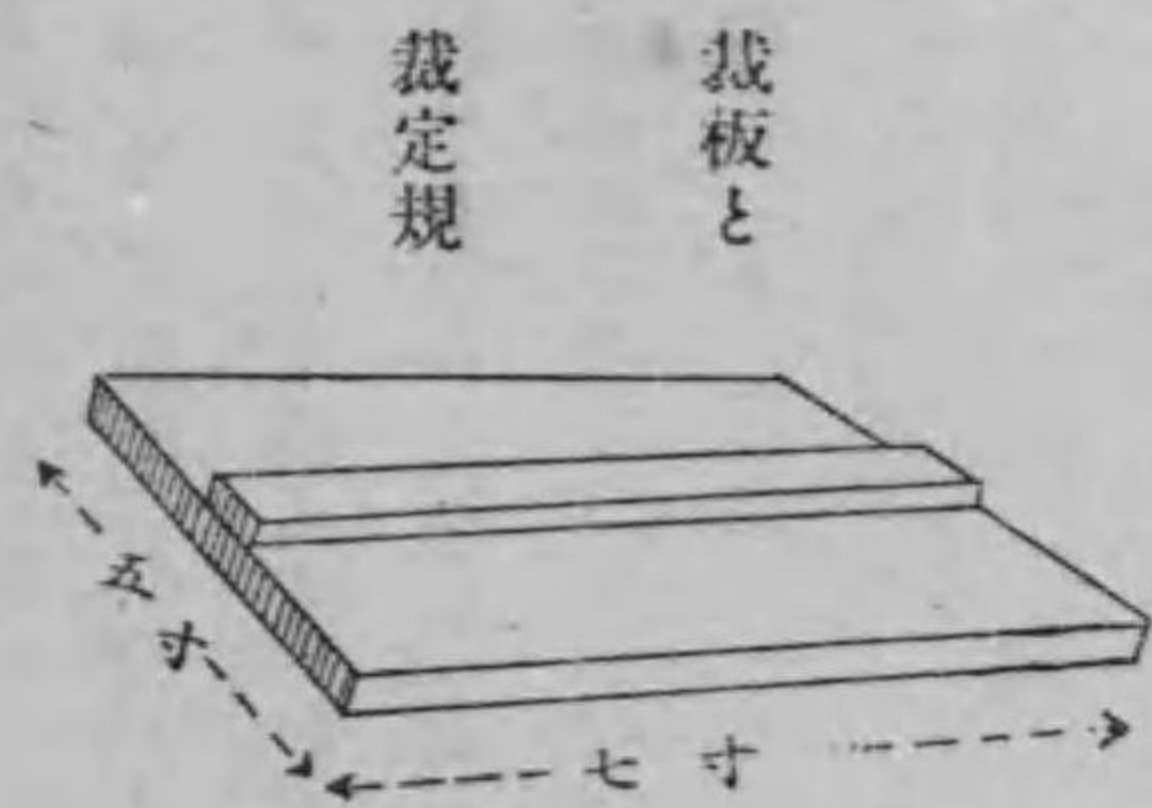


原料

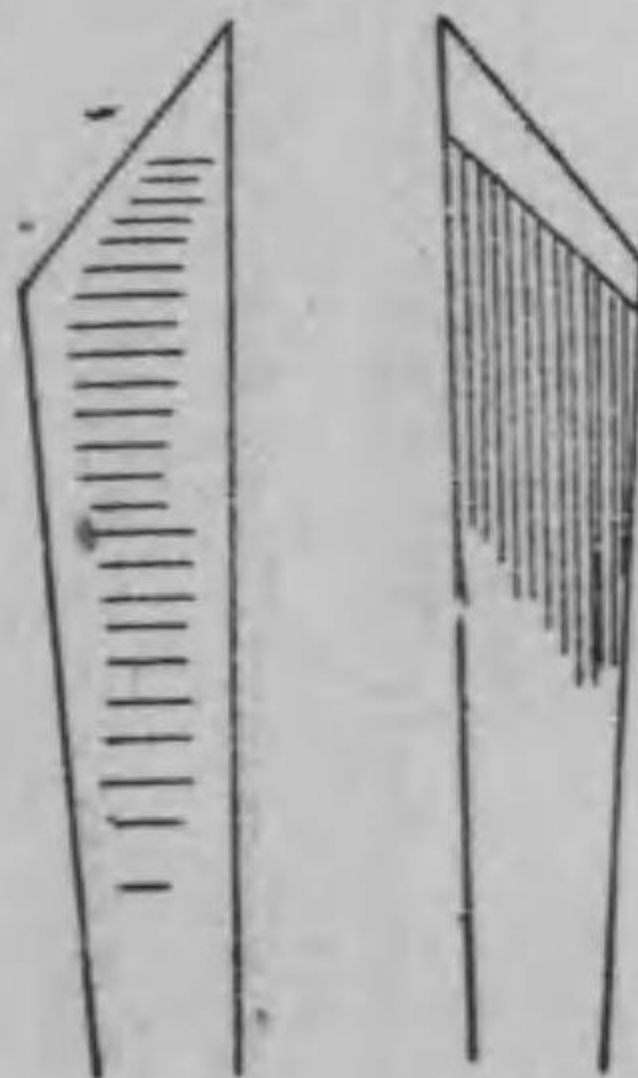
紙の古帳面又は比較的良質の古新聞雑誌等を染めて用ひても間にあひます。若し夫れも思ふ様にいかない時には雑誌等の廣告に色紙を用ひてゐるのを利用するのも一法であります。要するに肉のあまりに厚いものや質の剛いものは折るのに不適當であります。

用具、三年頃までは教師の方で適當な形に作つて與へるのでありますから兒童用具としては何も必要ではありませんが四年以上になつては全然教師から作つて與ふることなしに不正の儘與へて兒童に相當の工夫と手間とをかけた方が有効であります。さうすると兒童用の裁板、裁定規、小刀等を要します。教師のものは色板排べに使用した裁板、裁定規、裁庖丁で十分でありますが兒童用のものは別にあつらへなくてはなりません。若し粘土板を設備せる學校では其一面を裁板に利用するやうにしても差支ありません。又學校によると費用の許さないためでせうが机の蓋の裏面を使用してゐるところもあります。

第五圖



小刀



小刀を使用せしむる以上は中砥、(白青)五六個位是非備へ付くる必要がありません。

●注意、作りあげたものを正しくしやうと思ふならば始めの紙を正しく切ることが大切であります。それで切つて與ふると否らざるとを問はず其形を極めて正しく裁ちおくことが肝要であります。

紙に折目を付くるには必ず爪の甲で軽く磨擦するやうにせねばなりません。指の腹でへることを許しておけば紙に汚の付く上にはばんで来て折目は正しく付きません。従つ

て製作品も正確を缺ぐやうになつて來ます。

用紙はなるべく二枚づゝ用意して、一枚は自由に練習せしめ後残りの一枚で單獨に滑折せしむるやうにした方がよろしい。

三折四折せしむる場合には同一方向に折ることなく一回毎に反對に折らしめ紙の折り重ならないやうにしないと始と終りとの長さが違つて來て正確を缺ぐやうになります。

用紙の大きさは使用する色紙に一定なく其都度便宜前述の如くして供給するときは廣さ定りなく應變の虚置を取らねばなりませんが大體に於て半紙半枚大を標準として差支ありません。獨逸あたりでは五寸に七寸位のものを使つてゐるやうですから半紙の二分の一より僅か狭い位のものになります。本書に長方形紙とあるは半紙の二分の一を指して正方形といふのは夫れを正方形にした即五寸二分の正方形のことを言つたのです。

●教材

一、折本

長方形の紙を取り第一番に中央から表を中にして折らしめ次に「ハ、ニ」より表を外にし

て正しく「イ、ロ」に折り重ね終りに「ホ、ヘ」から同表を外にして「イ、ロ」に折り重ねしむ、さうすると(2)のやうな折本が出来ます。(3)は其表紙に標題箋を貼付したのであります。

二、紙入

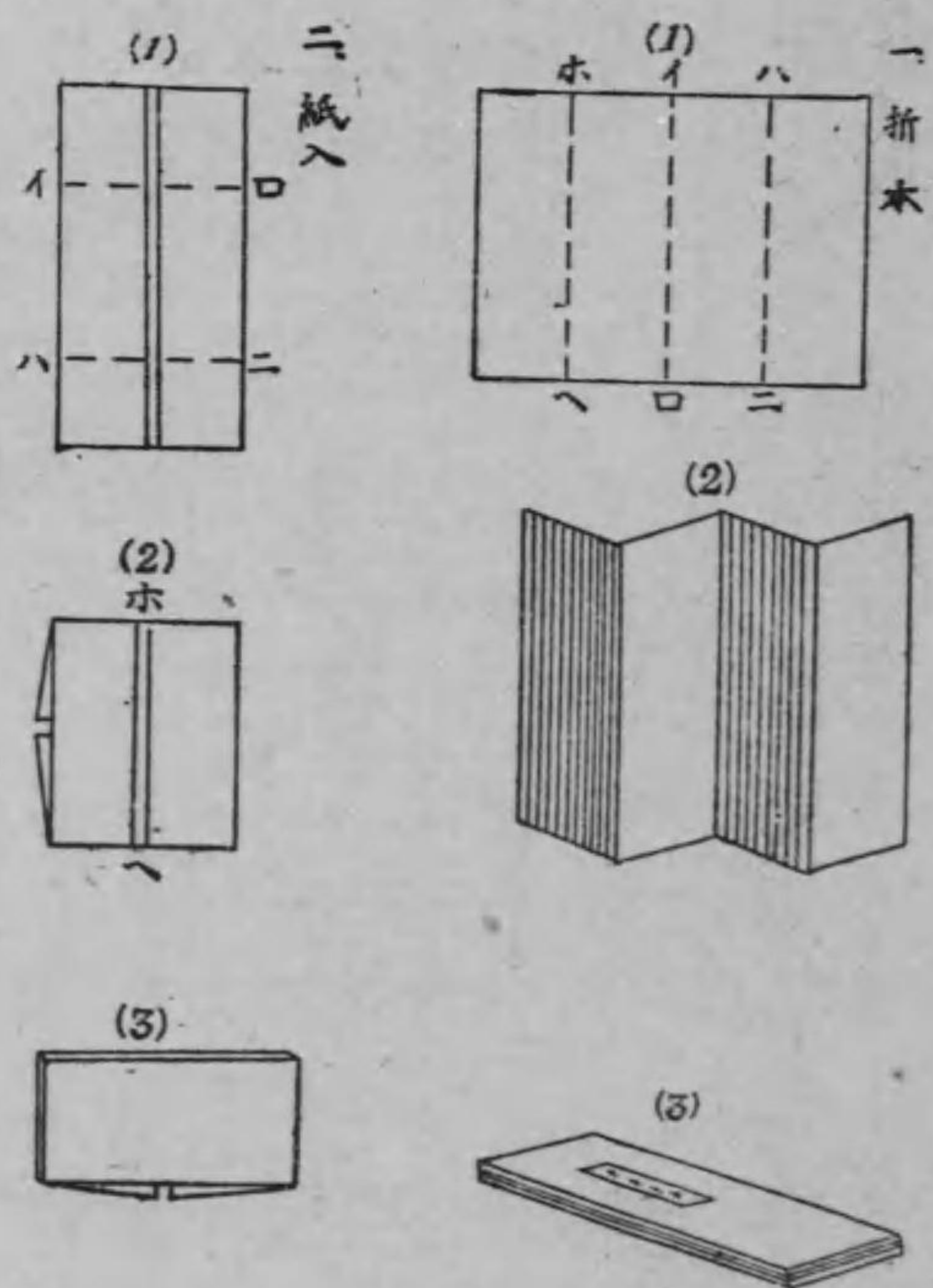
正方形の紙を(1)の如く左右から中央に折り尚ほ「イ、ロ」「ハ、ニ」から裏面へ折り(2)の如き形にして次に「ホヘ」の折目から再び裏へ折れば(3)が出来ます。これで女子の懐中用紙入になつたわけであります。

三、紙鐵砲

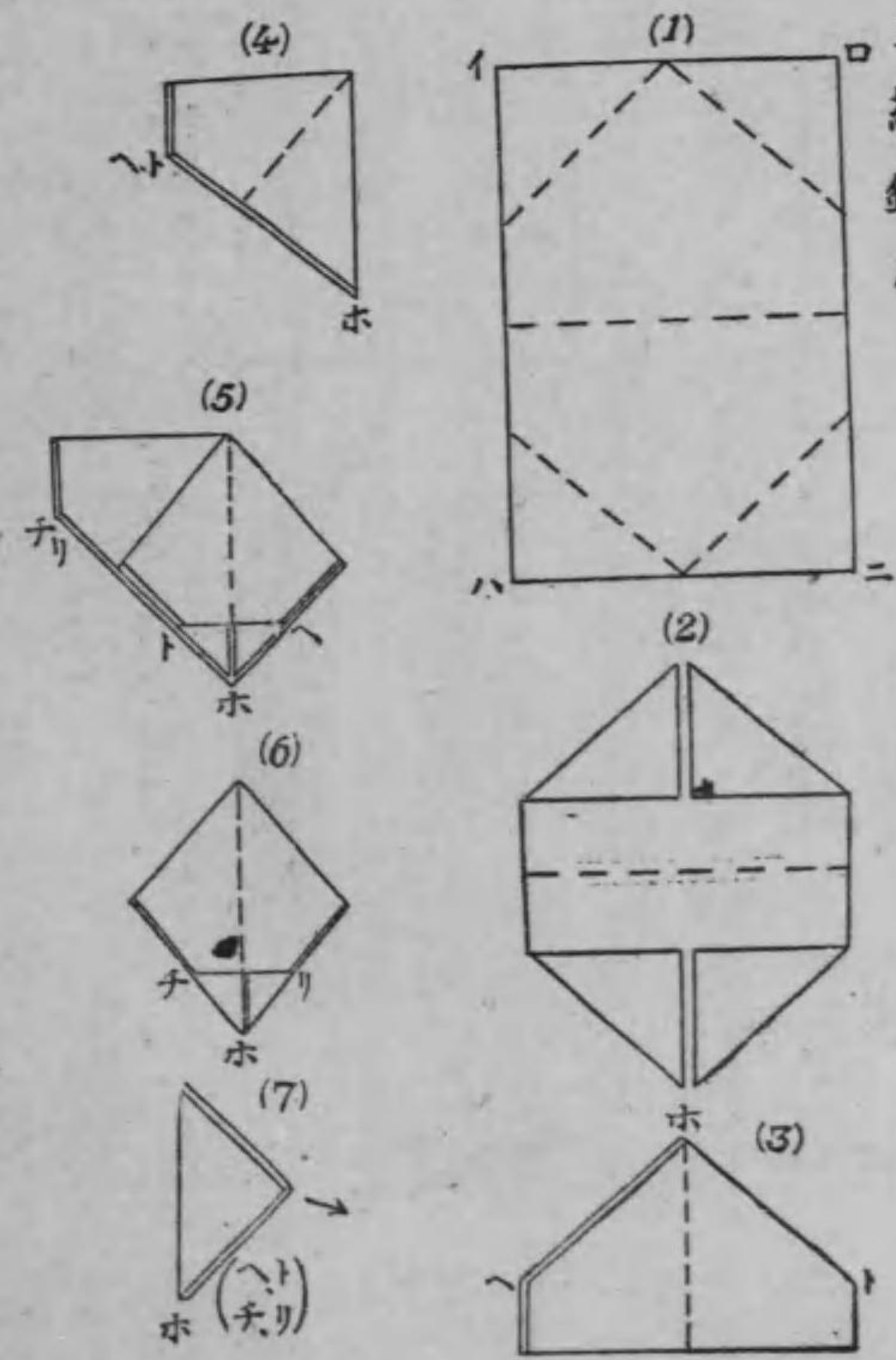
兒童の玩具の紙鐵砲を作るのであります。

先づ長方形の紙を取り「イ、ロ、ハ、ニ」の四隅から折るかぶせて(2)のやうな形にして再び夫れを内の方へ折れば(3)が出来ます。(4)は夫れを倒にしたのでありまして二ツの袋を一つづつ開いて(5)のやうに折目を中央にして「ヘト」をふせて中に折り重ね又一方の「チ、リ」も同様に(6)のやうにふせて(7)のやうに作り上げるのであります。遊ぶときには「ホ」を浅く持つて力まかせに矢の方向に振れば音を發して折り込んだ二ツの袋が開いてきます。かくして元の様に折り込めば何回となく音を發します。

出来上つたものが目前に子供の玩具になつて而かも音を發するので兒童は存外喜ぶものがあります。



三、紙鐵砲



四、かばん

正方形の紙を二折して(2)のやうに再び中へ「イ、ロ、ハ、ニ」を折り込み、「ニ」の處から指を入れ開いて(3)のやうな形にして後兩方共に折り込んで外へ曲げ(5)のやうに作り、下方から始めて「イ、ホ、リ、ロ」が隠るゝ位に深く折り尚ほ二度折りて他の方は反對に同様に折りて(7)を得。それに糸を以て紐をつけかばんとす。

五、箱

長方形の紙を始め紙入のやうに中に折り、尚ほ中央の「イロ」から外に折り、(2)の點線の處から外方に開きながら折り、(3)のやうにして他の一方も同様に折りて(4)を作りかばんの(5)のやうに左右を折り曲げて順次(8)に及ぶ。

六、額縁

四寸の五寸五分に切つた長方形の紙を取り、各邊を五分乃至六分内方へ折返し四隅は左右より折り込んだ部を互に接合し中に指を入れて開き頂點を中央になるやうに伏せても、又は一度伏せたものを尚ほ左右の半分づゝを同方に依つて中へ折り伏せて作つても、教授者の任意であります。が體裁上から申しますと後の方法が上品であります。圖に掲げてお

たのは後の折方に依つてこしらへたものであります。

七、飛行機(その一)

此頃よく兒童の玩具として用ひられてゐますが其折方に三種あります。三ツ折とか屋形とか兒童の間には唱へてゐますが茲には只其一其二其三として掲げることにおきまして。其内第七の飛行機は最簡單でありまして、先づ始めに長方形の紙(正方形にするも差支ありませんが實驗上長方形の方が翼が長く出来るため飛行の時間が長い様に思はれます)から其方を取つたに過ぎませぬ(1)の如く「ハ、ニ」「ホ、ハ」から内方に折り返し「イロ」を正しく揃へ次に「ハト」「ハハ」から再び内方に折り込み「ニハ」「ホハ」を密着せしめ尚ほ一度「チハ」「リハ」から内方に折り終りに「ハヌ」から外力に折り返すときは(3)の如き形になります。この下方に出でゐる「ホニ」の邊を持ち矢の方向に投ずれば飛行を始めます。

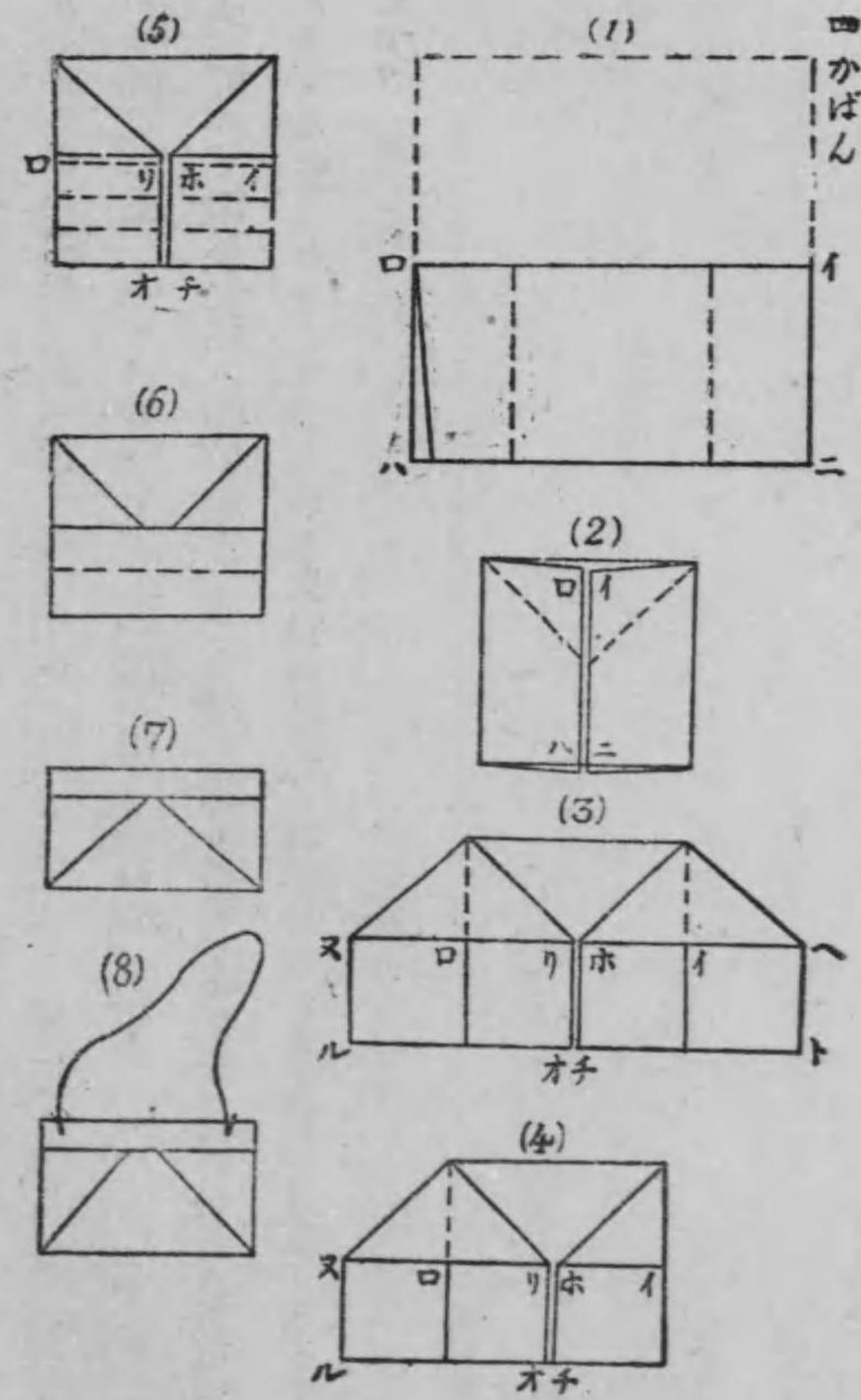
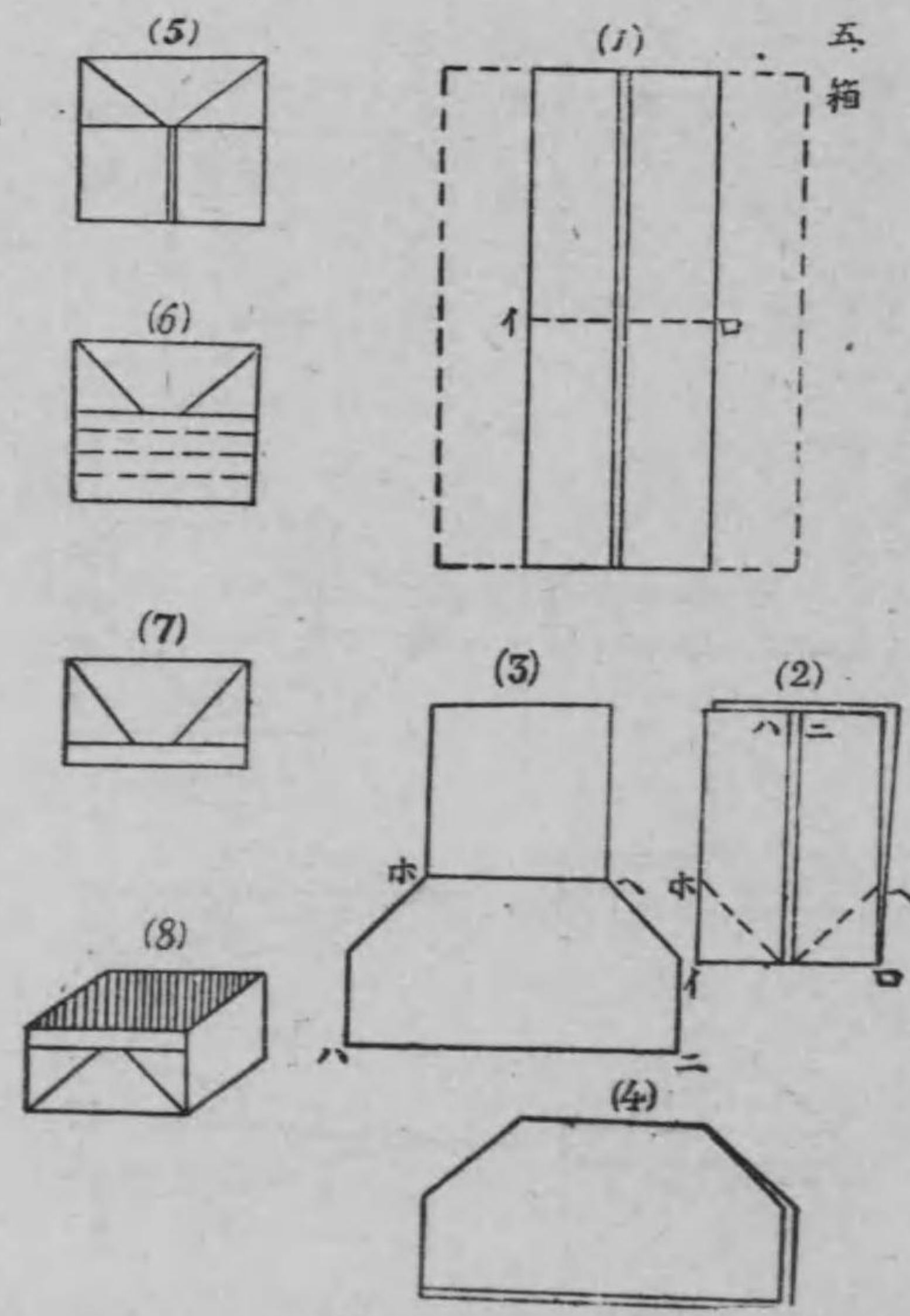
八、運動帽

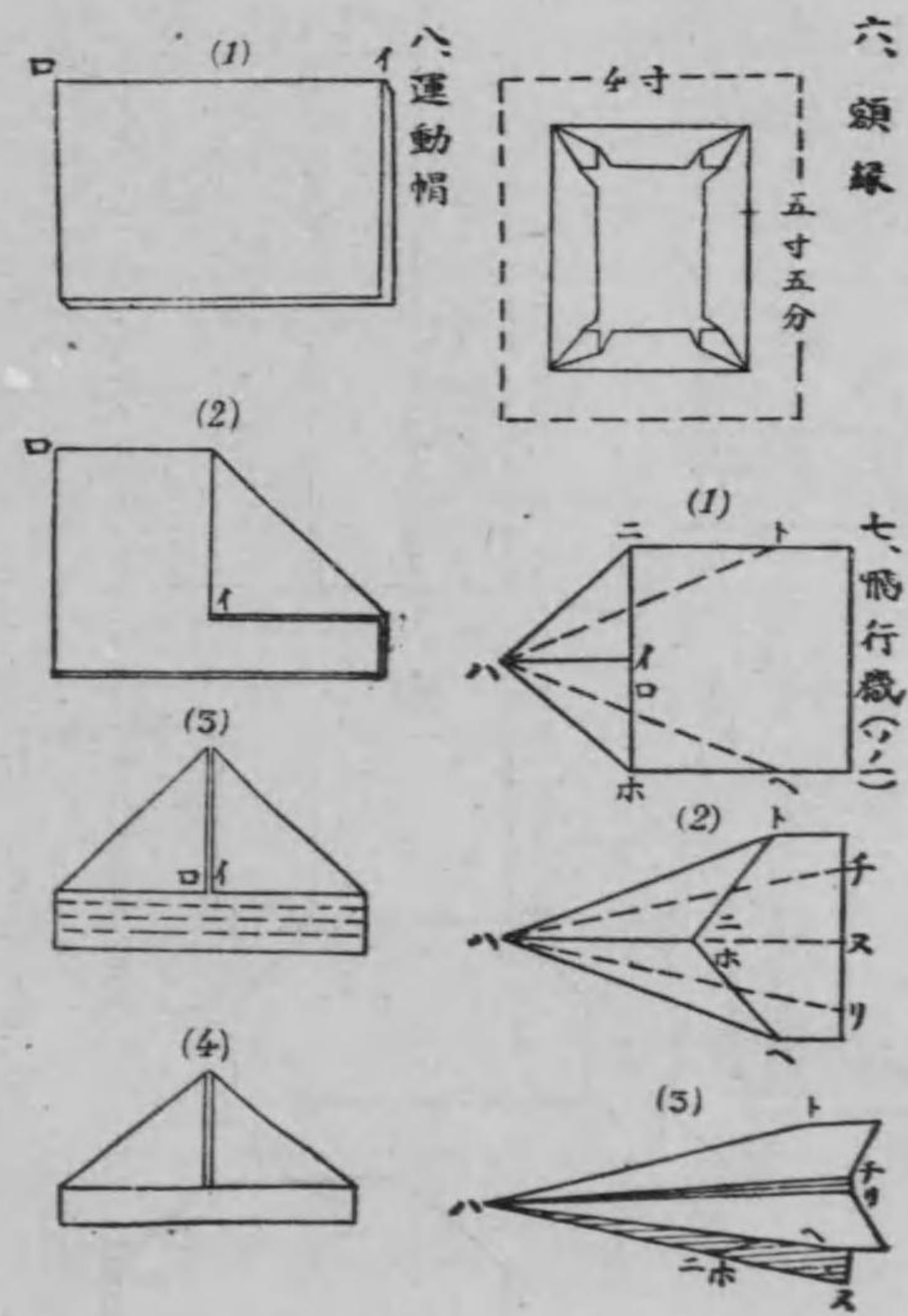
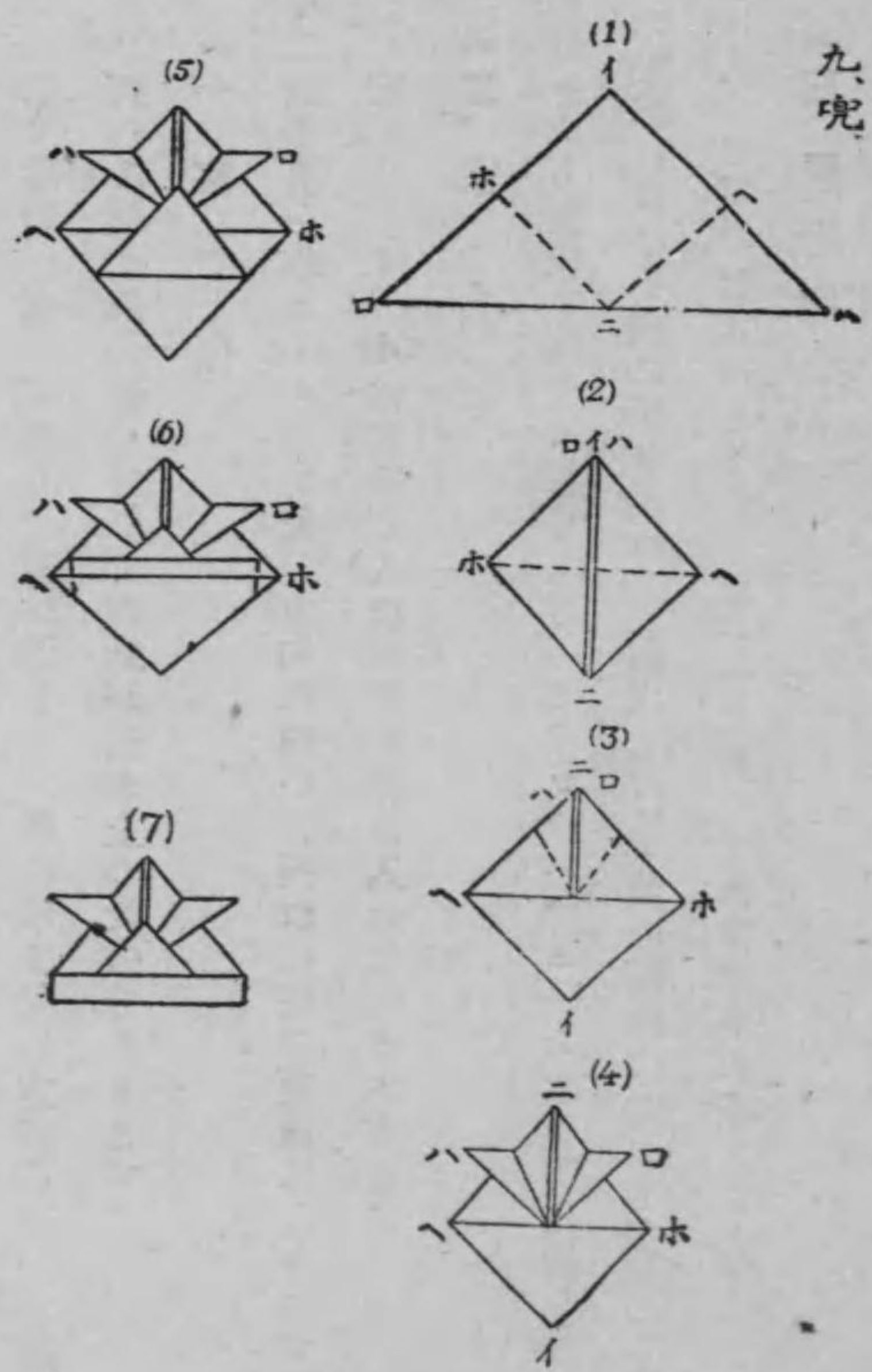
是は最も簡單で長方形の紙を二折し尚ほ(2)(3)の如く「イロ」を内に折り曲げ下方からかばん、箱等のやうに折り重ねて(4)の如きものを作れば下方があいてゐて所謂運動帽が出来

上つたのであります。

九、兜

正方形のものを隅から隅へ折り次に「ヘニ」「ホニ」から折つて「ロ、ハ」を「イ」に重ねしめ(2)の如くし更に「ロ、ハ」を「ニ」の處へ折り重ね(3)を作り「ロ、ハ」を再び點線に沿ひ下方に折つて鍬形を作り(5)の如く「イ」を少し深く折り下方から前の折方を參照して(7)の如く完成するのであります。これも兒童が直ちに玩具にされるもので大そう喜んで興味を持ちます。





一〇、福助

方形の紙を取り四隅から中心へ折り込んで尚ほ更に四隅から折り込んで(2)の如くし裏へ返して(3)に示す點線に依つて折り、表へ返して(4)圖に示す矢の方向に開いて第(5)圖を作り點線に沿ひ折れば第(6)圖の如くなつて福助が出来上つたのであります。

一一、家 (その一)

紙入第二圖の裏を作り(1)として矢の方向に開いて折れば家の裏面になりますから是れを表へ返して家とします。(4)は其家に入口や窓を畫き入れたのであります。

一二、家 (その二)

方形の紙を取り點線を以て示してある「イ、ロ、ハ、ニ」の四ヶ所に鉄を入れ切り放ち「ホへ」の點線に従ひ手前に折り重ね(2)を得、次に(2)圖の點線に従つて折れば(3)の如く「イロ」は中に入つて家の出入口となる。その一に對して西洋建築の家とします。

一三、飛行機 (その三)

長方形の紙を取り「イ」を右下に折つて(1)の如く作り更に「イロ」點線から折つて(2)に進め「ハニ」から更に折り重ねて(3)とし「ホへ」から反對に裏の方へ折り返し「トチ」「リヌ」點線

から表の方へ折れば(4)が出来ます。其翼を開き左右の兩端が少し上る位にして飛行機その二とします。

一四、飛行機 (その三)

その二と同じく長方形の紙を(1)の如く「イロ」を中に折り合せ更に「ハニ」を内方へ折り合す。其際「イロ」の角は折らないで(2)の如く左右へ開く。(3)は其裏面を示したのです。(2)の表面を(4)の點線「ヘト」に依り(5)の如く折り重ね次に中心から外方へ折り(6)を作り尚ほ「チリ」に沿ひて左右別々に外方へ折り開けば(7)になります。それを其二の場合と同じ要領に兩翼を開けば(8)の完成になる譯です。

備考、(その二、その三)を折るに用ふる紙は普通に用ふる長方形の用紙よりも短くて五寸の七寸位のすれば折りあげた形が體裁よくなりますが普通の用紙にしても飛ぶのは却つて遠い位ですから何れにしても差支はありません。

一五、催合船

正方形の用紙を内に折り曲げて(1)とし「ハニ」の點線に依つて「イ」を内側に入れて方形に折り同様に「ホロへ」點線に沿ひて「ロ」を内側に入れて折り(2)とす。其裏面を出して(3)と

し「イロ」點線によつて外方に折れば催合船を得。

一六、豚

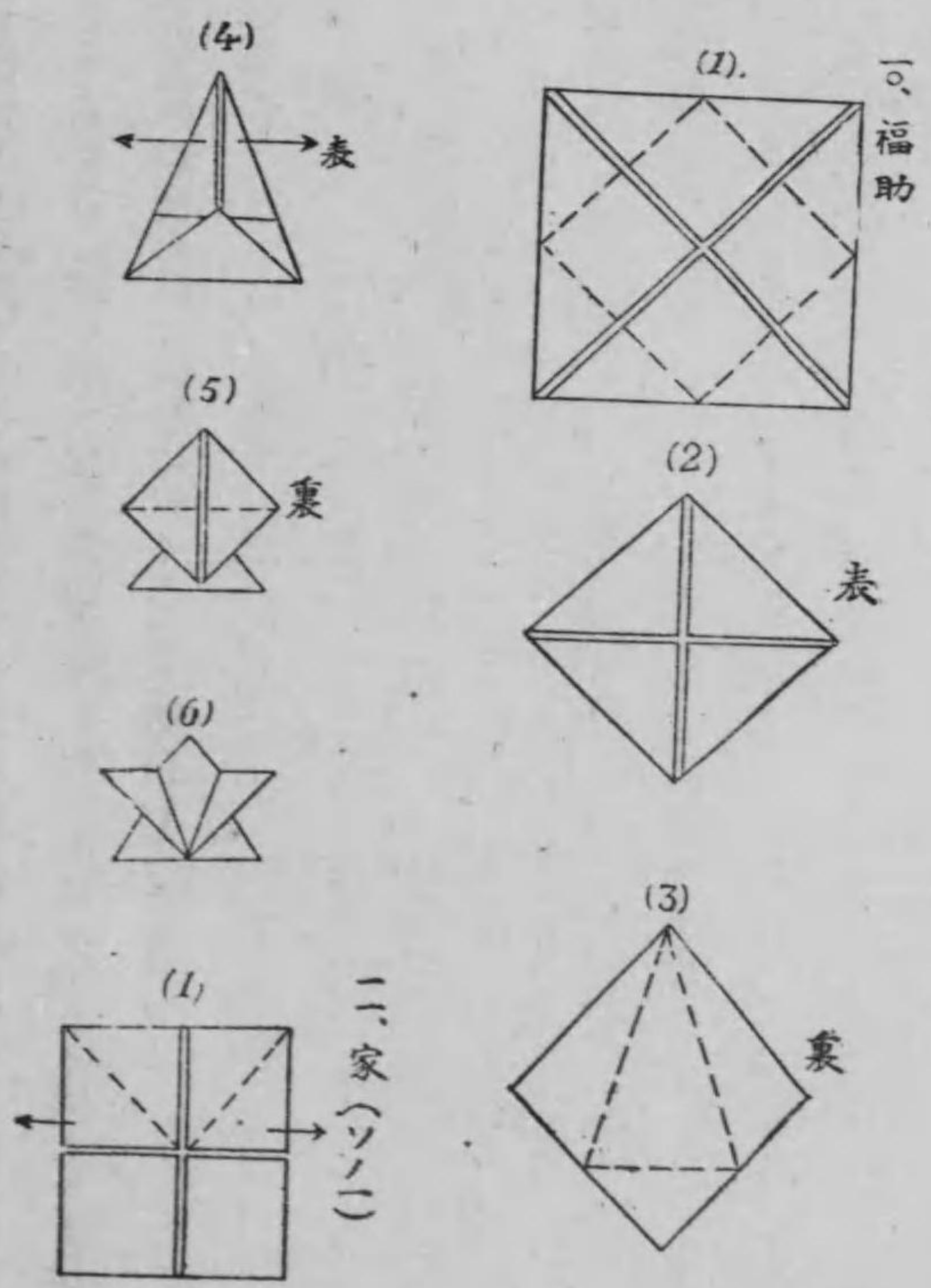
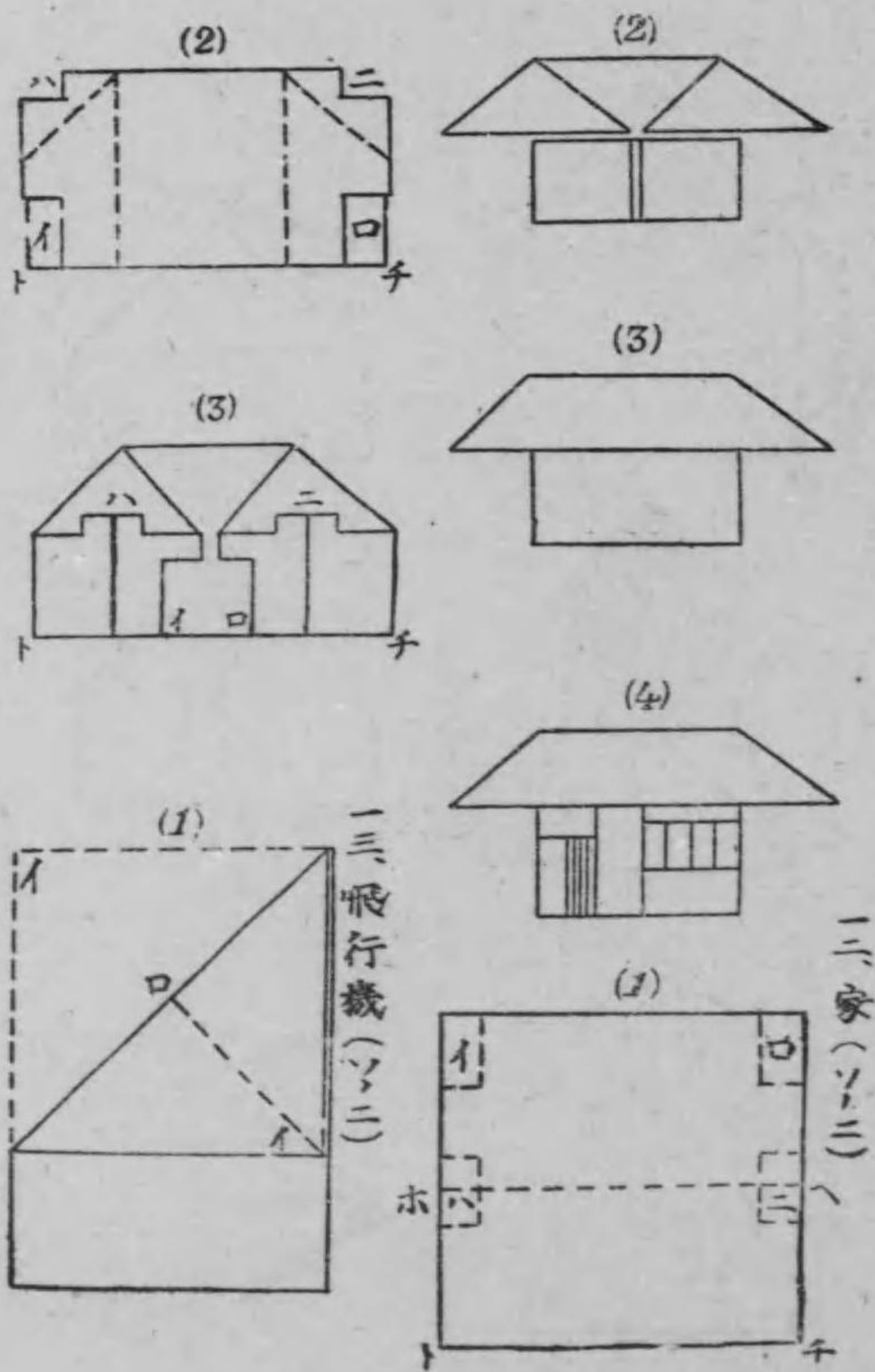
催合船(2)を作り「イロ」「ハニ」點線に従ひ「ホへ」「チト」を折り重ね(2)を作り更に點線の處を折つて(3)となし一枚を取りて「イリ」から内方に折り重ね更に夫れを「イル」點線に依つて折れば一本の脚を得。右側の「ハヌ」「ハオ」よりも同様に折りて一本の脚を作り尙ほ向側の兩側を同様に折りて(4)を得、鼻は別圖に示す如く少しく中に折り込み(5)の如く出來上るのであります。

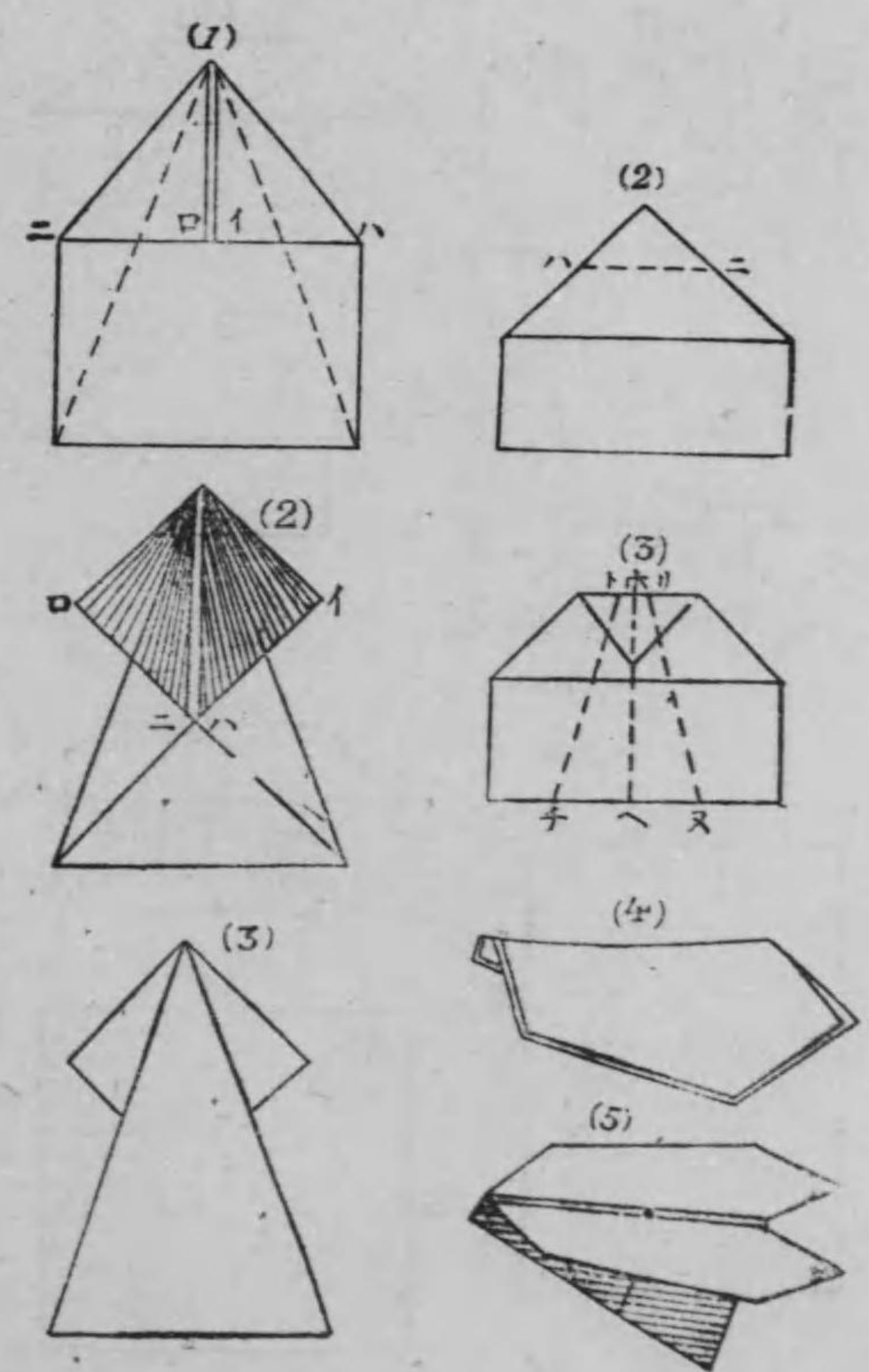
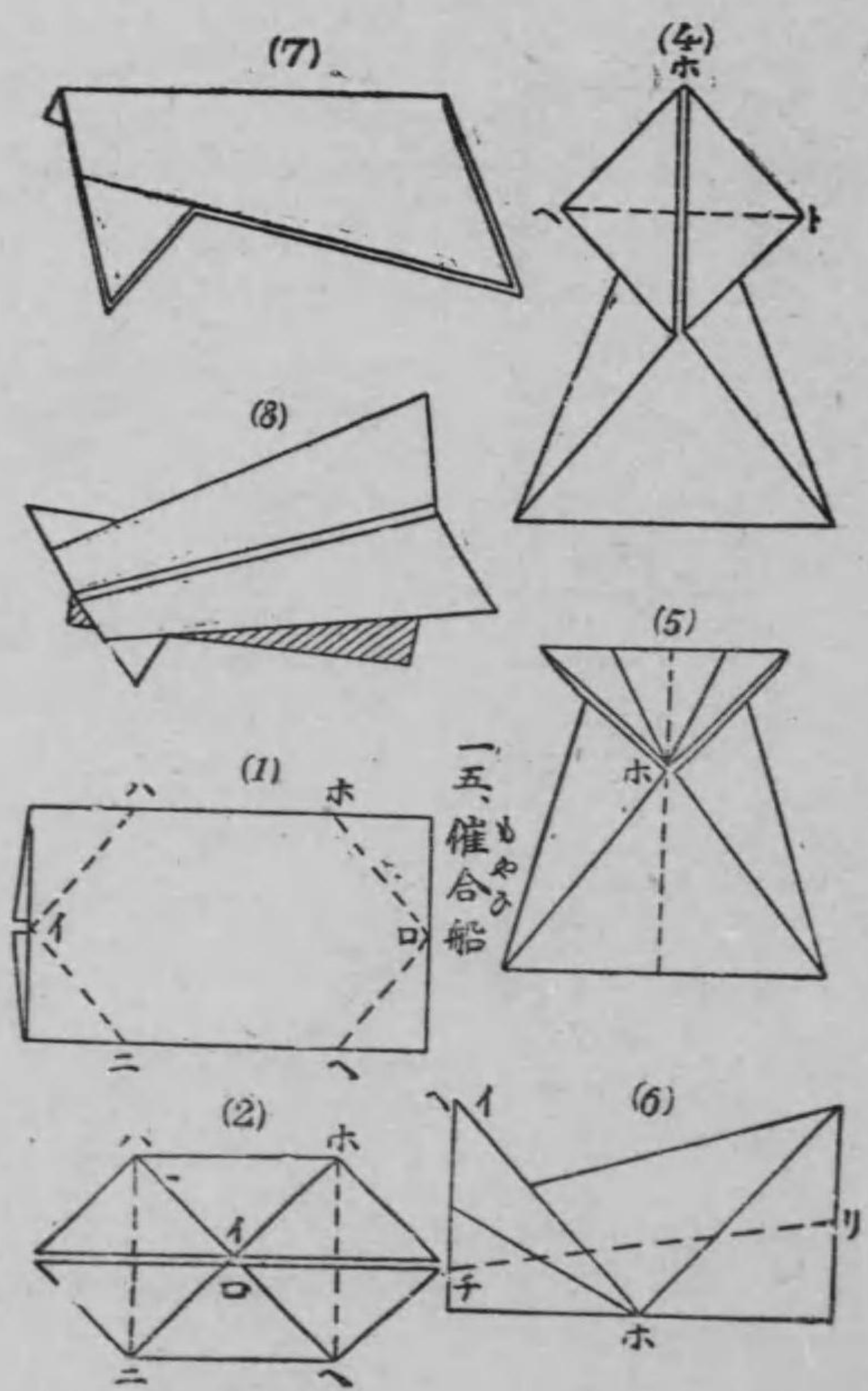
一七、狐の假面

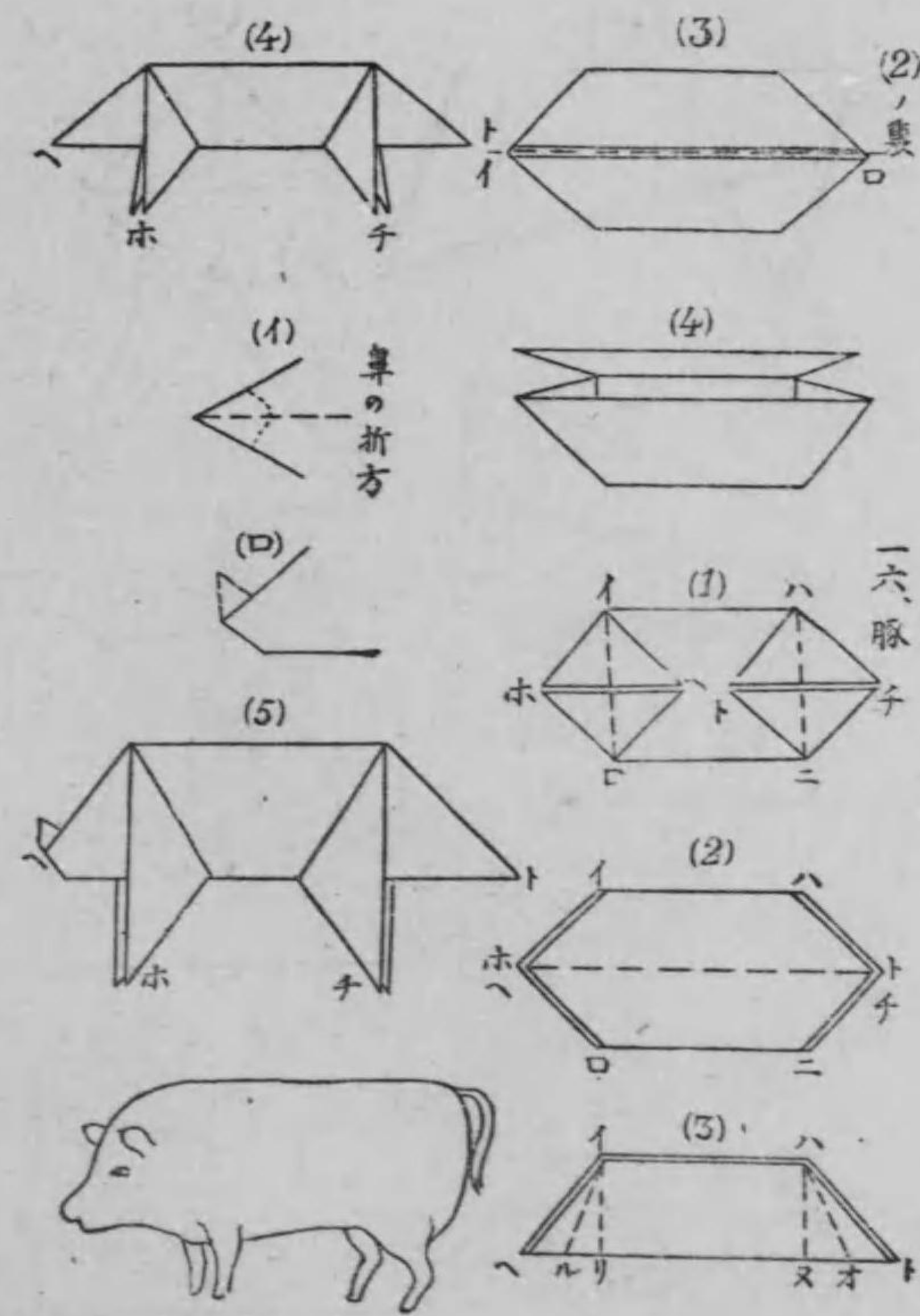
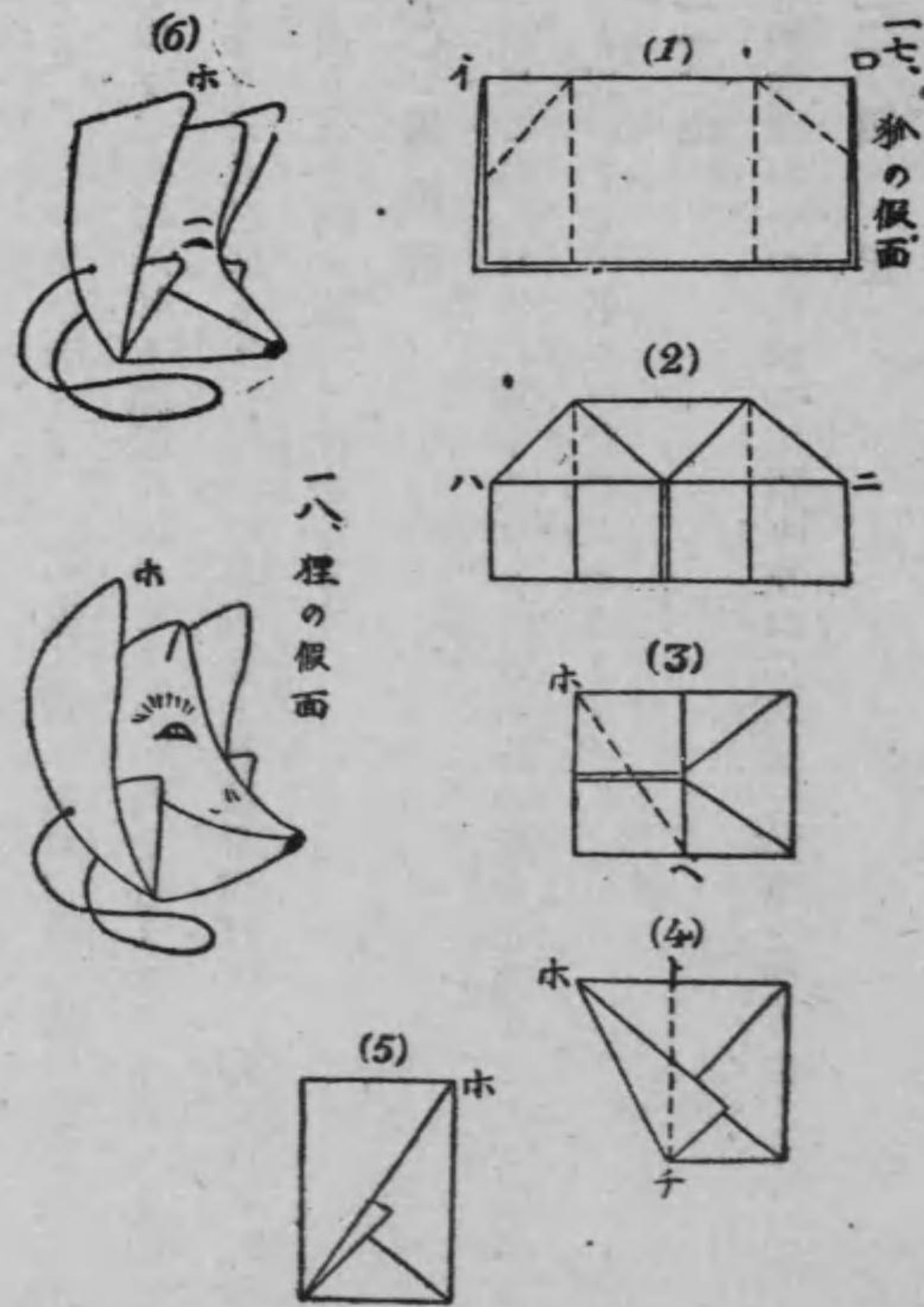
正方形の用紙を二つに折り(1)とし家のその二の如く點線に沿ひて「イロ」の端を内方に入れて左右に開き次に「ハニ」を裏面へ折り重ね横にして(3)とし點線「ホへ」に依つて右左其別々に表裏の兩面へ折り更に第(4)圖「トチ」の點線の如く折り第(5)圖を得。之れに左側面を開き中央部を少し凹めて顔面を作り下端の頂點を少しつぶして口を作れば狐の假面となる。尙ほこれに紐を附して(6)の如くして出來上るのであります。

一八、狸の假面

狸は狐に比べて鼻柱短く稍膨んで居ますから狐の假面と同様に(1)(2)(3)(4)(5)と折り(6)に至りて開くことを狐よりも廣く左手の拇指を下方に入れ顎の處に充て、他の三指を上方に入れ四指を以て上下左右に靜に開き狸の假面とす。口は矢張り少しく凹めた方がいゝやうです。尙ほ紐を狐の假面の時と同様に附くるのも面白いでせう。







一九、提 灯 (その一)

正方形の紙を紙入の如く折り(2)とします。其場合紙入よりも少し浅く折つて兩端を少し離し次に「イロハニ」の角を夫々「ホヘ」の處へ折り重ね、更に第(3)圖點線に示す如く裏面へ折つて(4)を作り、(4)に示せる點線に依つて上下の角を各々裏面へ折り上端と下端を開いて長方形を作り口及び底とす。(5)(6)は其表面と裏面を現はす。尙ほ夫れに裝飾を加へ口と底とは黒く塗り弦や柄を添へて仕上げます。

二〇、風呂敷

正方形の紙に命名したのに過ぎませんが最初歩の場合正方形として取扱ふよりも都合がいろいろと思ひまして名づけたのであります。

二一、山

風呂敷を對角線の一つに依つて折り重ね二等邊三角形を作り山とす。

二二、肩 掛

第二十一の山を倒にして肩掛と名づく。

二三、小 船

肩掛の下端を深く折つて小船とします。

二四、鉢

風呂敷の上下を中心部へ折り込み兩端の「イロ」を密接させ尙ほ一度「ハコ」の點線に従ひ内方へ折つて(2)を得。

二五、ばった

風呂敷から肩掛に作り一方を稍々廣くして左右別々に上の方へ折り返す。而して廣い方に目を入れ二本の小脚は狭く切つた紙を貼付します。

二七、奴

鉢の第一圖のやうに作り尙ほ左右からも同様に中心へ折り(2)の如くし尙ほ四隅から裏面へ同様に折り返し(3)；更に四隅から裏へ折り返し(4)を作り「イロハ」の三隅を裏面から開いて(6)を得。これに顔を畫き紋を入れ袴を付けさして作り上げます。

二八、帽 子

奴の開き残れる角を前と同様に開いて(2)の如くし點線に依て折り重ね(3)を待帽子とす。

二九、奴 袴 (股引)

帽子の左右を矢の示す方向に引き出せば奴袴となります。

三〇、靴 下

右の奴袴を二つに折つて靴下とします。

三一、提灯おぼけ

奴袴を取り(1)とし其「イロ」「ハニ」を上下に開いて作ります。

三二、提 灯(その二)

提灯おぼけを裏へ返し「イロ」を中へ折り込めば提灯を得、夫れに日の丸を畫き口と底とを黒く塗り弦や柄を作りて仕上げます。

三三、大砲船

提灯おぼけを縦に折り(2)の如くし奴袴の時引出した要領で矢の方向に引き出せば(3)の大砲船を得。

三四、帆掛船

大砲の砲門を前と同様に引き出せば帆掛船となる。

三五、二艘船

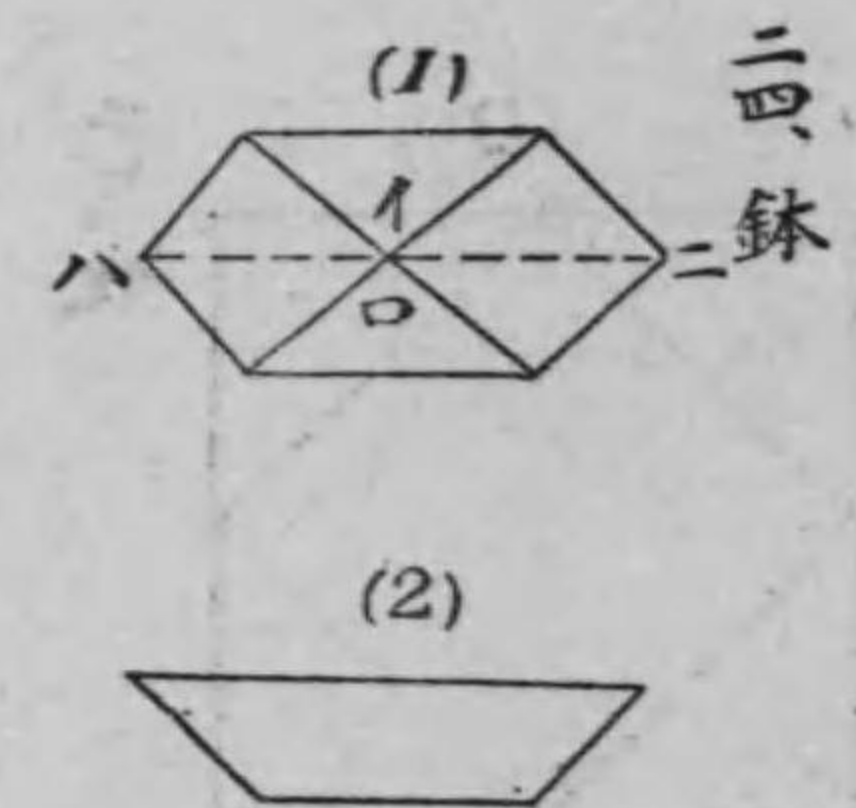
帆掛船を(1)とし點線に沿ひて折り曲げ(2)の如くし更に點線によつて中の方形を折り重ね兩尖端を取つて(3)圖の點線の如く左右に折り重ね開けば(4)の帆掛船となります。

三六、風 車

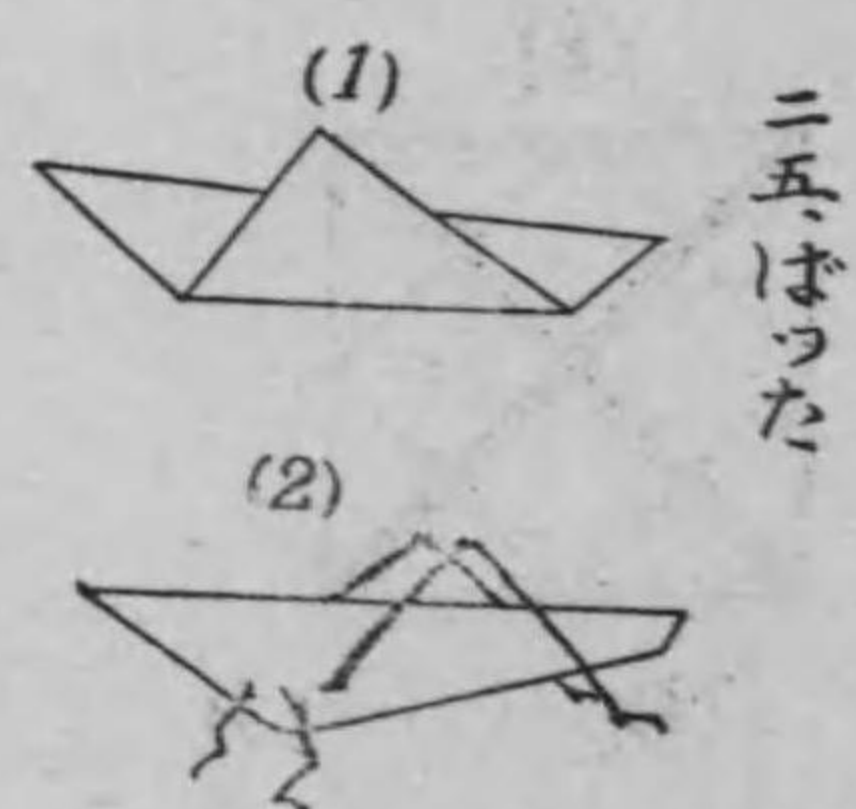
二艘船の底を左右へ開き(1)として點線によつて「イ」を上方に「ニ」を下方に折るか又は「ハ」「ロ」を夫々上と下とに折れば所要の風車を得。

三七、才觀音様

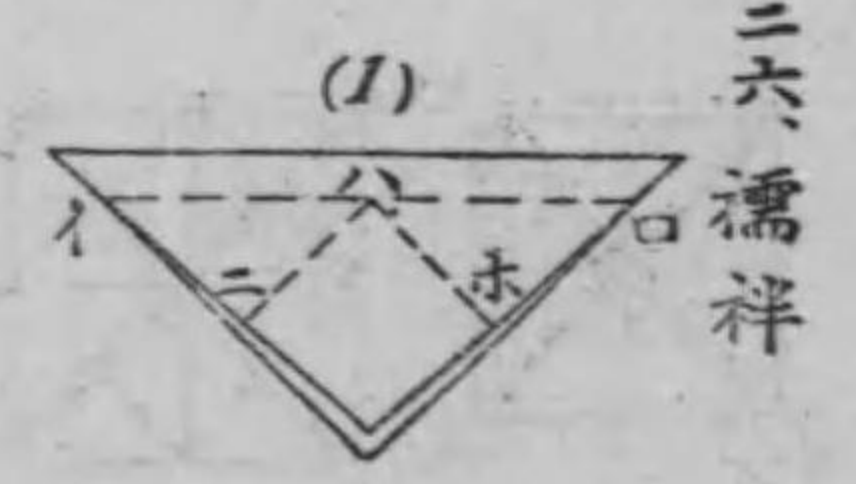
風車(1)の裏面を出し點線に沿ひて内方に折つて(3)を作り其裏面の左右を矢の方向に開けば(5)少し開きかけたる有様を示す(6)を得、人によつて神輿、神様、蓮台等種々の名前があります。私にはあまり正しく折らないで「イ、ロ、ハ、ニ」の半起つ様にしておけば中央の二等邊三角四個より成れる部分を所謂觀音様として周圍の縁は扇を開いたところに擬してお觀音様と名づけたのであります。



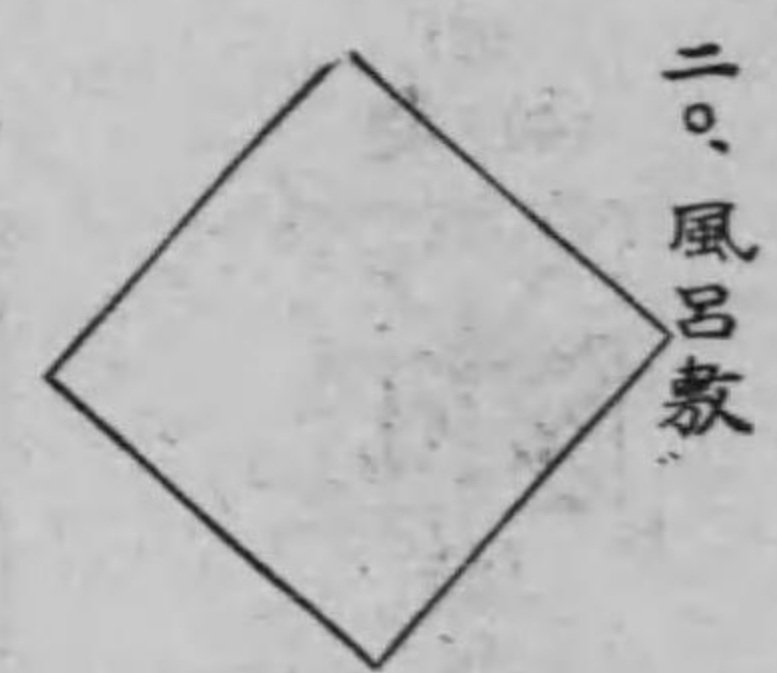
二四、鉢



二五、はつた



二六、濡祥



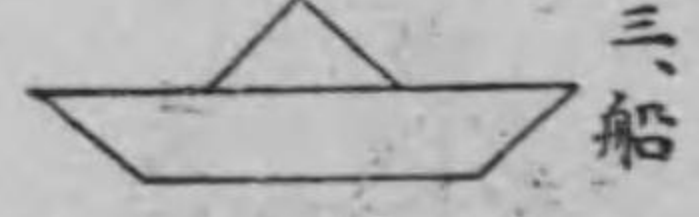
二〇、風呂敷



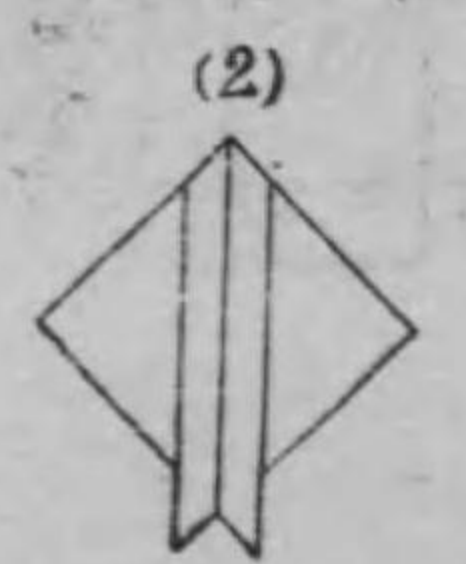
二一、山



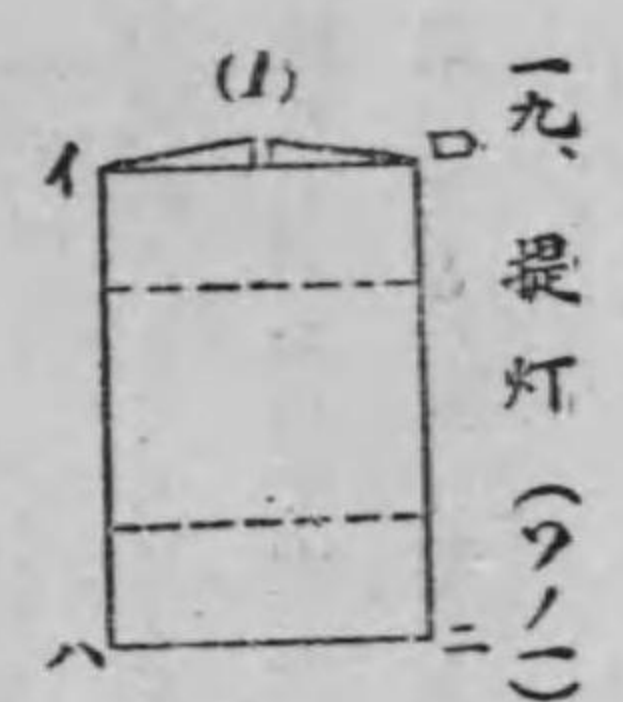
二二、肩掛



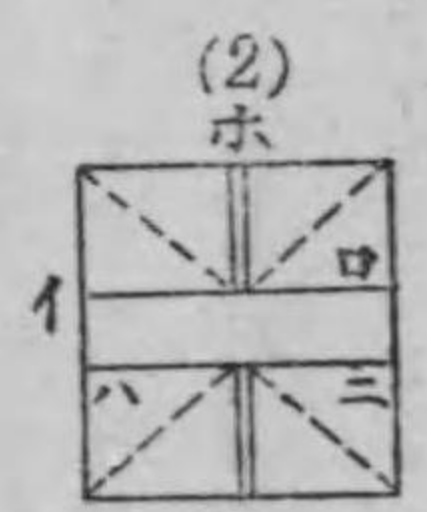
二三、船



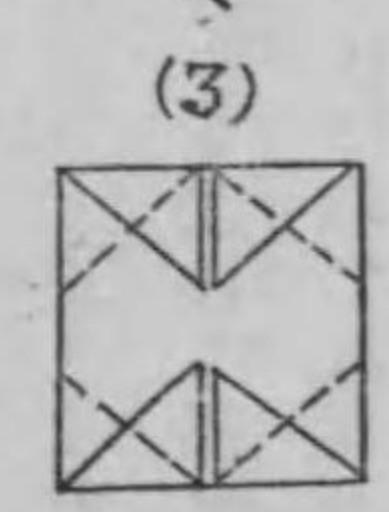
(2)



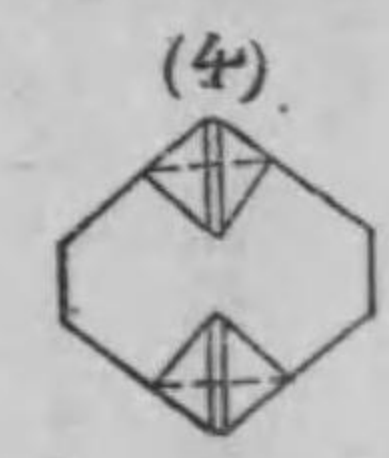
一九、提灯 (タノコ)



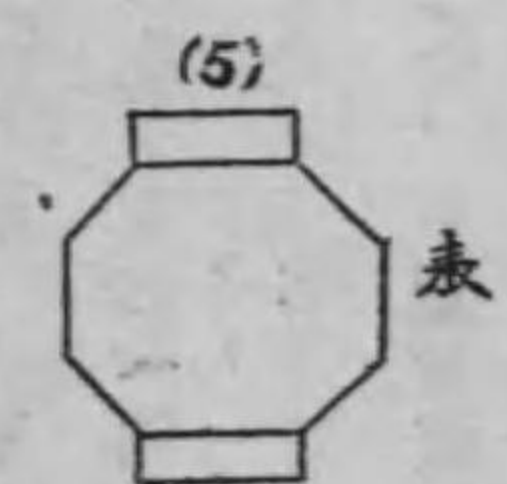
(2) ホ



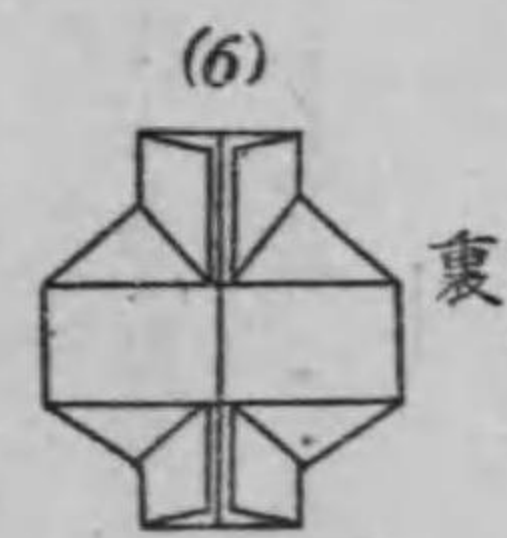
(3)



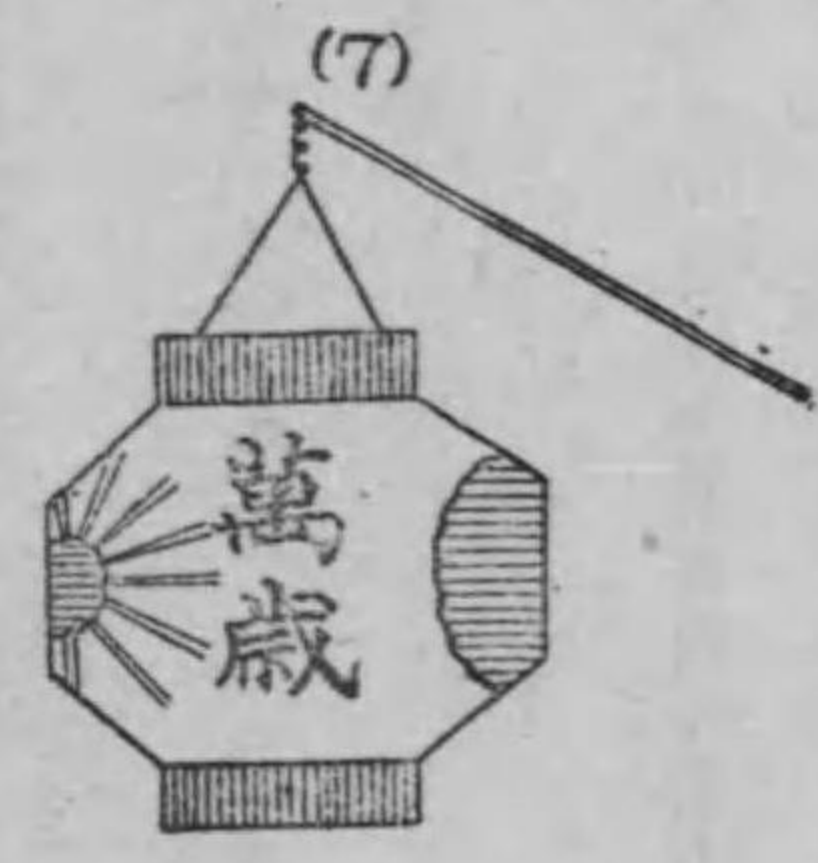
(4)



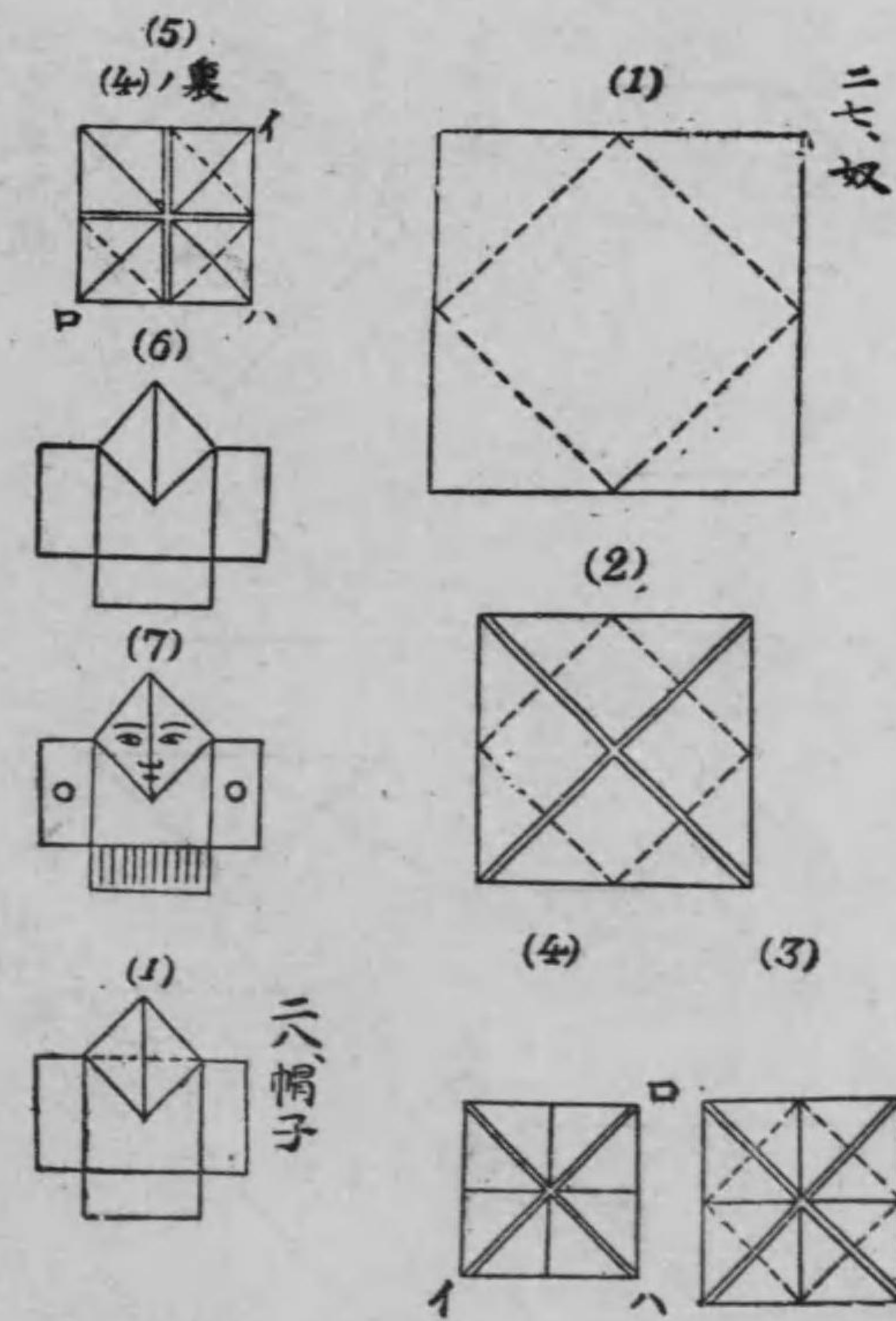
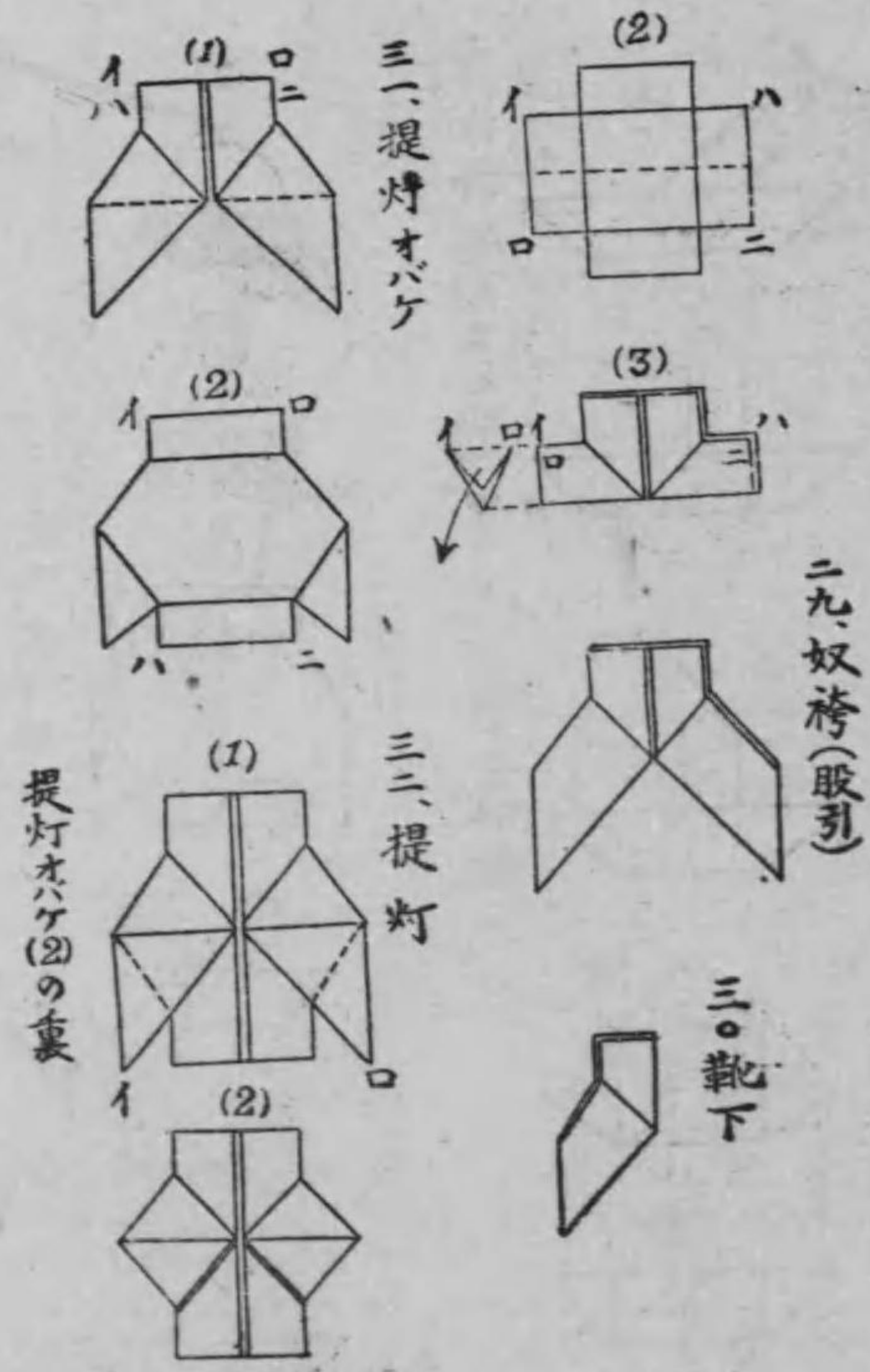
表

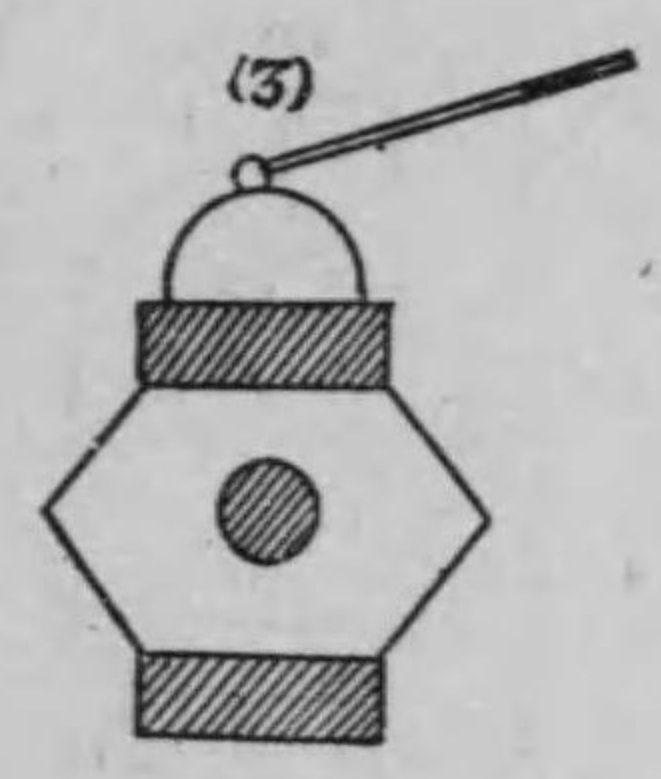


裏

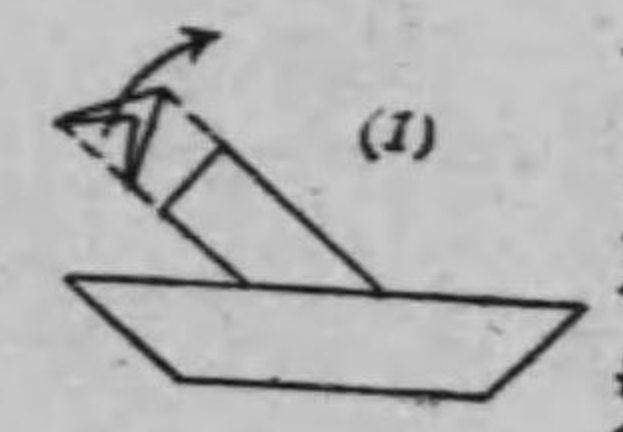
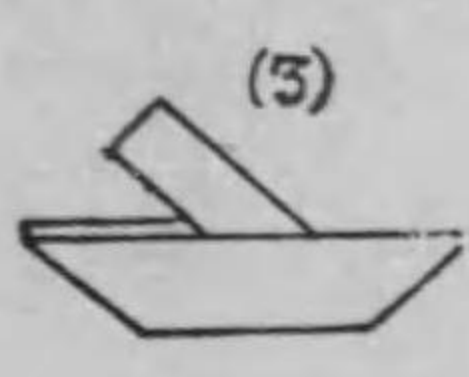
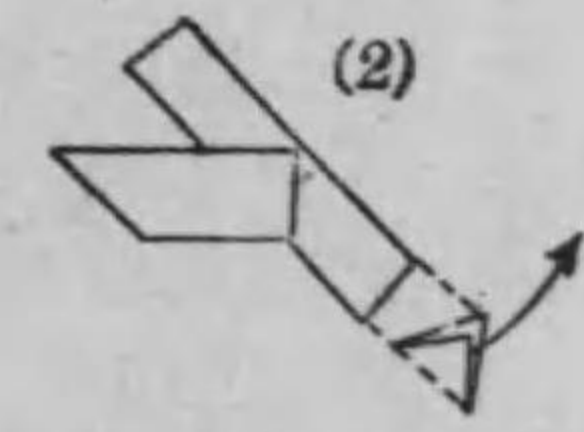
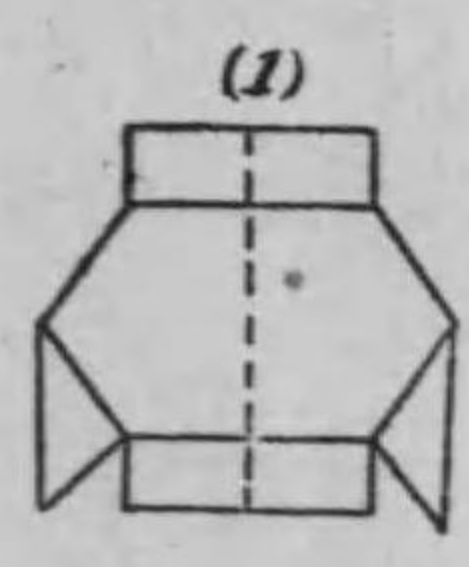


(7)

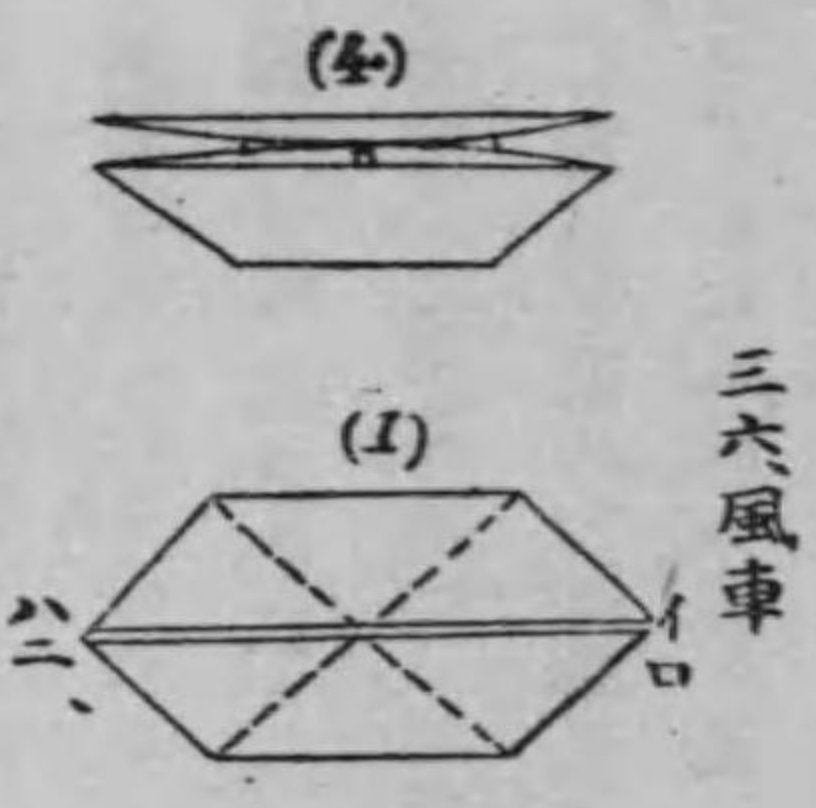
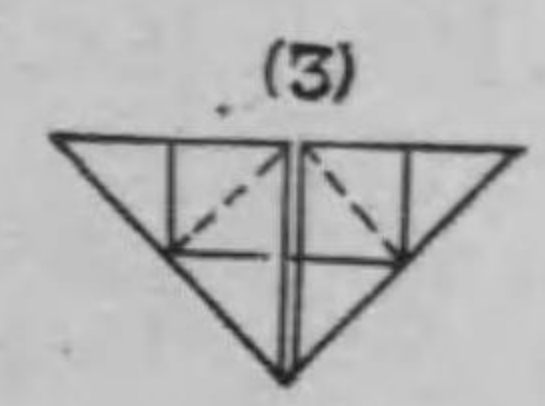
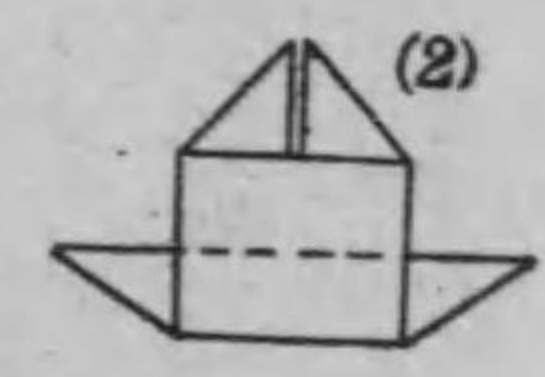
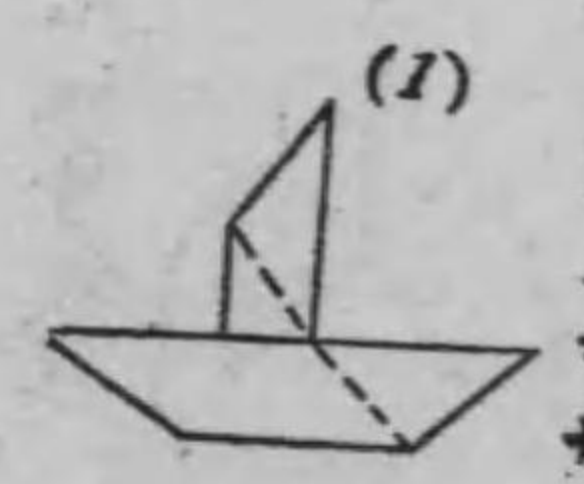
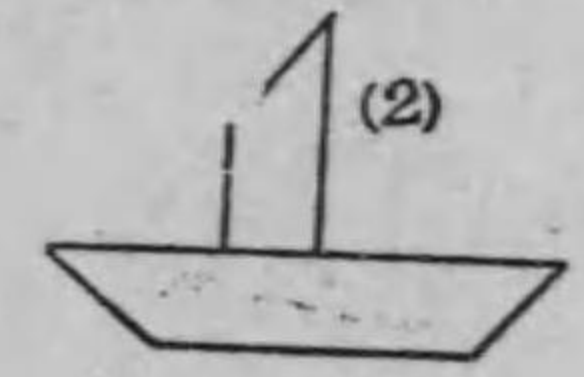




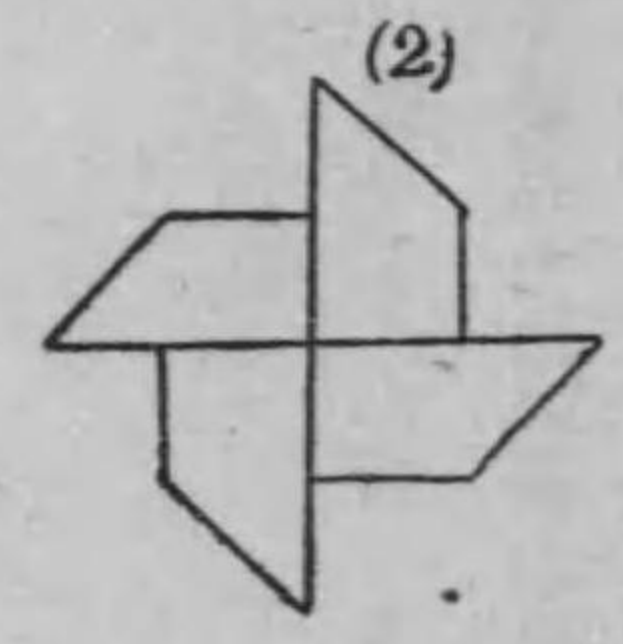
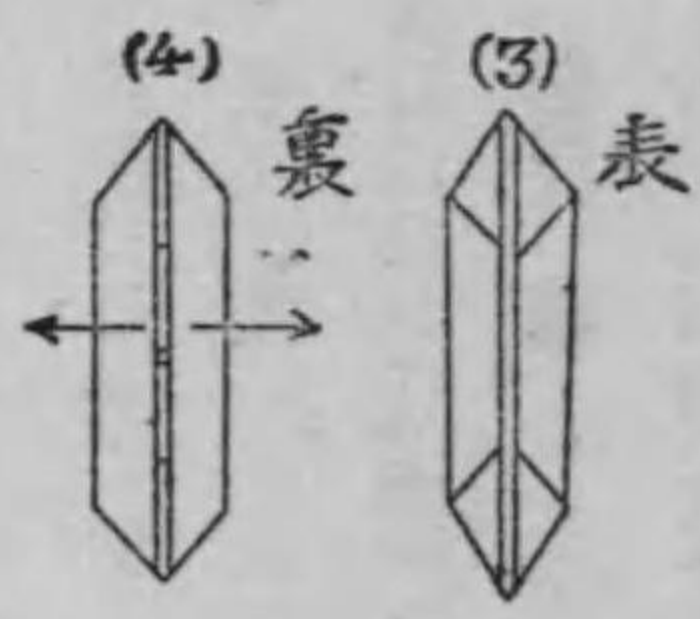
三三、大砲船



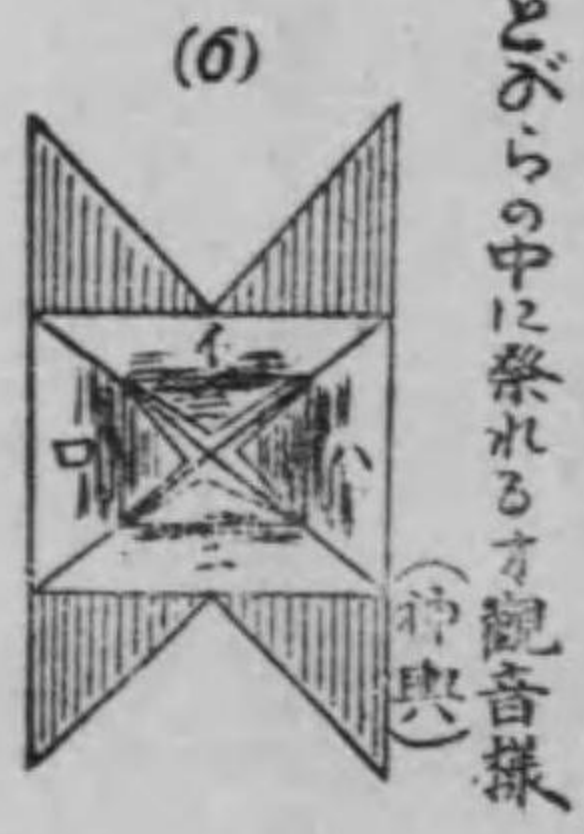
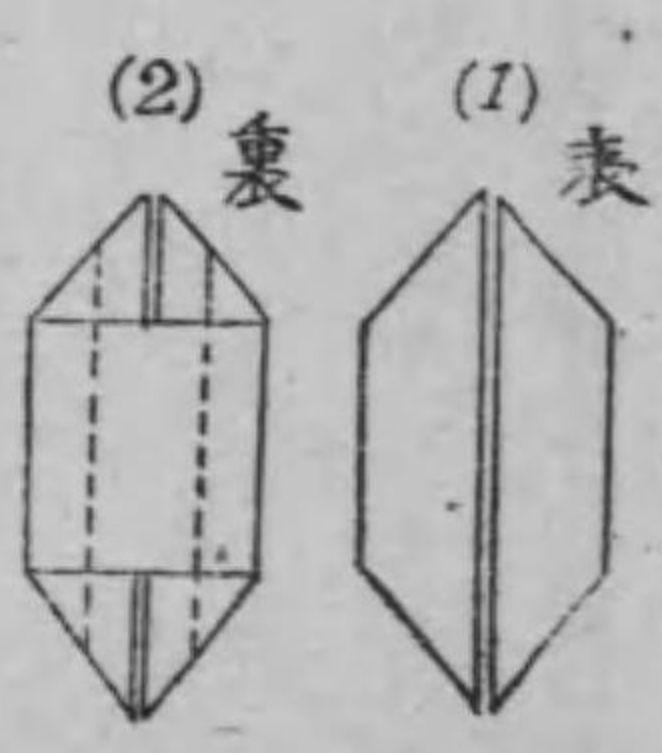
三三、二艘船



三六、風車



三七、才観音様



とびらの中に祭れる才観音様 (神輿)

三八、塵斗

襦袢を以て(1)とし夫れを點線によつて内方に折り「ハニ」を「イロ」の下に入れ「イロ」を持つて左右に開けば(3)のやうに塵斗を得。

三九、龜

兜の折方に依つて(4)迄に折り尙ほ下方を上方と同様に折り返せば龜の裏面が出来ます。

四〇、蟬 (その一)

肩掛を(1)とし點線に依つて(2)の如く折り更に點線から折つて兩方から重ねかけ(3)を作る、(4)は其表を示したものです。

四一、蟬 (その二)

兜の二を持つて來て(1)とし點線に従ひ「イ」を折り次に「ロ」を「イ」より少し淺く折り重ね(3)の如くし尙ほ左右から點線の通り裏面へ折り重ねれば蟬になります。眼は兩角を拇指を以て摘み上げるか又は毛筆で畫いても差支ありません。

四二、蟬 (その三)

「ソノ二」と同様に兜の二を(1)とし點線に依つて(2)(3)の順に折り重ね尙ほ一回點線によつ

て左右から折り合すれば(4)(5)を得：眼は前に準ず。

四三、蟬 (その四)

「ソノ三」の(2)を尙ほ一度上の一枚丈を折り(1)として點線「イロ」「イハ」を左右から折り合後「ニホ」に沿ひて折れば(2)(3)の表裏を有する蟬を得：眼は(その二、その三)に準ず。

四四、座蒲團

正方形の紙を四隅から折り曲げて座蒲團と名づく。

四五、窓

座蒲團を尙ほ一度四隅から折つて(2)を作り基盤目形となし窓とす。

四六、冠

窓を點線に依つて斜に折り(2)とし其左右を右に示す如く中に折り込まれてゐる部分を矢の方向に引き出し(3)の如く兩側に立つれば冠が出来たのです。

四七、蓮華

窓のやうに折り更に夫れを返して(2)に示す點線のやうに四隅から折り込み(4)を得、其四隅を少しく外方に折り曲げ(4)の如くし六辨を悉く外方に開き灣曲せしめ、竹或は針金に紙

を巻いて中央に貫き蕊及び柄を作る。

四八、烏賊

座蒲團を(1)として點線に従ひ裏面へ折り(2)、「イロ」を左右に開き裏面の(3)を得、表へ返し別に細長くして切つた紙を下方裏面に貼りつけ(5)のやうに作り上げて烏賊とします。

四九、福助(その二)

烏賊の(4)を(1)とし點線「イロ」「ハニ」の順に兩方から折り重ね(2)を作り其裏面から點線を示すやうに三角形に切り取り立て、表面から鉛筆を以て「チョンマゲ」に顔面を畫き上下を畫き入れて福助とします。

五〇、二艘船(その二)

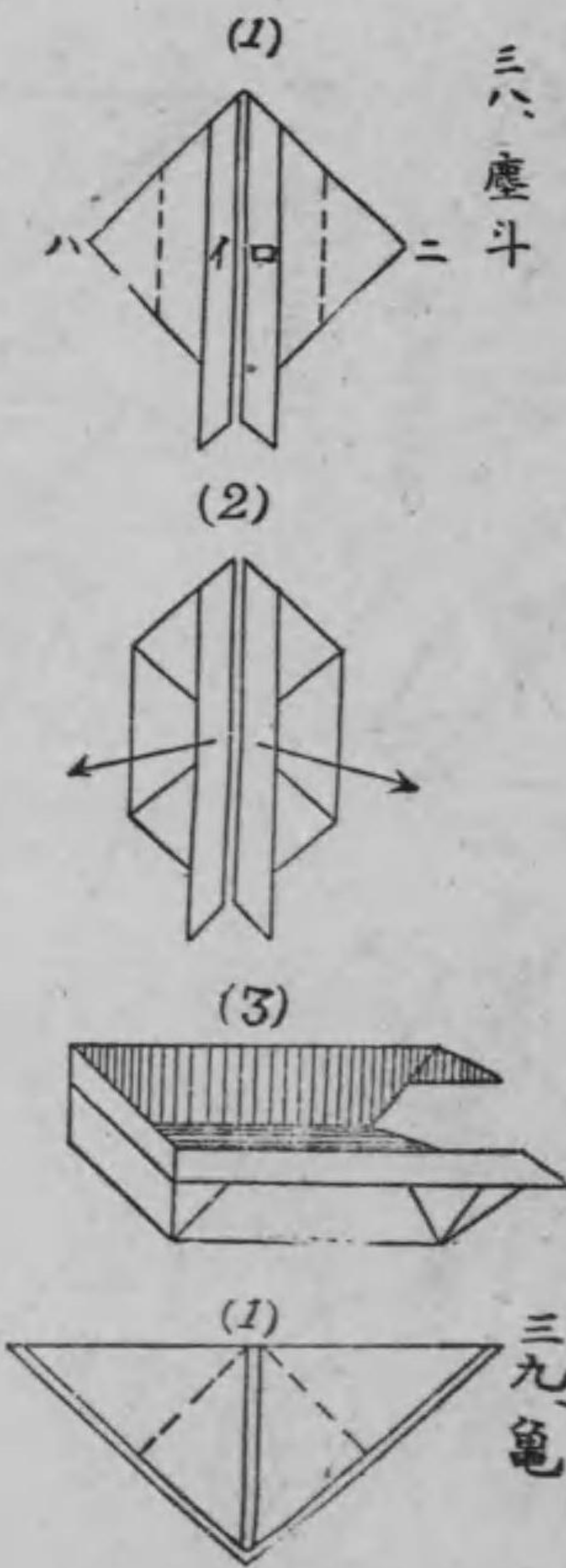
座蒲團を(1)とし線點に沿ひて内側へ折り(2)に示せる點線に従ひ外方へ折り(3)として矢に示してあるやうに開いて(4)の如くし尙ほ他の一方も同様に開き(6)を得て二艘船とします。

五一、大船(漁船)

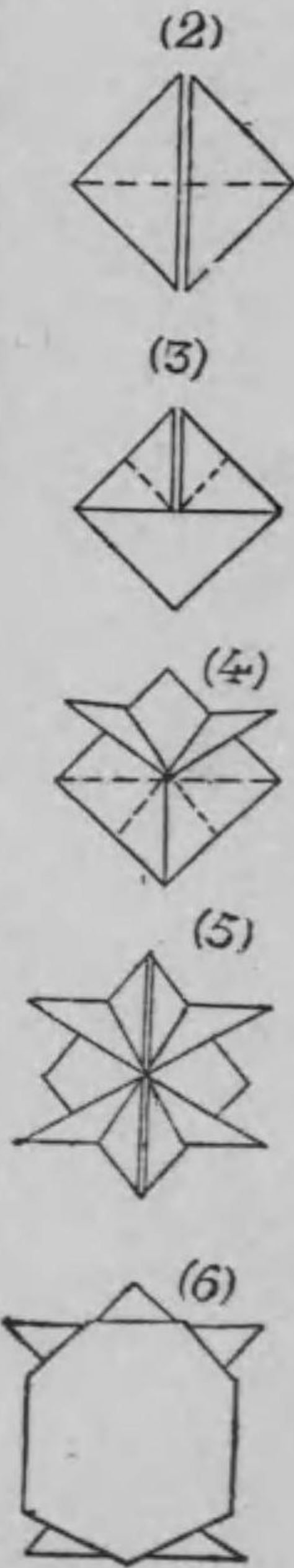
お観音様の中の二等邊三角形を取り矢の方向に引き出して(2)の形になし點線に沿ひて左右を違へて裏へ折り(3)の如くし次に「イロ」に依つて「チ」を中心へ折り込み「ハニ」から更に

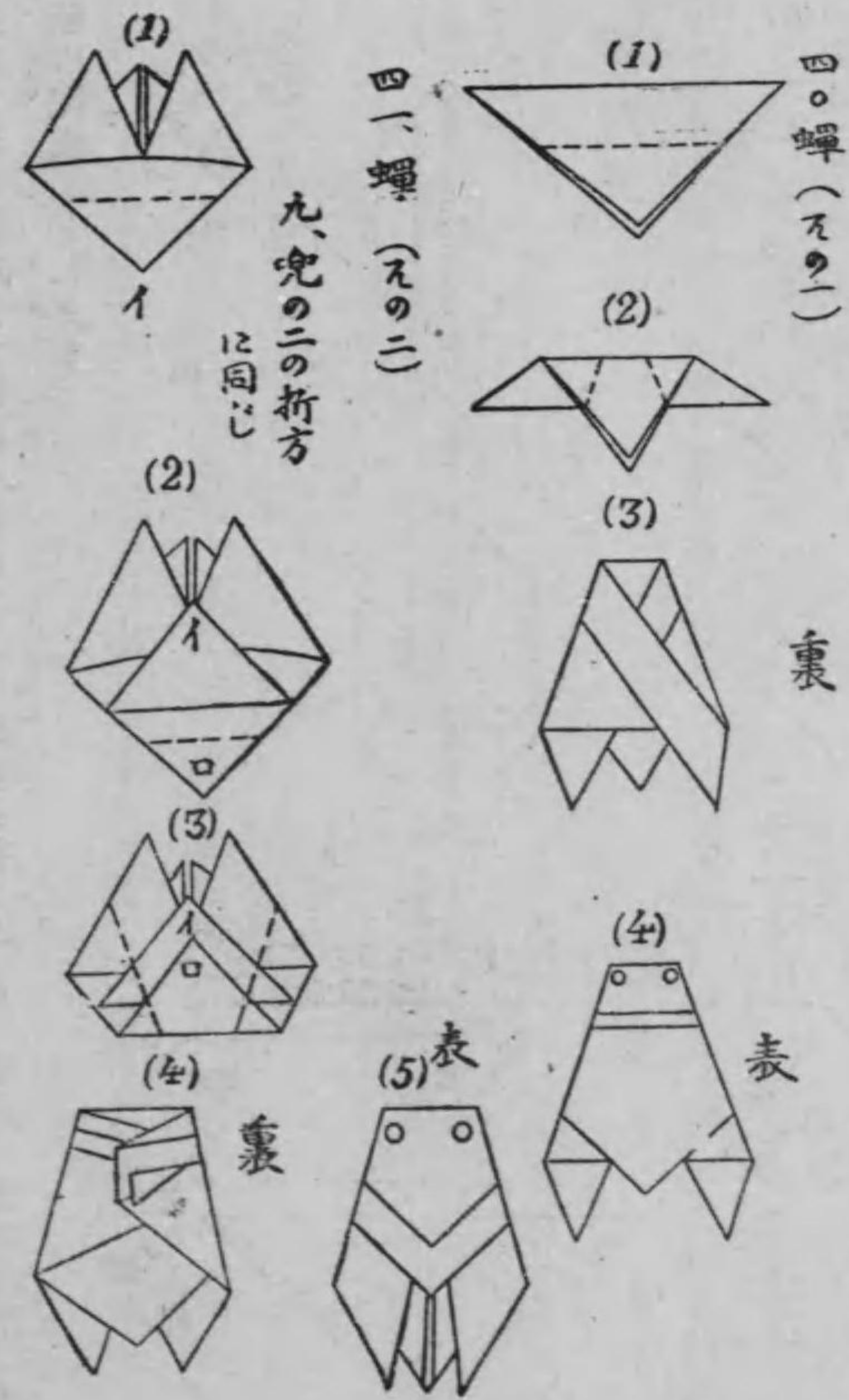
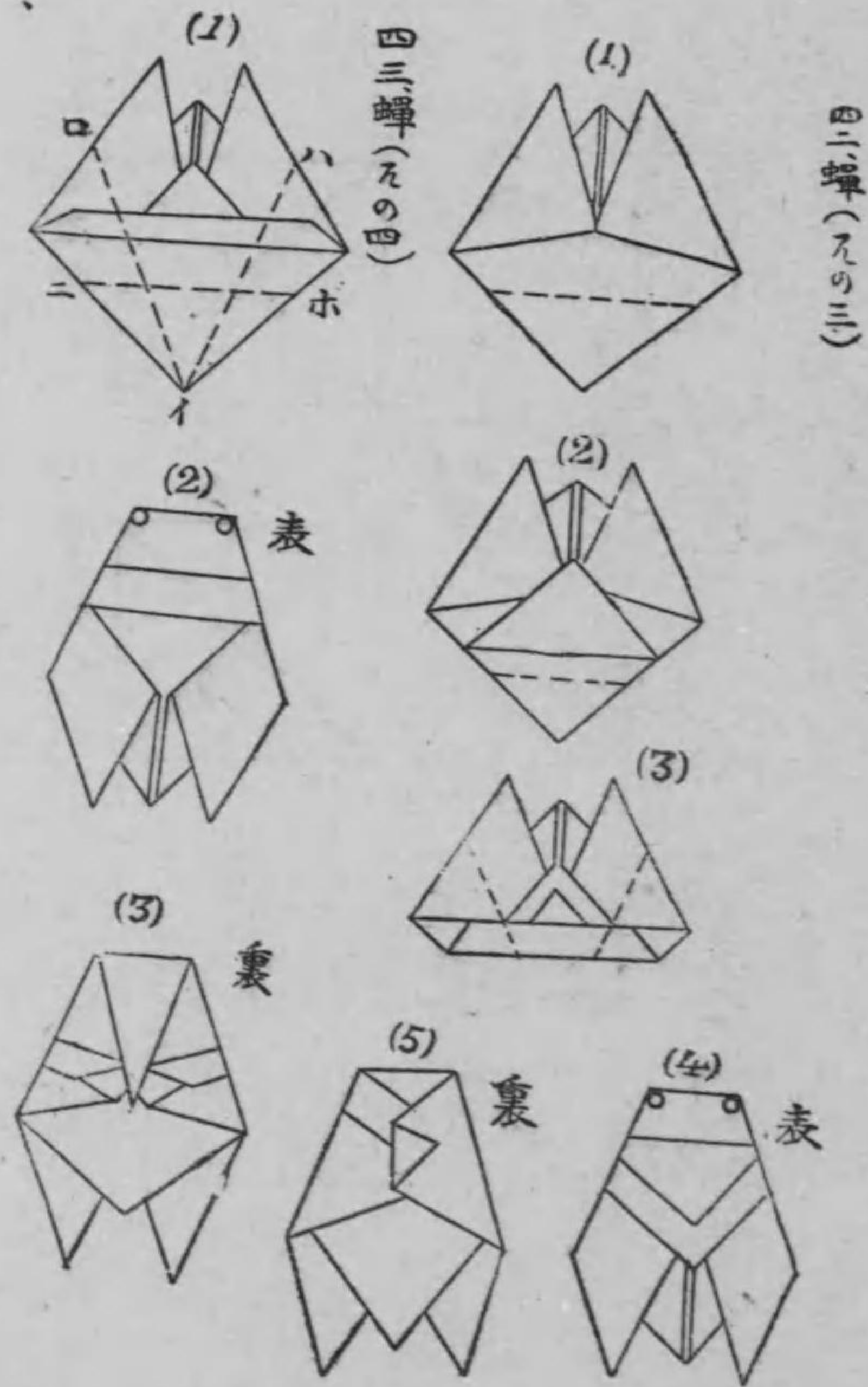
折り、今一度「ホへ」から折つて内方へ巻き終りに「チリ」點線に依つて縦に折り(4)「矢の示す如く中の方から斜に外方に押へ開けば(5)の船體を得。夫れに帆柱、旗等を作り裝飾を加へて大船の完成品とします。

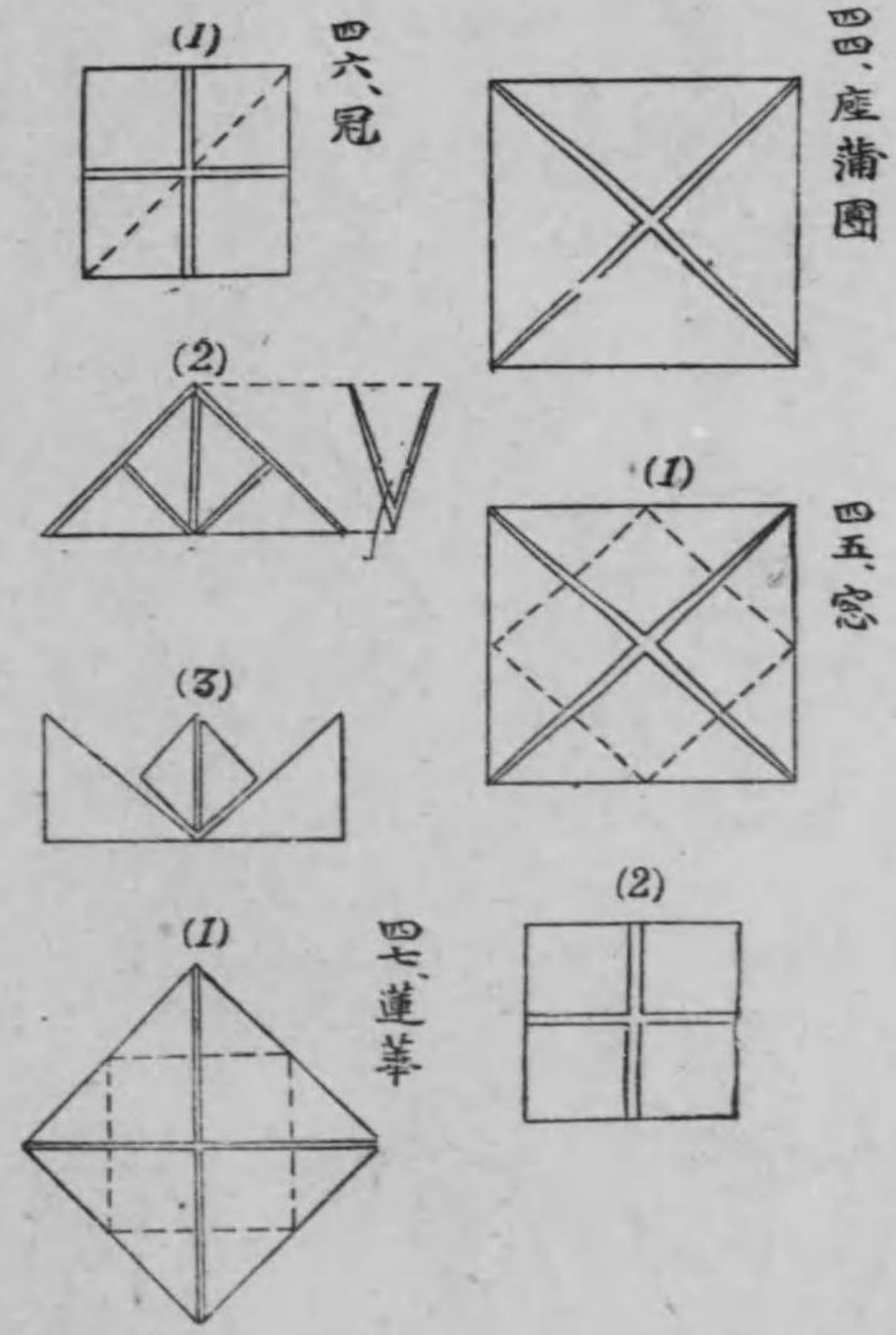
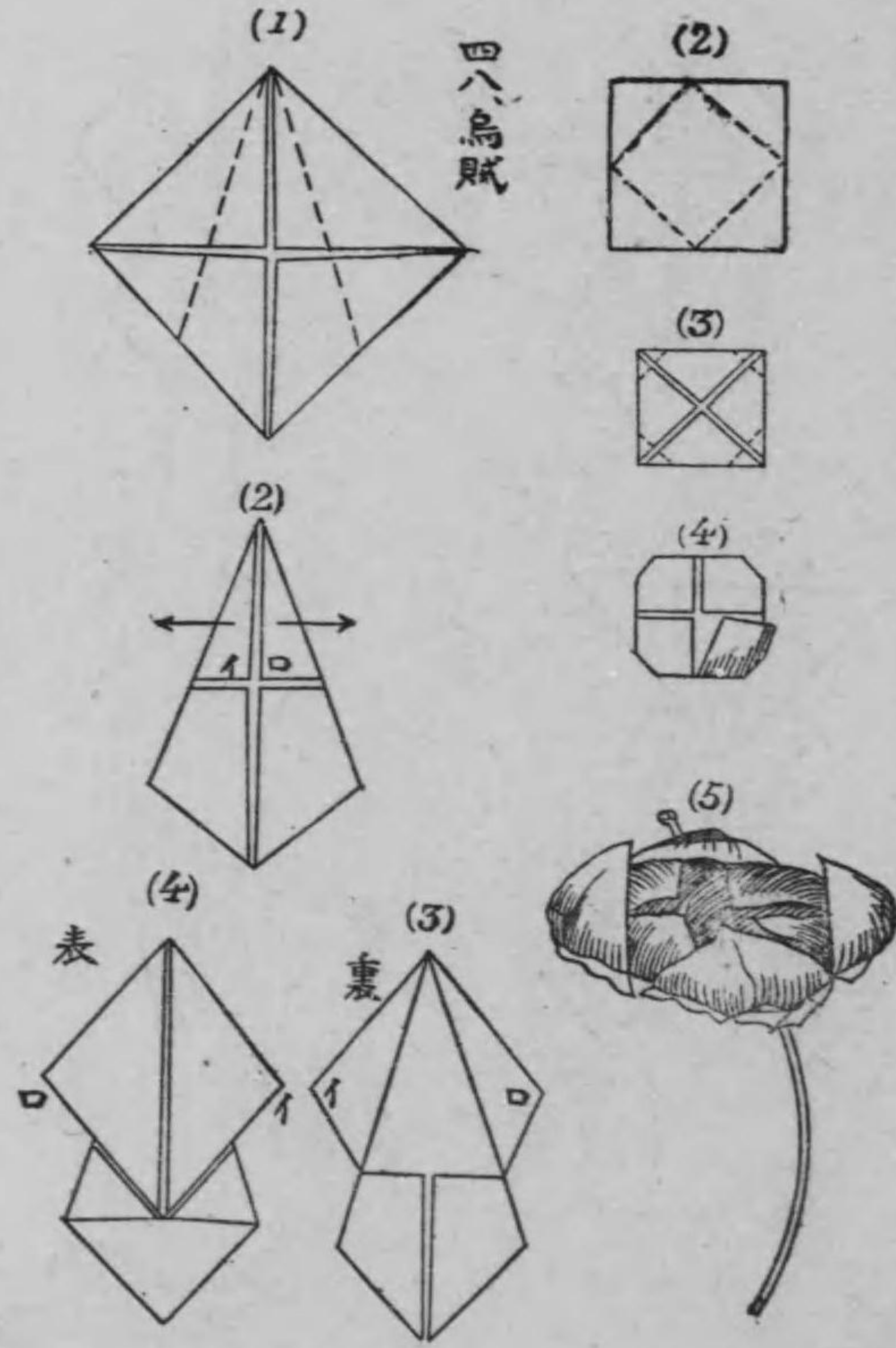
三八、塵斗

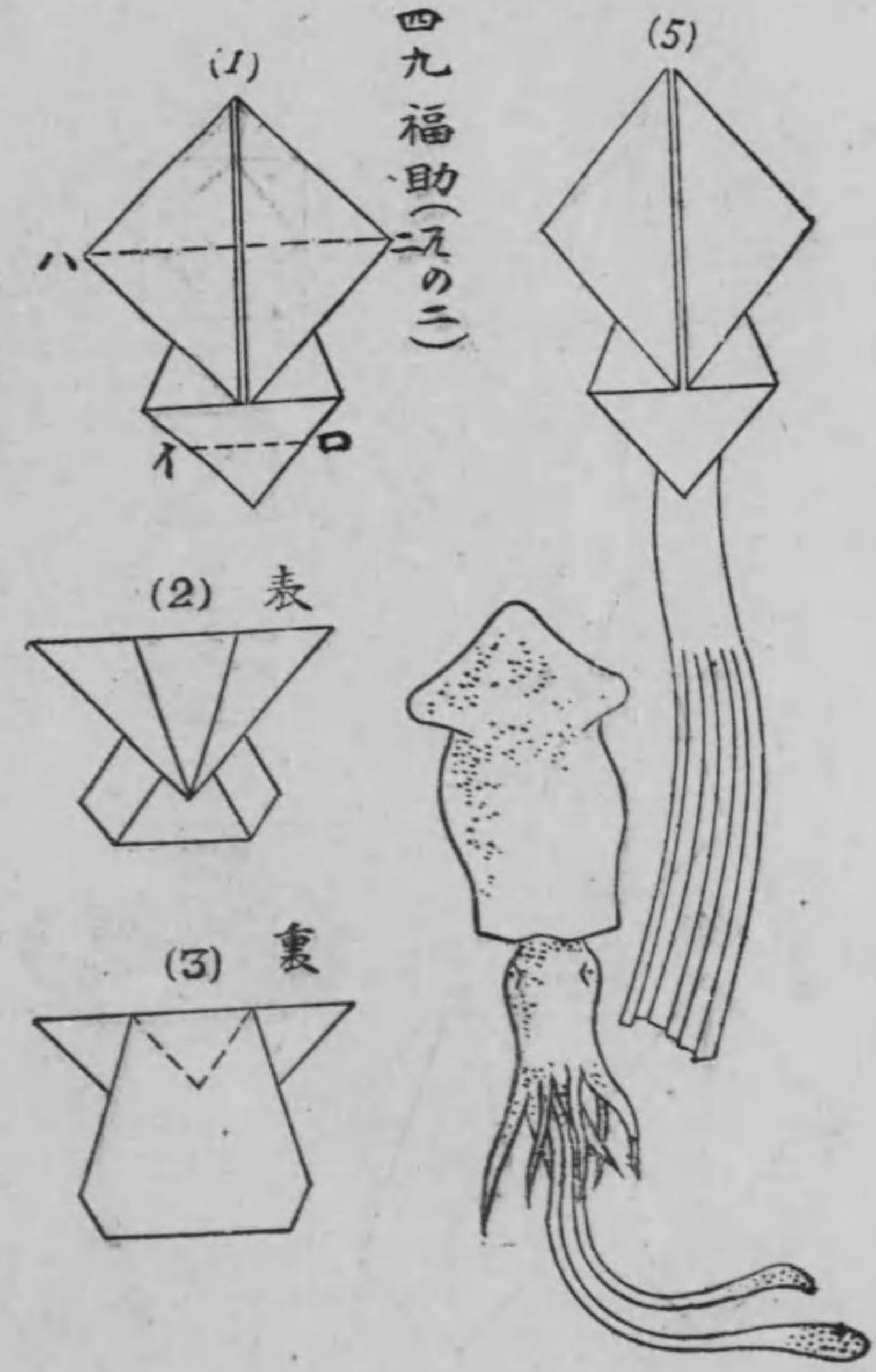
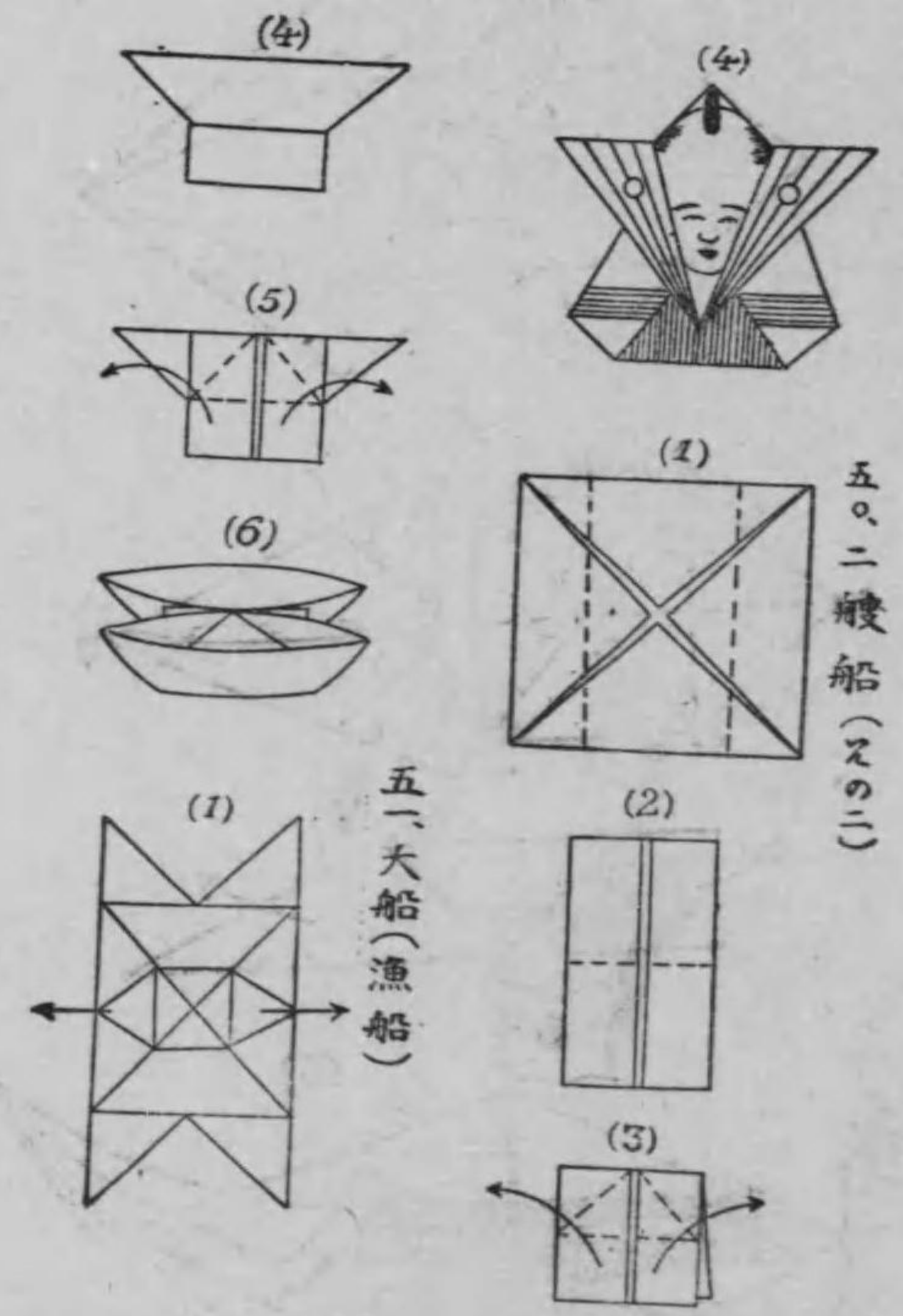


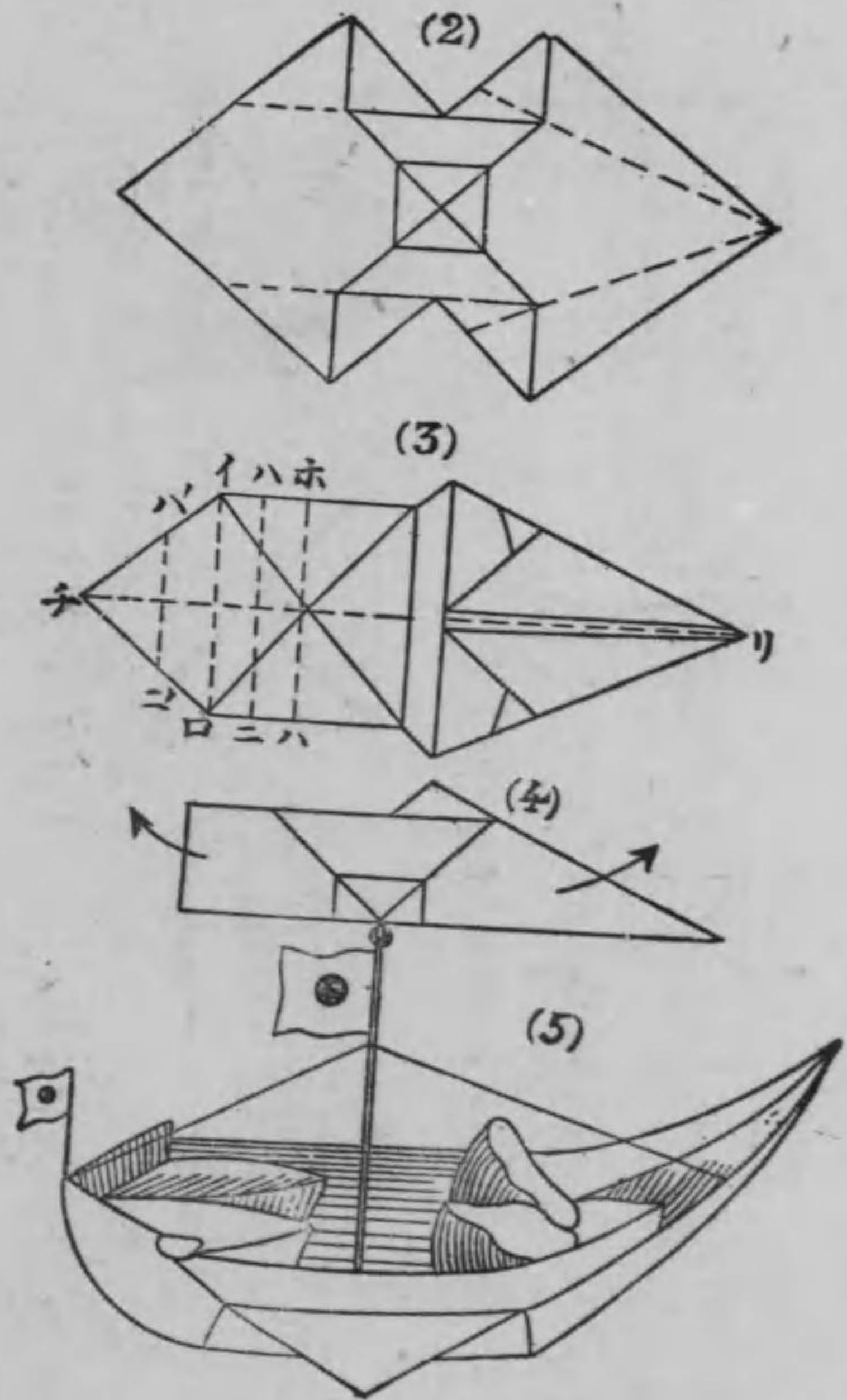
三九、龜











五二、三 寶

座蒲團を斜に作り(2)とし夫を「イ、ロ」の両端より中に折り込み(3)を作り左右に開いて中央から縦に折れば(5)になります。夫れを横に折つて(6)とし(7)の裏面へ點線に従ひ左右から折り合せ(8)を又點線に依つて兩方に分けて(9)を得、夫れを開いて三寶が出来上つたのです。

五三、菓子折

三寶の折り方(1)から(6)までを折つて菓子折折り方の(1)とし(1)の點線を折り向は(2)の點線を折り裏返して同様に折れば(3)の如くなる。これを左右に開いて(4)の點線を「イロ」「ハニ」から先に「イホ」「ヘニ」をも折つて更に裏の左右も同様に折れば(6)の如くなる。「トチ」線を下に折り下げ(7)を四角に開いて底を平にすれば(8)の如くなります。

五四、香箱

正方形の紙を(1)の如く斜に折り向は一回點線に依つて折り重ね次に(2)の點線に依つて頂點「イ」と中「ハ」を左方に開いて(3)を作り右も同様に折り込み(4)を得「ニホ」を内に「トヘ」を外に折り(5)とし矢の方向に従ひ(6)の如く右左に兩側及び向側を開き反對の側へ折り込み(7)を作り點線に従ひ四枚共上に折り上下顛倒して四角に開き底面を平にして香箱とします。

五五、蝙蝠傘

長方形の用紙を二つに折り(2)の點線に依り左右から折るかぶせて柄と先とを別に切紙にて作り裏面から貼付して(3)の如く蝙蝠傘を作り上げます。

五六、端艇

正方形の紙を(1)の點線の如く折り再び(2)の點線に依つて折り三寶の時の如く左右に開いて(4)(5)とし次に(5)の點線に沿ひ折りて(7)を得、「イロ」を後方に折り曲げ(8)を作ります。

五七、ふくら雀

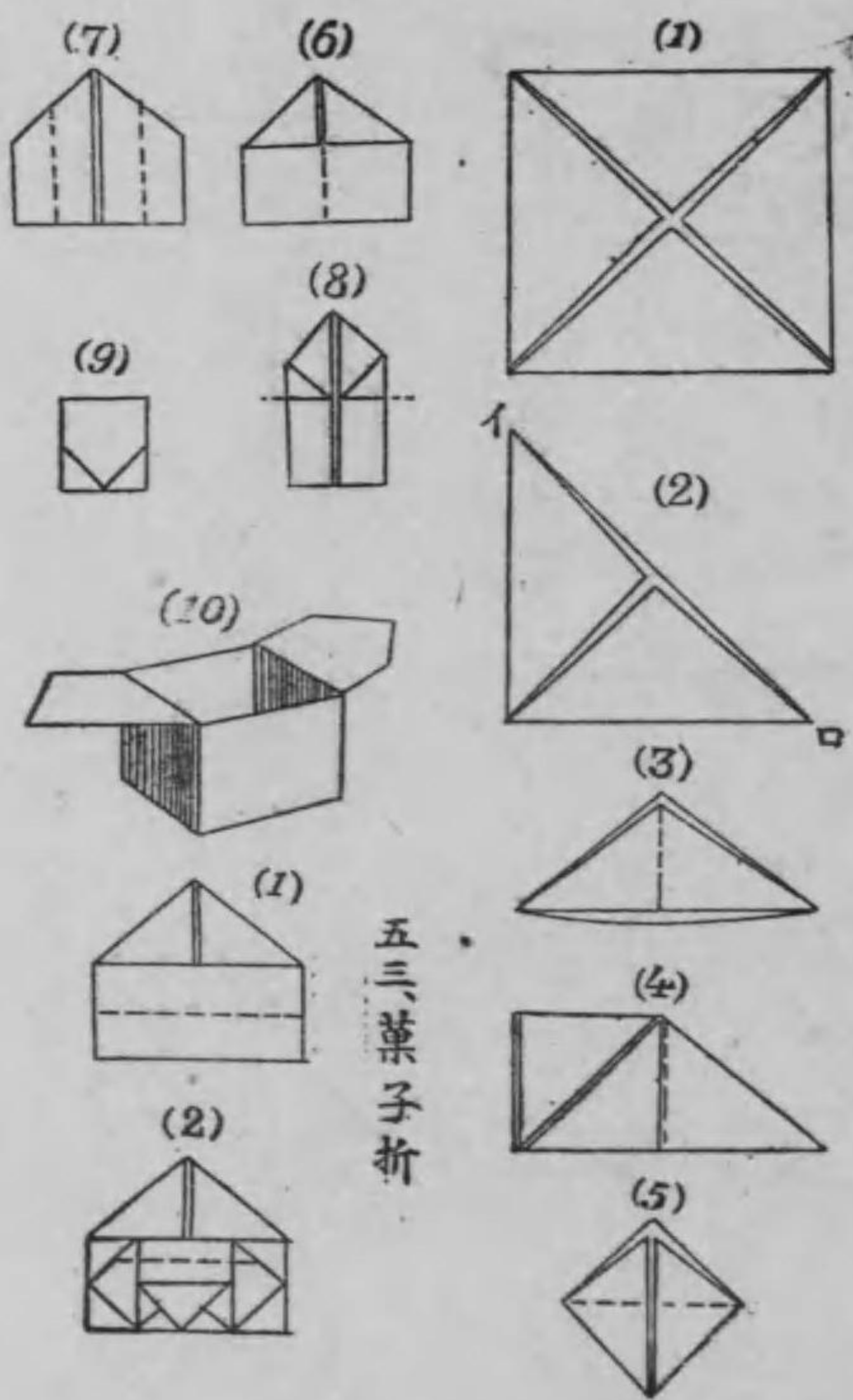
前のほうと(7)を取りて此の折方の(1)とし點線「イロ」「イハ」を折り裏も同様に折り上下を轉倒して「ホニ」を内側に折り上げて首と尾を作り(首の折り方は豚の鼻の折り方に同じ)(2)の下から矢の方向に呼氣を吹き込めば出來上る、ふくら雀とは雀の雛の肥え脹れたるが羽を延ばしてゐる様をいふのであります。

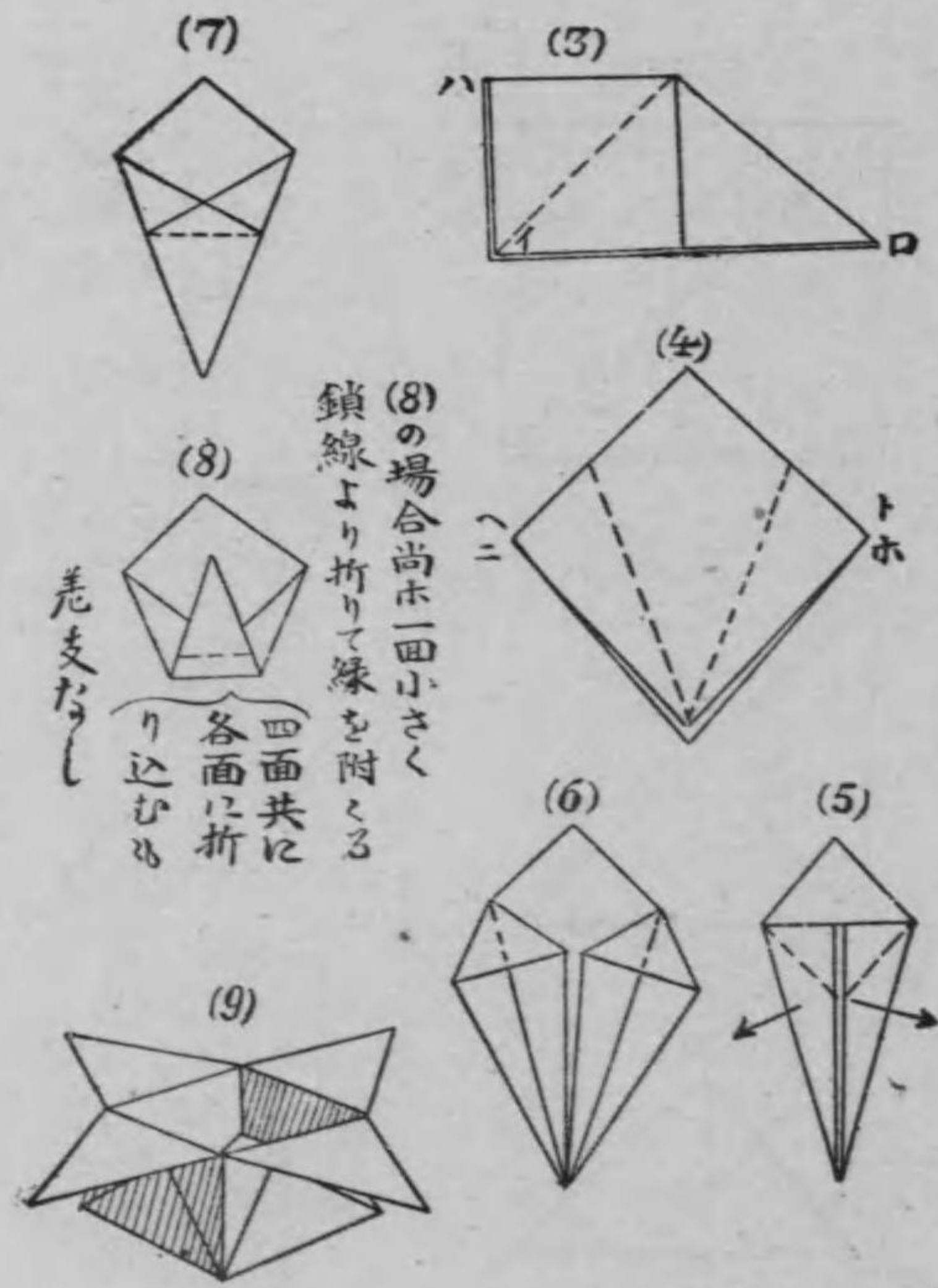
五八、體操

ふくら雀と同じく端艇の(7)を取りて(1)とし點線を折り裏も同様に折り尚一回(2)の點線通りに折り(3)とす。是と同様のものを二つ作りて(3)(4)の如く持ち矢の如く兩方を挿し込みて

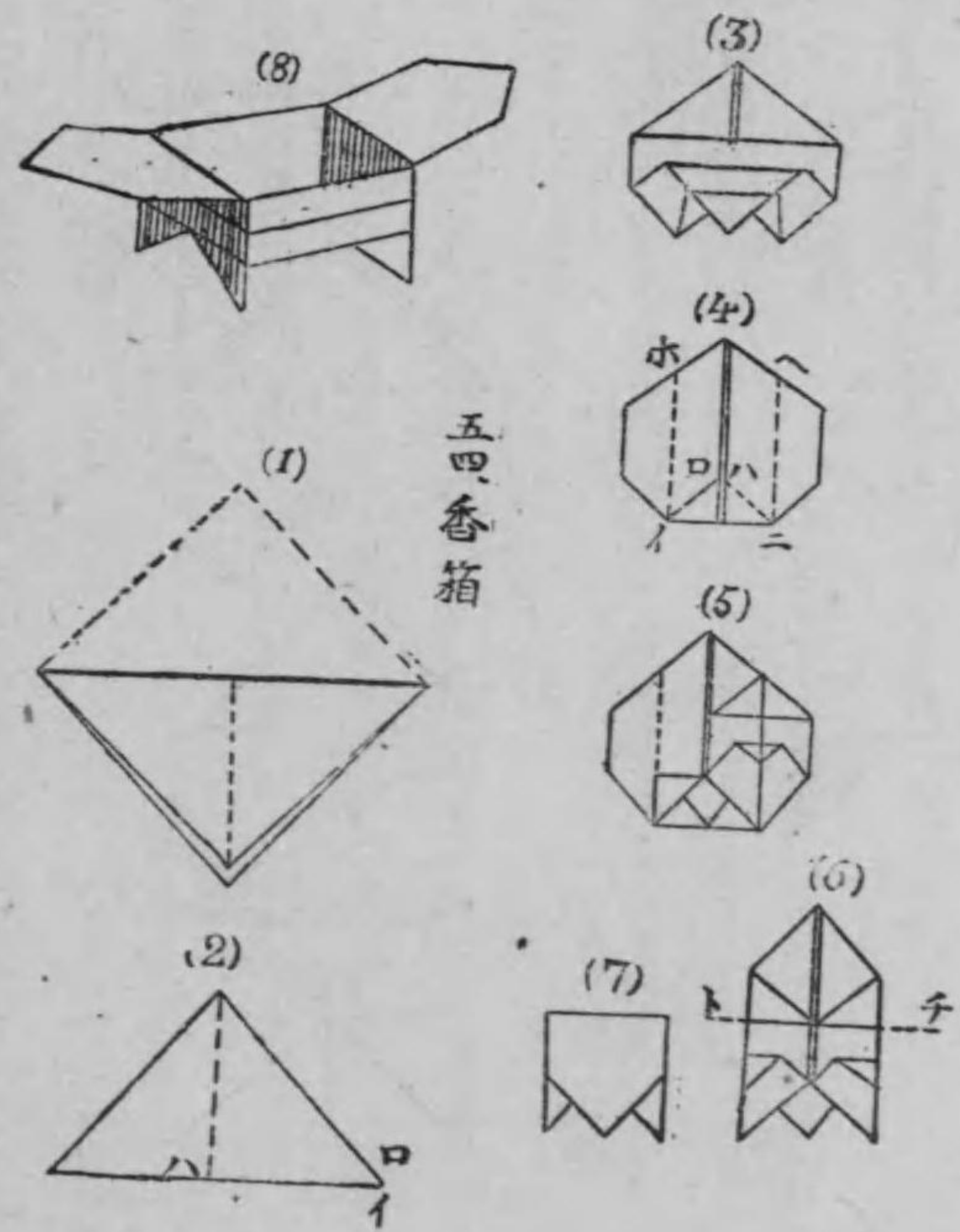
と足とを作り別に作れる首を挿し入れ子供の體操をしてゐる形とす。(6)に持てる球竿は厚紙にて作り(5)の折り方を少し代へて持たしむ。

五二、三寶

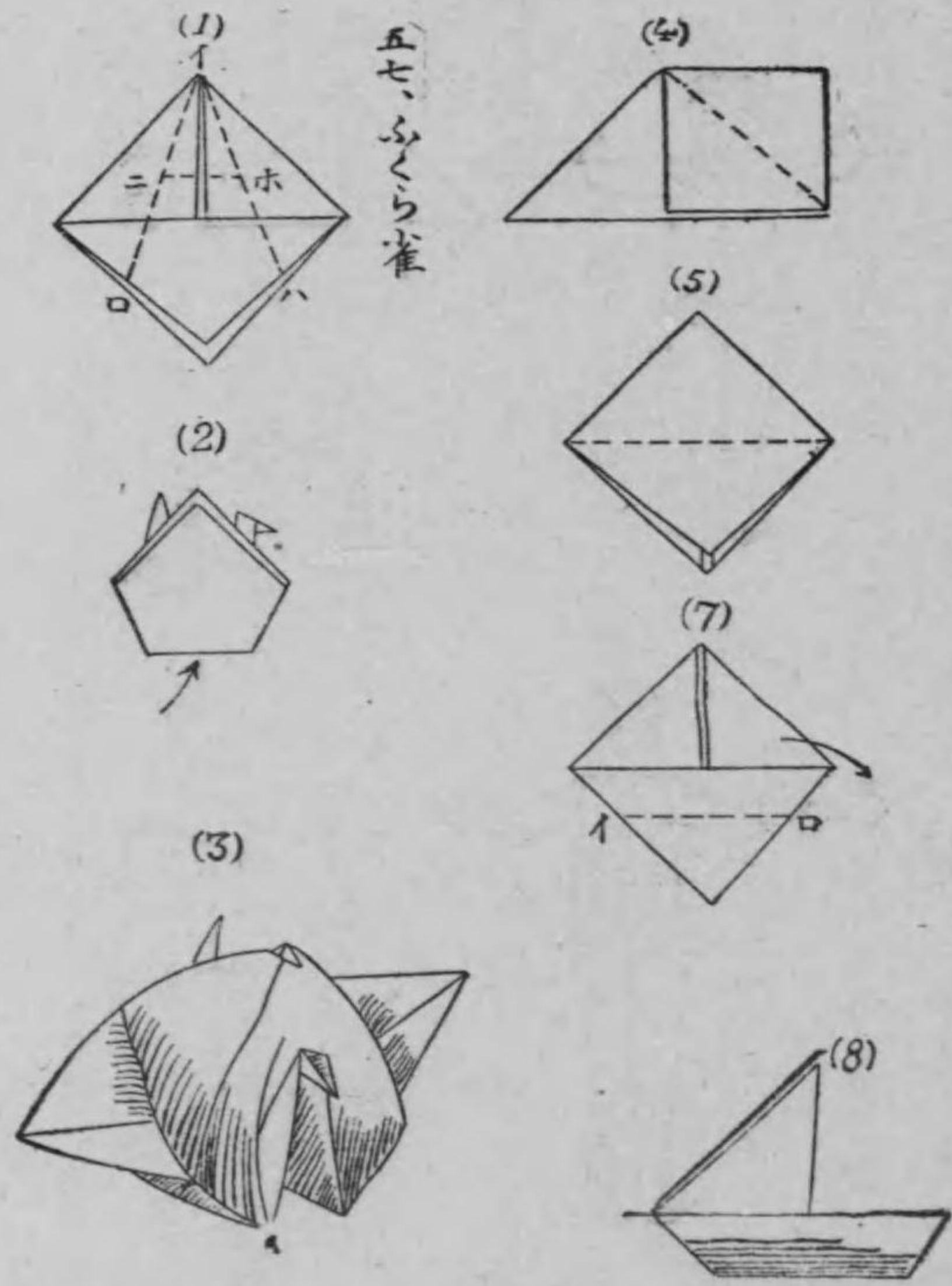




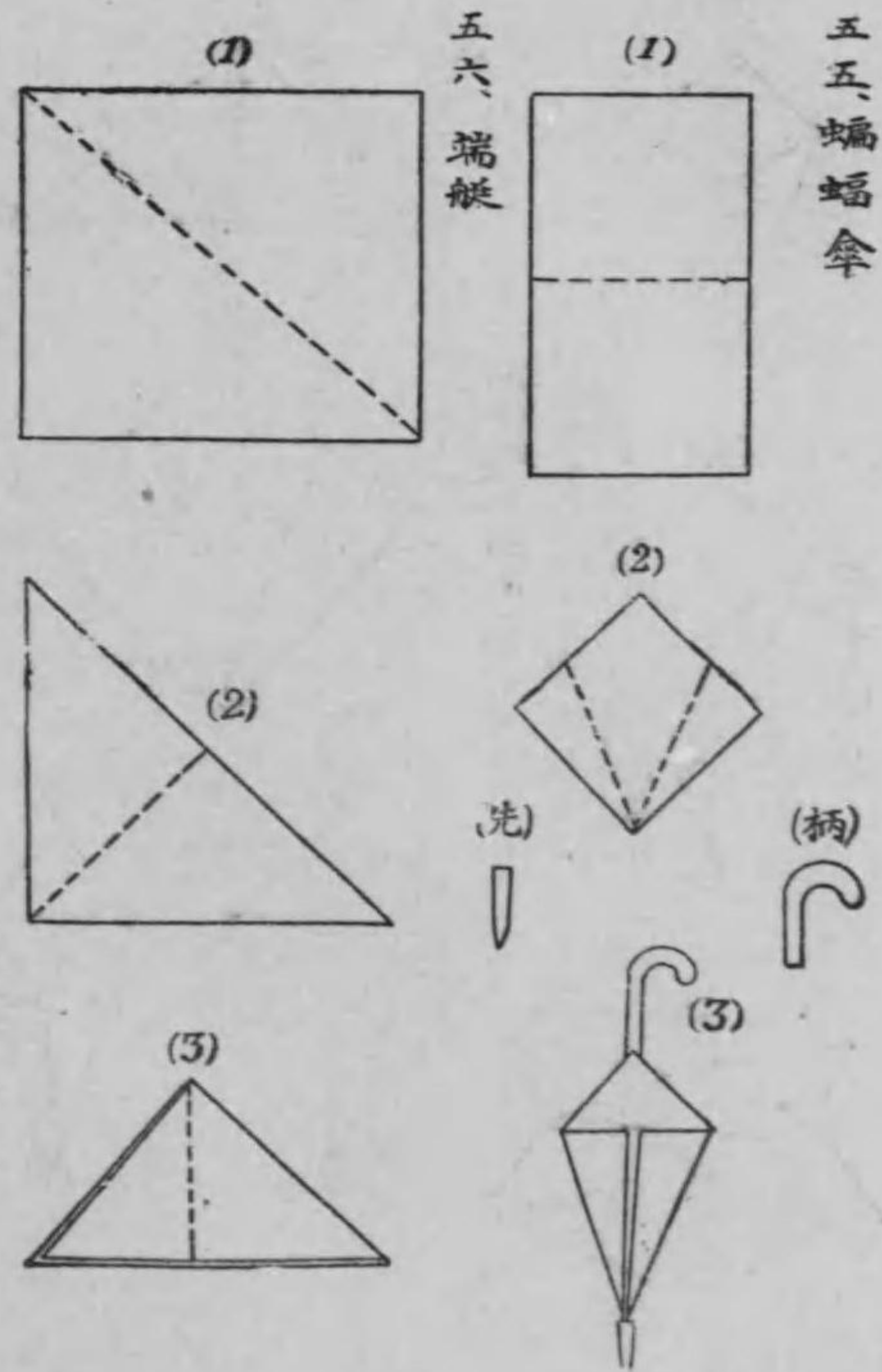
(8)の場合尚ホ一回小さく
鎖線より折りて縁を附くる
四面共に
各面に折
り込む
差支なし



五四香箱



五七、ふくらみ舟



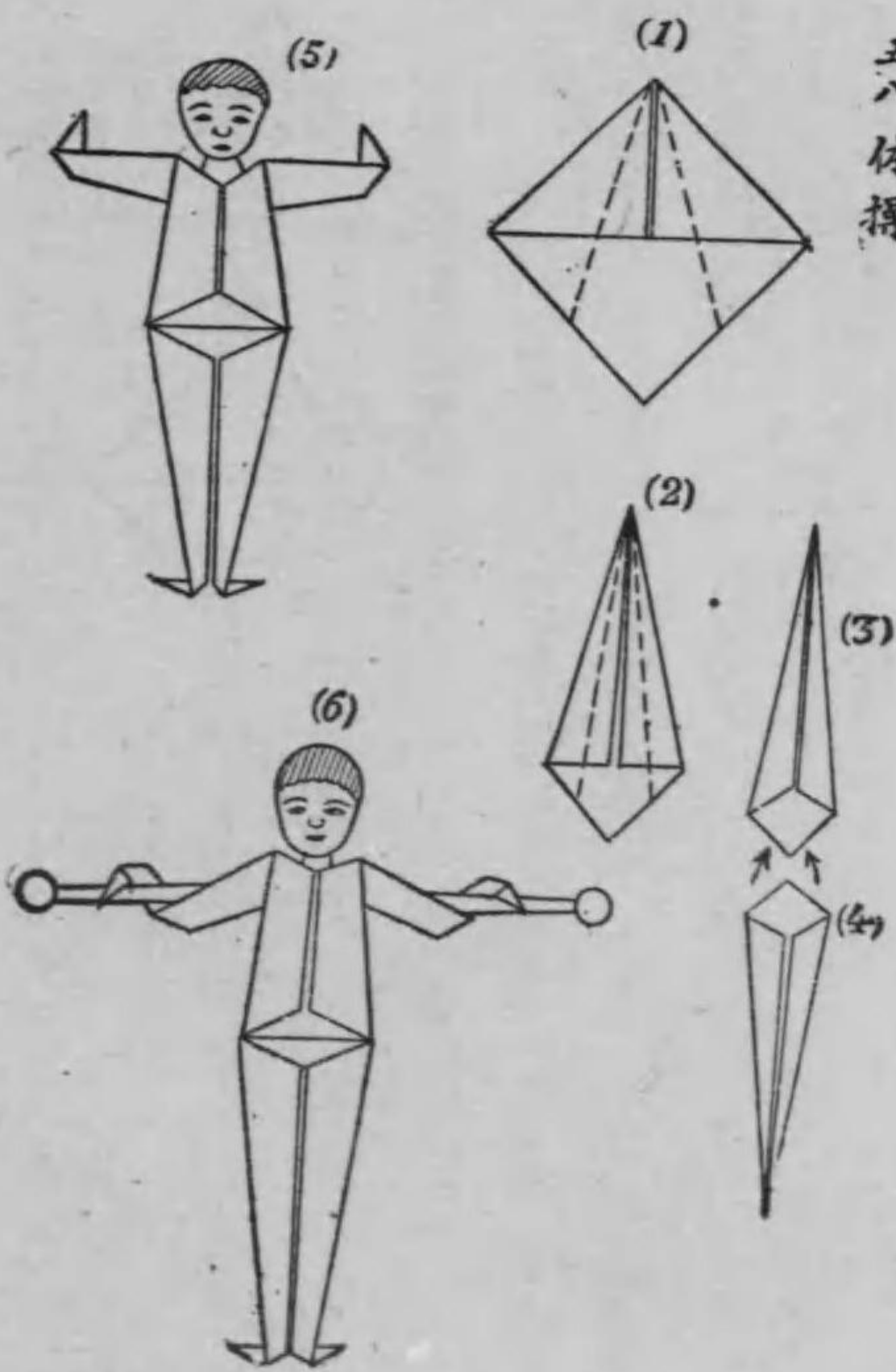
五六、端艇

五五、蝙蝠傘

(先)

(柄)

五八、体操



五九、菊皿

體操折り方の(2)を菊皿折り方の(1)とし「イ」の下に小さな棒を挿し入れ(2)の如く「イ」を引き出して(3)の點線を上方に折り上げ(4)の「イ、ロ、ハ、ニ」の角を開いて平にすれば菊皿になります。

六〇、火鉢

菊皿折り方(4)を火鉢折り方の(1)とし點線に依り(2)の如く折り(2)の點線を左右から折れば(4)になります。向側も同様に折り底を平にして四本の脚を以て起たしむれば火鉢に出来上つたのです(4)。

六一、お駕籠

菊皿折りの方の(4)を以てお駕籠折り方の(1)とし點線の如く前後に折りて(2)を作り更に點線「ハニ」を折り上げ上方に餘れる部を中へ折り込み左右へ開けば(4)となる。(4)を點線に従ひ兩側から折リ、更に上に折り上げて(5)(6)を作り(6)の「イロ」を左右に倒し「ハ」なる底面を平にして(7)を作る。

六二、鳥

菊皿折り方(3)を鳥の折り方の(1)とし片側丈を内方に折りて(3)とし其中央點線に依つて前面に折り合せ脚を立て、先端を作り體を斜にして頭部を作り完成す。

六三、鶴 (その一)

鳥と同じく菊皿折り方(3)を取り(1)の點線「ホヘトチ」に従ひて(2)の如く折に向側も同様に折つて首と尾とを折り上げ(4)とす。

六四、鶴 (その二)

鶴其一の折り方の(1)「ハニ」線に依つて折り「ヘ」を上方「ヌリ」の間に折り込み「チ」も同様に「イロ」から折つて「ヌリ」の間に折り上げ「リス」を下方に「ハロ」點線に依つて折り以て(1)とし先づ「ハニ」から折つて「リニ」を「ヘニ」に揃へ更に「ハニ」を「ヘニ」に折り重ね開いて再び扇の折り方に折り直し向側も同様の手数を経て(4)とし頸を作り翼を左右に開いて仕上げる。

六五、鶴

鶴の折り方其一の(3)を以て(1)とし折り上げたのを以て頭を作り下方に残れるものを脚とし兩翼を左右へ折り下げれば(2)の如く鶴の形が出来る。

但し脚を作る場合は中央の合せ目から切り放ち二本として前方に尖端を折つて作る。

六六、郵便集配人

鶴の折り方の其(2)の完成したのを以て(1)とし「イロ」線から折り下げ更に「ハニ」から折り下げ革靴となし向側の残つてゐるのを「ヘホ」の場所に缺を入れ、上部を左右に開き(3)の形を作り笠、顔を書き残りの並行線を引ける部分を切り落し足を折りて(4)とす。尚ほ之に各部の形状を書き添ふれば郵便集配人が出来上るのであります。

六七、蜻蛉

鶴を折り頸を中央から截り落し背に當る三角形の處を一方に折りて挿み翼は中央から缺を入れて二分して(1)の如くし向側も同様に截り頭を少し折り翼も稍左右に開いた様に折り蜻蛉の形を仕上げるのであります。

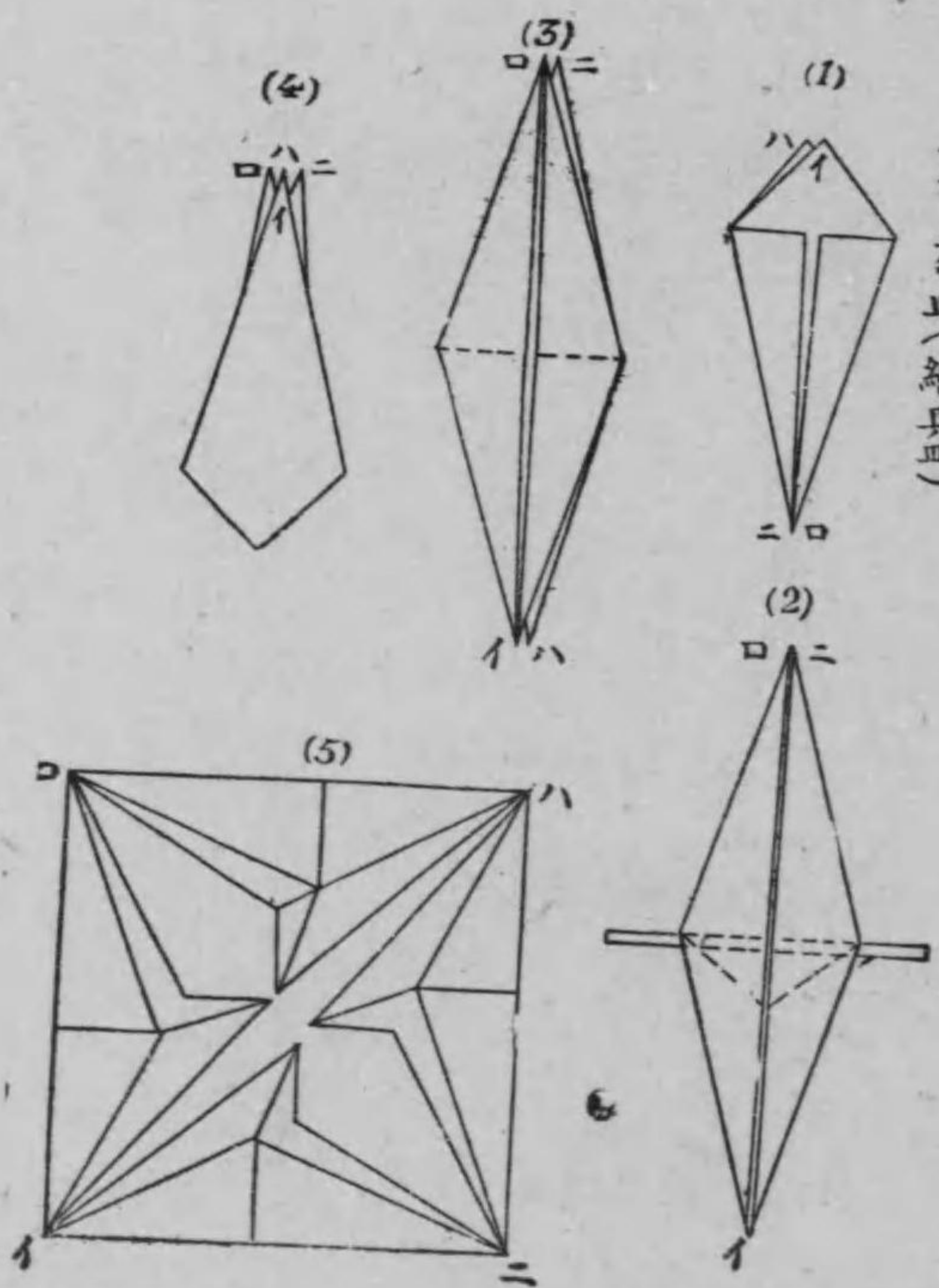
六八、燕 (その一)

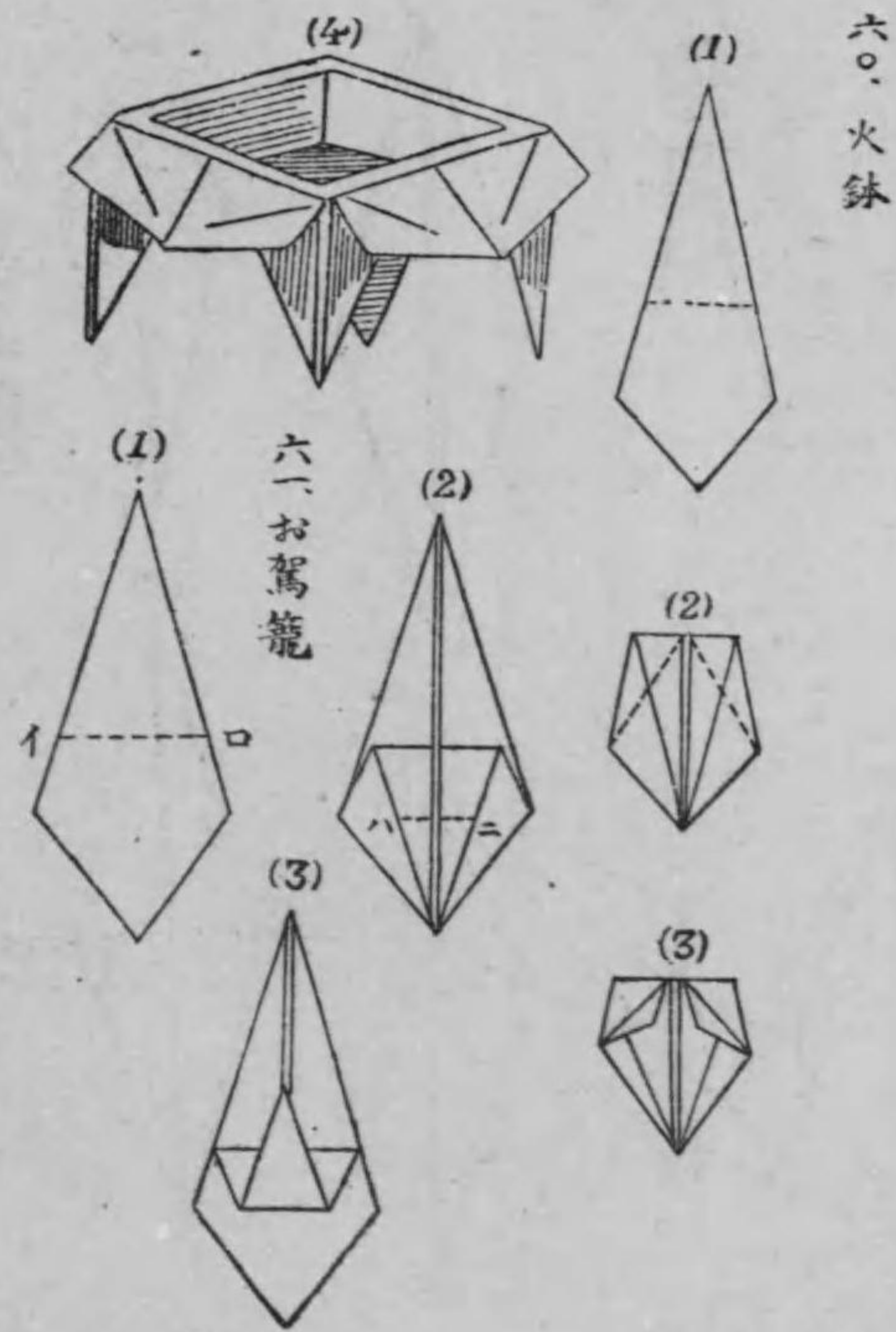
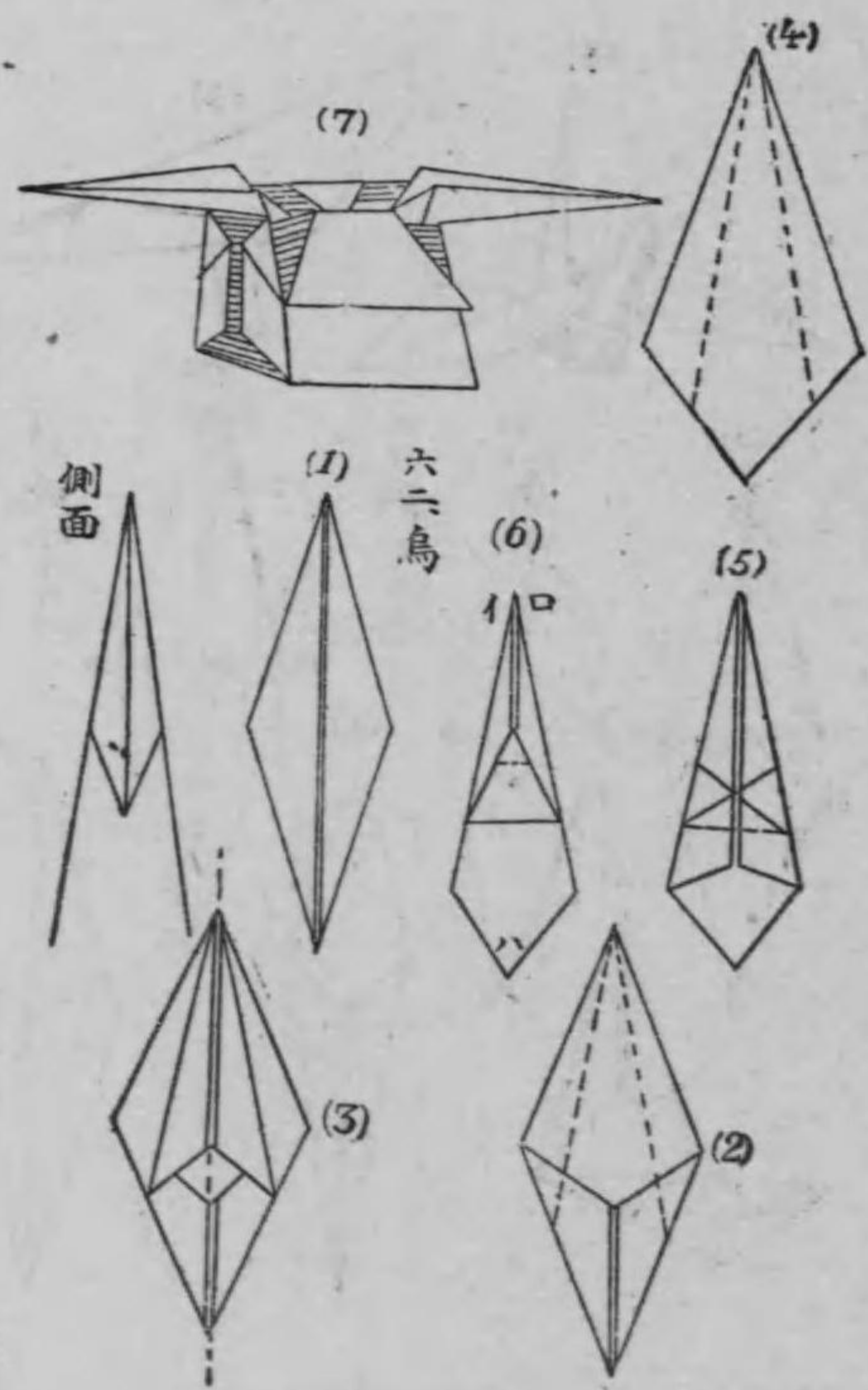
鳥の折り方の(2)を(1)とし點線に従つて左右から折るかぶせ(3)を轉倒して(4)の如き位置に置いて點線から上方に折り上げ尚ほ二回點線に沿うて折れば(6)となる。(6)の「ホヘ」を矢の示す方向に折り擴げ燕の形とします。

六九、燕 (その二)

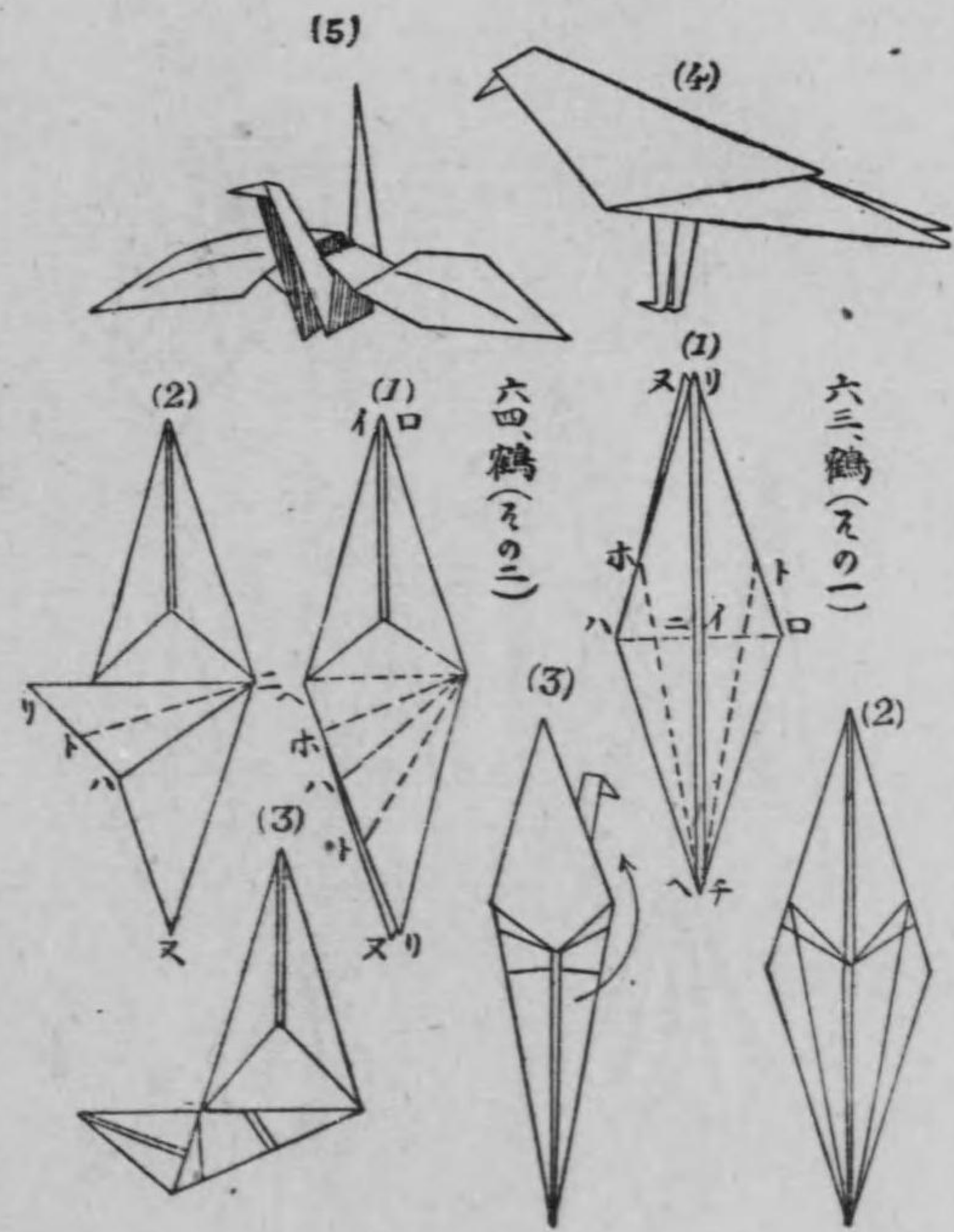
其一の(1)を取り「イ」から鎖線に従ひ鉄を入れ「ロ」に至つて止め「ハロ」「ロニ」の點線の如く斜に折り重ね、下方の「ホへ」を矢の示す方向に開き(3)の如き形を作り點線に依つて折れば(4)のやうになります。圖にある點線の「イ、ロ、ハ」の順に漸次上に或は下に折り之を表に返して(5)即ち燕の形とします。

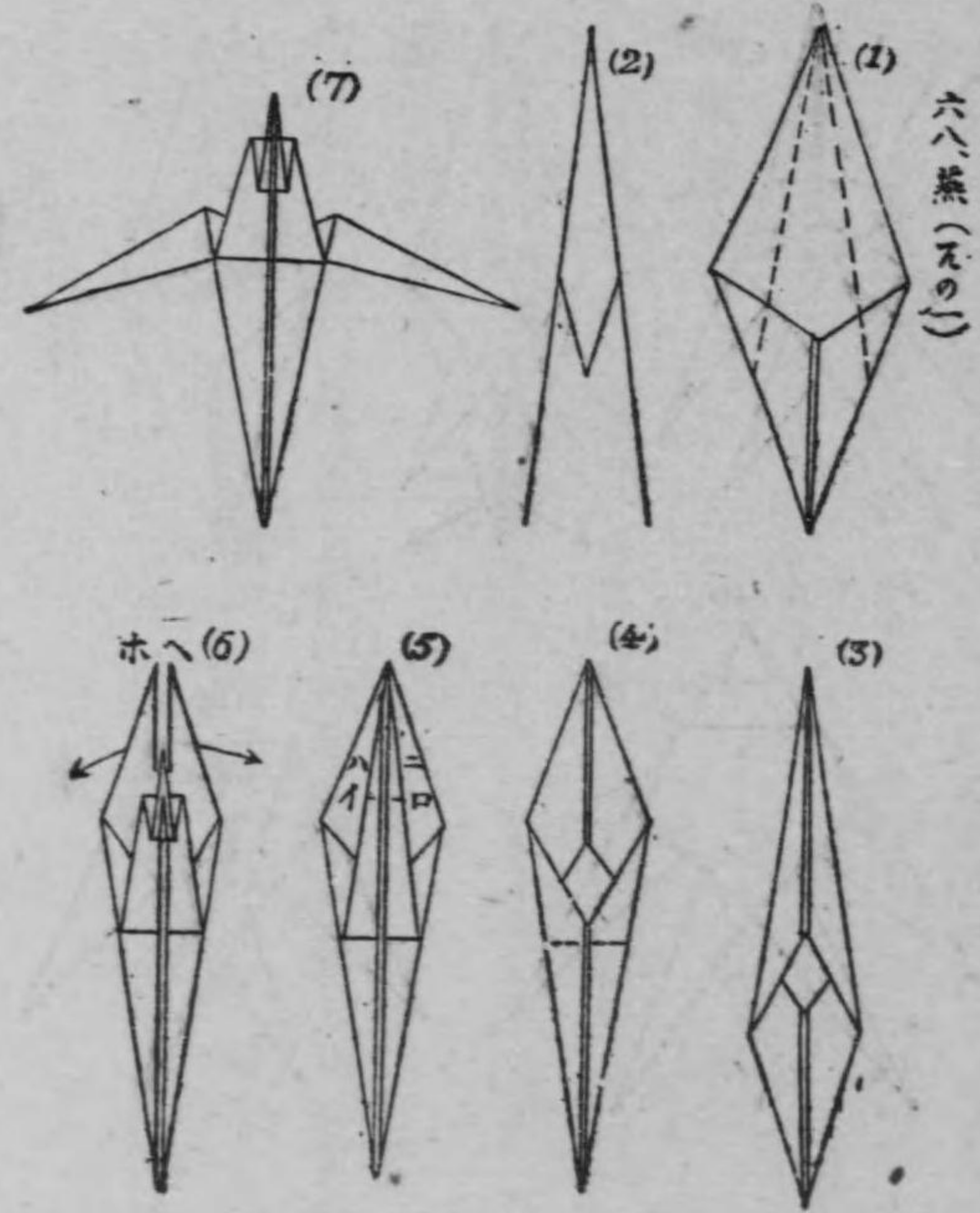
五九、菊皿(繪具皿)





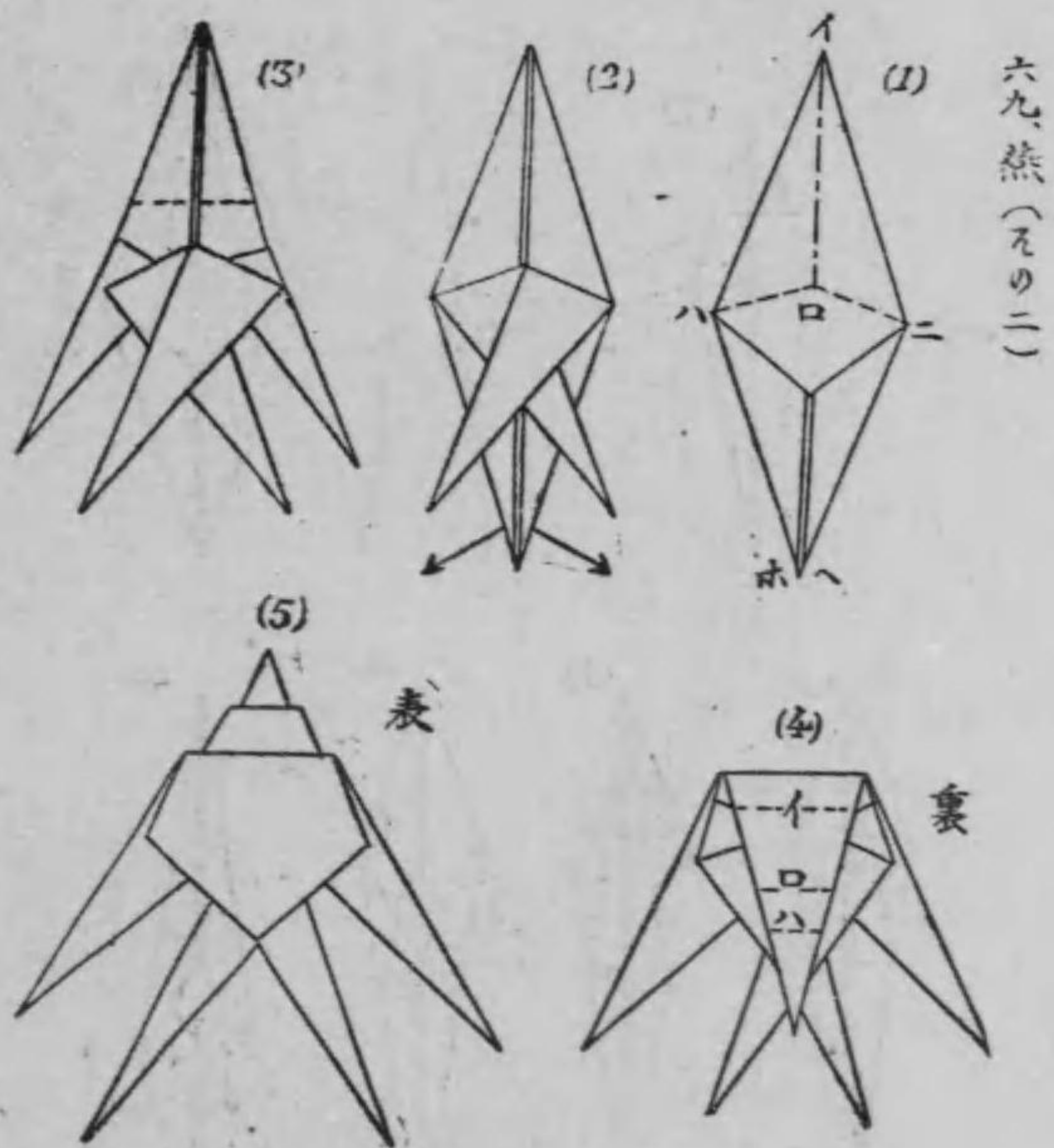
欠





六八燕(元の)

欠



六九、燕 (スリニ)

七〇、名刺入

長方形の紙を二枚取り圖(1)の如く折り(2)の如く二枚を裏合せに十文字に置いて「イロ」「ハニ」の上下から折つて尙ほ點線から折り「ホへ」に挟んで(3)(4)の如く作り裏返して(5)とし前と同様に折つて「トチ」に挟み(6)の如く作り上ぐ。

七一、粉類包

長方形の紙を二つに折つて(1)の點線から裏へ折り返し(2)の點線「イロ」「イハ」を折り次に「ハハ」「ニホ」を折り上げ(3)の點線「イへ」「チへ」を裏へ折り返し(4)の裏に挟む。

七二、着物

半紙を縦に三等分したる細長の紙を取り圖(1)の如く三つに折り尙ほ長線に従つて裏へ折り返し更に(2)の如く折つて襟となし(2)の點線に依つて襟の處まで接する度合に左右から折り曲げ夫れを開いて(3)の如くし「イロ」から裏へ折り下げ「ハニ」から裏の一枚だけを裏へ折り上ぐれば(4)なる着物になります。

七三、四角疊

正方形の紙を(1)の如く折り目を付け「イホ」「ハト」「ニチ」「ロへ」の鎖線を内へ「リホ」「イ

ト「ルチ」「ヌヘ」の點線を裏へ折り石疊を(3)の如く作れば仕上がったのであります。

七四、六角疊

正方形の紙を(1)の如く折り「イロ」鎖線を裏へ「ハロ」點線を表へ折つて(2)の如くし「ホニ」から上の並行線のある部分を切り捨て(3)の點線から折目を入れ開いて(4)の鎖線を表へ點線を裏へ折り疊めば六角形の袋になります。これは糸屑を容るゝのに使ひますから糸屑入とも云ひます。(5)(6)は折り方は別に大した違ありませんから説明を省略いたします。

七五、八角疊

正方形の紙を(1)(2)の如く折り(3)の並行線の部を切り放ち尙ほ點線に折目を入れ開いて(4)の點線鎖線を前に準じて折れば出来上ります。

七六、風車

正三角の紙を取り(1)(2)の點線に従ひ折れば(3)になりますから(3)の「ニ」を起し「ロハ」の點線を折り上げ同時に「ロイ」に折目を入れて(4)のやうに作つて仕上げます。

附。正三角形の紙とは一邊九寸のものを指す。以下之に準ず。

七七、燕子花 (その一)

正三角形の紙を取り圖(1)「イロ」點線を折り(2)の鎖線「ハホ」から「チ」を「中へ折り込み(2)(3)と順次點線を折つて(4)とし(5)の如く開いて點線を折れば(6)となりますから夫れを向側まで同様に折り上端を各々三方に倒せば燕子花となります。

七八、燕子花 (その二)

其一の折方(5)を取り縦に折り(1)の如くし「イロ」點線に依つて下に折り同時に「イハ」「イロ」から折つて(2)の點線を上に折り上げ(3)の點線を折つて上方を開けば其二が出来上ります。

七九、蛙

香箱の折り方(4)を蛙の折り方(1)とし「イロ」「ハロ」「ニホ」の點線を折つて(2)の點線に依り「ホ」を上に折り曲げ(3)をくみかへ(4)とし(5)の如く組み代へて(6)を作り下方の細長き部を以て手及び脚を折り、目を書き下の方から呼吸を吹き込んで蛙とするのであります。

八〇、熨斗包 (その二)

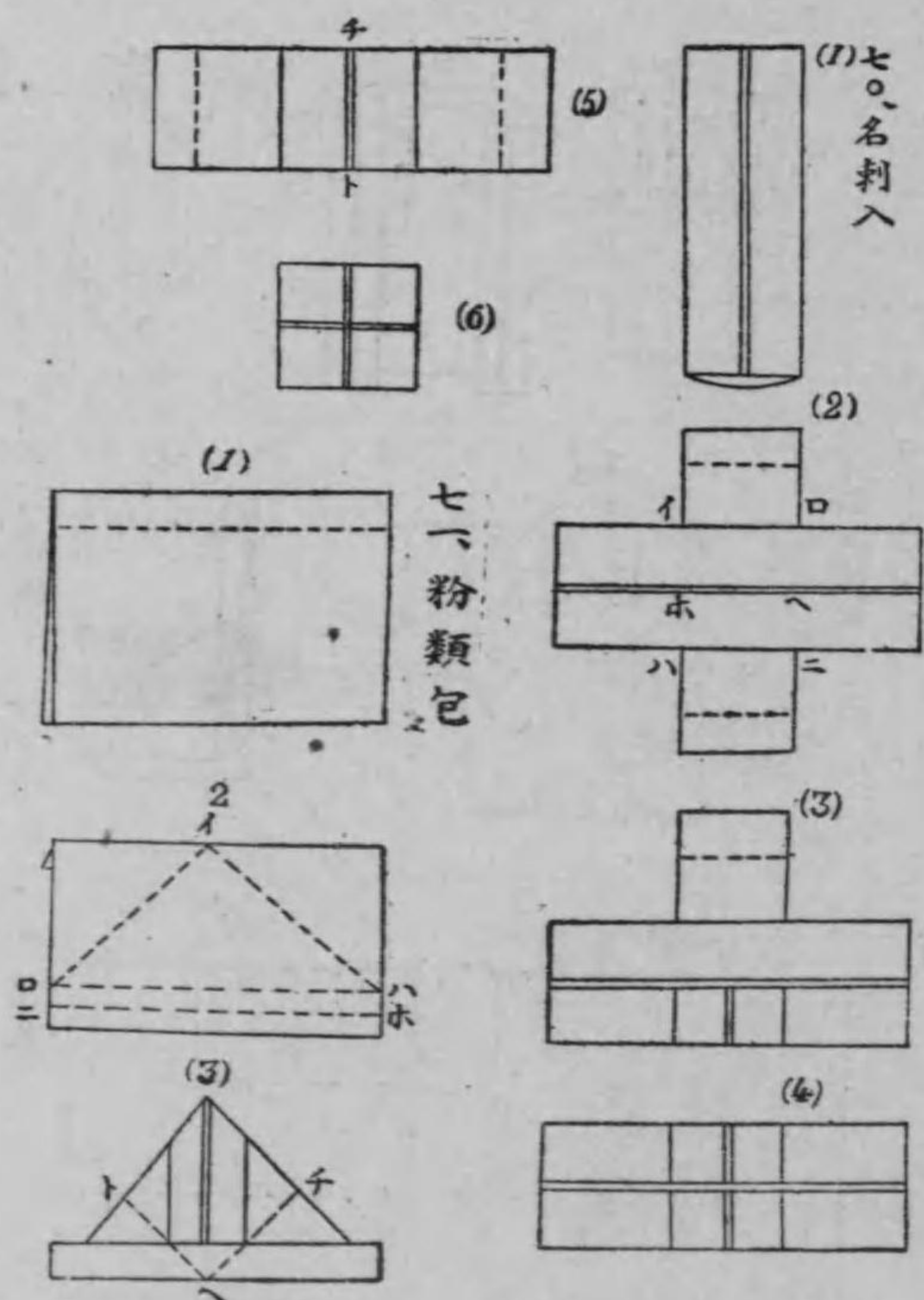
物を紙に包むときは其物を包紙の兩端に少し出してそれと見ゆる様に包むのが普通の包み方でありますが中に包み込む必要のある品は正式に言へば表に何々と記すべきものであ

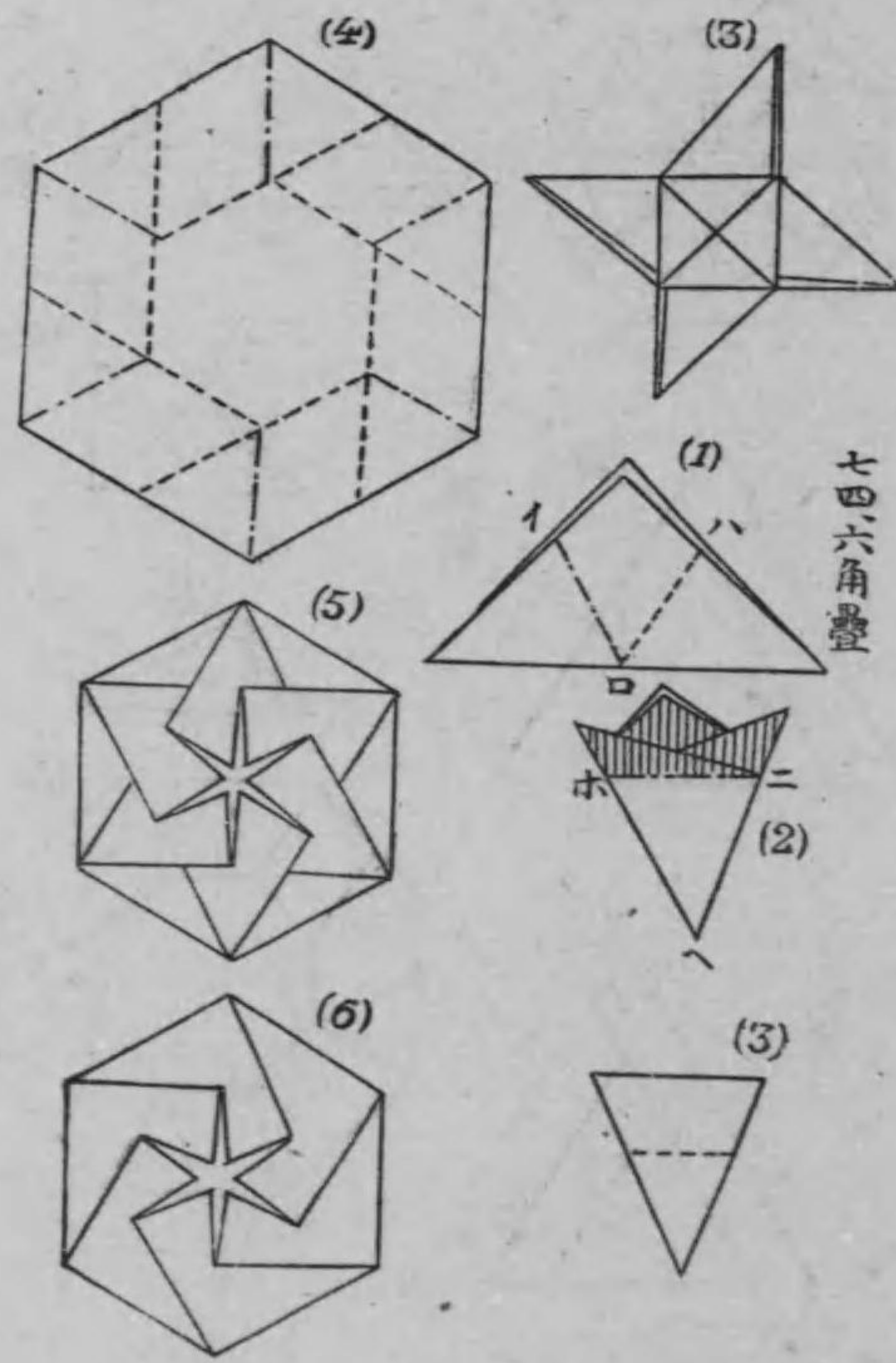
ります。

附。折り方は圖に依つて明かでありますから説明は省略いたします。

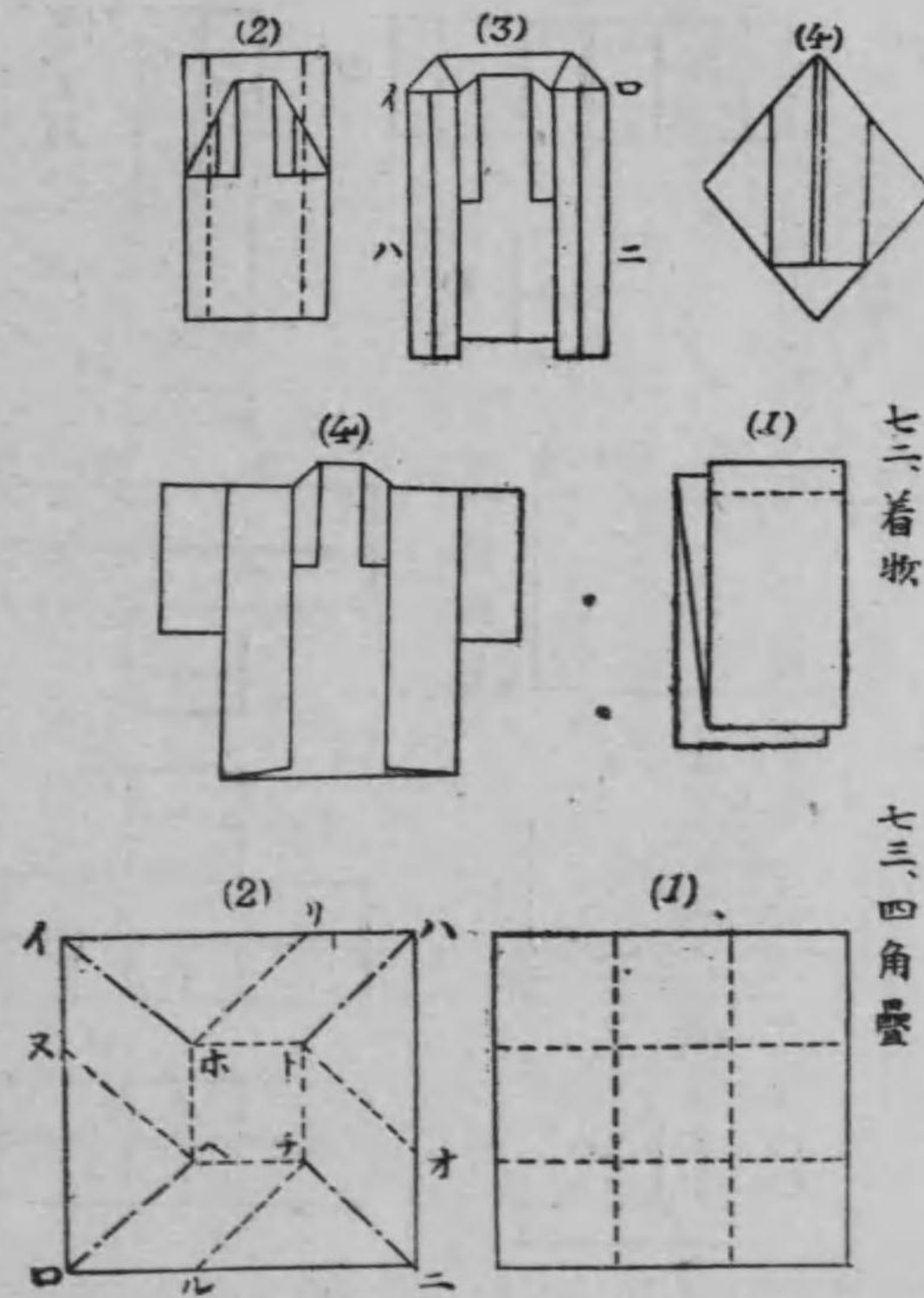
八一、末廣包

末廣といふのは扇子の別名で開けば末廣になるといふところから付けたのであります。之を祝の贈物に添ふるのは其行末が廣がり榮える様に壽く意味であります。



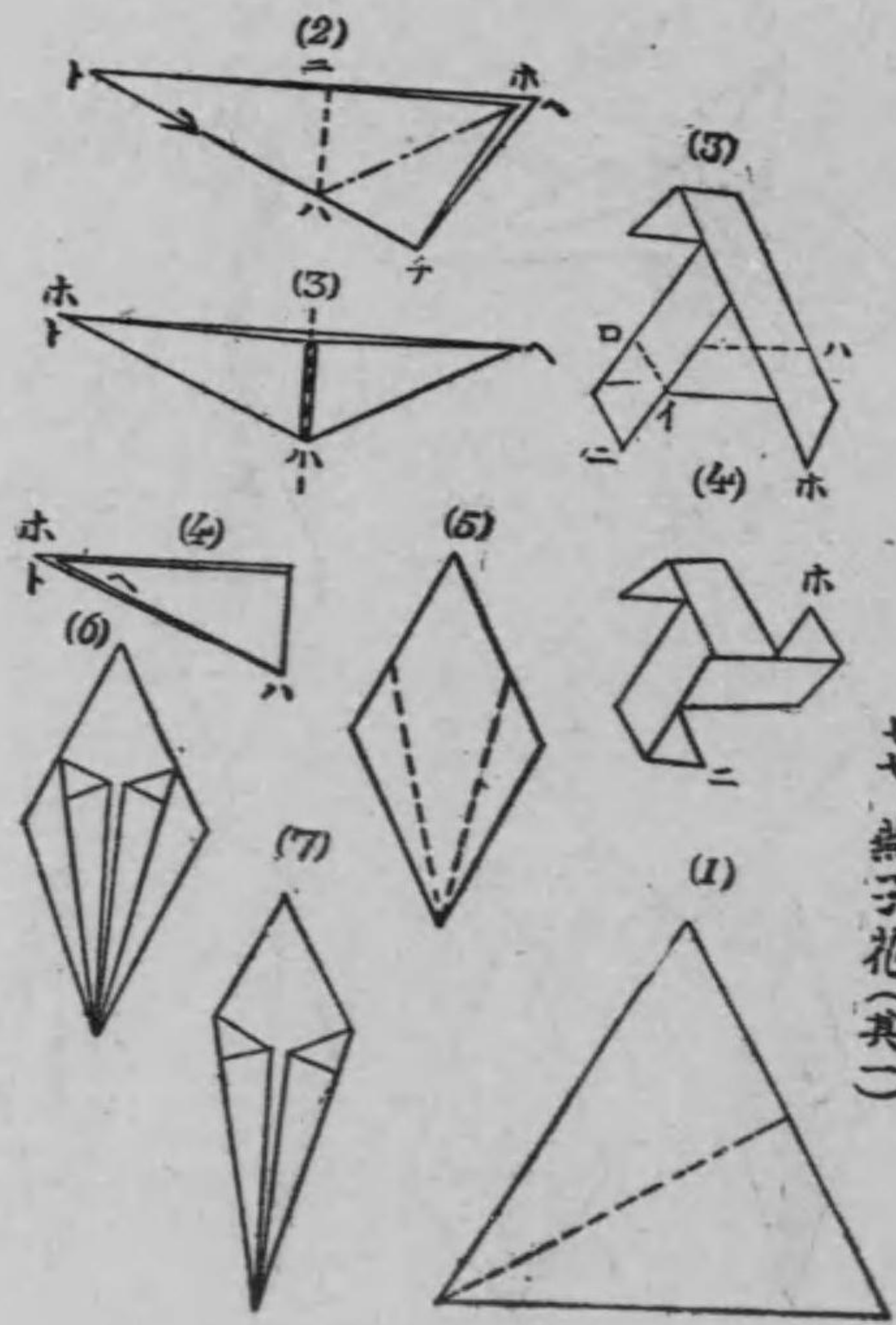


七四六角疊

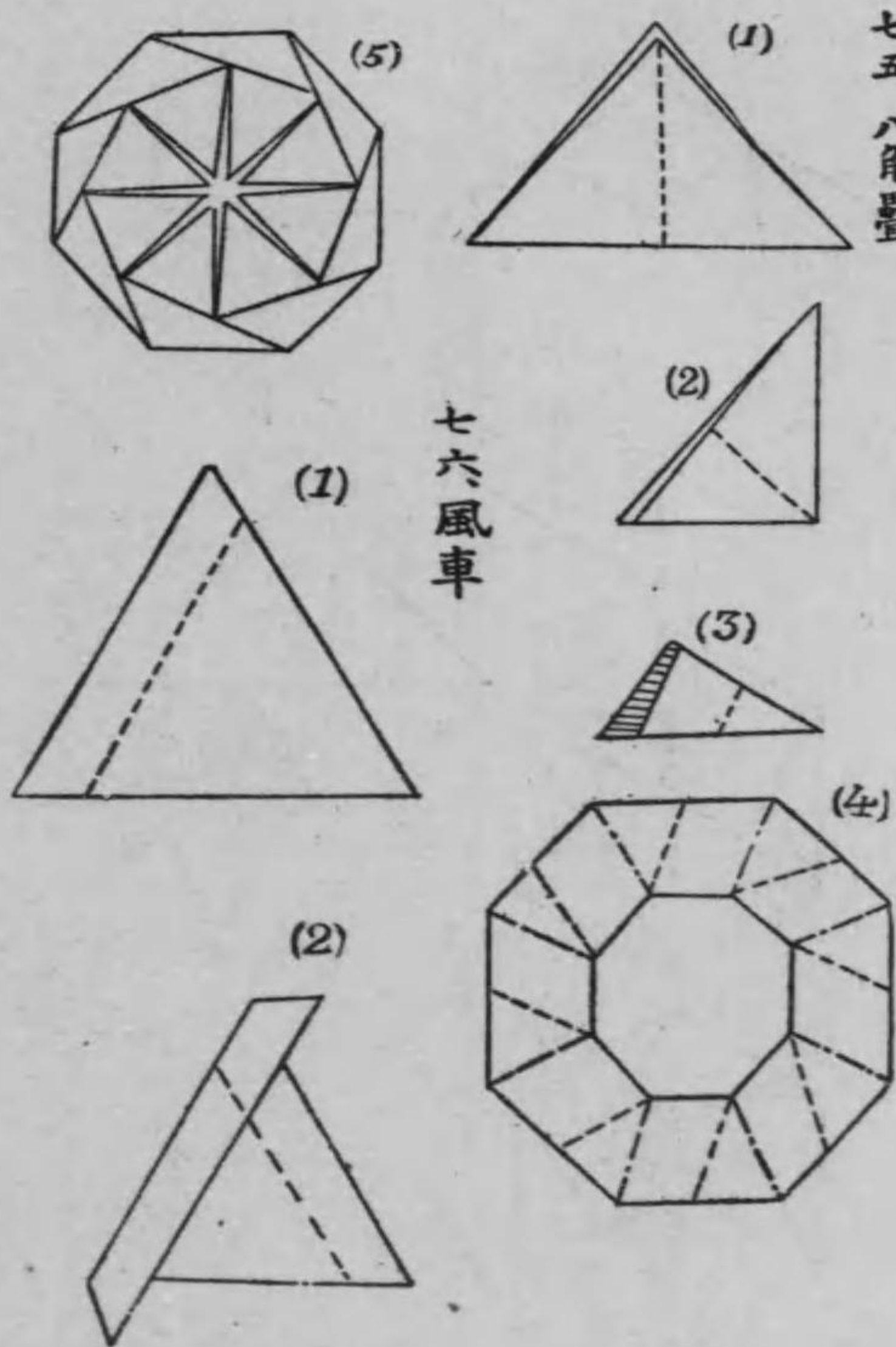


七三着敷

七三四角疊

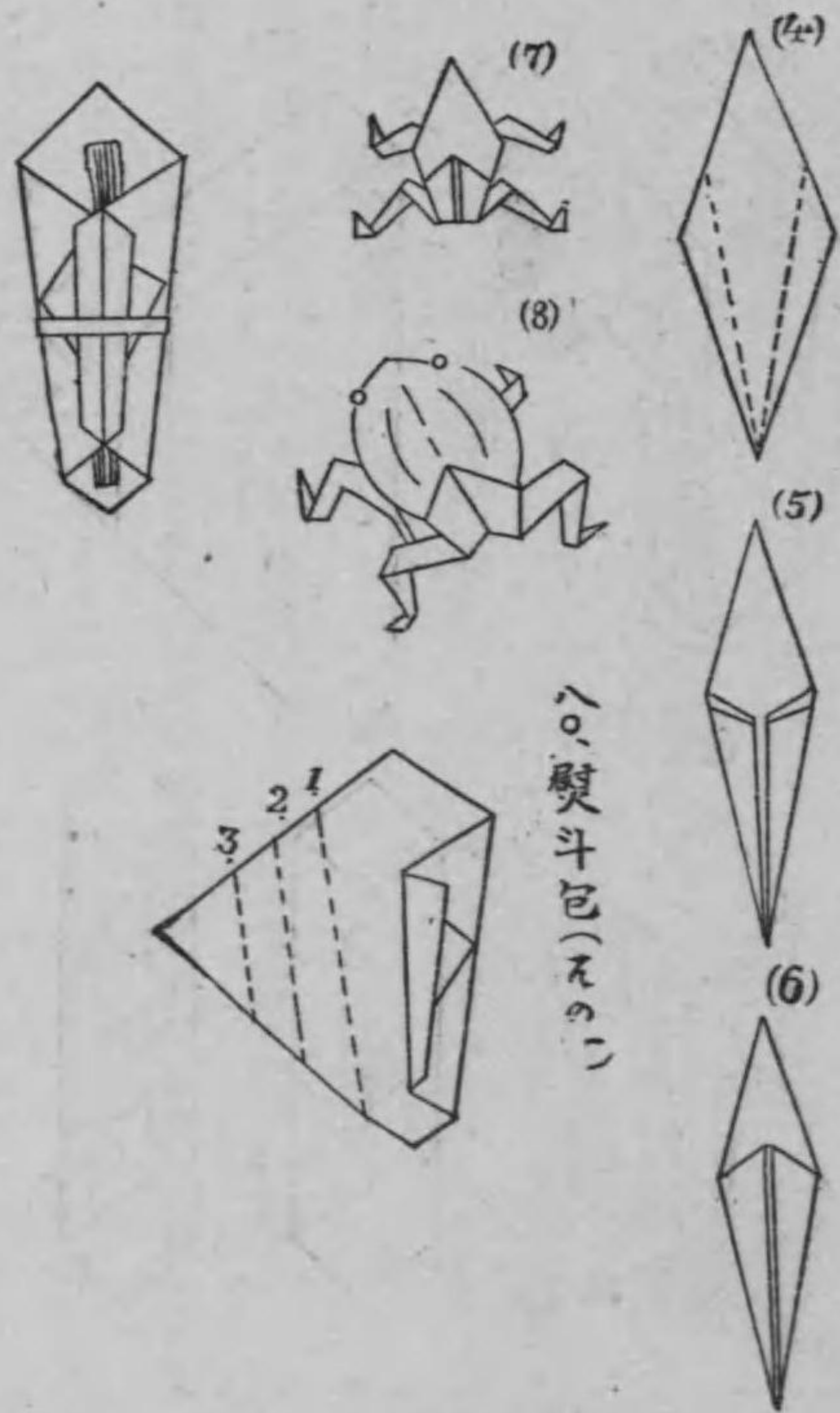


七、花(其二)

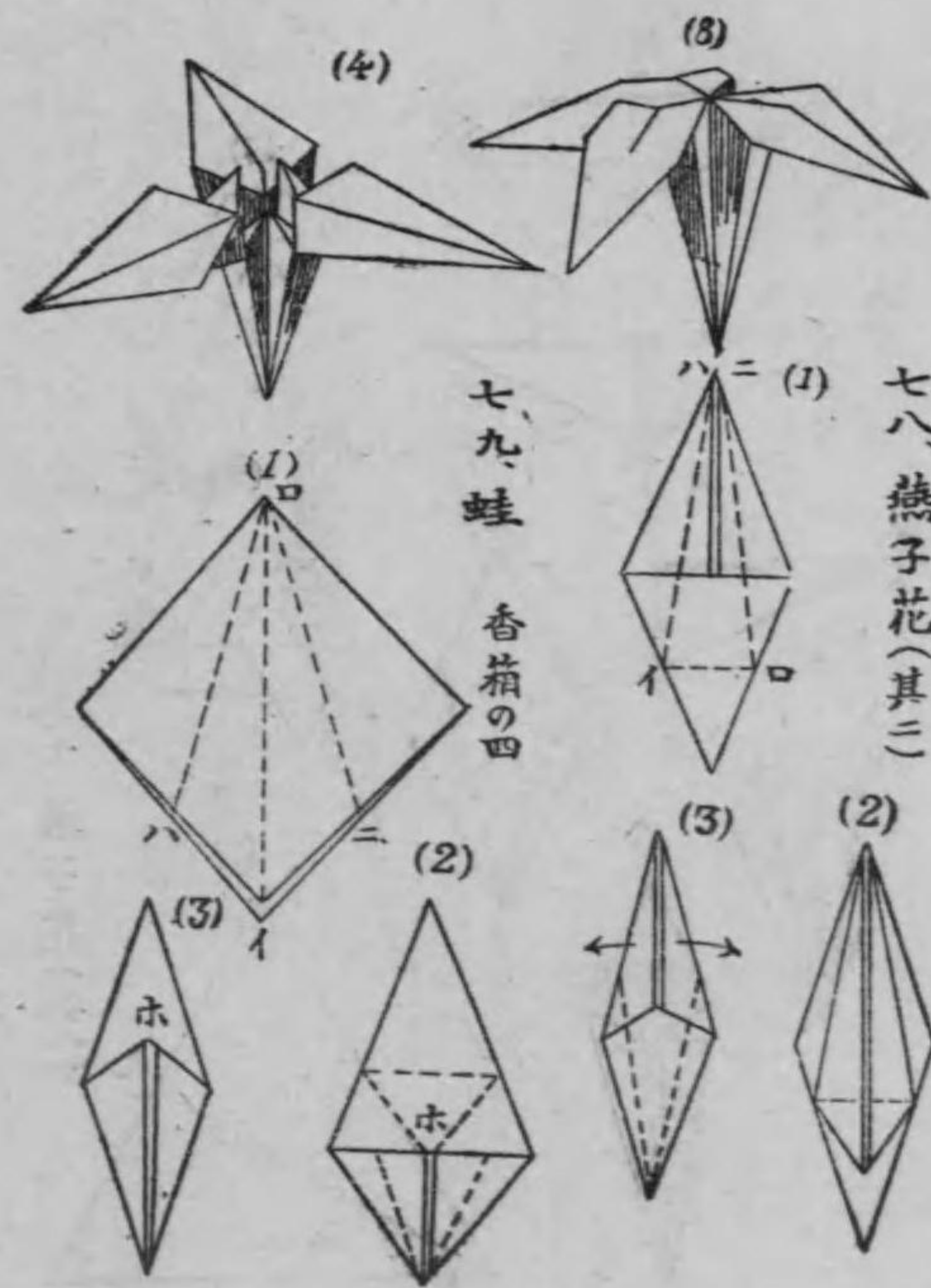


七六風車

七五八角畳

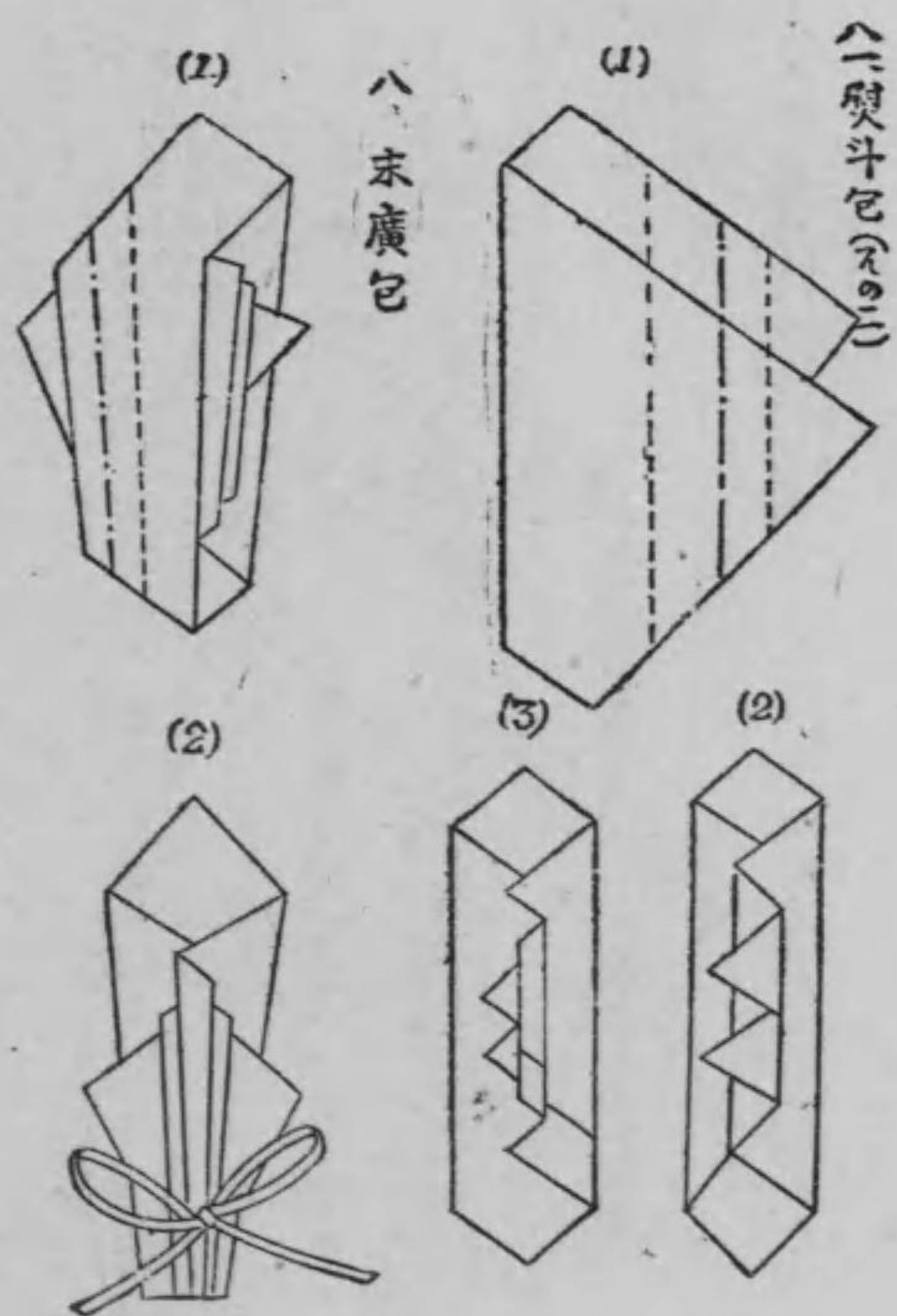


斗笠 (エウ)



七九 蛙 香箱の四

七八 燕子花 (其三)



八三、貨幣包

儀式用として二三種ありますけれども茲には其内簡單にして體裁のいいのを一つだけ掲げておきました。

八四、胡麻鹽包

胡麻鹽は燒鹽の中に黒い燒胡麻の入つてゐるところから黒鹽とも言ひますが之は吉事の披露をするとき強飯ヤシロに添へて贈るものであります。熨斗袋に入れるときは何もいらぬわけですが此の包み方を用ふるのはまた趣味に富んだやり方であります。

八五、雌蝶雄蝶

婚禮の席に用ふる銚子の飾り又は婚禮の茶に添えて贈りなどするのであります。用紙は多くは奉書を用ひますが正しく言へば紅白の奉書紙を重ねるか若しくは表に金紙裏に紅奉書を重ねるものであります。其場合は紅紙の縁は白若しくは金紙が外に出る様に折らねばなりません。折り方も流派に依つて種々ありますが大さは通例九寸四角の紙を用ひます。

八六、紙 雛 (男雛)

鳥の折り方(1)を此の折り方(1)とし「イロ」線に缺を入れ下へ折り(2)の點線に折目をつけて

開き「イロ」を内へ折り込み(3)の上から三分の一位の處即ち「ハニ」を圖の様に切つて首とし「ホへ」に孔をあけ點線から折つて首を此の孔へ挿し込み(4)の點線「トチ」から後へ折り返し(5)「リヌ」を左右に開き其先端を折り返して袖とす。(袖の折り方は(7)(8)(9)(10)の圖につきて参照せられたし)(6)の點線から折つて前の「ル」の下へ挿み頭は裏の一枚を切り冠を作るのであります。

八七、(女雛)

男雛の折り方の(6)を此の折り方の(1)として點線に従ひ折り「イロ」の袖を開いて(3)を得(3)の「イロ」を點線「ハニ」「ホへ」から折り返し「ト」から「チ」まで刀を入れ「リチ」「ヌチ」線に沿ひ裏へ折り頭の先を少しく切りて圓味をつけ顔を書き衣裳の模様等書き込めば仕上るのであります。

八八、脚官

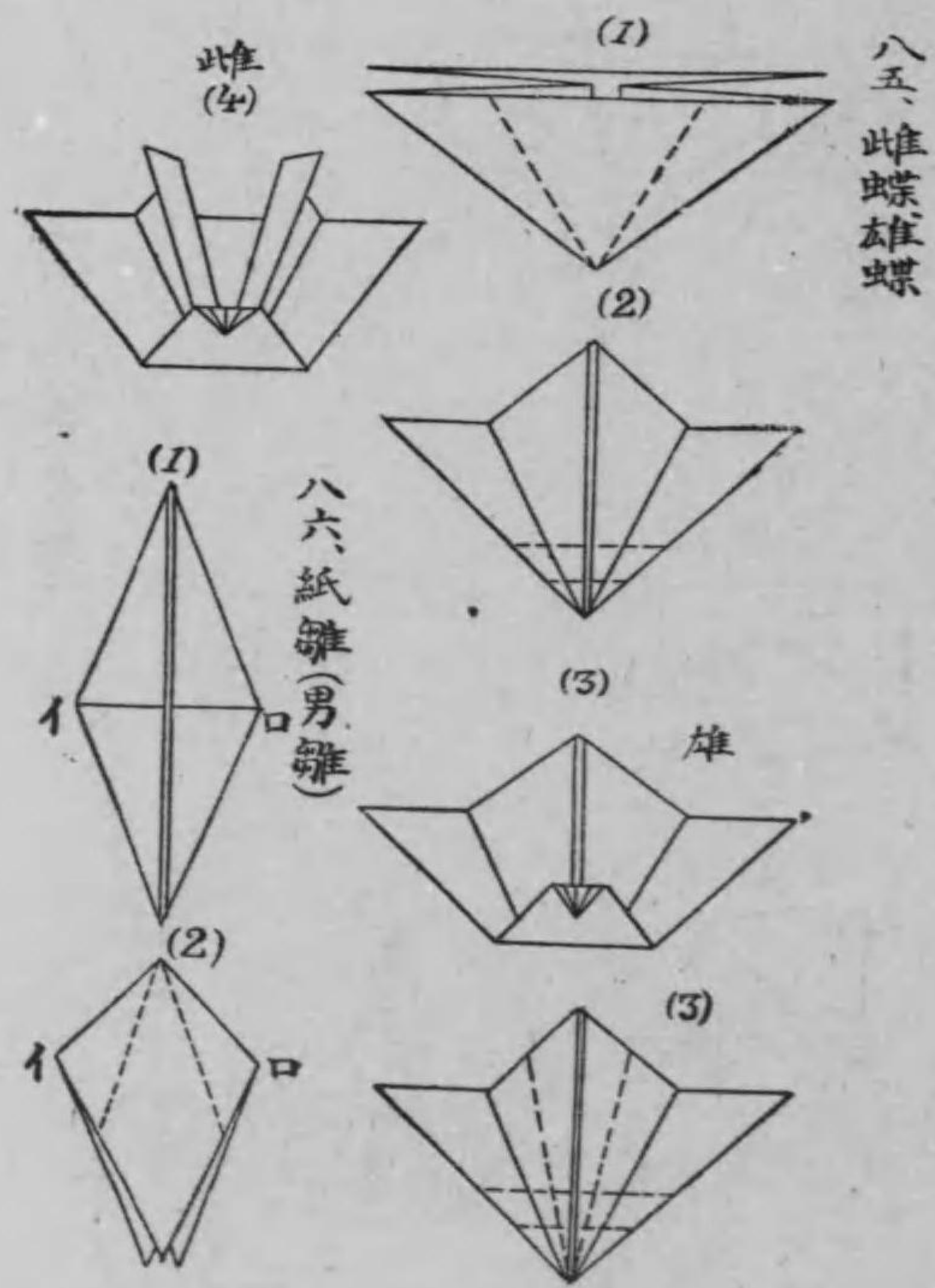
男雛の折方(5)を(1)とし其裏面(2)を點線に依つて折れば(3)の如く裾となる。残れる表面を左右に折つて足を作り頭と冠は男雛の折方に準じて作り上ぐるのであります。

八九、雪降道者

前に度々折つた様に正方形の紙を(1)の如く折り(香箱(4)點線「イロ」「イハ」「イホ」から折つて「イニ」を中央線に重ね(2)の點線を折つて「ニ」を上方に「ホ」「ハ」を中央に(3)の如くし裏を全部開いて(4)點線を裏へ折り(5)の點線を折つて裏返し「チリ」點線を表へ「ヘト」點線を裏へ折つて頭巾を作り點線「オワ」を下方へ同「ヌル」を上方へ折つて(7)の點線を折れば大體の形出来上つたのでありますから顔面を入れ毛布の黒線を二本書き足は前に準じて外方へ折り各部を記入して(8)の如く仕上げるのであります。(9)は其裏面を示したに過ぎません。

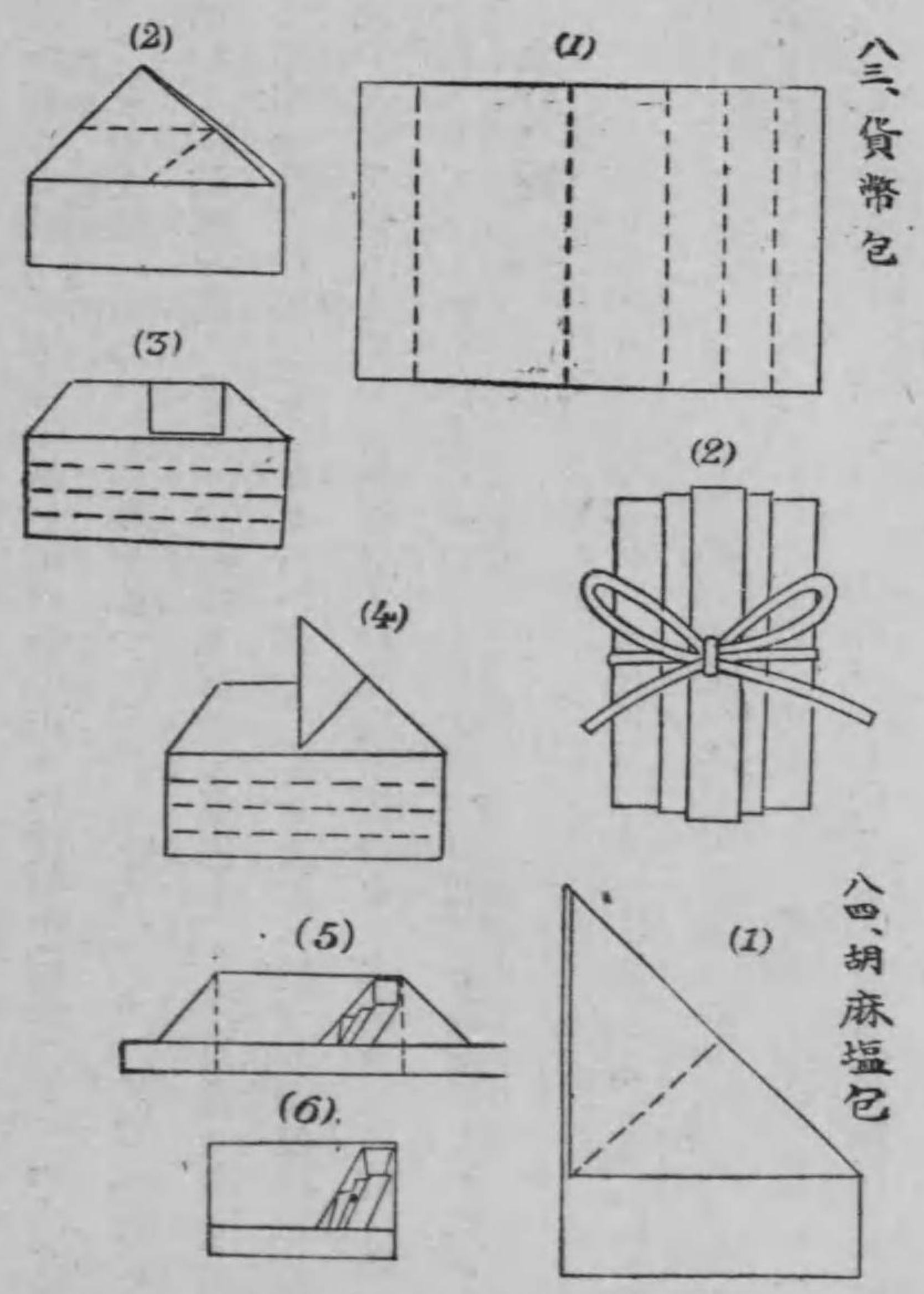
九〇、蟹

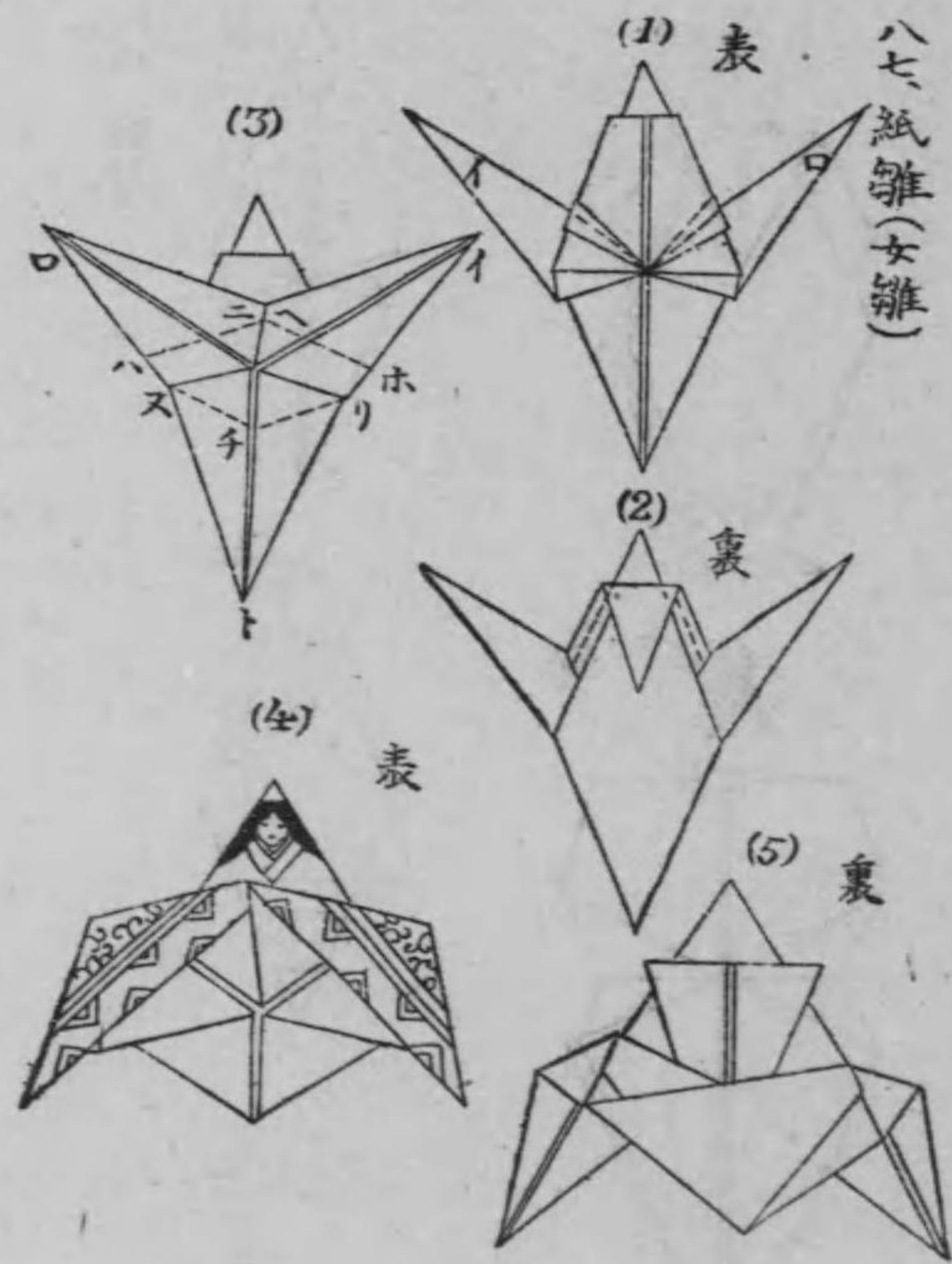
雨降道者の折方の(2)を裏まで全部折つて此の折り方の(1)とし「ホ」を「ハ」に重なるやうに「イロ」に折目を付け「ハ」から「ニ」點線迄缺を入れ他の三面も同様に缺を入れ(2)の如く開いて前に付けた折目「イロ」から上に折り上げ(3)の如くして點線「トチ」「リチ」「ヘチ」を同時に折つて「ヌル」を一致せしめ右へ折つて(4)の一とし伏せて(4)の「ニ」の點線の上に折り曲げ(5)の點線を折つて(6)の如く棒をあて「へ」を引き出して(7)の如くし他の三部も同様に引き出し(7)の點線を折れば(8)となりますから尙ほ點線に依つて下へ折り(9)の内「へ」の下から矢の方向に1、2、3、4の脚を折り「ホ」の下から矢の方向に5の脚を引き出して二回捻ぢて



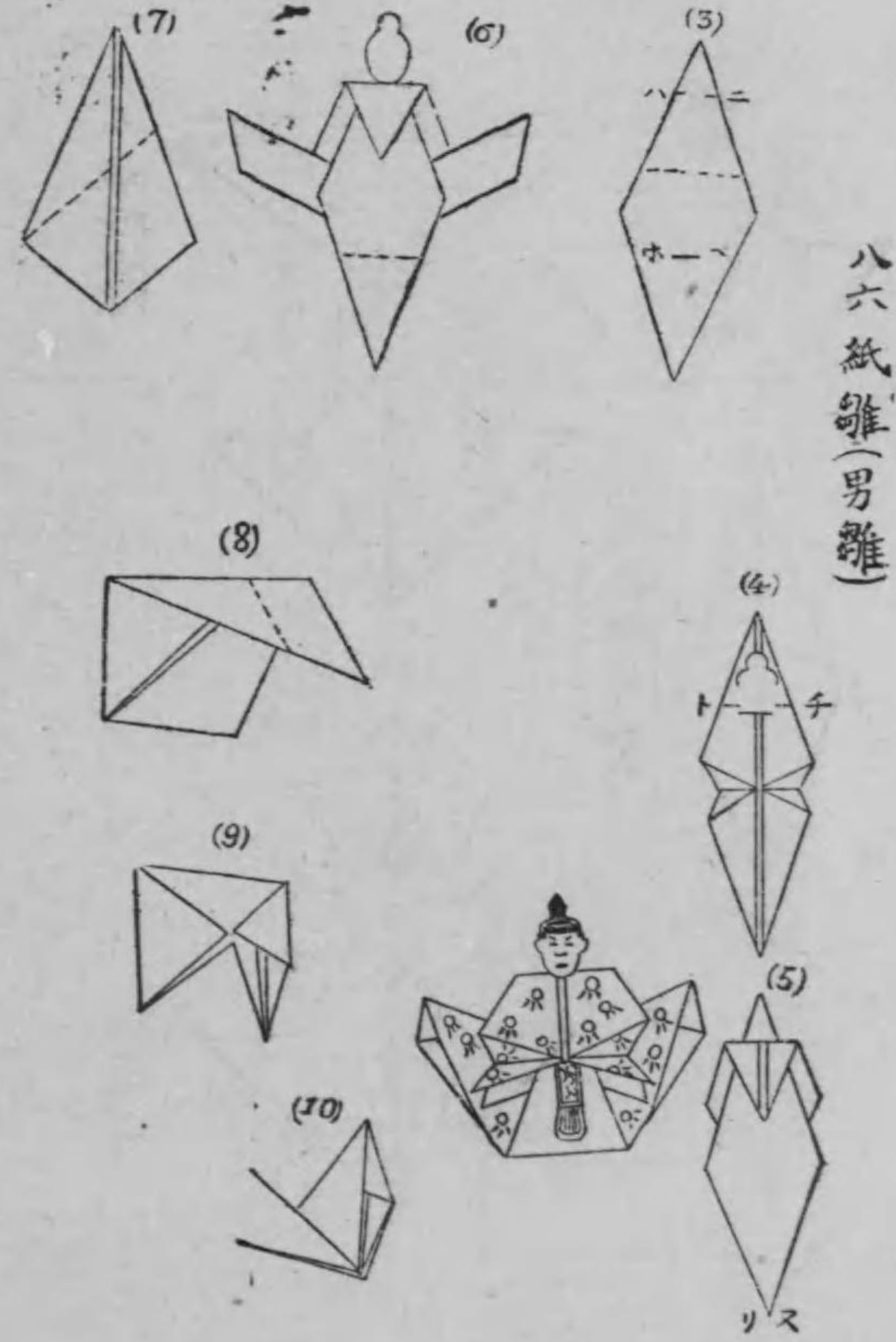
第二章 紙細工に関する資料

先を二つに切つて蝿とし(10)の點線につて裏に向つて「ホ」を下へ「へ」を上へ折れば(11)の蟹が出来上ります。

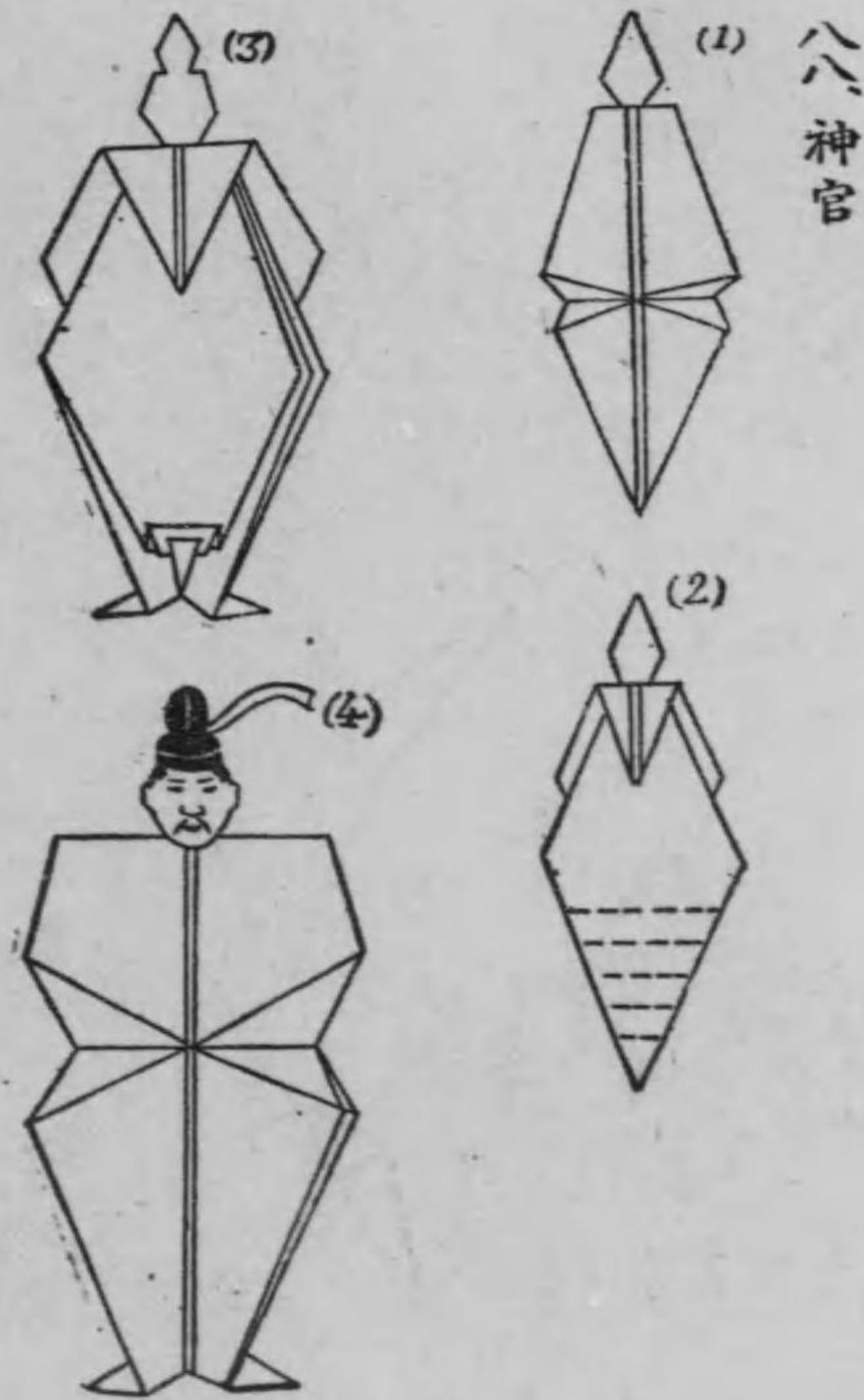
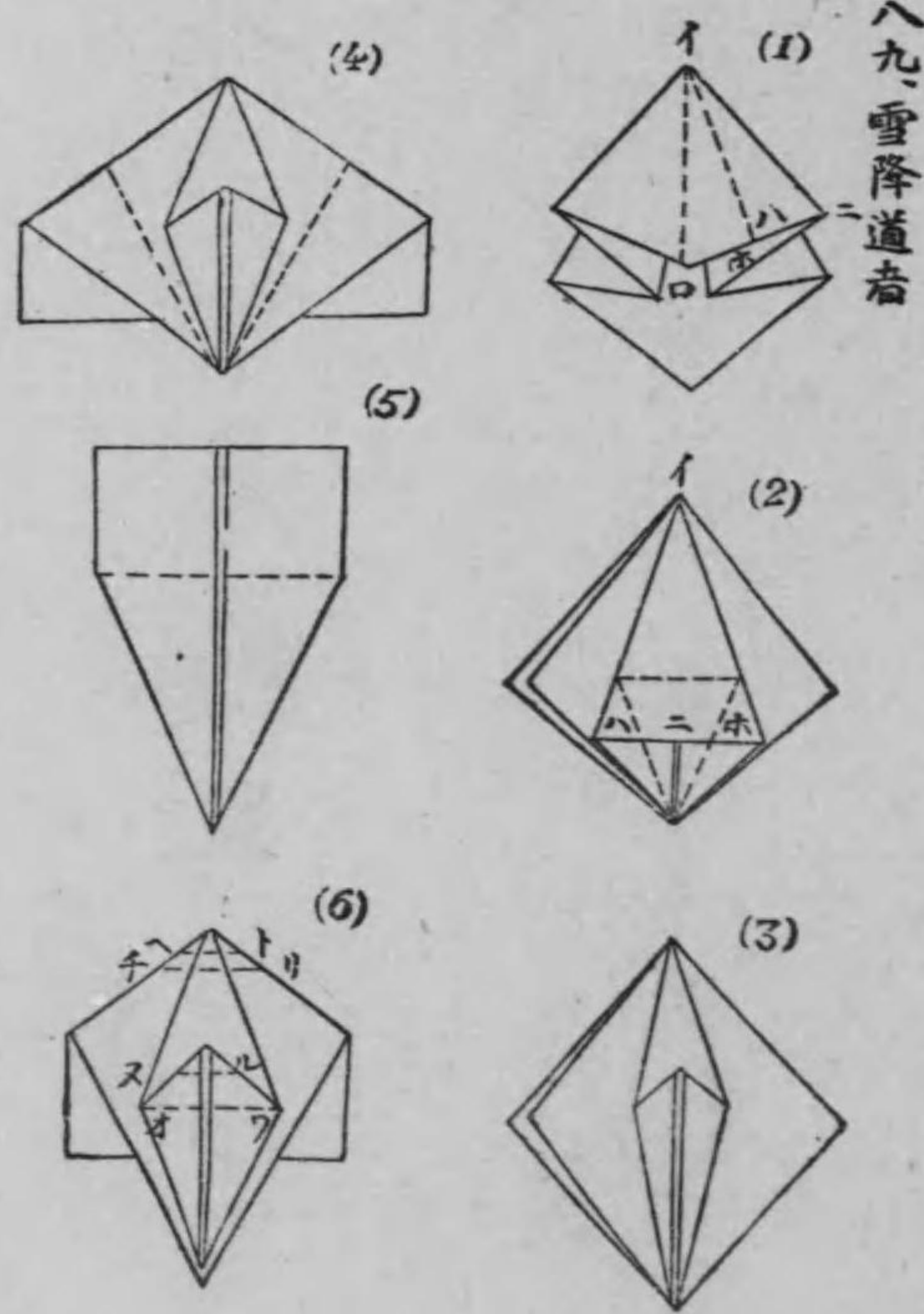


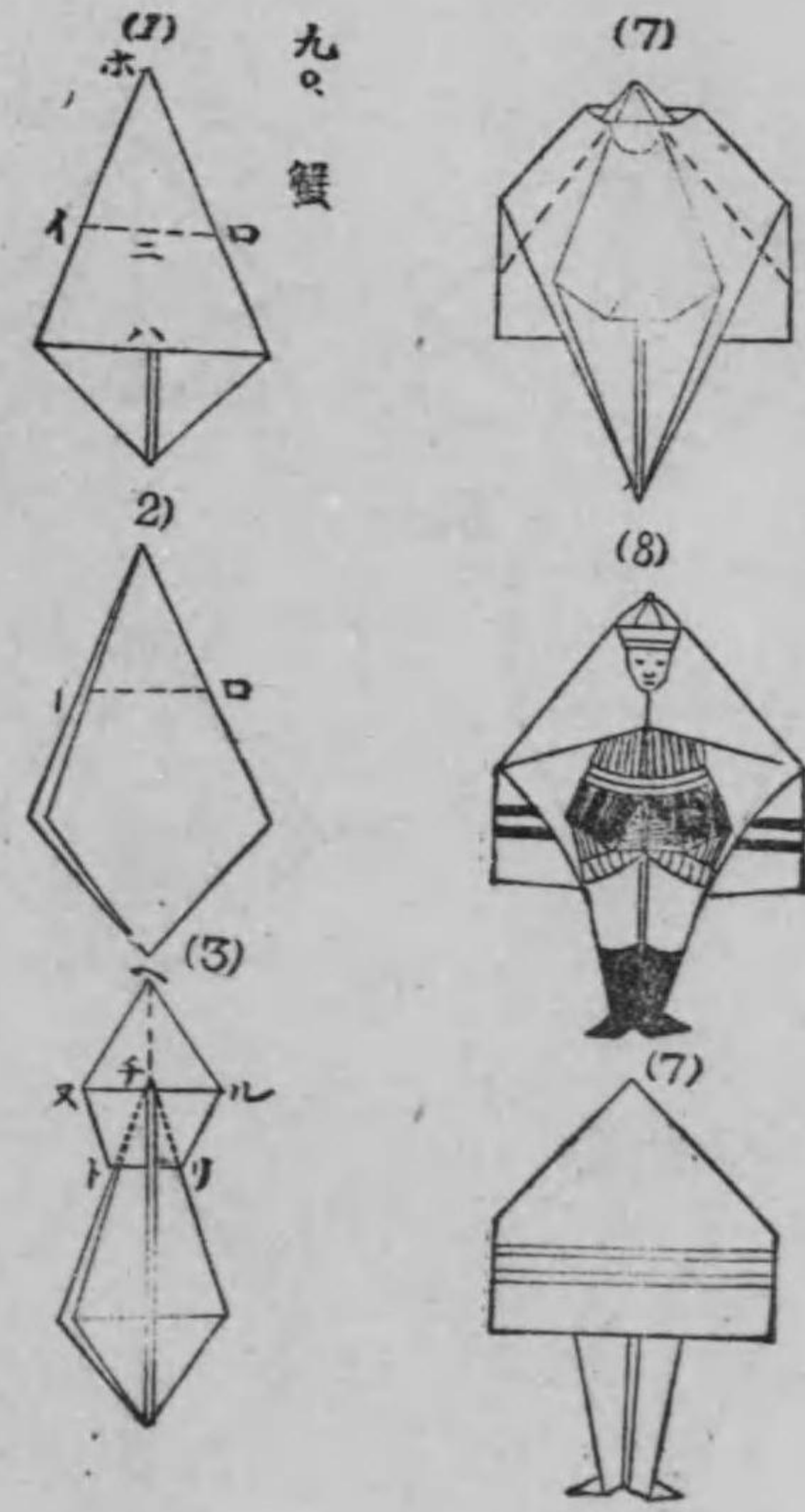
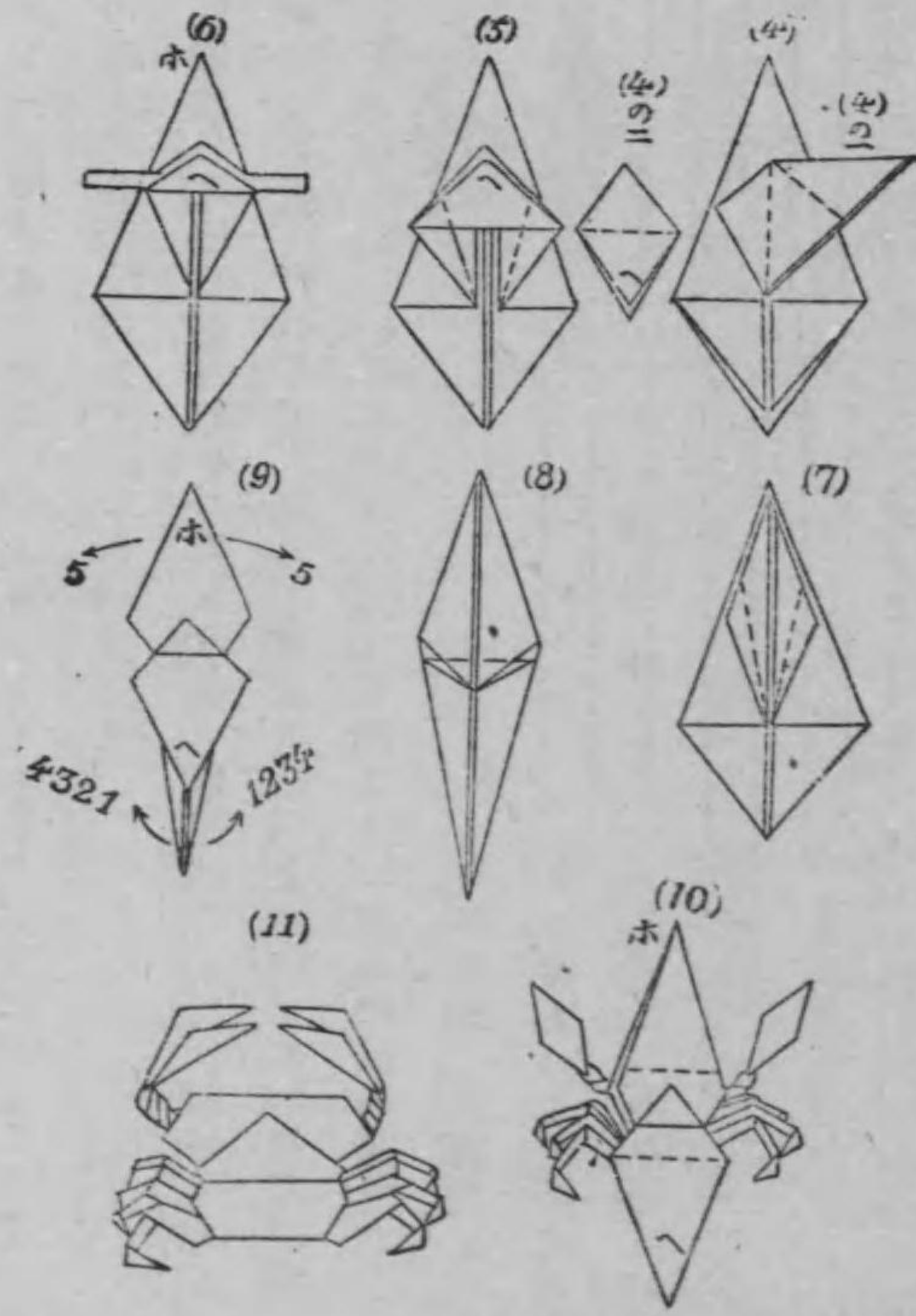


八七紙雛(女雛)



八六紙雛(男雛)





3、組紙について 組紙は色紙を經と緯とに切つて之を組んで布帛の織方を真似て平面上に種々の幾何的模様を現はすものでありまして其色の配合や模様を現はすことに依つて意匠力や工夫力の發達増進を計るのが主眼であります。尙ほ本細工に附帯して平織、綾織、紋織等布帛の織方の觀念を與ふることが出来ます。

原料 色紙は日本紙と西洋紙とを問はず質の軟過ぎないで又硬過ぎないのを選ばねばなりません。此の頃店に賣つて居る鳥の子模造紙に色を附けたのが使用に適してゐます。歐洲諸外國に使つてゐるのも多くは此の鳥の子模造紙に類した紙の様であります。尙ほ此の

第六圖



外我國では實用品を作る迄には進んで居ませんが歐米では實用に供することにも中々研究が出来てゐます。たゞ紙だけでなく毛糸等を用ひてやつてゐます。

御参考までに申し上げますが米國あたりでは第六圖の様な紙を店で賣つ

てゐます。生徒は是を上下二分して上半を臺紙にして下半を緯として自由に組める様になつてゐます。それで兒童は自己の欲する儘に廣狹種々に切り種々の模様を織り出すのに用ひます。

用具 折紙の時に用ひし外兒童用として、鋏、三角定規、圓規、尺度等が必要であります。

鋏は上圖の甲乙二種ありますが甲圖の方は長さ四寸位、

乙圖の方などは四寸なくても三寸五分位で澤山、何れにしても差支ありませんがなるべくならば乙圖の方を使はせたいと思ひます。

三角定規、圓規は圖畫用のものと兼用せしめて差支ありませんが裁つ際規定の邊をけづらない様に注意せないと圖畫を畫く時は勿論後に使へなくなりません。其大きさは六寸か七寸のしておけば五六年になつて圖畫を畫く時にも便利になります。

第七圖



右の外第八圖の様な組針は是非なくてはならないものであります。粘土用の筥の様な形

第八圖 組針



で先端は薄くて尖り基部は二つに裂けて緯紙を挟む様になつてゐます。其幅は上級になつて細かいものを織り出さしむるには廣ければ使へなくなることがありますから三分位にして長さ三寸五分か四寸位のを持たせたが便利です。尙ほ経緯の幅を定めた時は印を附くるために針を持たせたら便利です。普通裁縫に用ふるまち針が適當してゐます。

(左圖参照)

第九圖 まち針



●注意 此の細工は特に計畫を立てて、かゝらないと終には思ふ通りの模様出来ざるのみか全く反古になることもありますから始らから數理的に計畫を立てしむることに注意せねばなりません。又別の紙に豫定を立て、畫いたのを織り出さしむるとか組上げたものを圖畫に寫させしむるか或は組んだ紙へ色鉛筆なり又は繪具で色を塗らしむるとか圖畫科と連絡を取る必要があります。

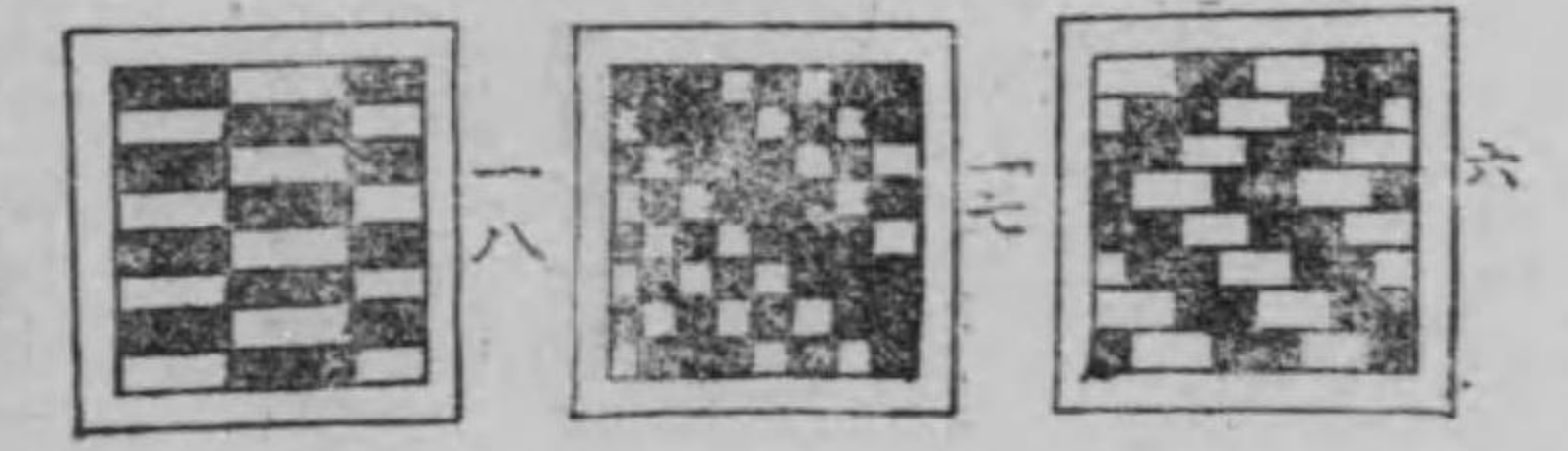
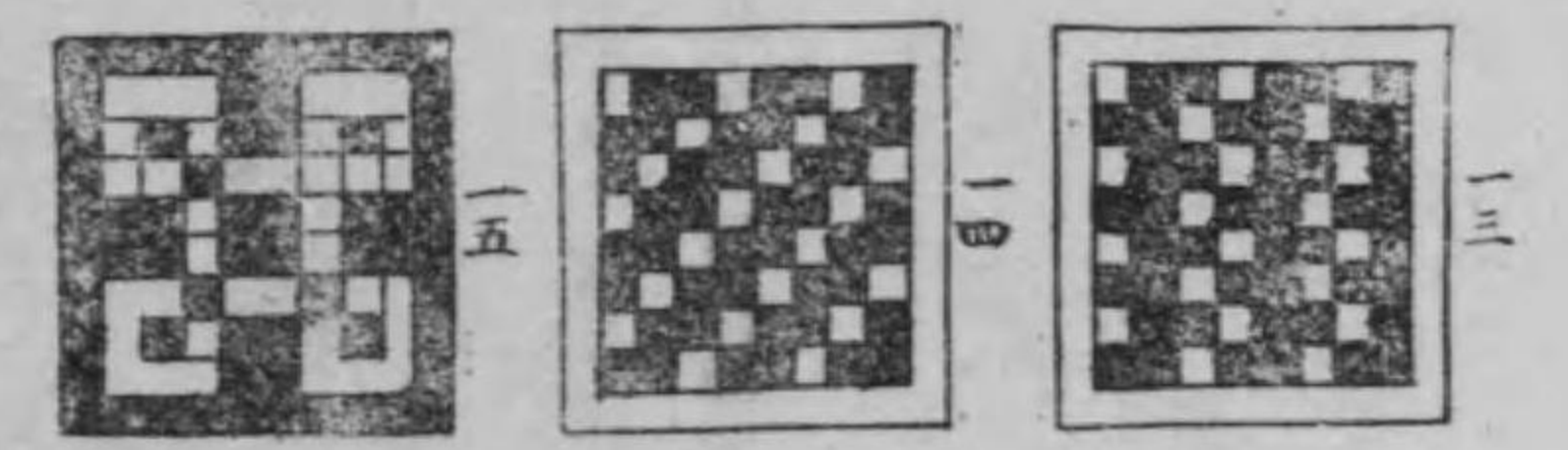
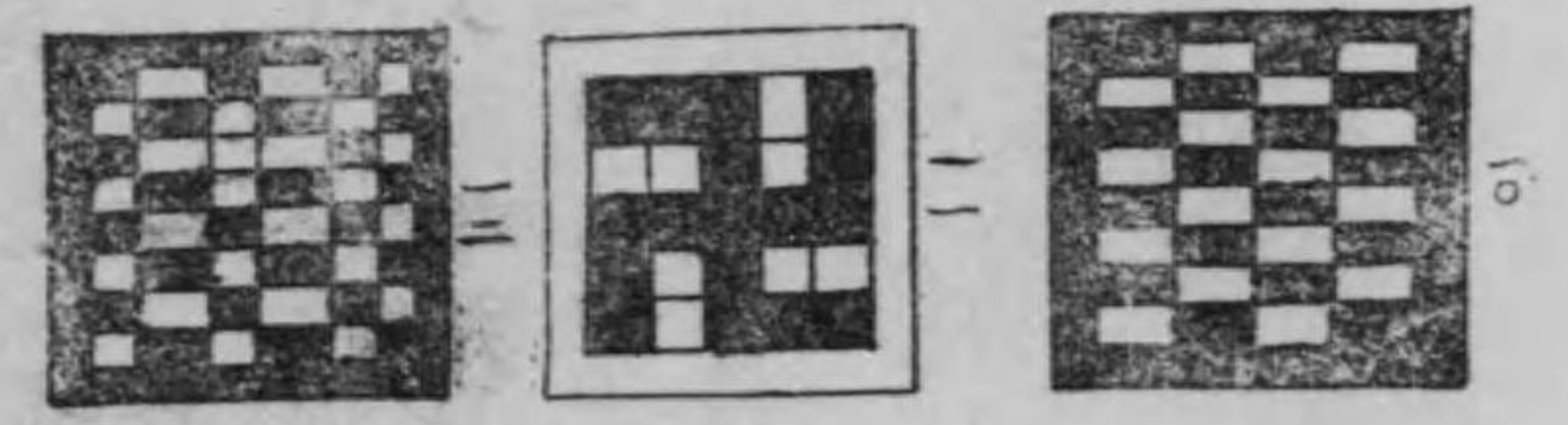
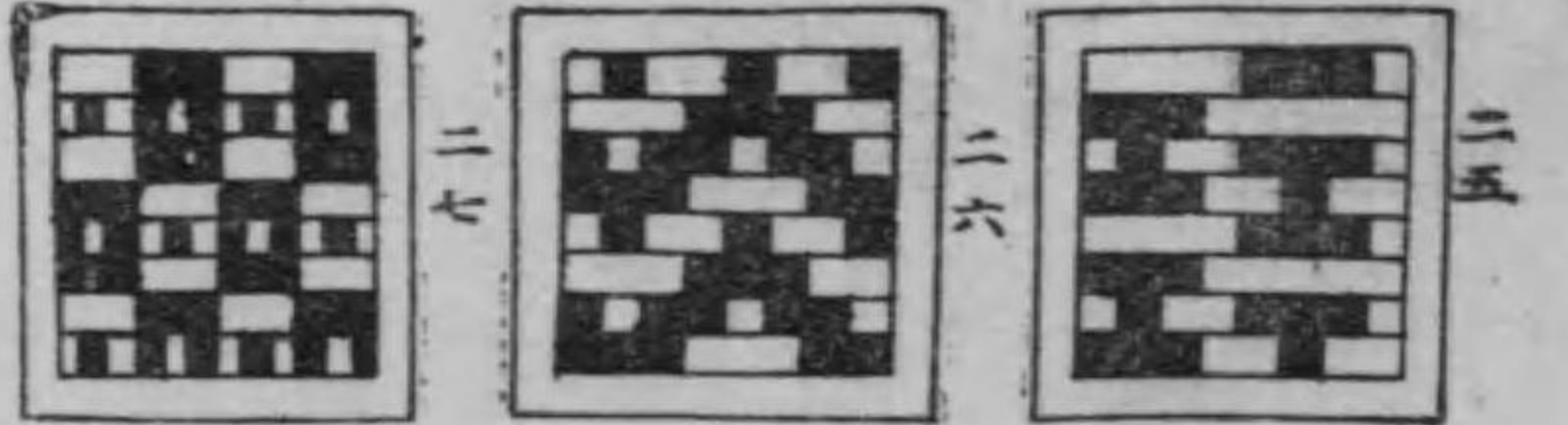
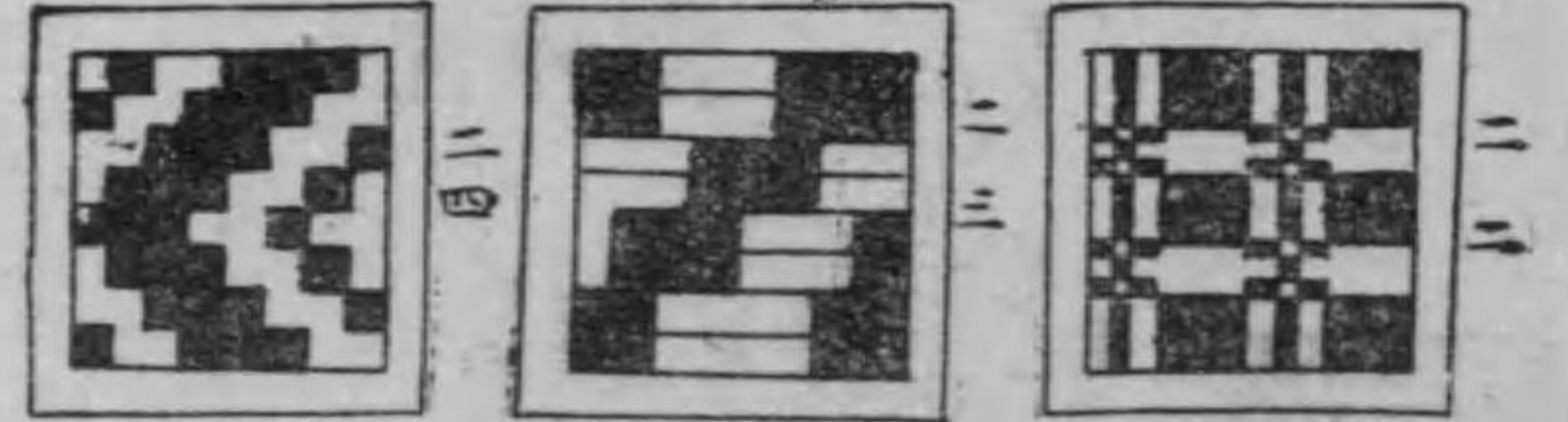
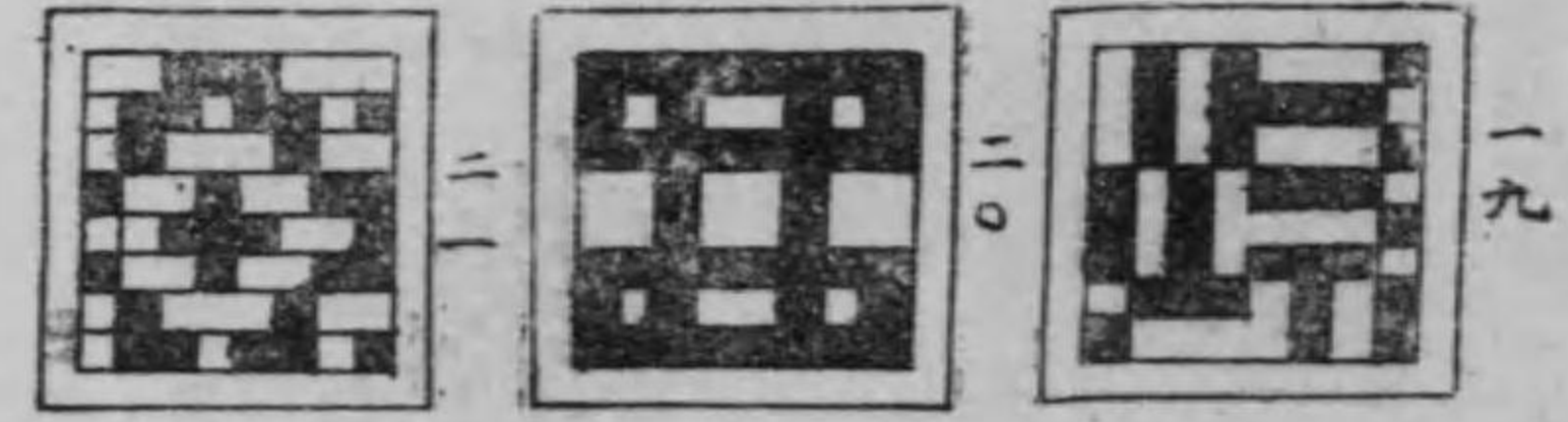
用紙の廣さは組み出す模様の種類に依つて一定することは不可能でありますが罫紙の廣さは始は五分乃至七分位にして漸次進むに従ひ小さくして二分位から一分位までに細目の

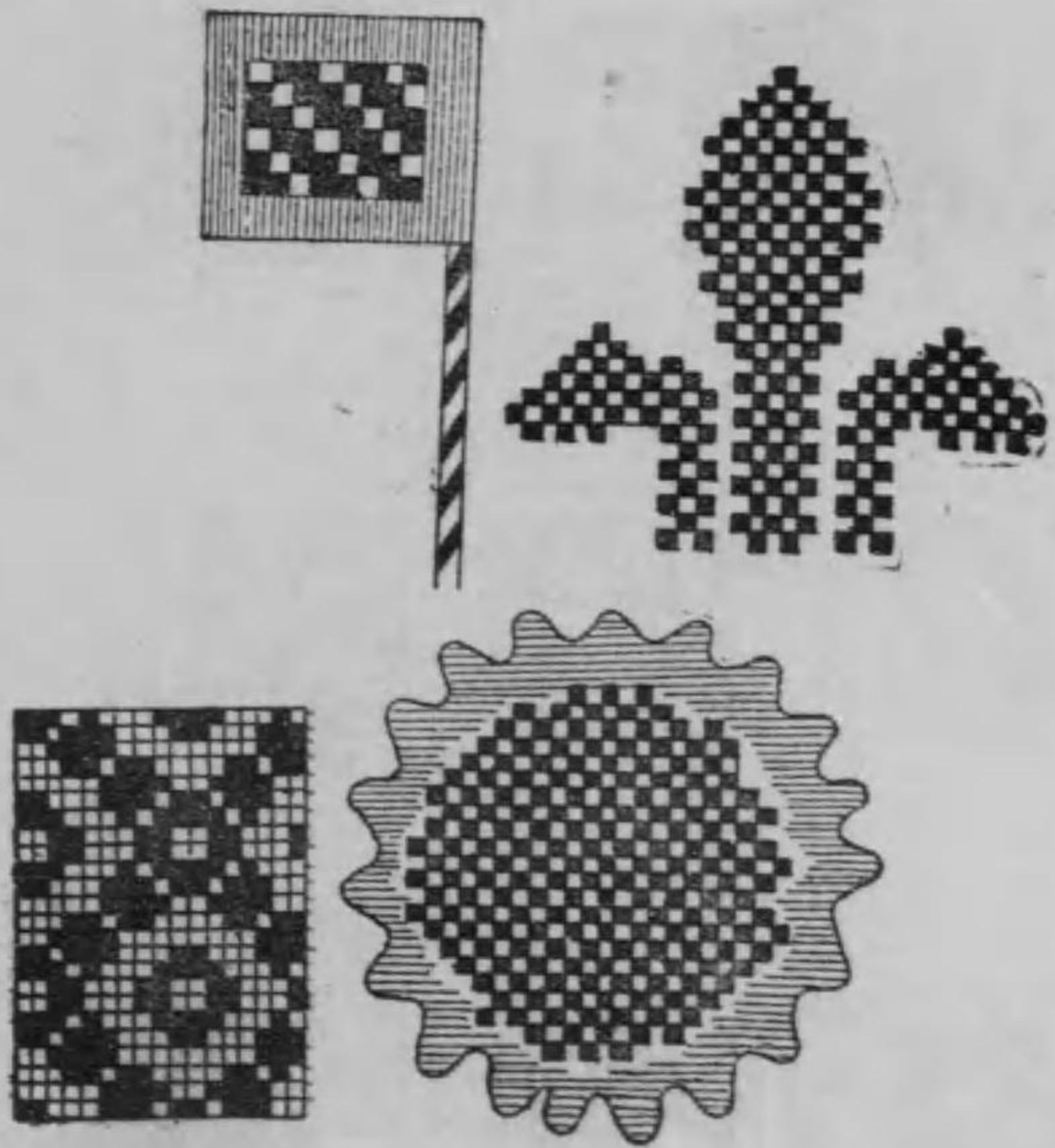
ものを用ひて自由に工夫する様に仕向くる必要があります。

平織。經と緯とが一つ置きに上下に交りつゝ織り出されてゐるものを言ひます。(口繪参照)

綾織。緯が左或は右に片寄りつゝ一定の規律ある斜紋をなして全部一樣の模様を現してゐるのを言ひます。(口繪参照)

紋織。以上二種のやうに一定の規律がなく従つて全體の模様が一樣でなく或局部に一定の紋様を織り出せるものを言ひます。(口繪参照)





4、切抜について。此の細工は紙細工中次の厚紙細工と相待つて最も多くの部分を占めてゐます。大別して幾何的切抜と自在的切抜との二つになります。尙ほ自在切抜を手工帳に貼るものと臺上に起たしめるものとの二つに分けることが出来ます。此の外細かく分ければ模様的一部分を切抜かしてこれを型となし紙又は厚紙細工の表面に模様を寫さしめるもの等もありまして其様式は頗る多様であります。従來我が國に課してゐたのは主に幾何的切抜でありましたが此頃自在切抜も大分盛になつて來ました。是等の細工は手と眼との練磨は勿論意匠を練る外日常生活に必要な幾何學上の觀念を容易に且正確に兒童に與へ得る便利なものであります。

●原料 色紙、貼附臺紙、糊、厚紙等が入用であります。色紙は組紙に用ひた鳥の子模造紙が最も適當であります。若し鳥の子模造紙なき場合は美濃紙又は清帳紙の染めたものも支ありません。貼附臺紙は方眼紙を以て綴つた手工帳を持たしめた方が便利であります。糊は生麩で作つたのでも差支ありませんが此頃よく店で賣つてゐますヤマト糊又はゴム糊は兒童の携帯に便利であります。厚紙は畫學紙の厚いものでも物によつては使へますが十分とは言へません。白ボールの薄いのが最も適當してゐます。

用具 折紙、組紙の時には用ふるものの外別に必要はありません。

注意 幾何的切抜と自在的切抜とは何れを多く取るも差支はありませんが缺の使用に馴れて普通の平面幾何形が切れる様になると變化を好む兒童は紋形の様なものばかりでは満足しない様になります。それは自由製作をやつて見れば明かに知ることが出来ます。殊に厚紙を以て切つた動物の形等が起てられると大に興味を持つものであります。其上に目鼻或は耳等各部分の記入をせしむると尙一層興味を持つて來ます。

幼年生で缺の使用思はしく出来ない頃には指頭を以て摘み切らしめて其儘手工帳に貼附せしめた方がよろしい。無理に缺を使はせるよりも摘切りの手工は豫想外に製作品の感じもよくて巧なもので作り得るものであります。

糊を附けるときには注意しないと手工帳や製作品まで糊だらけにすることがありますから必ず古帳面か古雑誌のやうな別に糊を付けるときに下に敷くものを用意せしむる必要があります。

教材の説明及び分類の上から幾何切抜と自在的切抜の二つに分けて圖解することになりました。自在的切抜は之れを分ければ澤山ありますけれども、一々分類するの必要を認

めませんでしたから項目的に區分することをいたしませんでしたが大體に於て立體的のものゝ平面のものとの二つに分けて圖示並びに説明を加へておきましたから實例について御覽を願ひます。

紋形は種類に依つては自在的教材の部に入れたが宜いと思ふのもありましたけれども切抜く上から見て自在的教材と大分違つた點がありましたから幾何的教材の部類に入れておきました。

1、幾何的切抜

一、長方形

此の形は別に兒童に切抜かしむるといふ譯のものではありませんが後に述べて凡べての基礎になる形でありますから第一に掲げた所以であります。長方形は四隅が直角でなければならぬのでありますから定規を用ひて其正否を正さしむる必要があります。

二、正方形 (その一)

幅二寸五分縦三寸五分の長方形の紙を取り一端「イ」から「ニ」に折つて「ロ」を「ハ」の上に

重なる様にして「ハニ」から並行線のある部分を切り棄て「イロハニ」を開けば正方形になります(2)始め與へられた長方形にして正しくないときは正方形も又不正になる場合がありますから後で定規を以て角を試みしむる必要があります。

三、正方形 (その二)

與へられたる長方形の邊が直線に出来てゐない場合は此の方法に依つて一時に四邊を正しく截つ便利があります。又後に至りて正方形に關する種々の形を切抜く際應用が出来ます。其方法は圖に依つて明でありますから説明を省略いたします。

四、釘 貫

正方形其二の折り方に折つて先づ正方形を正し然る後「ハニ」に平行に「イロ」を引き缺を以て「イロ」線より平行線のある部分を切り捨て開けば(2)の形を得て釘貫に切ります。出来た後は用意せる古雜誌又は古新聞の上に裏返しにして載せ糊を濃淡ない様に附け手工帳の方眼をたどり正しく貼るのであります。糊を附くる際餘りに強く押へるため横にこらし或は釘貫の中や外縁から糊を押し込んで表面を汚すことが往々ありますから絶対に表面には糊附けないといふ覺悟を以て十分の注意をなさしむることが肝要であります。

五、四つ目

三寸の正方形を取り先づ四つに折つて四等分し其各々四、釘貫の方法によりて中央の頂點を二五分厘づゝ切り放ち開けば同形の釘貫四枚となりますから手工帳の方眼を利用して四枚を正しく貼附すれば四つ目となります。

六、石 疊

一寸の正方形の色紙を取り二折して切り放ち尙ほ二折して切り一邊五分の正方形を四枚作り別に稍濃き色紙を一寸の一寸五分に切り前に準じて五分の正方形を六枚作り圖の如く方眼紙を利用して濃淡一つ置きに貼附すれば石疊を得。残りの一枚は兒童の任意の形に切抜かしめ「石疊」と文字を書かしめ右肩に貼附して其名稱とす。

七、入子樹

三寸角の正方形の色紙を正方形其二の如く折り「イ」「ハ」の幅を二分五厘に、「ロ」「ニ」を五分づゝに切放ち「ロ」「ニ」を取り先づ「ニ」を始めて貼附して其中央に「ロ」を入れ所謂入子樹とす。

八、三つ入子樹

方三寸の色紙を釘貫の折方に依つて折り「イ、ハ、ホ」を各々一分五厘に「ロ、ニ、ヘ」を各々三分五厘に切り放ち「ヘ」より順次に手工帳に貼すれば三つ入子樹となるのであります。

九、四ツ石疊

一寸五分の三寸より成れる長方形の色紙と尙ほ夫れと違つた同形の色紙を取り兩者とも正方形になる如く二等分して四枚となし豫め各々を二つに折り方眼紙の適當の位置を見計り各を半分づゝ重ねかけ最後の「ニ」だけを全部糊の付く様にして「イ」から貼り付け順次「ロ、ニ」を半分づゝ重ねかけて貼り最後の「ニ」を全部貼り付け終りに「イ」から残りの半分づゝに糊して「イ」は「ロ」の上に「ロ」は「ハ」の上に「ハ」は「ニ」の上に重ね貼り作り上げるのであります。此の際注意すべきは終の半分の糊付け方であります。若し下手にやると他の表面を汚す恐がありますから必ず糊敷紙を置き其上に付けんとする色紙を折り上げ外に出たる糊を色紙の上に落ちない様に注意せねばなりません。

一〇、石疊車

二寸の正方形色紙を色を違へて二枚作り尙ほ夫れを四等分し各々を對角線に折り四つ石

疊の要領を以て順次貼り附ければ出来上ります。折角奇麗に出来上つたものでも貼る場所が偏してゐると不體裁なものとなりますから凡べて貼附の際は其位置を始め見定めてかかることを忘れてはなりません。

一一、重ね四つ目

色の違つた幅二寸、縦四寸のものを各々一枚宛作り夫れを横に二等分して二寸の正方形を四枚作り釘貫の方法に倣ひて「イ、ロ」を同寸法に取り「イ」を裁り捨て「ロ」を一邊とせる釘貫を四枚切り抜き四ツ石疊に準じて方眼紙に貼附すれば圖の如き重ね四つ目を得。

一二、赤十字

一寸五分の正方形の赤色紙を三折して之を延ばして更に違つた方に三折し其周圍に出来たる小正方形を切り抜き赤十字となす。

一三、劔形赤十字

赤色の正色、明色二様の色紙を取り其各々を底邊二寸高サ一寸の二等三角形に切り底邊の中央から頂點にかけて二つに折り重ね始の斜邊を底邊とせる二等邊三角形を作り尙ほ前の如く底邊の中點から頂點に向つて折目を入れ右と左を重ね再び第二回目に出来た二等邊

三角形の斜邊を底邊とせる小さき二等邊三角形が出来ますから底邊から三分の高さに水平に頂點を切り落し折目を悉く切り放せば劍形十字を形成するに必要な四枚の梯形が出来ます。他の一枚も同様に切り赤十字を貼附せる下に方眼紙を標準にして圖の如く組立つれば劍形赤十字が出来上つたのであります。

一四、正三角形

幅二寸五分にして長さ三寸に餘る長方形の紙を取り圖に示す様に縦に「イロ」に折目を入れ延ばしたる後「ハ」點を「イロ」線上に落ちる様に「ヘ」から折り重ね「ニハ」線に沿ひ「コホ」なる折目を附け「ニヘ」「ニホ」を截てば正三角形になります。

一五、菱 形

幅二寸五分長さ四寸五分の矩形に色紙を切り(1)の如く横に折り重ね中央に折目を入れ「イロ」線とし前の如く「ハ」を「イロ」線上に折り伏せ其頂點の落ちたる處を「ニ點」とし「ニ」點から「ニハ」「ニホ」へ刀を入れ切抜き開けば菱形となります。

一六、三つ 鱗

一四の正三角形を作り各邊の中點から中點へ刀を入れ四つの小さな正三角形を切り抜き

其内三枚を圖の如く貼り附けて作り上げます。

一七、武内菱

一五の菱形の各對邊の中點へ結び切り離し四個の小菱形を一分づゝの間隔を保ち貼り附ければ容易に出来上ります。若し正三角形から成れる菱形を以て作らんとせば一四の正三角形の方法を用ふる場合二倍の幅を有する紙を取り縦に折り重ね同方法に依つて切抜けば出来ます。

一八、菱四つ目

武内菱の方法に依り小菱形を四枚作り其各々を對角線に折りて尙一回底邊の中點から頂點へ折り其頂點を高さの三分の一丈け切り落し武内菱に準じて手工帳に貼り付くるのであります。

一九、六角模様

幅一寸三分長さ四寸五分の色紙を餘色をなす様に二枚取り一四の正三角の法に倣ひ三枚づゝの正三角形を切り抜き一色づゝ交互に「イ」を始に順次「ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ」と貼附すれば餘色の配合から出来た六角の模様が仕上がるのであります。

二〇、骰子

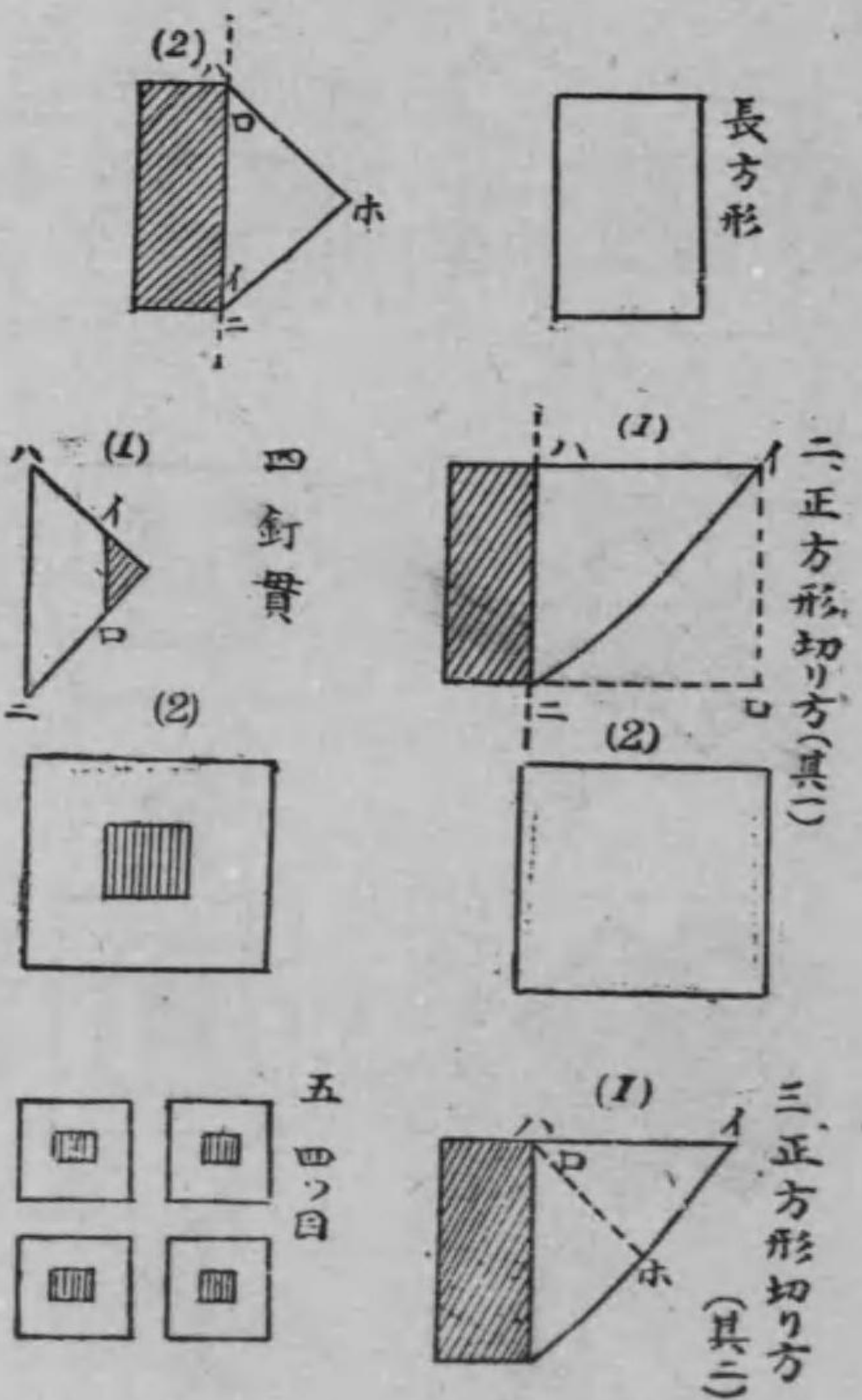
明色、正色、暗色の三色を以て長対角線を二寸とせる菱形を三枚作り頂面に明色を、左側面に正色を、右側面に暗色を貼附して骰子即ち立方體を作り上げるのであります。

二一、六花菱

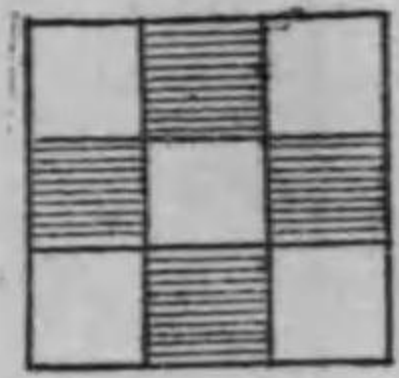
一辺一寸の菱形を色を違へて三枚づつ切り抜き圖に示すやうに貼附すれば容易に出来上ります。

二三……二四

是等は皆前の方法に準じて切り抜けば容易に出来ますから一々説明の煩を避けましたが立體に見せる爲には明色と暗色とを調和よく用ひ、引き立たしむる爲には餘色を用ひた方が奇麗に出来上ります。



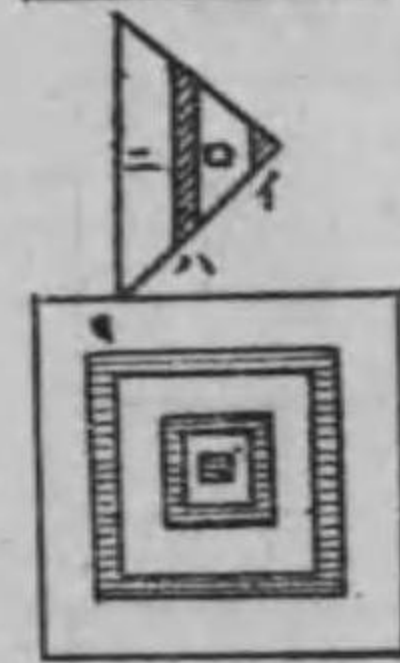
六石疊



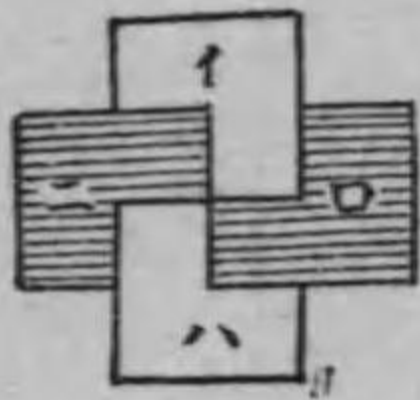
七入子拵



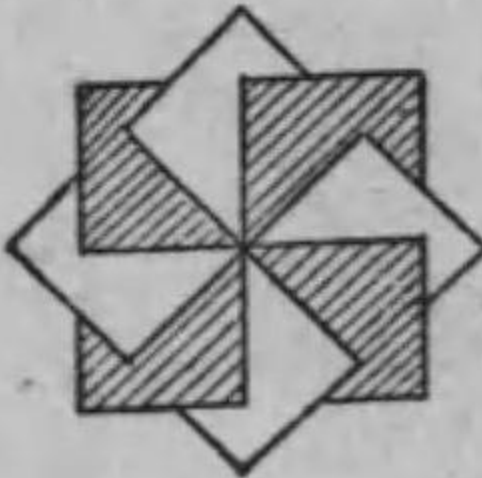
八入子拵



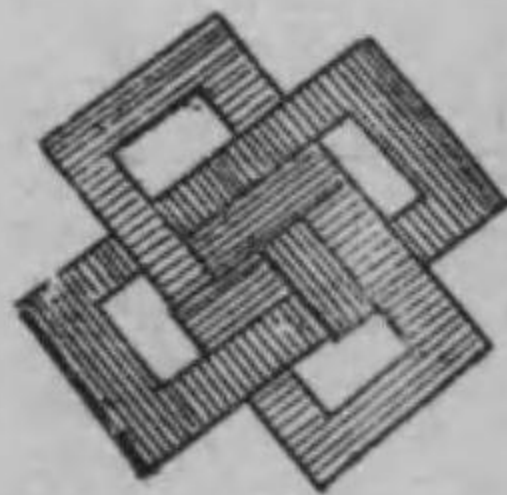
九、四石疊



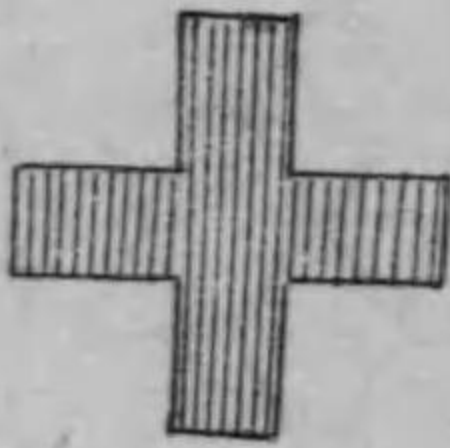
百石疊車



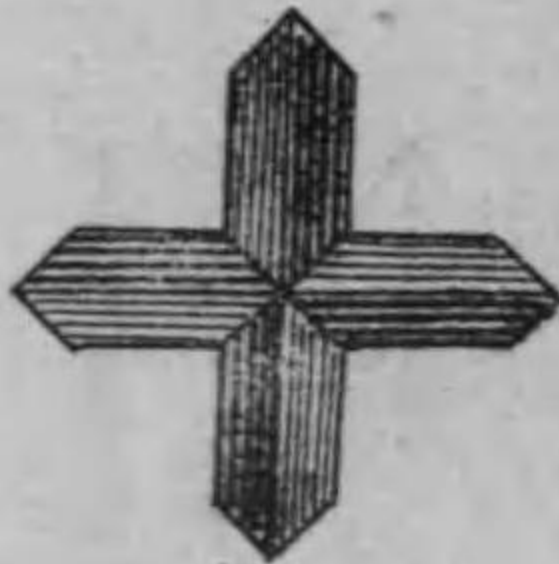
二重ぬ四ツ目



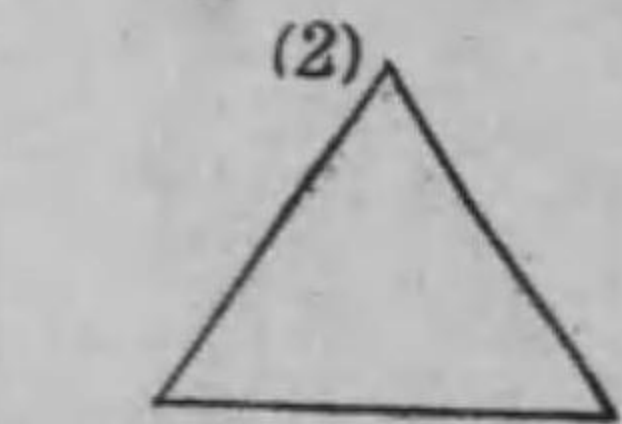
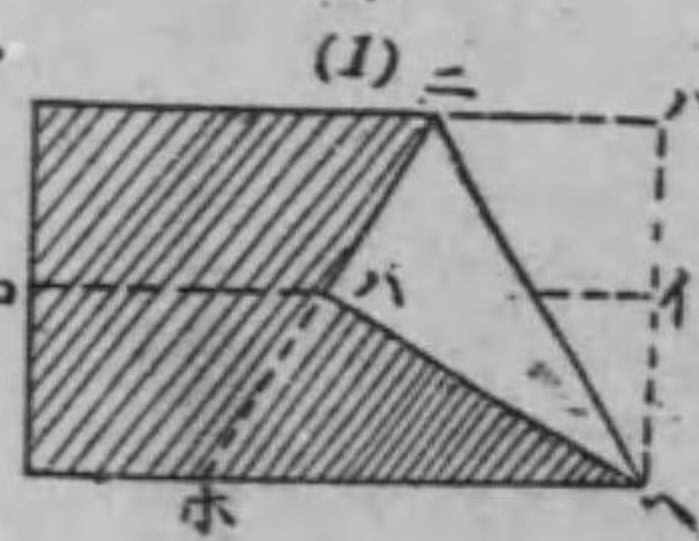
一三 赤十字



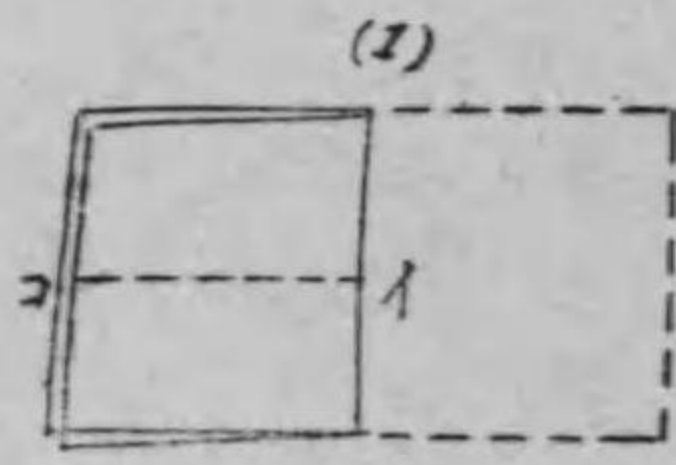
一三 剣形赤十字



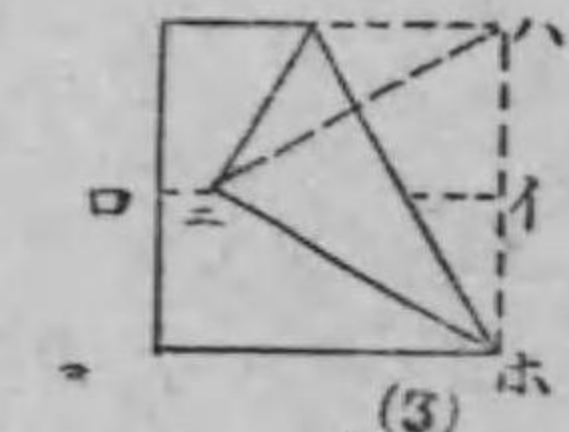
一四 正三角形



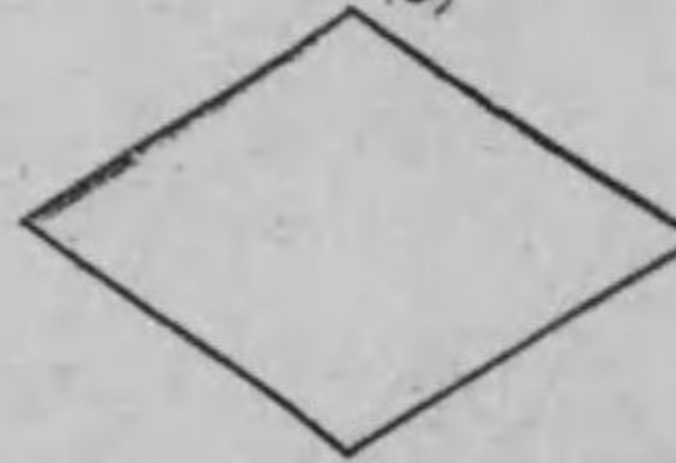
一五 菱形



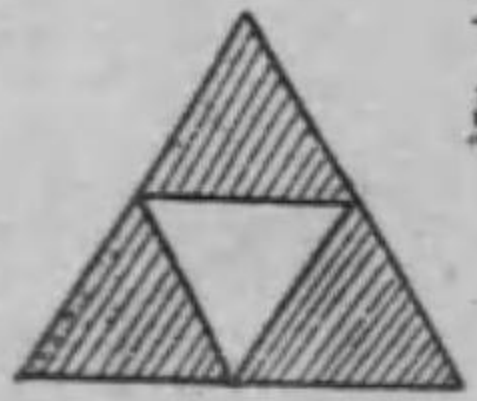
(2)



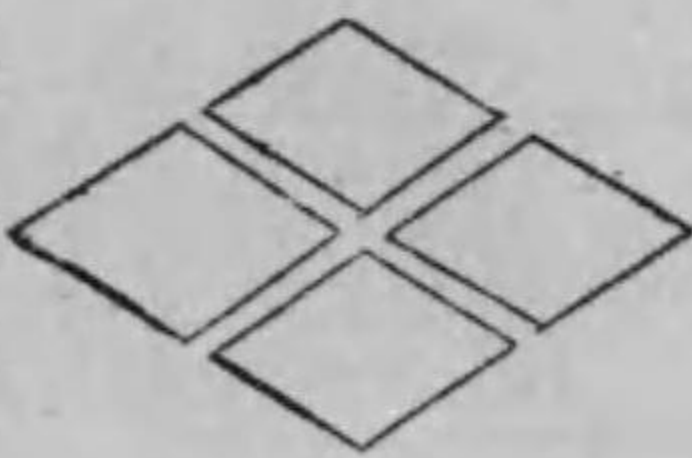
(3)



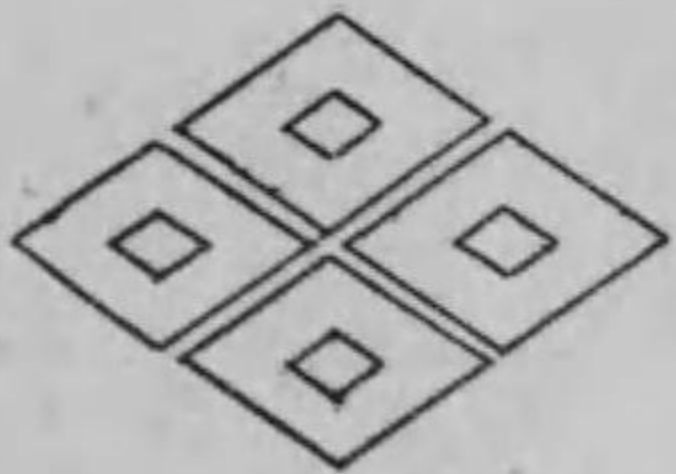
一六 三ツ角



一七、式田菱



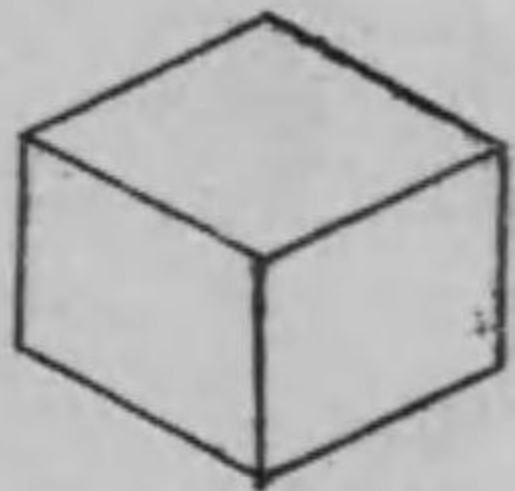
一八、菱四つ目



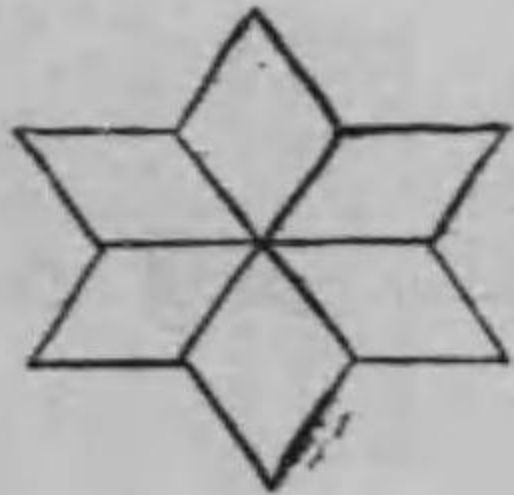
一九、六角模様



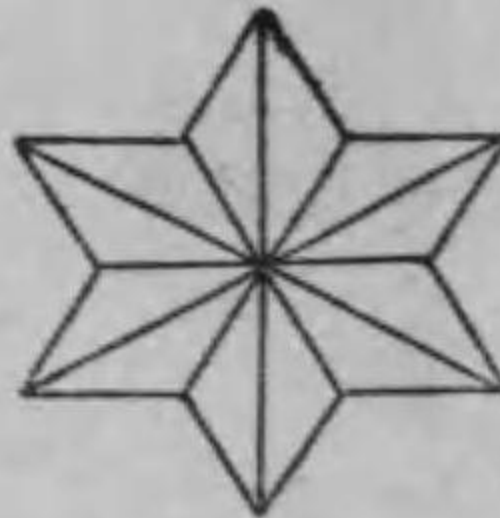
二〇、骰子



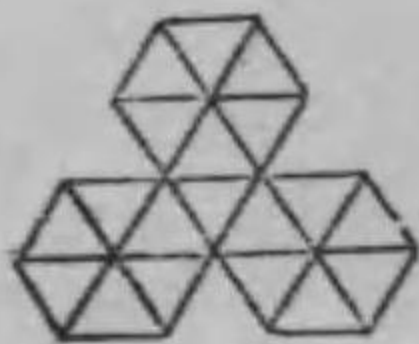
二一、六花菱



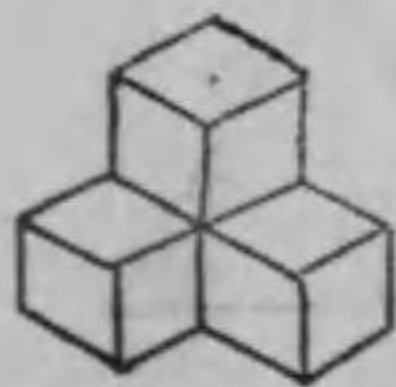
二二、麻の葉模様



二三、六角模様繋



二四、骰子繋



二五、風車

一寸五分正方形を二色に各々二枚宛切り抜き対角線に切り離し交互に貼附すれば風車が出来上ります。

二六、二七、子持骰子、同骰子繋

子持骰子は二〇の骰子の大きさに菱形を三枚作り(但し一枚を明色に他の二枚を暗色に)骰子と反対に圖の如く貼附し尙ほ半分の大きさの菱形を三枚切り抜き前と反対に其上に貼附するのであります。二七は之に準じ小さく切り抜き三個或は六個繋ぎ合せて貼附するのであります。

二八、階段

一邊一寸五分の菱形を三枚取り側面になる菱形を圖の如く四折して基盤目形に折目を入れ踏板を接合すべき部分を六枚丈切り離し他の二枚は縦に四分して上から順に圖の如く貼附すれば階段となります。此の用ふべき色は踏面に明色を用ひ縦の部に暗色を用ひ側面には其中間の色を用ひた方が宜しい。例へば側面に赤を或は袋緒を用ひたら踏面の板は緑の明色又は橙の明色を用ひ縦面は青の正色、或は暗色を用ひて明暗を現し立體に見せる様

に心掛けねばなりません。

二九、正六角形

幅二寸六分長三寸の長方形の紙を縦に三本圖の如く折目を入れ兩隅から左右の折目に一致する様に「イハ」「イロ」を折り次に「イ」點を「ニ」の線上に一致する様に折れば「ロ」は自ら「ホ」の線上に重るのであります。そこで其邊に沿ひ残りの紙を截り始の「イロ」「イハ」も截り離し(3)の正六角形を作るのであります。

三〇、龜甲繫

前の方法を應用して一邊八分の正六角形を三枚或は六枚切抜き圖の如く其間を一分づゝ隔て、貼附すれば龜甲繫が出来ます。

三一、正六角形略法

二寸五分の正方形の紙を取りて對角線に折り之を三折して圖の如く水平に端を切り揃へ開けば正六角形となります。

三二、三つ龜甲

一邊一寸五分の正方形を三様の色紙にて作り正六角形の略法に依つて切り抜き高さを三

等分して其一丈け頂點を切り落し同形の孔を有する正六角形三枚を圖の如く一分の間隔を以て貼附するのであります。

三三、子持龜甲繫

右と同形の正方形の色紙を同様に端を切り揃へ三角形の高さを二等分し尙ほ上部を二等分して其中間の一つを切り棄て圖の如く貼附すれば容易に出来上るのであります。

三四、正三角形略法

二寸五分の正方形の紙を正六角形略法と同様に折り一邊に直角に切れば六角の内三角丈け落ちて正三角形が出来ます。

三五、三つ柏

正六角形畧法と同様に折り(1)に示す様に曲線形に切り尙「ロハ」に缺を入れ各邊とも廣狹ない様に弧を描いて切り取り下部「イ」も小さな孤狀に切つて開けば(2)の様な三つ柏となります。

三六、正六角形内に正三角形

正六角形略法と正三角形略法とを同時に用ふる丈けで別に困難といふ點はありませんが

只外廓は水平に中の正三角形になる部「イハ」を「ロニ」に直角に截ること及び「イ」點を全く截り離さないことに注意することが肝要であります。

三七、正三角形内に正三角形

前の反對に切る丈けのことですありますが此の場合は始めの直角に缺を入れることは出来ても次の「イハ」線が曲り易いのでありますから「イニ」「イハ」を等しく保たしむることに注意せねばなりません。

三八、正八角形

二寸五分の正方形の紙を取り點線に従ひ折り重ね圖の如く疊み込み「イロ」「イハ」を等しく取りて上部を截り離せば(2)の様な正八角形が出来ます。

三九、正八角形内に正四角形

前と同じ折方に折り正六角形内に正三角形を切り抜いたのと同じ要領にて始のを兩邊相等しく二等邊三角形に切り二分隔て、平行に少し残る様に缺を入れ、次に同じ方から一邊に直角に缺を入れ、前の切り残しの部に一致せしめ中央を除けば圖に掲げた様な一つの紋形が出来上ります。

四〇、正五角形

前と同じ大きさの正方形の紙を取り點線に従つて圖に示す様にたゞみ重ね「イロハ」角を直角に取り上部を切り落せば(2)の様な正五角形になりますから手工帳に貼つて仕上げるのであります。

四一、櫻花

正五角形を切り抜いた時と同様に折り點線の様に切れば正五角形になるのでありますから花瓣の半分の形に切り尚ほ先端を孤狀に少しく切り落して開けば正しい櫻花になります。

四二、桔梗の花

前と同様のものを桔梗の花瓣形に切り缺を入れて作り上げるのであります。

四三、圓形

二寸五分の正方形の紙を點線に従ひ折り重ね八分の一に相當する圓弧を描き切り離せば圓になるのであります。が馴れない兒童は餘り小圓弧を描いて菊花模様の様な形になすものでありますから注意が肝要であります。若し不可能と思はれる場合は始にコンパスを以て

圓を畫かしむるか又は折つた後に頂端にコンパスの脚を置いて圓弧を畫かして後切り抜かしむるも差支ありません。

四四、蛇の目

前の方法を用ひて尖つた端を全長の三分の一位切り取れば容易に出来上ります。

四五、扇地紙

扇は大抵圓の三分の一の地紙を用ひて作つたものでまゝから四四の蛇の目の或一點から中心へ刀を入れ三折して切り離し地紙の形を作るのが最も簡便な方法であります。同時に三枚はいやでも作らねばなりませんから三つともに使つて三がい松の模様とするも面白いやり方と思ひます。

四六、圓形模様

方一寸五分の色紙二種類を各三枚づゝ取り皆之を圓形に切り抜き重ね四つ目を貼つた時の要領を以て順次に貼りつくれば花の様な模様が出来上ります。

四七、圓内に四角形

三六の切り方を六角形の部を圓弧狀に切るだけで別に違つたやり方はない様と思ひます

から茲には繰り返して説明することを省きます。

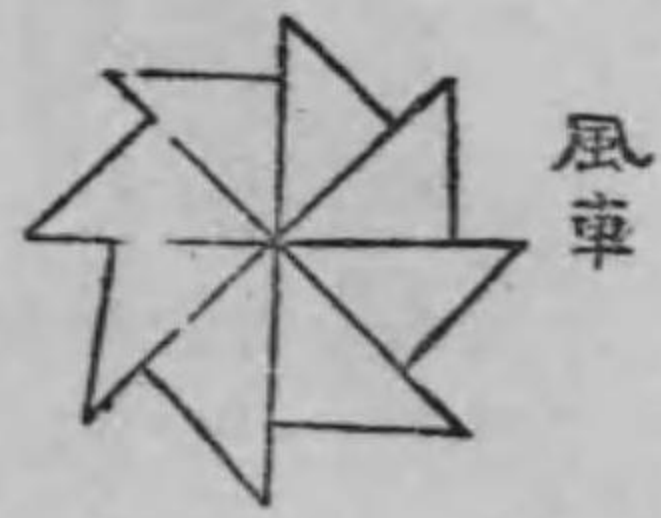
四八、圓内に釘貫

始の折り方の際八つに折るだけの違ひで前教材と全く同じ要領を以て切り抜けば容易に作ることが出来ます。

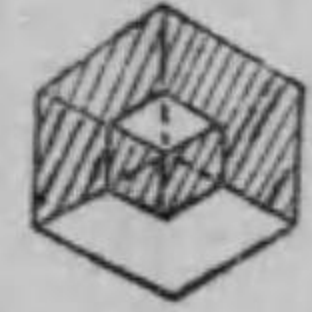
四九……五八

二つともえの説明圖に掲げました教材は今迄の教材の様に切り抜くことは出来ませんがこれを兒童に切り抜かしめるには外圓を定めないうで二つともえは半径五分の小圓を二個。三つともえに三つ星は半径の五分の圓を三個切り抜かしめ後に外圓を定め尾を畫き添へて作り上げれば容易であります。七曜星、九曜星、梅ばちも右に準じて困難なく出来ることと思ひます。五五から五八迄は二折にして切り抜かした方が便利であります。

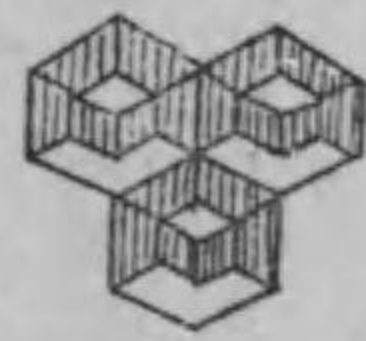
是等紋所は國語教材中から取つたのでありますが此の他この種に屬する對稱的模様は圖面と連絡して兒童に考案せしめて切り抜かせたら豫想以上に巧なものが出来ること信じます。



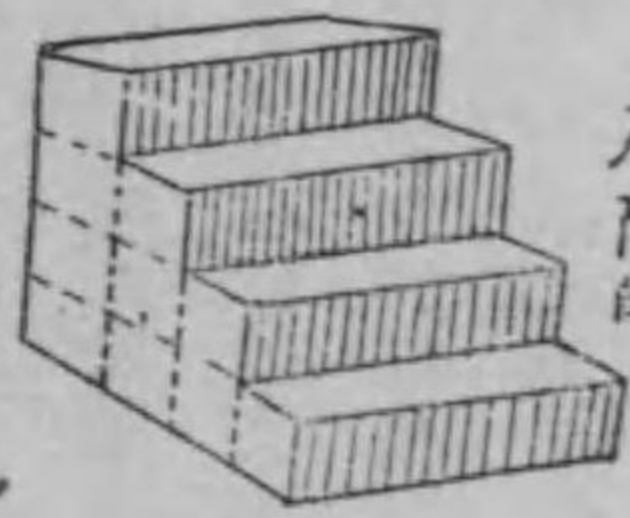
風車



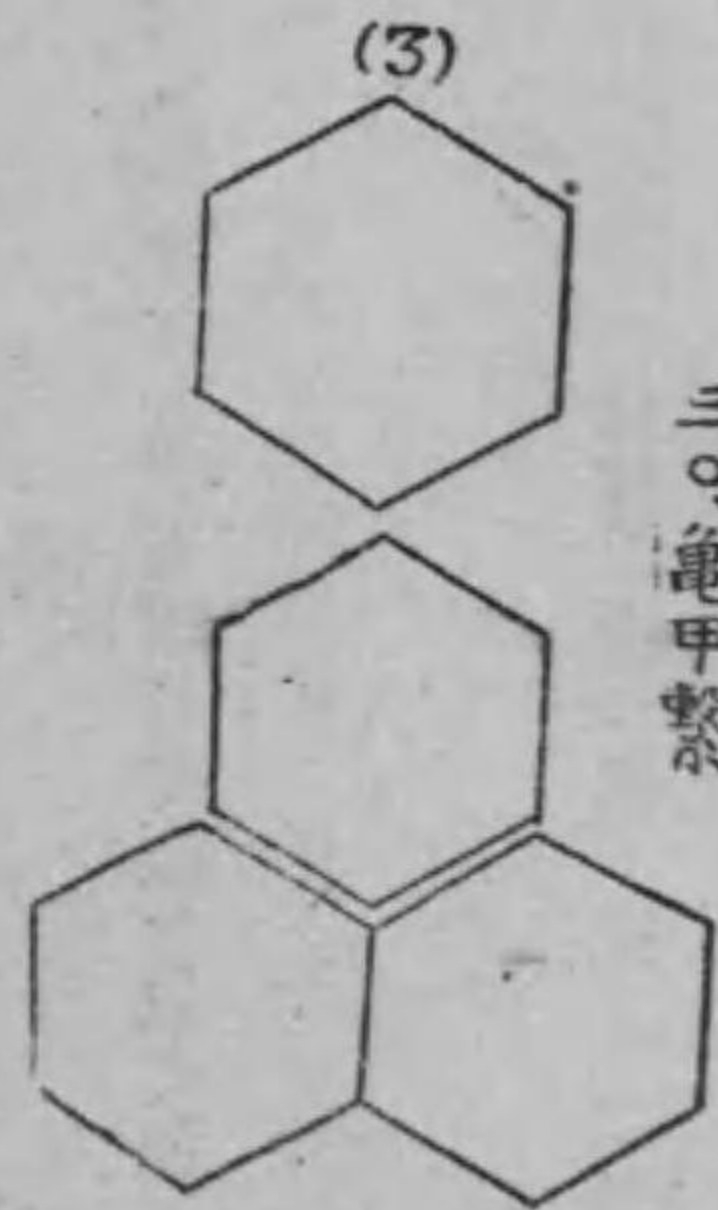
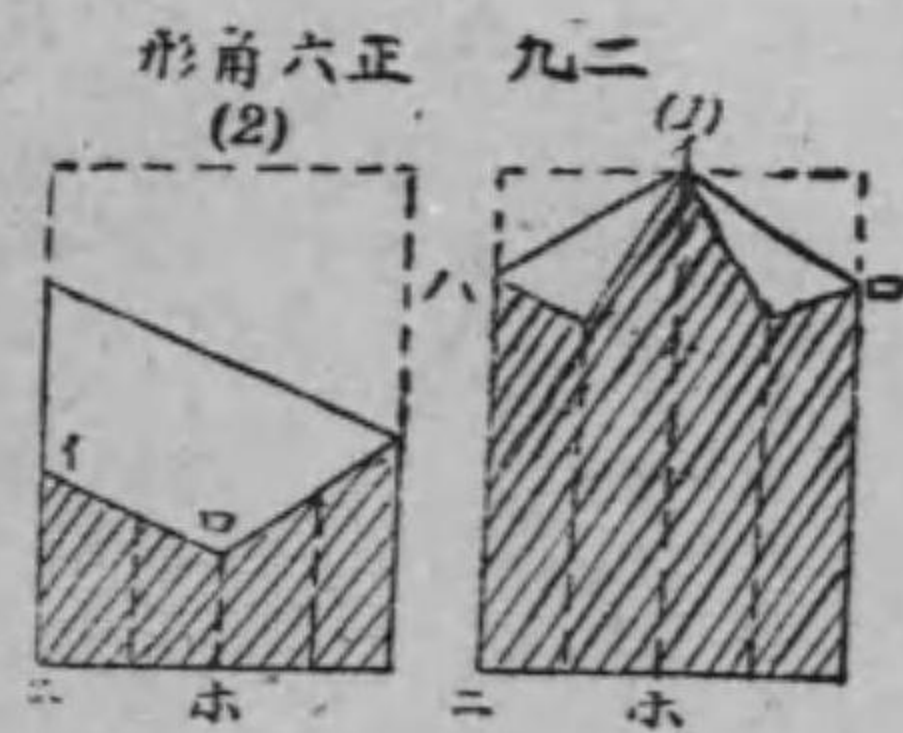
二六子持散子



二七子持散子

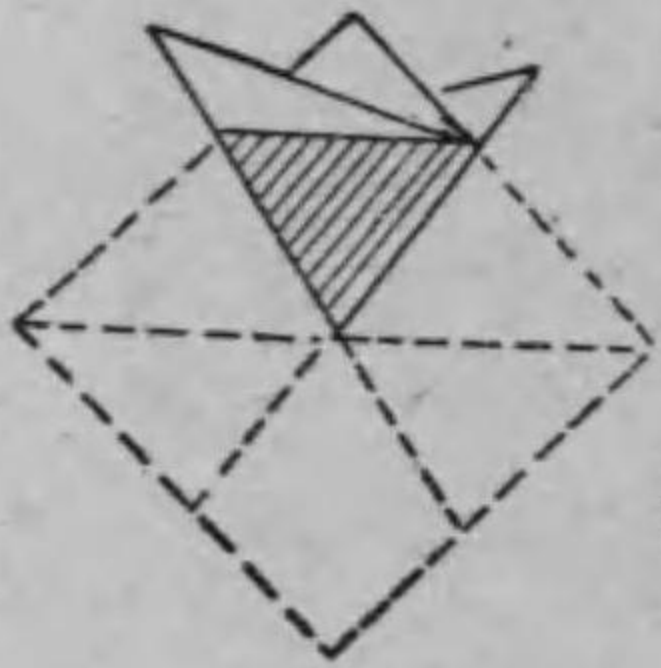


二八階段

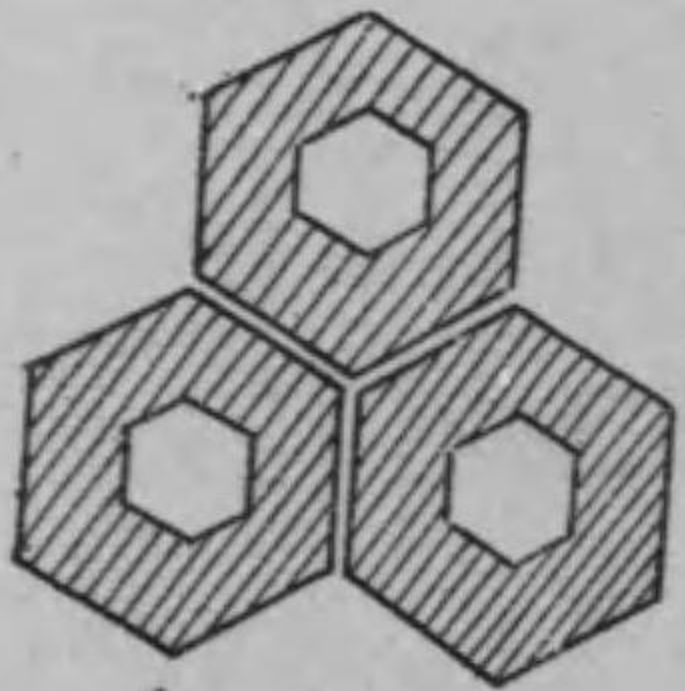


三〇、亀甲繫

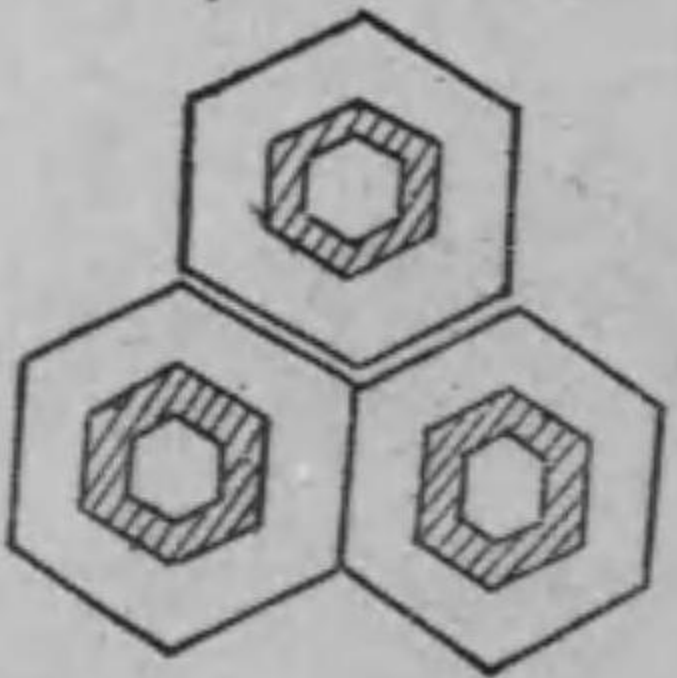
三一、正六角形畧法



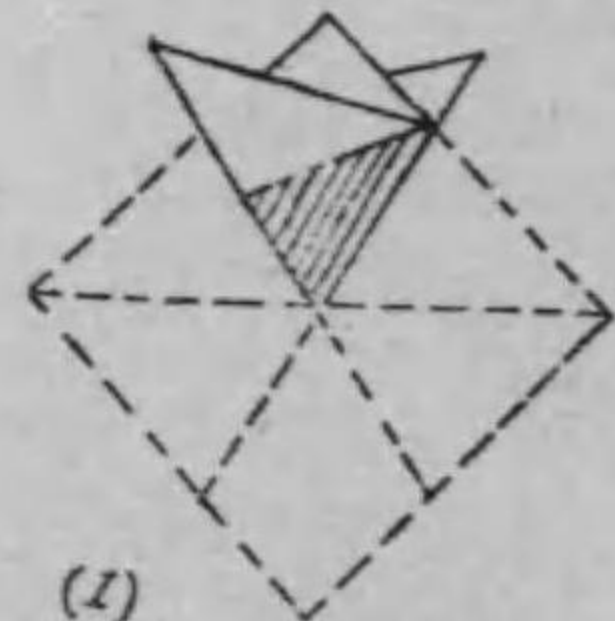
三二、三ツ亀甲



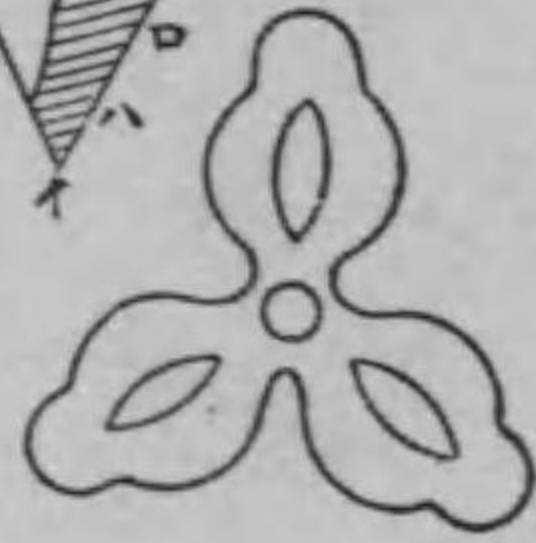
三三、子持亀甲繫



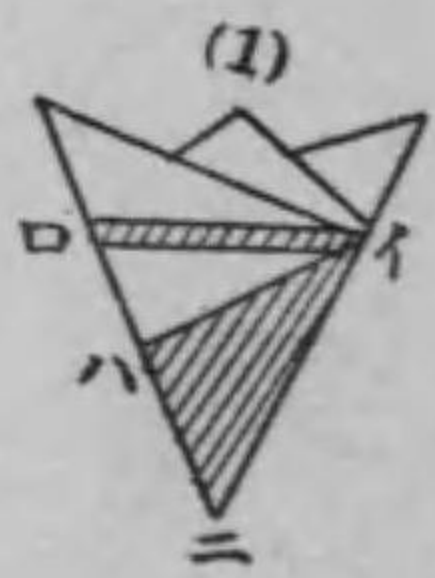
三四、正三角形畧法

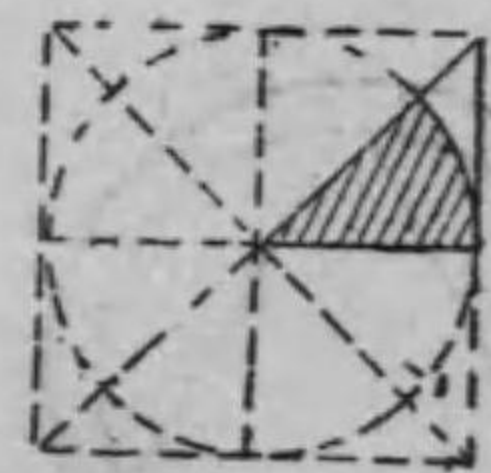


三五、三ツ柏

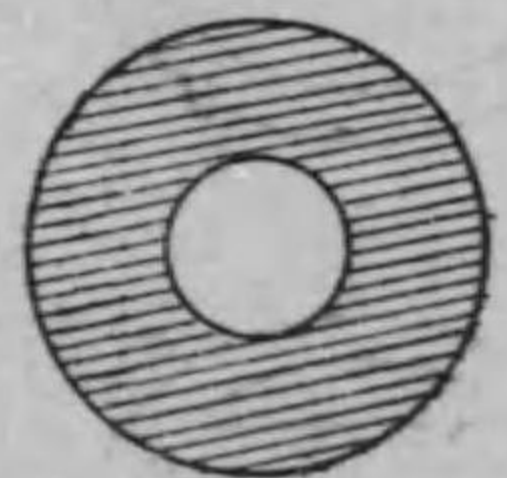


三六、正六角形二正三角形

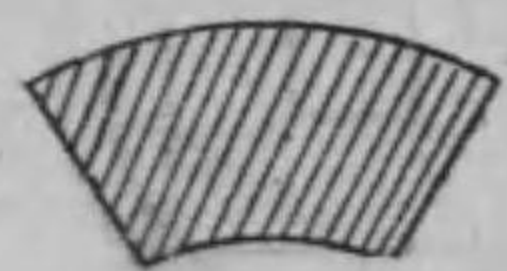




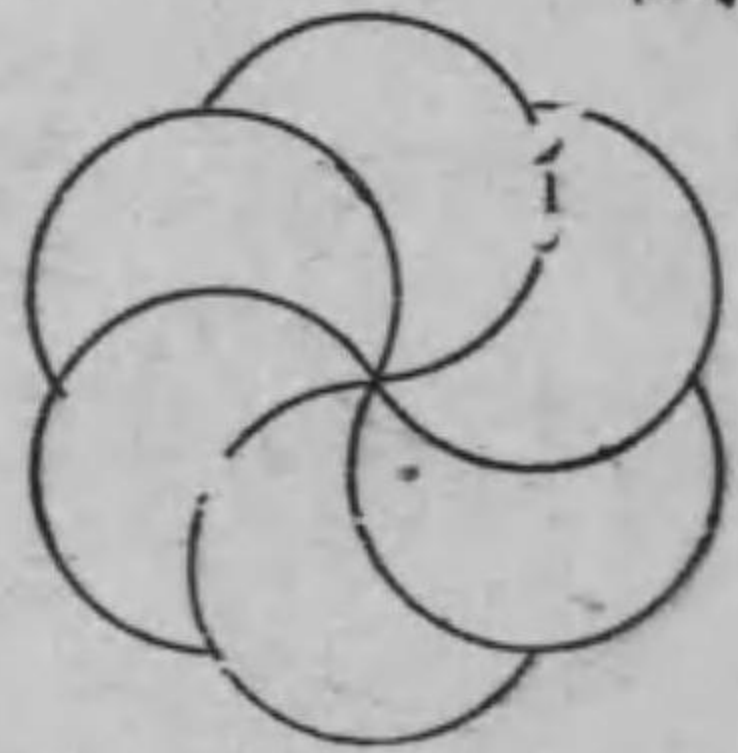
四三、円形



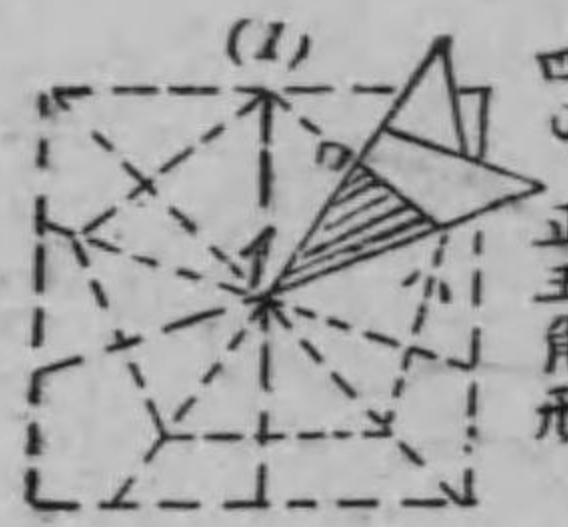
四四、蛇の目



四五、扇地紙



四六、円形模様



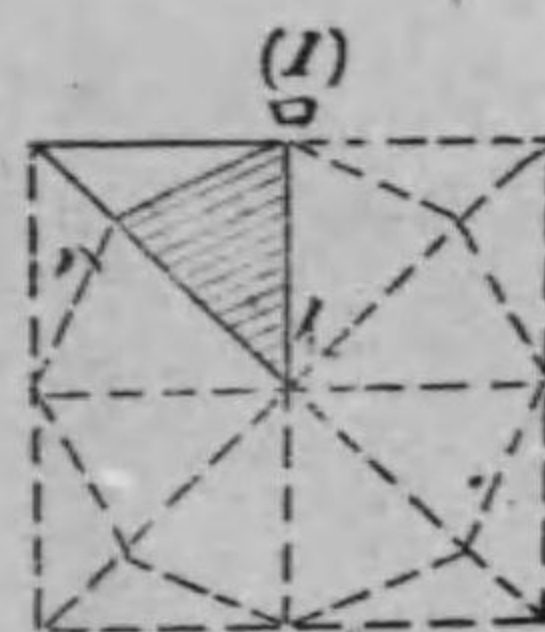
四七、正五角形



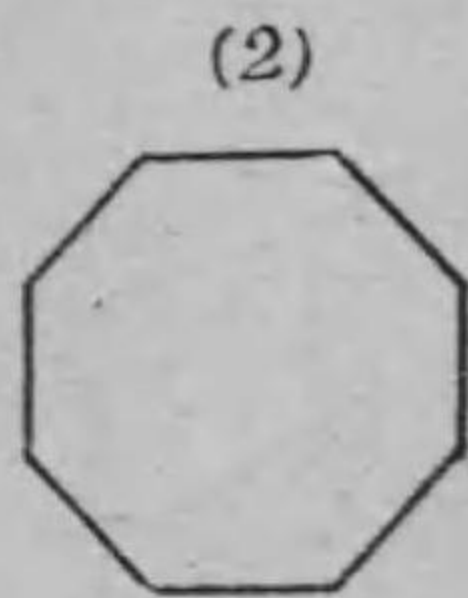
四八、桜花



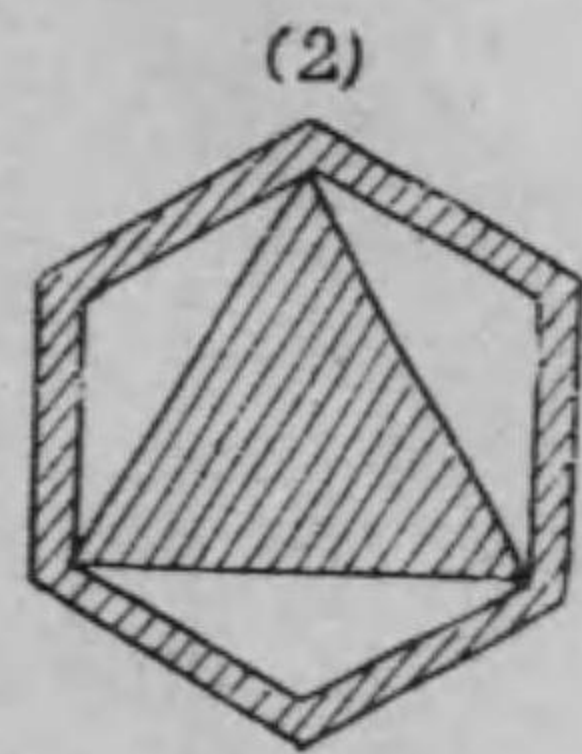
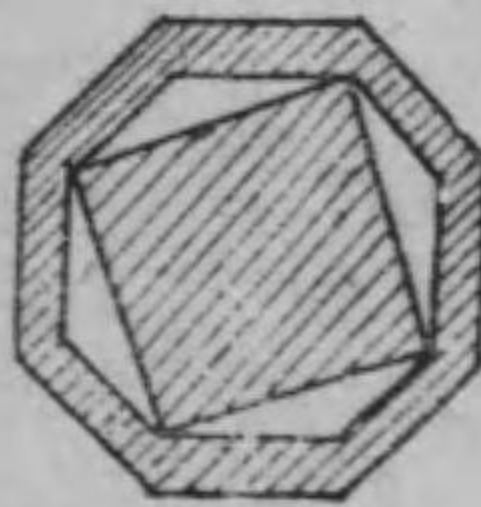
四九、桔梗の花



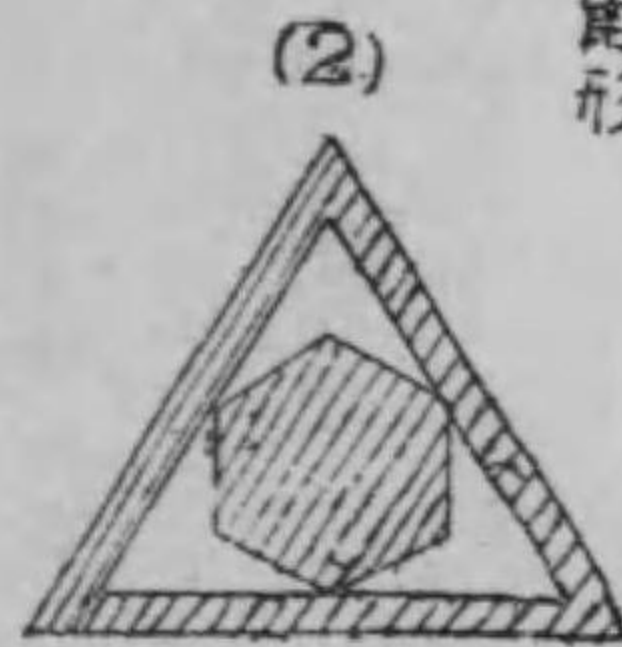
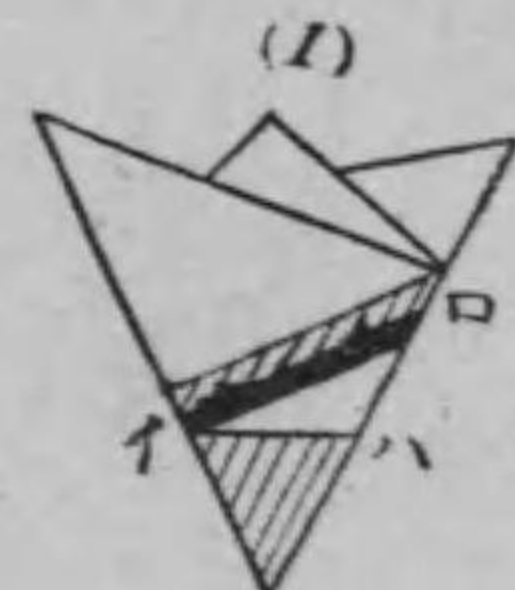
三八、正八角形



三九、正八角形内に正四角形



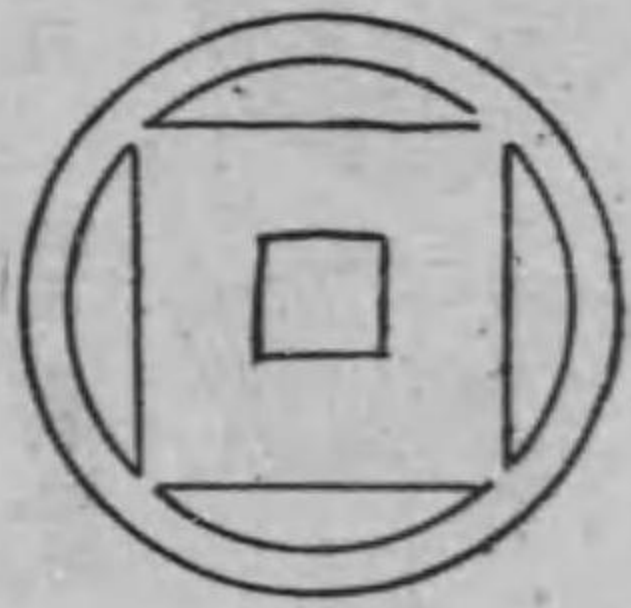
三七、正三角形内に正六角形



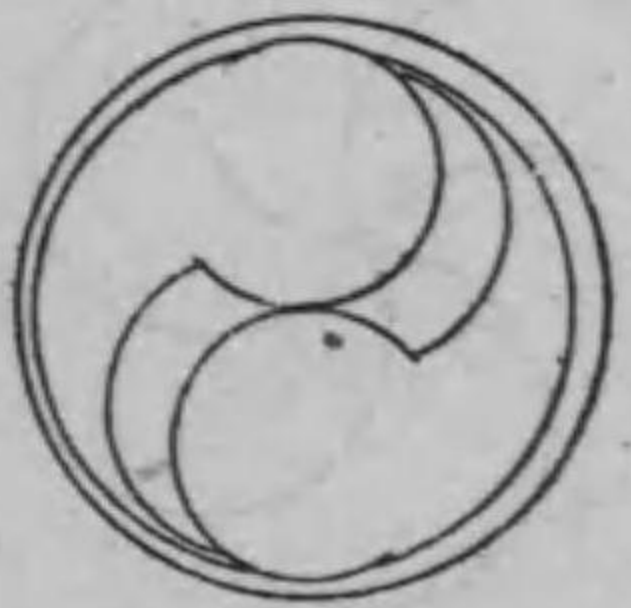
四七、円内に四角形



四八、円内に釘貫



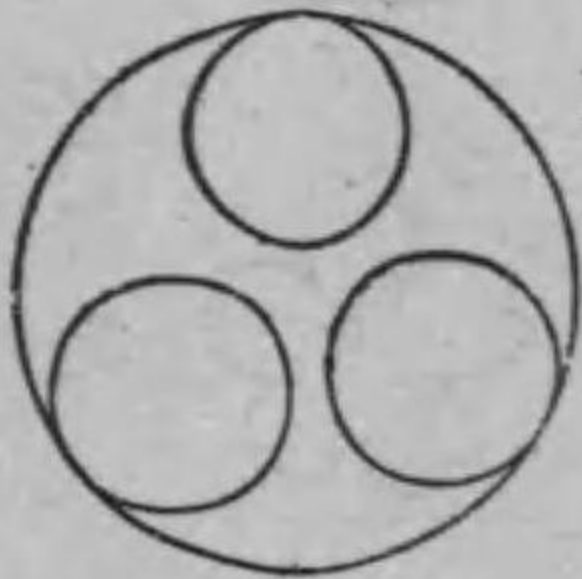
四九、二つとも



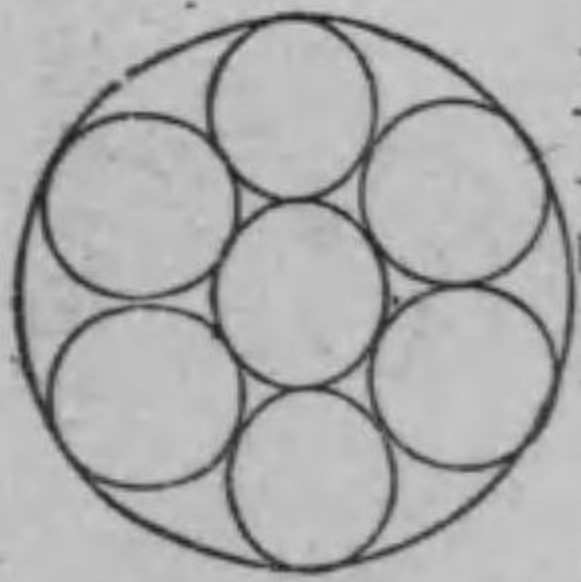
五〇、三つとも



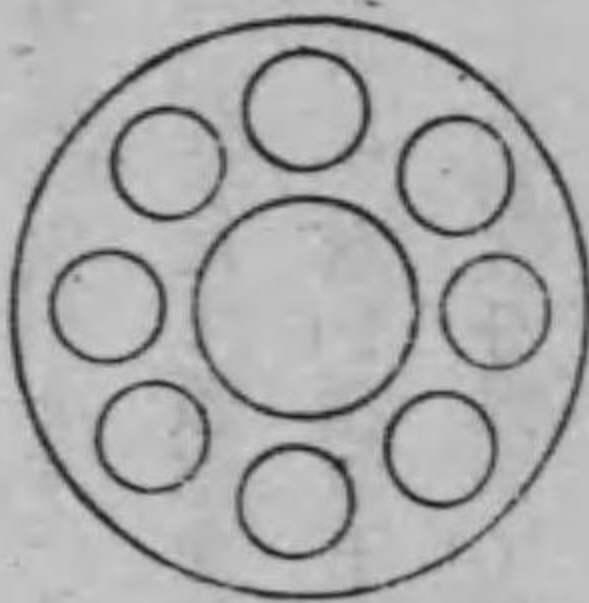
五一、三つ星



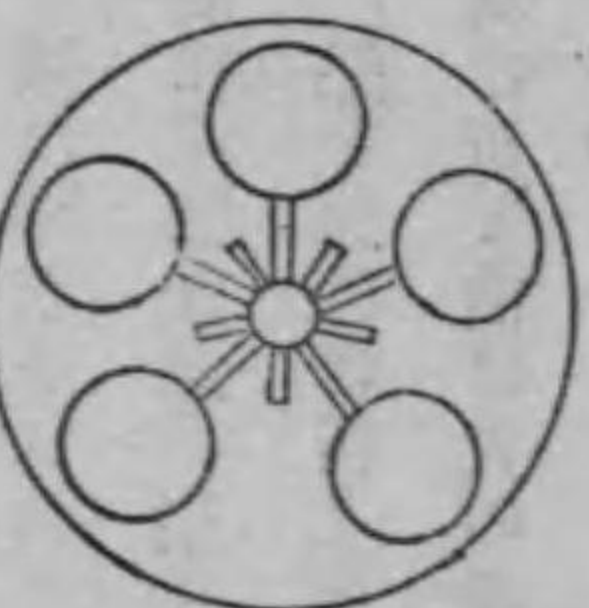
五二、七曜星



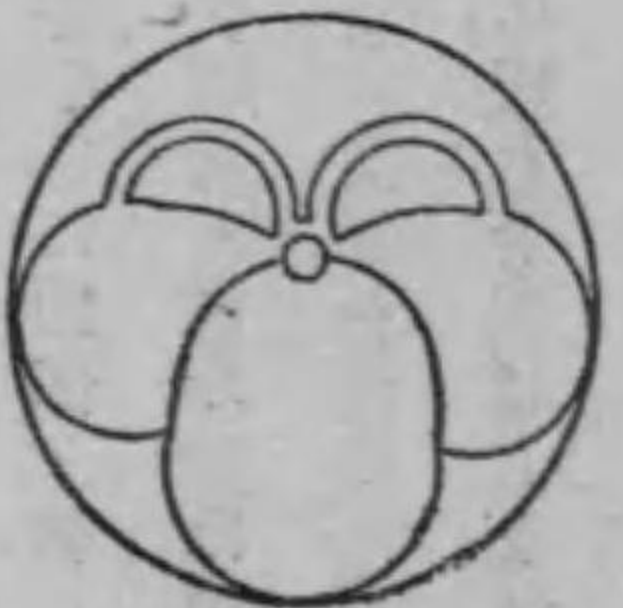
五三、九曜星



五四、梅ぼち



五五、



五六、三五ノ桐



五七、五七ノ桐



五八、



2、自在的切抜

五九、洋 犬

長さ四寸九分幅三寸五分の厚紙を取り縦に二折にし折つた方を上部に定規を當て七分づゝ記して之を七等分しておくのであります。

各等分點を標準にして圖に示す様な具合に要所／＼に鉛筆を以て點を打ち紙の左方上端から順次點をたどつて鼻、口、顎、首、胸、前脚、胴、後脚、臀、尾の線を入れ缺を以て切抜けば犬の概形が出来ます。今紙を披ひて机上に置き點線の様に頭部を斜に折り右手にて胴部を持ち、左手にて頸部を持ち斜に第二分點の胴部の下に折り込み尚ほ第一分點の稍前と思ふ點から「ニ」點を顎の下に「ハ」點を頸部に折り重ね犬の恰好を作るのであります。尾を作るには第五分點から下方斜に折り曲げ犬の平常の感じを現はします。次に鉛筆にて眼を入れ下方を擴ぐれば能く立つやうになります。

此の種ものを五六種も作つて犬の一群を現はすのも趣味あることでもあります。

六〇、六一、豚、熊

豚は頸部甚だ短く脚も犬の脚よりも短かく太く稍複雑でありますから、注意して作らねばなりません。熊は前の二種よりも長さの割合に短かく太つてゐますから其點に氣を附けねばなりません。

豚を作るには長さ四寸幅三寸五分の紙を用ひ熊を作るには四寸幅四寸五分の紙を用ひ兩者とも八分づゝに五分分し犬に倣つて須要の點を記し形を畫き上げ後缺を以て切抜き頭部を圖の様に折り目を入れ擴ぐれば立つ様になります。頭部を折る時には兩側を頭の方に曲げ込んで胴の上へ重ねかけ決して下へ折り込んではいけません。

六一、象

長さ五寸幅三寸の紙を二つ折にして一寸宛劃すること前のやうにするのであります。象は鼻長く牙の形奇に曲り胴は太く眼は極小さいものでありますから鼻の先端を細くし牙を切り抜き脚と胴とは大きく作り牙は上方へ折り曲げて鼻の兩側につけ頸部は胴の上へ折り下げ尾を少しく下方へ曲ぐれば象の形になります。若し怒つた様を現さうとするならば鼻を上方へ曲げ尾を眞直に立つれば其相が見えてきます。

此の牙の作り方を教授した後で前の豚を用ひて牙を附くれば野猪が出来ます。

六三、和 犬

長さ四寸九分幅三寸五分の紙を二折して洋犬と同じく七分づゝ割し切抜くのであります。和犬は耳朶が立つてゐるのと胴部及び胴の前と後の大きさの差が洋犬程にはありません。耳朶を立てるために圖に示す様に斜に先を少し大きくして角を附け其上方に刀を入れて孔を穿ち其内に折り込めば和犬の相が現はれます。

六四、兎

兎は耳朶の長いのと前脚に比較して後脚の長いのが一の特徴になつてゐますから此の點に深く注意せねばなりません。長さ四寸幅三寸の紙を二つに折つて尾丈けを小さく五分とし他は七分宛に割し點を打ち線を引いて切抜くこと前の様にすれば宜しいのであります。耳は外へ折ることなく和犬の耳に倣ひ内側から頭の上の孔に挿し込めば出來ます。尾は至つて短く小さく作らねばなりません。

六五、六六、牛と馬

牛は長さ五寸五分幅五寸の紙を用ひ馬は五寸六分に四寸の紙を用ひて作るのであります。

牛は角があつて胴太く豚に似た恰好を與へて遅鈍の貌を呈してゐますが馬は頭、頸、胸共に牛よりも細長くて輕快な貌を有してゐますから是等の點に注意して前に準じ切抜けば見事な牛と馬とが出來ます。

蹄は牛は分れて馬は一つになつてゐますから後で目と共に分れてゐる點を記入せねばなりません。

但し牛は分點間を一寸として尾の末端を五分に取り馬は各分點を八分置きにして前の寸法を示した譯であります。

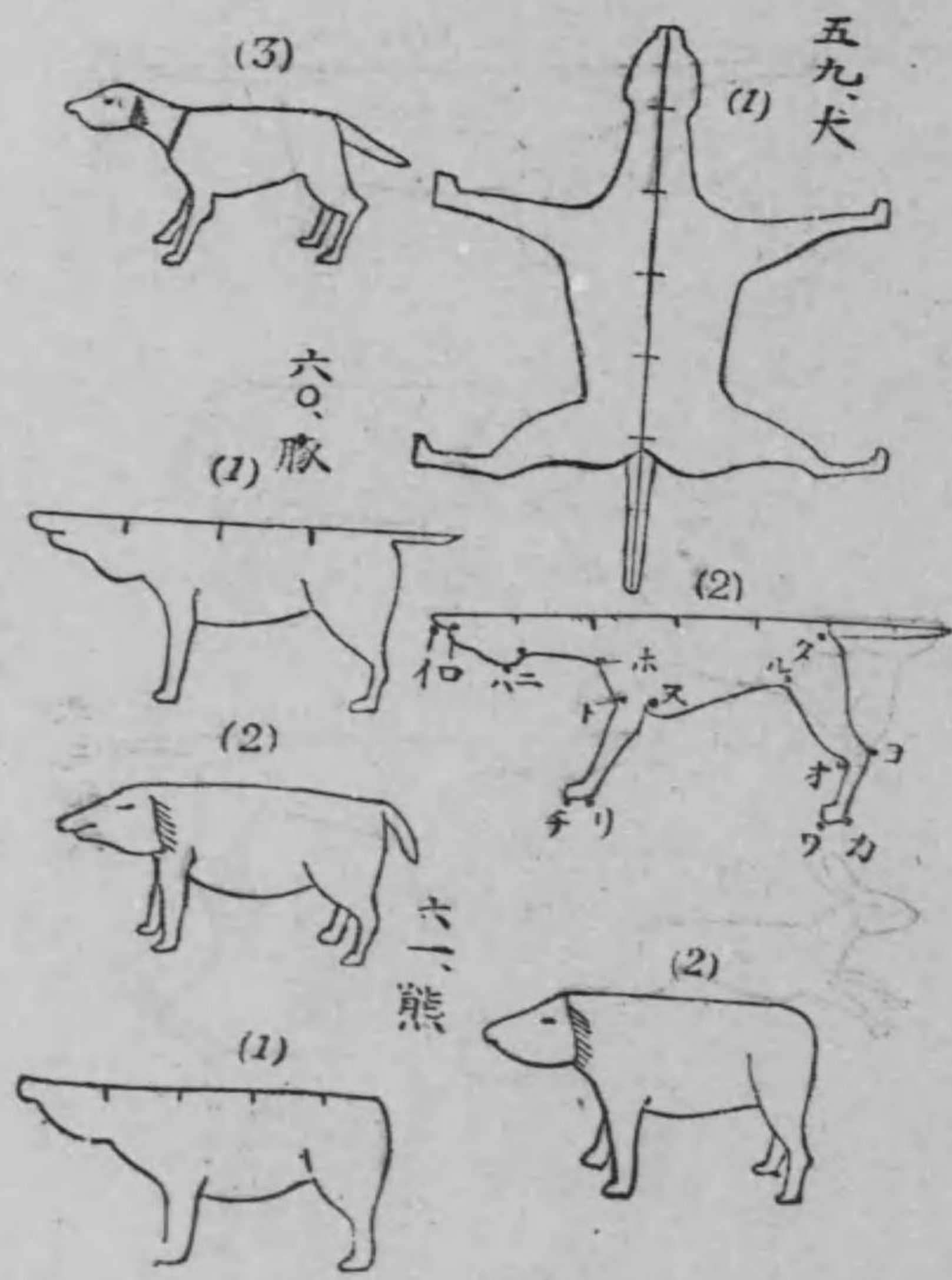
六七、六八、牝鹿牡鹿

牝鹿は前の方法に依つて作られないことはありませんが牡鹿の方は角のため前の方法では出來ませんから同形のもを二枚作つて上部丈けを糊附して同様の形式を以て立たしむる外ありません。

紙の寸法は牝鹿は三寸五分の方形を以て作ることが出來ますが牡鹿の方は長さ三寸五分幅五寸の紙を用ひねばなりません。此の際注意せねばならぬのは胴短くて脚の長いことであります。

六九、狐

鹿の短かくて丈の高いのに比べて狐は長くて丈の低いものであります。これを作るには長さ四寸五分幅一寸五分の紙を二つに折つて作れば容易に出来ます。尾は鹿や兎の小さいのに反対して甚だ大きなものでありますから三分割を取つた譯であります。





六五牛 (1)



(2)

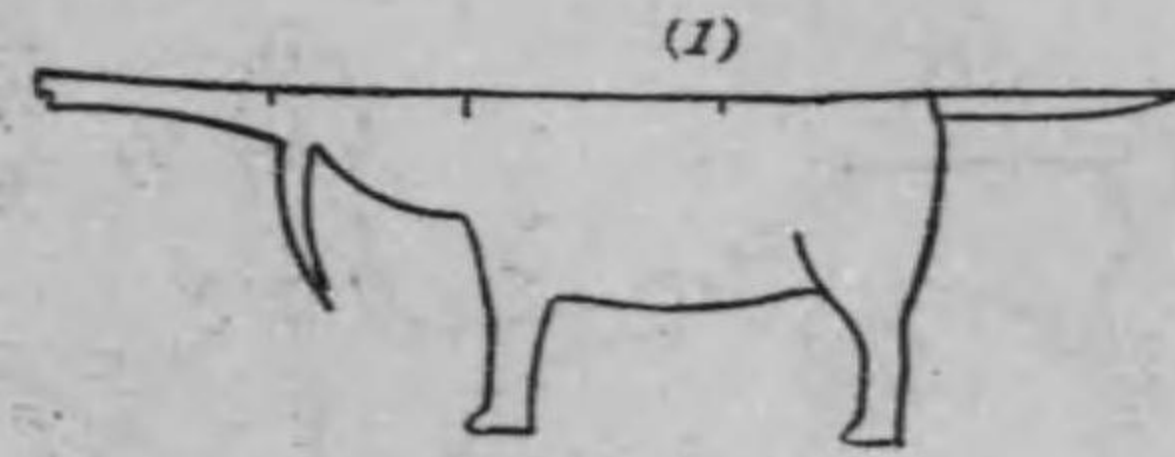
六六馬



(1)



(2)



(1)

六二象

(2)



六四兎



(1)



(1)

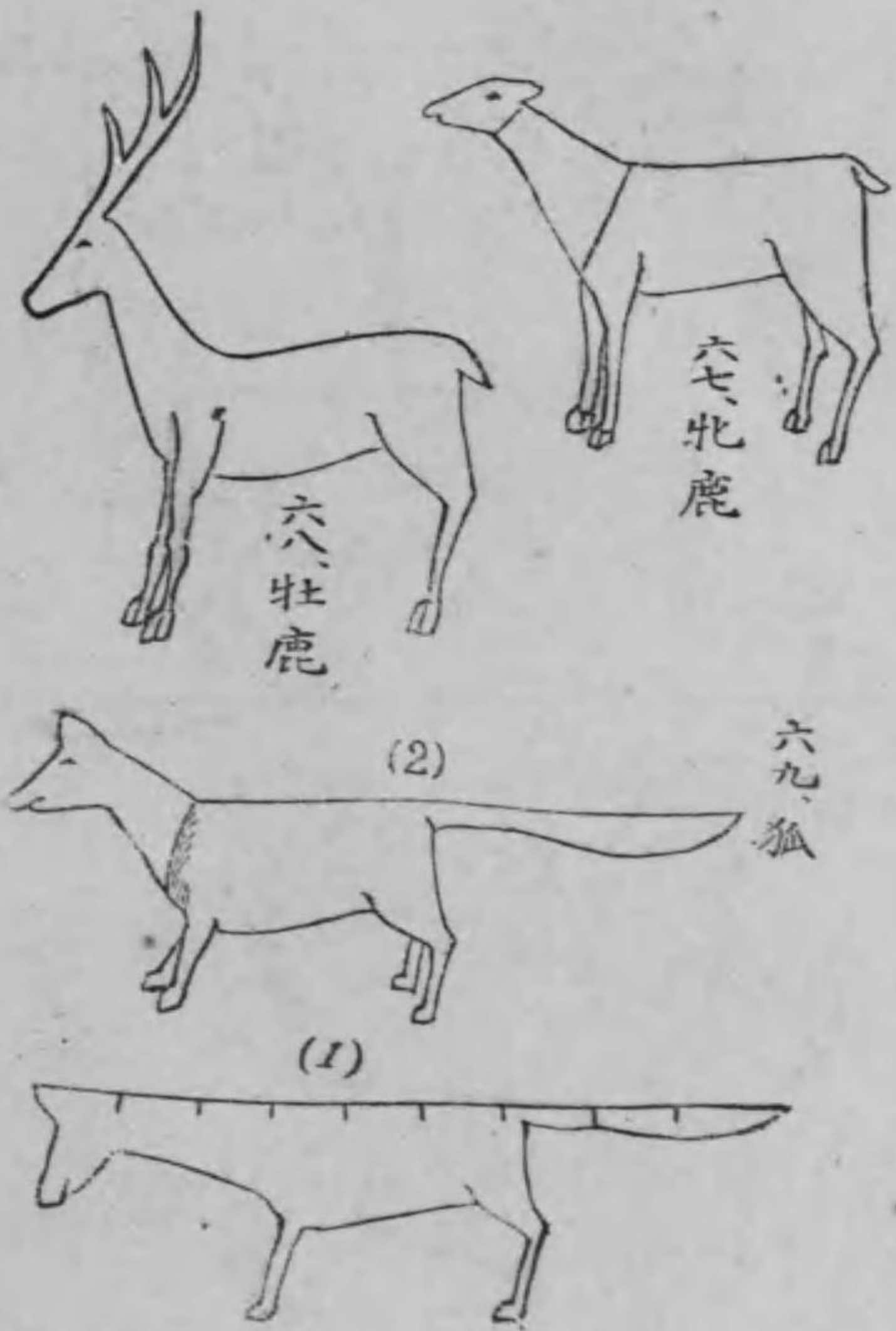
六三和犬



(2)



(2)



七〇、ランプ

ランプの縦横の割合等は一定して製作せしむべきものではありませんが大體の標準を示せば全長を四寸とし笠の直径を一寸に口金と油壺とを五分に脚を一寸九分に臺を三分笠の上端に出てゐるホヤの長さを三分にすれば全體として釣合のいいランプになります。色は淡青、黄、青、俗緒位で充分と思ひます。

七一、立札

是も全長を四寸とすれば屋根を幅二分、長さ一寸四分、掲示面の中央の高さを一寸二分幅を一寸八分、釘の長さを二寸五分にすれば見事の立札になります。

色は屋根並に釘を俗緒に掲示面を黄で作れば調和よく出来します。

七二、山高帽子

別に色を用ふる譯に参りませんがリボンだけを淡墨で作るのは差支ありません。高さと同幅の割合は幅一寸に對して高さ一寸四分が適當です。其内リボン及び鏝の幅を二分に鏝の右左に出てゐる部分を三分か二分五厘に作り上ぐれば高等官の帽子が出来上ります。併し是は中のリボンだけの僅の部分の色を異にするのでありますから上の續きにしてリボンを

後で其上に貼附すれば容易く出来上ります。

右に掲げた様な左右相等しいものは二つ折にして前の獸類を切抜いた様な具合に作つても差支ありませんがさうすれば全部同色になりますから色を違へようと思ふならばどうしても別々に切抜く外に方法はありません。

七三、國旗

國旗の色は黄色の球に黒の斑點を付けた竹の竿に殆ど一定されてゐますが其大きさは竿の全長を四寸にして横一寸六分に對して一寸三分位が適當してゐます。中の日の丸は小さいよりも大きい方が規定の寸法にも合ひますし又體裁上から言つてもよいのでありますから右の場合ならば直徑五分を下らないやうに氣を付けねばなりません。

此の國旗のやうに軟かなものは切抜く場合に少し波形にするのは其妙を得てゐると言はねばなりません。

七四、朝顔

朝顔は器物の様寸法を示すことは困難でありますが便宜上普通の花として寸法の割合を掲げておくことにいたしました。

花輪の一寸乃至一寸二分として其以下蔓に附着せる所迄を矢張り一寸乃至一寸二分に取り葉は一寸七分の正方形に包まれる程度の大きさに定め蔓の長さを五寸にすれば釣合よく出来ます。尙ほ其の他小葉又は蕾の小さいものを添ふるの趣味あることと思ひます。

その内花と葉は紙を二つ折にして切り抜き、後で花の心や葉の脈を記入又は貼附する方が便利です。

七五、球燈

柱は中央よりも稍右か或は左に建てしむる様に氣を付けねばなりません。柱を短かく三寸位にして手工帳を横に球燈を吊す紐を長く畫かしめ直徑七分の提灯を左右に二個と三個に分けて切抜いた形を貼附せしむるのであります。提灯は圓の切抜法に倣つて作り、後で口、底の黒い長方形のものを上下に貼らしめ弦及び紐は鉛筆にて畫かしめ尙ほ時間の餘裕あらば提灯に紋形や筋等を入れしむるのも妙です。

七六、巾着 (其一)

長さ二寸五分幅二寸の巾着を作るのでありますが通してある紐を現すには二つ位の赤い紙を作つて貼つても亦一枚に續けて貼つても差支ありません。上部に出てゐる紐は赤鉛筆

で書かしても切抜にしても教授者の意に任せますがなるべくならば切抜にして波形の曲線を考案せしむる方が有効であります。色の配合は餘色にして緑の種類を巾着に用ひ紐の赤に對せしめた方が引き立つてきます。

七七、かばん

男子でありましたら暗緑色か又は卵色若しく岱緒を用ひ女子ならば褐茶、青、緑等が適してゐます。而して又止める處も男女違へさせるのは當を得た取扱と思ひます。何れにしても其大きさは二寸の一寸三分位が適當であります。其紐の作り方は兒童の任意に付けしめるのであります。尙ほ又金具や紐を縫ひ付けてある處等は全生徒に要求するのは無理と思ひます。

七八、手提

婦人の外出時に金銭や簡単な品物を入れて手首に下げ歩くものであります。幅二寸三、四分に長さ一寸五分位にして口金を其の上部に貼り付け紐は前に準じて考案させます。色は暗緑色か黒褐色のやうな黒ずんだものを用ひ口金には銀又は淡青色が適當です。

七九、街燈

七一の立札の細長く變形したものでありまして屋根には黒を用ひ硝子の部分は淡青色又は黄色にして縁に黒を廻した方が街燈の感じがよく現れます。若し下級の場合は全部同色にして二折の紙に半分を畫かしめ切抜かせても差支ありません。

八〇、巾着 (その一)

其一の稍進歩したものであります。周囲に飾のある丈中の部分を細く切抜き後で中の色に類似した色紙を以て飾らせねばなりません。紐も前から見て變化を附けるために結目をつけておきました。

